

高槻市と関西大学による市民意識調査報告書

—令和3年度—

令和4年3月

高槻市・関西大学総合情報学部

はじめに

本報告書は、高槻市と関西大学が共同で、高槻市民を対象に実施した令和3年度市民意識調査「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」の成果を取りまとめたものです。この調査は、関西大学総合情報学部で開講している「社会調査実習」(2021年度)の授業の一環として行われているもので、当授業の受講生が、調査票の設計からデータの入力作業まで、実施全体に大きく関わっています。たとえば、春学期には、受講生各自の関心から調査テーマを設定した上で調査票の設計を行います。そして、秋学期には、調査票のデータ入力と分析、最終報告書の執筆を行うことで、社会調査の実施に必要となる一連の過程を経験します。

このような背景から、例年、この調査では、大学生らしい自由な発想の調査テーマが選ばれる特長があります。今年度も、スマートフォンと健康、携帯電話に求めるもの、ワーディングによる回答の影響、仕事に求める報酬、離職意志、定年を望む時期、応急手当に関する認知、市営バスの認知と満足度、災害時の避難行動、地方移住志向、新型コロナウイルスの感染不安など、若者にとって身近なものから、地域や社会の問題に関わるものまで、多様で独創的なテーマが並びました。これらの調査結果は、単に一つの地域の市民調査という枠を超えて、学術的にもさまざまな知見を提供するものだといえるでしょう。

本調査は今回で11回目となります。過去の10回の調査では、回収率が60%前後を推移しており、今回も60.6%の回収率を達成できました。前回に続き、コロナ禍という状況なかで6割という回収率は非常に高い水準だといえます。これは関係各位の皆さまのご協力があつてこそ、成しえたことです。まず、関西大学総合情報学部の松本渉先生には、調査の準備から報告書の取りまとめまでのすべての段階で、毎回、的確で丁寧なご助言をいただきました。本調査を無事終えることができたのは松本先生にご尽力いただいたおかげです。また、ティーチング・アシスタントの日高正樹さん、スチューデント・アシスタントの高谷莉奈さんと西田尚紀さんには、これまでの社会調査の経験やスキルを活かして、受講生に寄り添った立場から様々なサポートをしていただきました。

この「社会調査実習」の授業では、大規模な郵送調査を実施する都合上、時間的制約のなかで、社会調査の一連の過程を一つずつ進めていく必要があります。コロナ禍の影響でイレギュラーな授業形態になりましたが、受講生の皆さんには、調査テーマの設定、データ入力作業、データ分析と報告書執筆などすべての段階で、熱心に粘り強く、調査や作業に取り組んでもらいました。この報告書は、こうした受講生の皆さんの努力によって完成したものといえます。

最後に、本調査の実施にあたり、高槻市市民生活環境部市民生活相談課の皆さま、関西大学総合情報学部オフィスの皆さまに多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。そして何より、本調査にご協力いただきました高槻市民の皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2022年3月

関西大学総合情報学部教授 阪口 祐介

目次

はじめに		i
第1章 調査の概要	阪口祐介・松本渉	1
第2章 調査結果の概要	日高正樹	8
資料		131
予告はがき		133
調査票		135

第1章 調査の概要

阪口 祐介・松本 渉

1. 調査の概要とスケジュール

高槻市と関西大学による市民意識調査「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」は、2021(令和3)年8月から9月にかけて、高槻市と関西大学総合情報学部によって行われた。社会調査実習の一環として、春学期には調査票の作成が、夏休みには調査票発送作業が、秋学期にはデータ入力、データ作成、分析等が行われた(表1)。

表1 高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査スケジュール

	日付	授業内	授業外
春学期	4/8	「社会調査実習」前期授業開講	高槻市と関西大学の
	4/15～7/20	調査票の作成	打ち合わせ(随時)
夏休み	7/31		サンプリング
	7/26～8/3		調査票印刷
	8/5	調査票発送準備作業	
	8/23		予告はがき発送
	8/26		調査票発送
	9/10		返送締切日
秋学期	9/23	「社会調査実習」秋学期授業開講	
	9/23～11/18	データの入力・読み合わせ	
	11/19～11/30		データクリーニング
	11/25～12/2	分析方法の習得	
	12/9～12/16	中間レポートの提出・報告	速報版報告書執筆
	1/14	最終授業(最終レポートの提出)	報告書執筆
	1/15～2/28		報告書編集

(注1)昨年度に続き、今年度も、新型コロナウイルス(COVID-19)が流行したことで、大阪府では、4月25日から6月20日と、8月2日から9月30日の期間、緊急事態宣言が発出された。主にこの期間、総合情報学部では、「社会調査実習」の授業は「原則遠隔授業とするが、実施が難しい場合は、対面授業を可とする」という方針が出された。今年度の「社会調査実習」は、4月8日から授業が開始したが、緊急事態宣言の発出に伴う上記の大学・学部の方針を受けて、4月22日から6月17日までの授業は遠隔で授業を行い、6月24日からは対面授業を再開した(以降は、すべて対面で授業を行った)。8月2日から9月30日の期間は緊急事態宣言が発出されていたが、8月5日の調査票発送準備作業、後期に行うデータの入力・読み合わせ作業は、遠隔では行うことは不可能であるため、大学・学部の方針に従って十分に感染対策をしたうえで対面授業を実施した。

2. サンプリング

調査対象者： 18歳以上 85歳未満の高槻市民(1936年8月1日～2003年7月31日出生)

抽出名簿： 住民基本台帳 (2021(令和3)年7月31日現在)

標本抽出法：層化抽出法

(具体的な手順)

1. 2021(令和3)年6月末現在の人口に基づいて、性別と年齢によって作成された12の層の人口を算出する。次に、その人口の比率に従って、計画標本2,000を各層に割り当てる(表2)。

表2 層化の基準日の人口構成と計画標本の割り当て

	令和3年6月末現在の人口			計画標本の割り当て		
	男	女	男女計	男	女	男女計
18・19歳	3,477	3,346	6,823	25	23	48
20代	16,555	16,639	33,194	118	118	236
30代	18,202	18,488	36,690	129	132	261
40代	25,792	26,478	52,270	183	188	371
50代	23,712	24,350	48,062	168	173	341
60代	17,497	19,891	37,388	124	142	266
70代以上	29,557	37,584	67,141	210	267	477
合計	134,792	146,776	281,568	957	1,043	2,000

2. 各層で割り当てられた人数を系統的に無作為抽出する。

3. 調査実施上の工夫

この調査では、調査および回収を円滑に実施するために、過年度と同様の工夫を行っている。

予告はがきの送付

調査票が届き次第、スムーズに回答できるように調査票発送の3日前に予告はがきを送付した。このように事前に調査の実施を通知することで、調査対象者は心の準備をすることができ、また調査に対する期待感を高められると考えたからである。なお、見やすくシンプルな文面とするため、ご挨拶以外にはがきに掲載した情報は最低限(「近日中に大きな茶封筒(ボールペン入り)が届くこと」「対象者が無作為で選ばれたこと」の2点)にとどめた。今回は8月23日(月)に予告はがきを送付した。

調査票送付日

調査票の送付は、大学の窓口の盆休み終了後、最初の木曜日である 2021(令和 3)年 8 月 26 日(木)に行った。勤め人の夏休みを避けた上で、金曜日頃に調査票を受け取るためである。

同封物

筆記具を探す必要がないようにという配慮から、箱入りボールペンを同封した。また、箱を同封することで封筒の形状を目立たせ、ほかの郵便物に紛れなくなるという効果もある。なお事前にも事後にも金銭的な謝礼は一切行っていない。

調査票の用紙

目立つように、若草色(なお前年は藤色)の紙を使用した。また、やや重くなるが、裏面が透けて読みにくくならないように厚手の紙を利用した。

調査票における挨拶文

すぐに質問文が目に入るようにするため、挨拶文は 1 ページの上段のみにとどめた。その主な内容は、①調査目的以外に一切利用しないこと、②結果の公表を約束すること、③住所や名前を記入しないことをお願いすることの 3 点である。それぞれ、①安心感の付与、②社会還元の明示、③匿名性の担保を示している。

調査票の構成デザイン

二段組にすることによってスペースを有効に利用し、A4 サイズ 8 ページ(両面)の範囲に収まる調査票とした。文字フォントは、質問文を太字の MS ゴシック、選択肢を MS 明朝としてメリハリをつけた。

封筒

調査票送付用封筒については、A4 サイズの調査票を折り曲げずに済むように、角 2 サイズの糊付封筒を利用した。

一方、返信用の封筒については、ハイシール加工済みの角 2 サイズの封筒を利用した。調査対象者が、回答票を封入して返送しやすくするためである。

催促状(なし)

催促状の送付は行っていない。

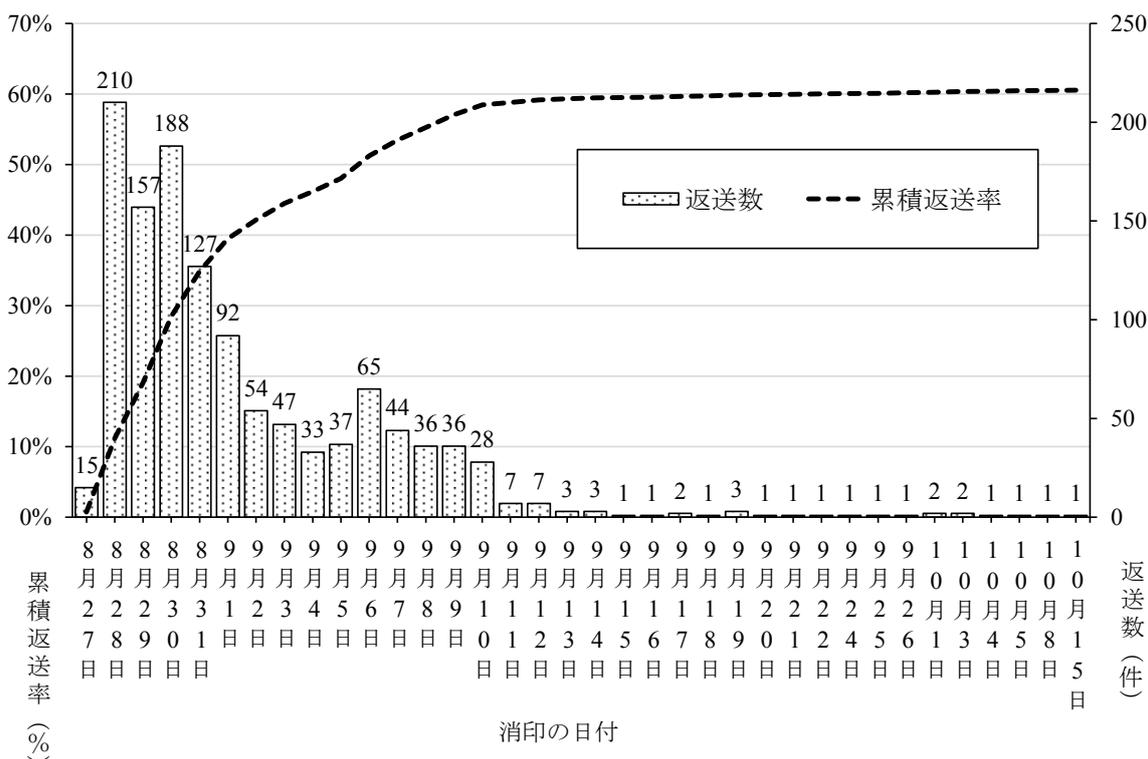
4. 調査票の回収状況

4.1. 返送状況

調査票の返送状況について述べる。図 1 は、消印の日付から調査票の返送状況の経過を示したものである。

最も早い消印は翌 8 月 27 日（金）である。例年の調査と同様に、返送日の山が二つみられる。第 1 の山は、最大の返送数 210 となった 8 月 28 日（土）であり、調査票受取直後の記入・返送のピークといえる。第 2 の山は、返送数 188 であった 8 月 30 日（月）である。調査票受領後にすぐにおとずれた土日を利用した記入・返送のピークといえる。これに続く山は、返送数 37 であった 9 月 5 日（日）から返送数 28 であった 9 月 10 日（金）までの期間であり、調査票受け取り直後の時期に生じる 2 つのピークの後に、平坦な山が続く返送のパターンはおおむね例年の調査と同様といえる。

累積返送率については、例年と同じく、調査票の返送受け取り期間の前半で返送率が 50% 台後半に達している。累積返送率のグラフ（図 1）が示しているように、回収期間後半に入ってもなおだらかに上昇を続け、受け取り締切日頃には返送率が 60% を推移する結果になった。



(注1) 返送数とは、回答票の返送日ごとの件数（日付は消印による）
 (注2) 累積返送率とは、その日までに返送された件数の累計を計画標本サイズで割った値

図 1 時系列に見た調査票の返送状況

4.2. 回収率と調査不能の内訳

郵送調査の特質上、締切日の9月10日(金)以降も調査票の返送が続いた。そのためしばらくの間返送を受け付け、10月18日(月)で打ち切った。返送されてきた調査票総数は1,212件であったが、1件については記入状況から無効と判断し、最終的に有効な回答票数を1,211件、回収率を60.6%とした。調査不能の内訳も含めた調査の状況は表3の通りである。

表3 回収率と調査不能の内訳

		件数	(%)
1. 調査不能	尋ね当たらず等	5	(0.3%)
	未返送	783	(39.2%)
	無効調査票	1	(0.1%)
	計	789	(39.5%)
2. 有効回答票		1,211	(60.6%)
3. 計画標本サイズ(合計)		2,000	100.0%

4.3. 回収率の詳細

男女別の回収率については、男性55.0%、女性64.5%となり、女性の方が10%ほど高い(表4)。年齢層別の回収率では、70代以上で76.1%、60代で75.7%と高く、年齢が下がるにつれて回収率が低下し、20代で39.4%、18・19歳で37.1%まで低下する(表5)。社会調査において、男性よりも女性において、若年層よりも高年齢層において回収率が高くなることは一般的な傾向である。

表4 男女別の回収率

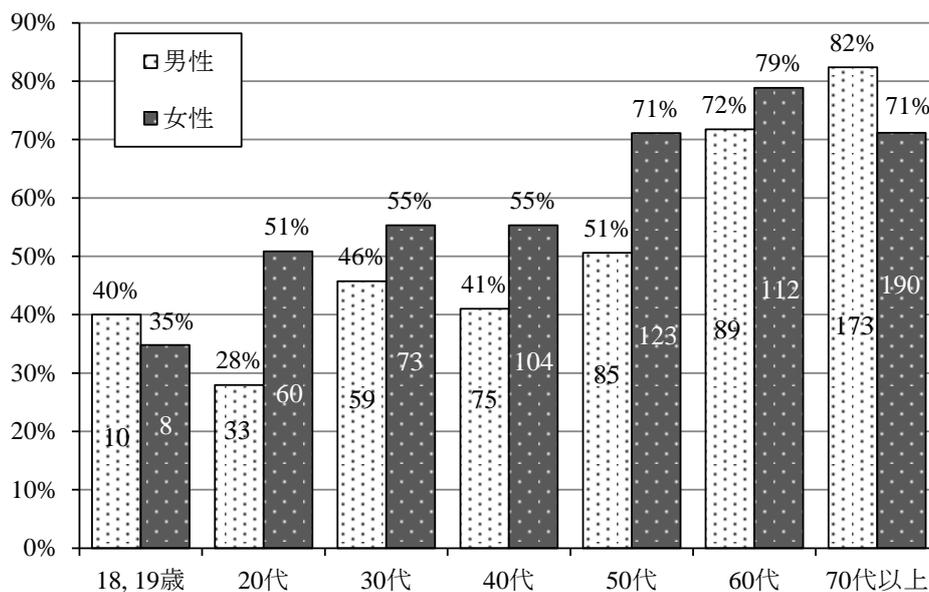
	男性	女性	不明	合計
回収標本	526	673	12	1,211
計画標本	957	1043	—	2,000
回収率(%)	55.0%	64.5%	—	60.6%

(注) 男女別の回収率の計算には、不明分12が含まれていない。

表5 年齢層別の回収率

	18, 19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
回収標本	18	93	132	180	208	201	363	16	1,211
計画標本	48	236	261	371	341	266	477	—	2,000
回収率(%)	37.1%	39.4%	50.7%	48.5%	60.9%	75.7%	76.1%	—	60.6%

(注) 年齢別の回収率の計算には、不明分16が含まれていない。



(注1) 棒グラフの高さおよび上側の数字は、回収率をあらわしている。
(注2) 棒グラフの内側の数字は、各層における実際の回収数である。

図2 男女・年齢層別の回収率

5. 回収標本の特徴

前述した男女別・年齢層別の回収率の違いにより、回収標本が母集団からある程度ずれている可能性があるため、その確認を行った。

表6は、母集団における男女・年齢別の人口分布と回収標本における男女・年齢別の人口分布を比較したものである。適合度検定*から、男女・年齢別の人口分布について、回収標本が母集団と乖離していることが統計学的に示されている。とりわけ、20代から40代の男性といった回収率の低い層では母集団よりも過小な人口割合である一方で、60代以上の男性、50代以上の女性といった回収率の高い層では母集団より過大な人口割合である。

高槻市の統計では、世帯人数別の人口分布もわかるので、この点についても回収標本と母集団との間の人口分布の比較を行った(表7)。その結果、この比較においても適合度検定*から両者が乖離していることが統計学的に示された。一人暮らしの多い20代、30代の回収率の低さがここにも影響したと考えられる。

*適合度検定

観測したデータの分布が、理論上の分布にあてはまっているかどうかを調べる統計学的手法。表6と表7では、2021(令和3)年6月末時点での高槻市全体の人口の分布を理論上の分布としている。なお、表6と表7の注釈にある統計量 χ^2 は適合度基準と呼ばれる値で、この値が0の場合二つの分布は同一であり、値が大きいほど乖離していることを示している。 df は、自由度と呼ばれる値(表6と表7では、「性別と年齢」「世帯人員数」の各カテゴリ数から1を引いた数に相当)である。 p は、二つの分布が同一の分布である確率を表しており、統計量 χ^2 と自由度 df から計算されている。

表6 男女・年齢別の人口分布の比較

性別	年齢	回収標本	%	R3年6月末 人口	%
男性	18, 19歳	10	0.8%	3,477	1.2%
男性	20代	33	2.8%	16,555	5.9%
男性	30代	59	4.9%	18,202	6.5%
男性	40代	75	6.3%	25,792	9.2%
男性	50代	85	7.1%	23,712	8.4%
男性	60代	89	7.5%	17,497	6.2%
男性	70～84歳	173	14.5%	29,557	10.5%
女性	18, 19歳	8	0.7%	3,346	1.2%
女性	20代	60	5.0%	16,639	5.9%
女性	30代	73	6.1%	18,488	6.6%
女性	40代	104	8.7%	26,478	9.4%
女性	50代	123	10.3%	24,350	8.6%
女性	60代	112	9.4%	19,891	7.1%
女性	70～84	190	15.9%	37,584	13.3%
合計		1,194	100.0%	281,568	100%

(注1) 表左側の回収標本には、性別または年齢の不明分17件が含まれていない。

(注2) 表右側のR3年6月末人口は、高槻市全体の人口である

(http://www.city.takatsuki.osaka.jp/shisei/profilekeikaku/tokeijoho/jinko/jinkou_r3/1625799369733.html)

参照

(適合度検定) $\chi^2=83.7972$, $df=13$, $p<0.0001$

表7 世帯人員別世帯数分布の比較

世帯人員数	回収標本	%	R3年6月末 世帯人員数別人口	%
1人	140	11.6%	62,400	17.8%
2人	418	34.5%	95,176	27.1%
3人	277	22.9%	78,477	22.4%
4人	231	19.1%	82,288	23.5%
5人	83	6.9%	26,575	7.6%
6人	15	1.2%	4,206	1.2%
7人	2	0.2%	1,078	0.3%
8人	0	0.0%	272	0.1%
9人	0	0.0%	81	0.0%
10人	0	0.0%	30	0.0%
11人以上	2	0.2%	44	0.0%
無回答	43	3.6%	—	—
合計	1,211	100.0%	350,627	100.0%

(注1) 表右側の世帯人数別人口は母集団の分布であり、高槻市の人口

(http://www.city.takatsuki.osaka.jp/shisei/profilekeikaku/tokeijoho/jinko/jinkou_r3/1625799369733.html)

から算出した。ただし、回収標本が20～84歳で構成されているのに対し、表右側の世帯人数別人口には未成年および85歳以上も含まれている。

(適合度検定) $\chi^2=87.8056$, $df=10$, $p<0.0001$

第2章 調査結果の概要

日高 正樹

1. 調査対象者の属性

調査票の質問順とは異なるが、はじめに本調査における回答者の属性を確認する。ただし、グラフや表、本文中における百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。よって合計%は100.0%になるとは限らない。回答者の性別は男性が526人で女性が673人であり女性の方が多（図1）。年齢は70代が3割と多く、18歳、19歳と20代は1割未満と少ない（図2）。男女別に年齢を確認してもほぼ同様の傾向が見られる（図3）。

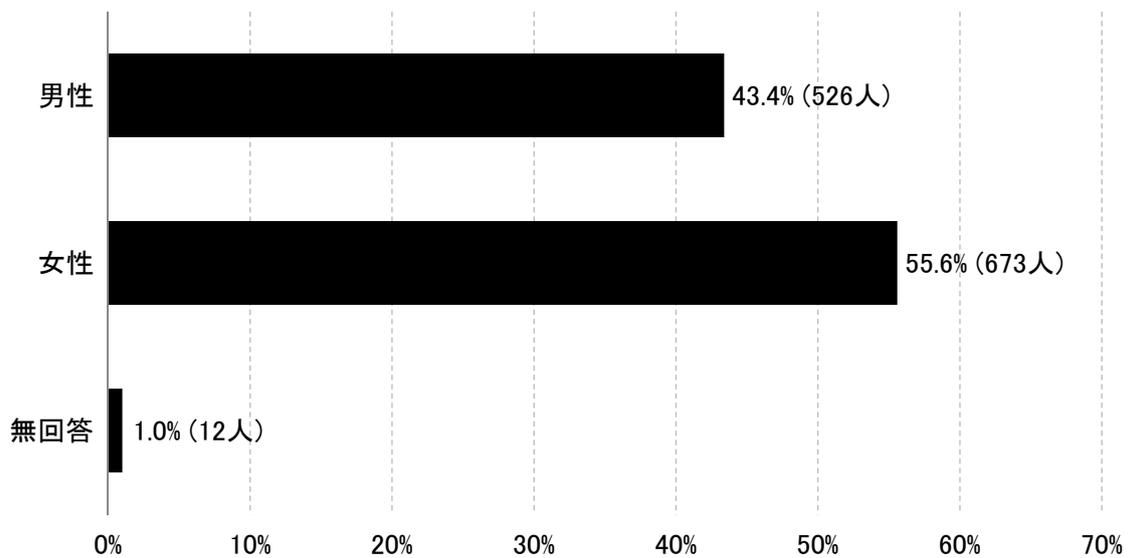


図1 Q53 性別

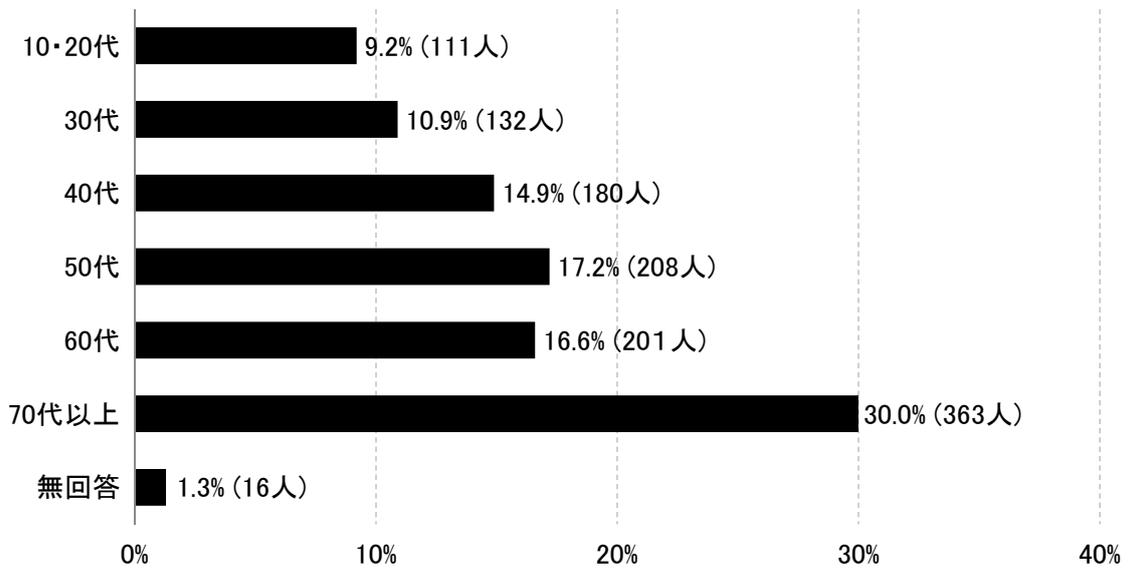


図 2 Q54 年齢

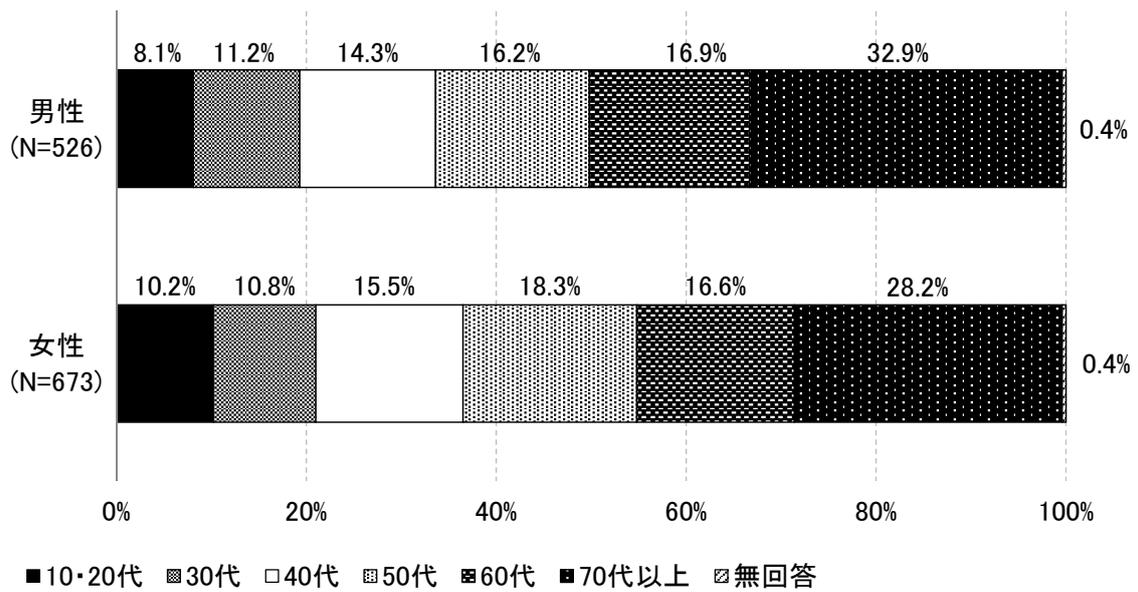


図 3 性別×年齢

以降、基本的には全ての質問項目に関して性別・年齢とのクロス集計を提示する。ただし、一部の回答者のみに回答が求められている質問項目に関して、その項目に該当しない者を非該当者として分析から除外している。なお、本調査の全回答者数は 1,211 人である。性別・年齢の内訳については図 1 と図 2 を参照のこと。また、質問項目ごとの設問提案者と例年の質問項目との対応関係の一覧については本章の最後を参照のこと。

職業は、合計を見ると常時雇用者が 28.8%と最も多く、次いで無職が多い。男女別で見ると、男性は常時雇用者が 39.4%と最も多く、女性は臨時雇用、パート、アルバイトが 26.0%と最も多い。年代別で見ると、60代・70代以上で常時雇用者の割合が大きく減少し、無職が大きく増加している。臨時雇用、パート、アルバイトと回答した人は、10・20代と40代から60代が2割以上となっている（表 1）。

表 1 Q55 職業

		(%)									
		常時雇用 の勤め人	臨時雇用、 パート、 アルバイト	自営業主	自営業の 家族従業 者	経営者、 役員	家事専業	学生	無職	その他	無回答
男女別	合計 (N=1211)	28.8	19.6	4.7	2.3	2.2	11.5	2.4	23.5	2.5	2.6
	男性 (N=526)	39.4	11.4	7.8	1.3	4.9	0.2	2.9	27.4	2.5	2.3
	女性 (N=673)	20.8	26.0	2.4	3.0	0.1	20.5	2.1	20.8	2.4	1.9
年代別	10・20代 (N=111)	41.4	22.5	1.8	0.9	0.0	3.6	26.1	2.7	0.9	0.0
	30代 (N=132)	56.8	16.7	5.3	0.0	0.0	12.9	0.0	5.3	3.0	0.0
	40代 (N=180)	47.8	28.3	3.9	2.2	3.3	7.8	0.0	4.4	1.1	1.1
	50代 (N=208)	46.6	26.0	4.3	2.4	3.4	8.2	0.0	5.8	1.0	2.4
	60代 (N=201)	16.4	26.9	6.5	3.0	3.0	14.9	0.0	25.4	3.0	1.0
	70代以上 (N=363)	2.5	8.0	5.2	2.8	1.9	15.7	0.0	55.9	3.9	4.1

最終学歴は、男女別で見ると、男性が「大学（旧高専）・大学院」が49.2%と最も多いのに対し、女性が23.8%と男性よりも少ない。女性で最も多いのは「高校（または旧制中学など）」であり、34.3%である。また、「短大・高専（5年制）」は男性が3.8%と最も少ないのに対して、女性が19.8%と「高校（または旧制中学など）」や「大学（旧高専）・大学院」に次いで3番目の多さである。年代別で見ると、10・20代が「大学（旧高専）・大学院」が62.2%であるが、年代が上がるごとに減少し、70代以上が19.6%である。反対に、10・20代は「中学（旧小学校など）」と「高校（または旧制中学など）」の合計が16.2%であるが、年代が上がるごとに増加し、70代以上が64.2%となっている（図4）。

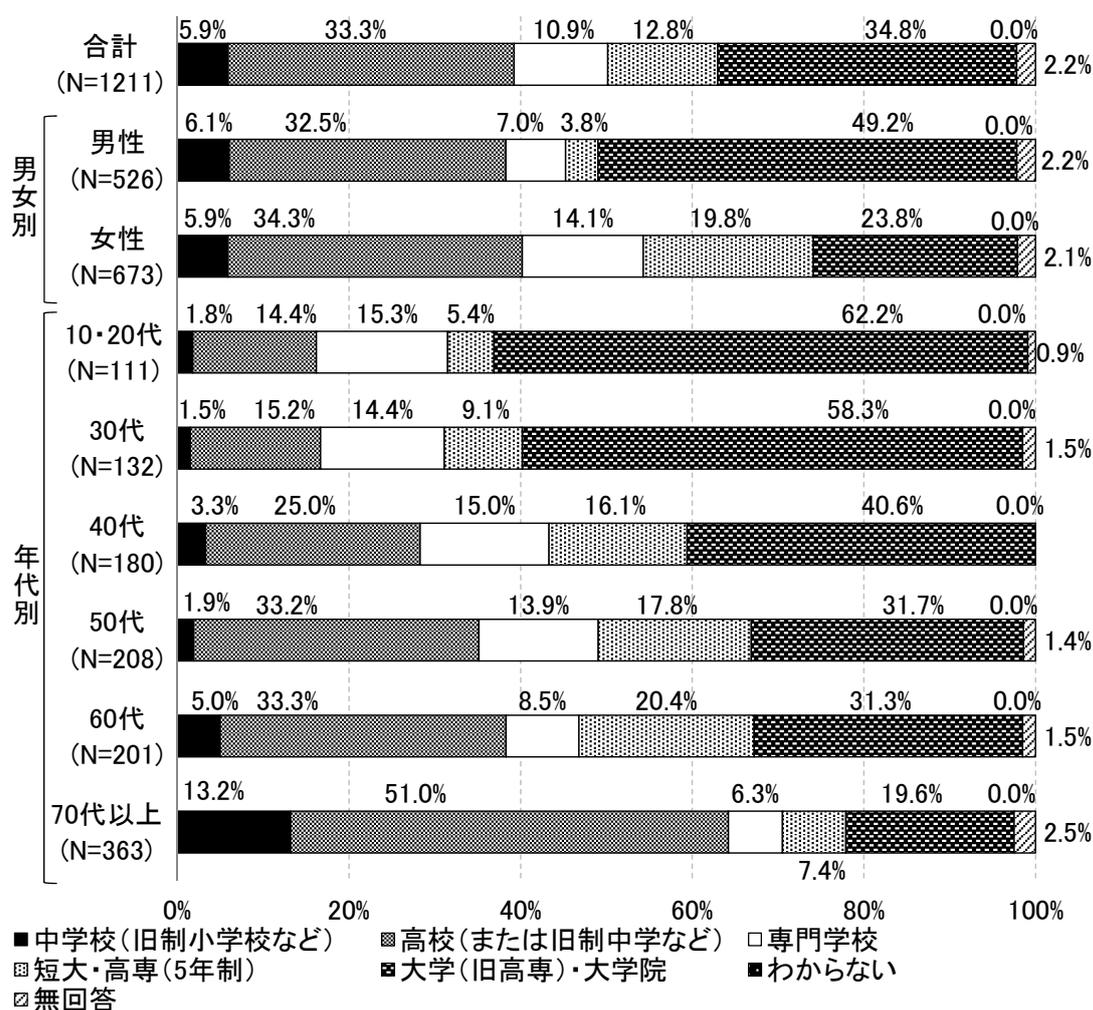


図4 Q56 最終学歴

居住地については昨年のおり、単純集計のみを提示する。ここでの地区とは小学校の校区を参考としている。各地区と該当小学校区は、檜田地区（檜田小学校）、高槻北地区（芥川・真上・磐手・奥坂・清水・北清水・安岡寺・日吉台・北日吉台小学校）、高槻南地区（高槻・桃園・大冠・北大冠・松原・桜台・竹の内・西大冠・若松・南大冠・冠小学校）、五領地区（五領・上牧小学校）、高槻西地区（郡家・赤大路・阿武野・南平台・川西・土室・阿武山小学校）、如是・富田地区（芝生・丸橋・寿栄・富田・柳川・玉川・如是・津之江・五百住小学校）、三箇牧地区（三箇牧・柱本小学校）である（図 5）。

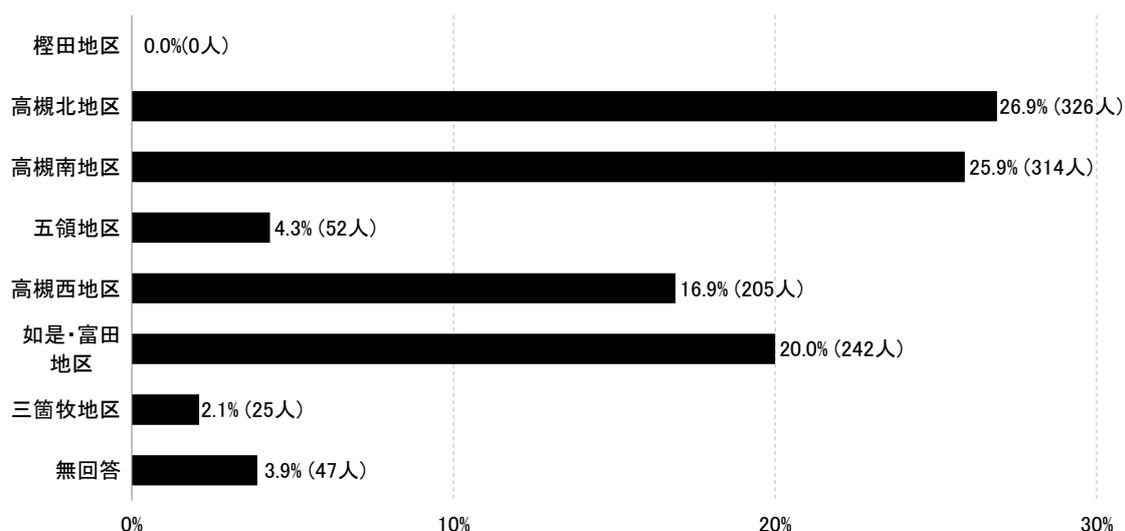


図 5 Q57 居住地域

高槻市内での居住年数に関して、全体の8割以上が10年以上市内に居住していることが分かる。年代別で見ると、10・20代が「20年以上30年未満」が43.2%と最も多く、子どもころから市内に居住していることが分かる。70代以上で「50年以上」が34.4%と最も多い。なお、大きな男女差は見られない（表2）。

表2 Q58 市内居住年数

		(%)									
		1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 40年未満	40年以上 50年未満	50年以上	無回答
男女別	合計 (N=1211)	2.1	3.8	3.0	6.0	14.1	15.5	17.0	20.2	17.0	1.2
	男性 (N=526)	1.3	4.9	3.0	5.1	12.7	16.2	17.3	18.8	20.0	0.6
	女性 (N=673)	2.7	3.0	3.0	6.7	15.2	15.2	17.1	21.5	15.0	0.7
年代別	10・20代 (N=111)	9.9	6.3	1.8	11.7	27.0	43.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代 (N=132)	6.1	14.4	11.4	9.8	18.2	9.1	31.1	0.0	0.0	0.0
	40代 (N=180)	1.7	3.9	3.9	10.0	28.3	9.4	15.6	27.2	0.0	0.0
	50代 (N=208)	0.0	1.4	3.4	4.8	13.5	20.7	13.0	17.8	24.0	1.4
	60代 (N=201)	1.5	3.0	1.0	3.5	8.5	17.9	29.4	19.9	15.4	0.0
	70代以上 (N=363)	0.0	1.1	0.8	2.8	5.0	8.3	13.8	32.8	34.4	1.1

市民の住居は、男女別・年代別のすべての層で「一戸建て」の方が「集合住宅」よりも高い割合である。(図 6)。

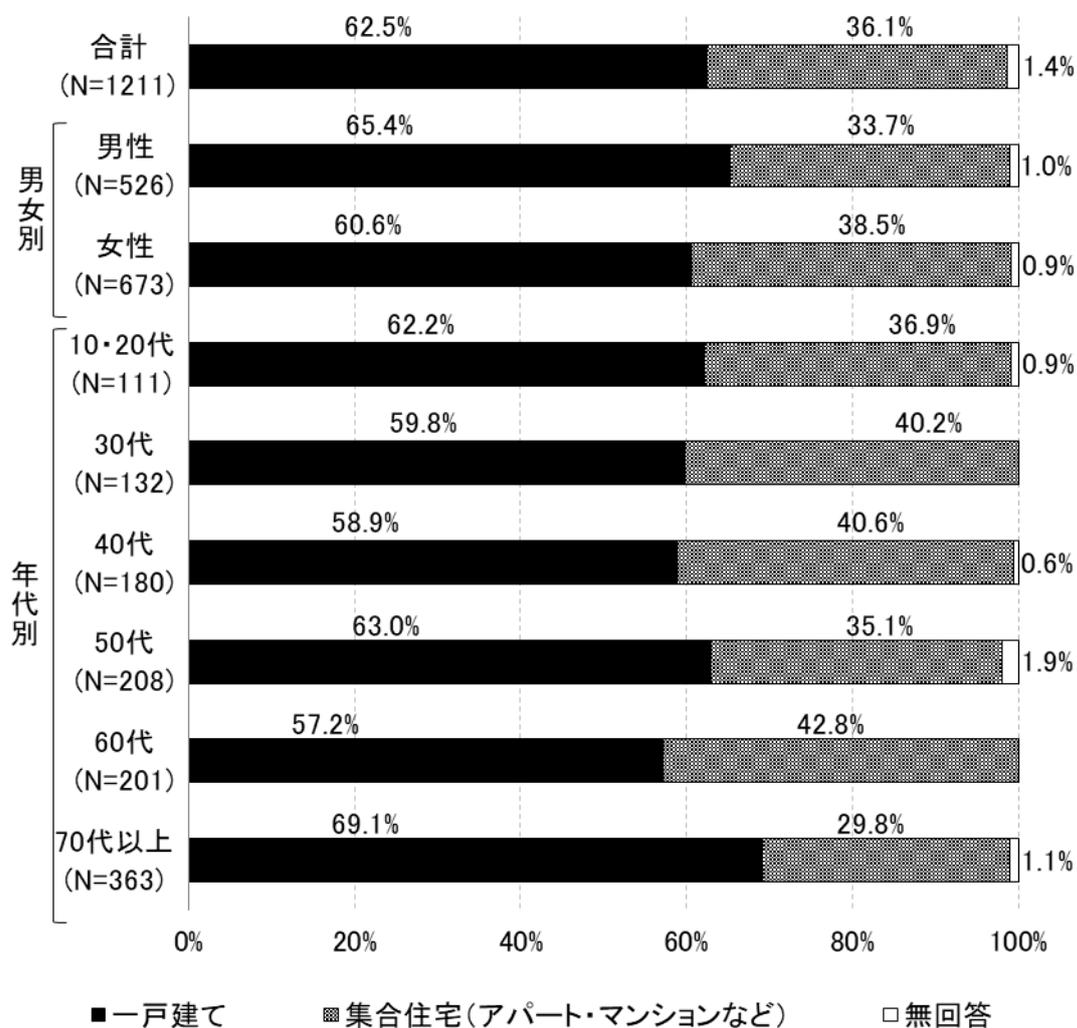


図 6 Q59 住居

居住形態は、男女別・年代別のすべての層で「持ち家」が6割以上と最も高い割合である。50代以上は8割以上が「持ち家」である。「民間の賃貸住宅」では、30代が28.0%と一定割合いるが、年代が上がるにつれて減少しており、70代以上で5.0%になる。「公社・公団等の公営の賃貸住宅」の割合は、70代以上が9.4%と最も高く、次いで60代の7.0%である（図7）。

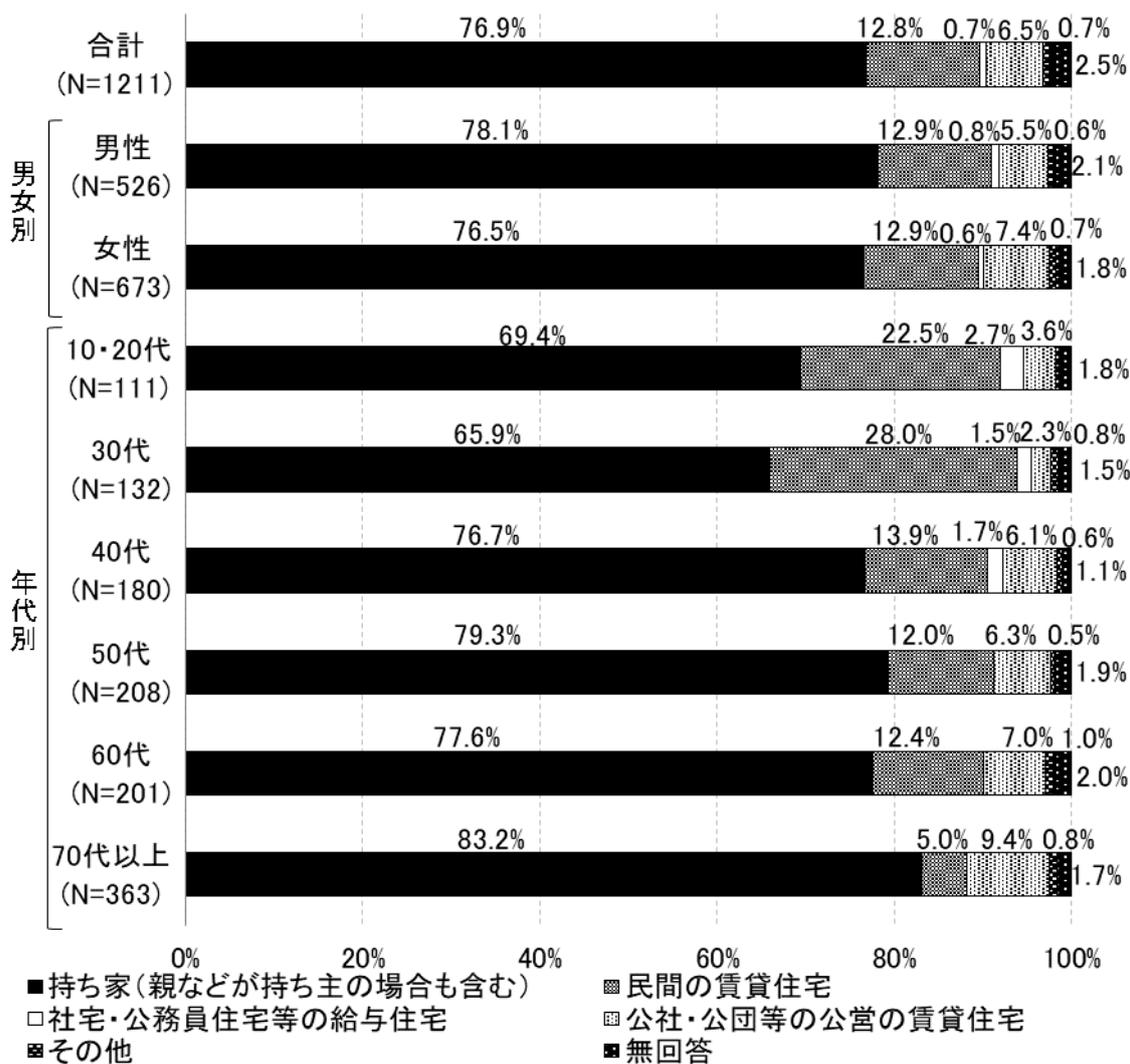


図7 Q60 居住形態

婚姻状況に関して、男女別・年代別の30代以上の層で、「既婚（配偶者あり）」が最も高い割合を占める。10・20代は「未婚」の割合が8割以上である。男女別で見ると、「既婚（離別・死別）」の割合は、男性で8.6%、女性で17.8%と、女性の方が9.2ポイント高い（図8）。

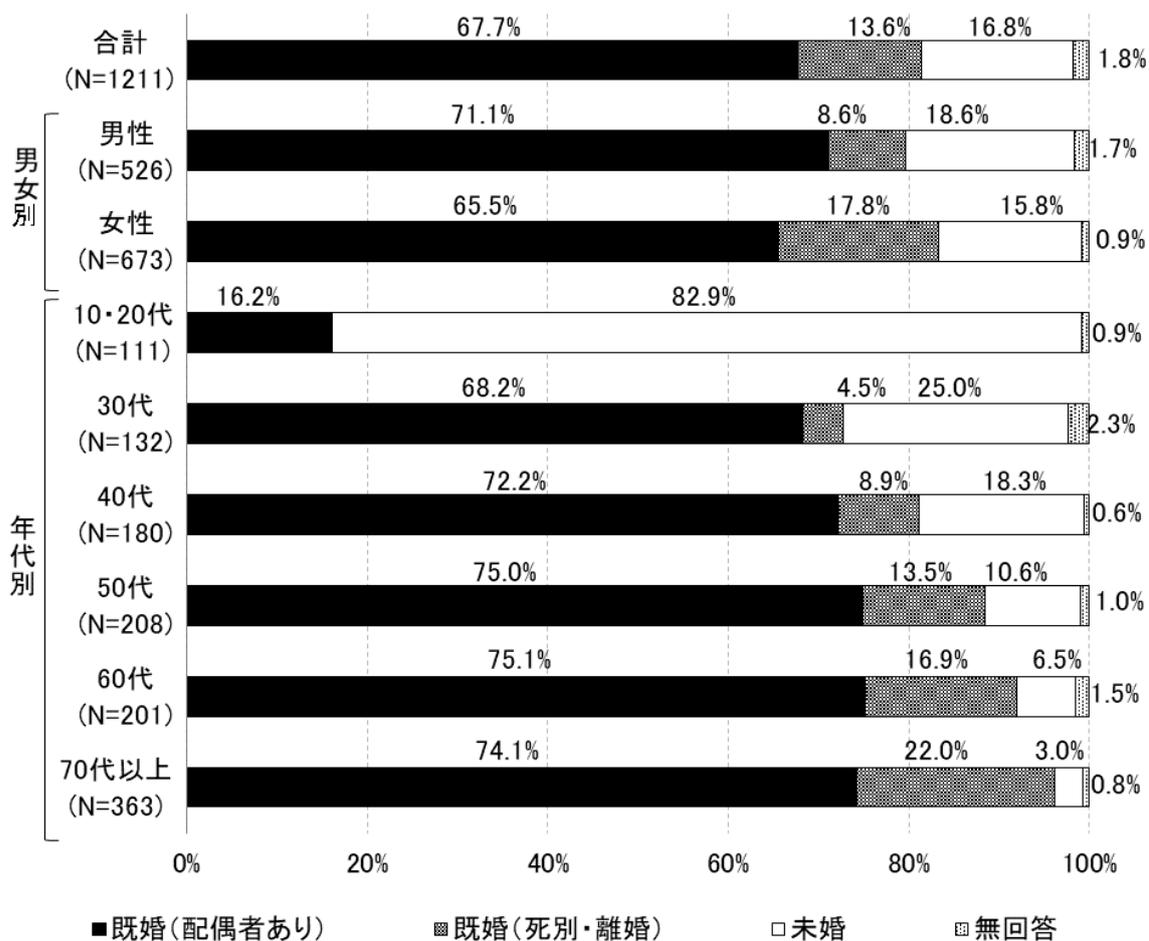


図 8 Q61 婚姻状況

子どもの有無に関して、男女別の各層・年代別の30代以上の層で、「いる」と回答した人の割合が「いない」と回答した人の割合より高い。10・20代は「いない」割合が8割以上である。なお、「いる」と回答した人の割合は、女性の方が男性よりも4.4ポイント高い(図9)。

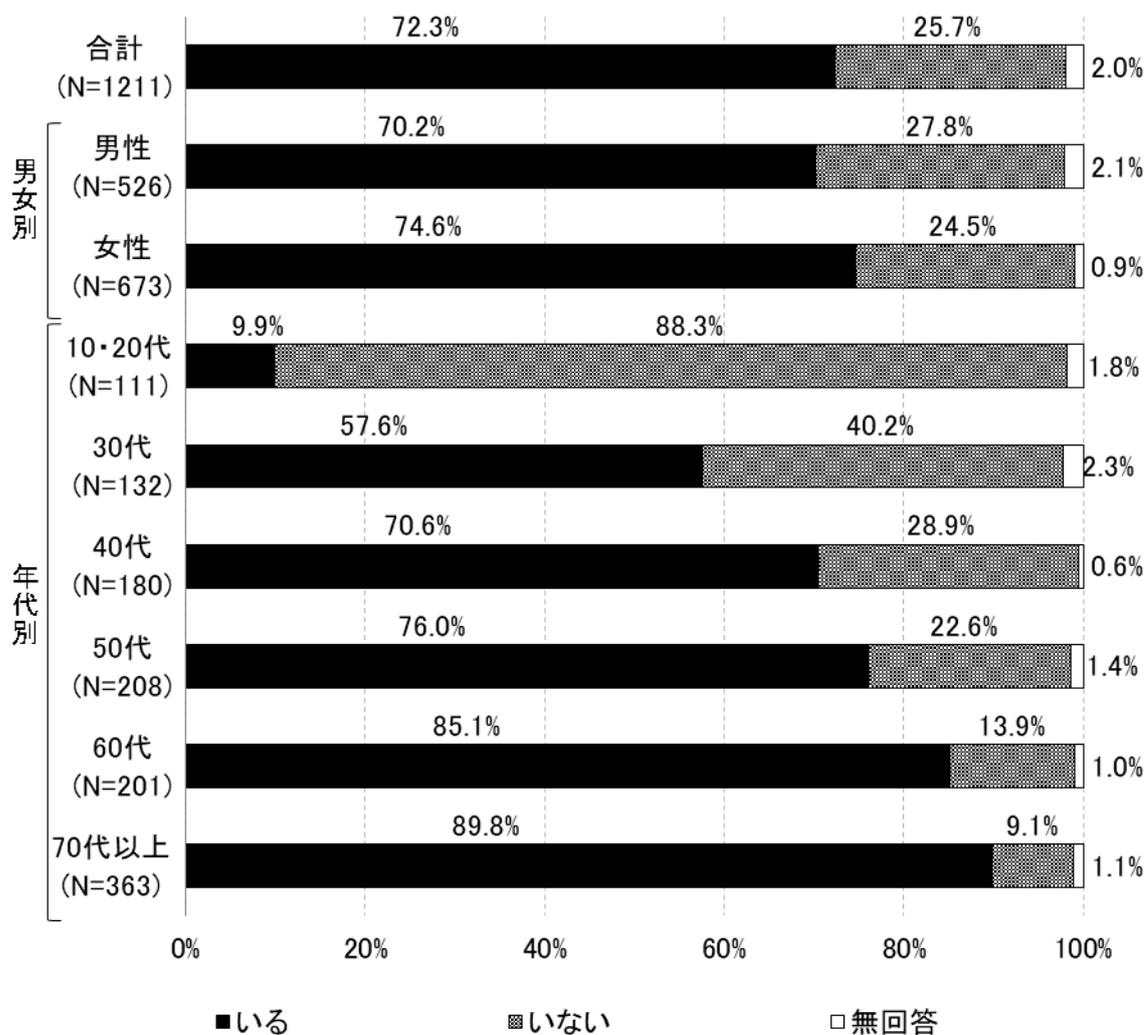


図9 Q62 子どもの有無

世帯人数に関して、その多くは2～4人世帯である。年代別で見ると、10・20代、40代、60代は4人世帯が最も多い。一方で30代と50代は3人世帯が最も多い。また、70代以上は2人世帯が5割以上を占めている（表3）。

表3 Q63 世帯人数

											(%)
		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	12人	13人	無回答
男女別	合計 (N=1211)	11.6	34.5	22.9	19.1	6.9	1.2	0.2	0.1	0.1	3.6
	男性 (N=526)	11.6	36.5	21.3	19.6	6.1	1.3	0.2	0.0	0.2	3.2
	女性 (N=673)	11.7	33.4	24.4	18.9	7.6	1.2	0.1	0.1	0.0	2.5
年代別	10・20代 (N=111)	0.0	5.6	5.6	61.1	27.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代 (N=132)	11.8	16.1	28.0	24.7	11.8	2.2	0.0	0.0	0.0	5.4
	40代 (N=180)	6.1	22.0	25.8	30.3	12.1	0.8	0.0	0.0	0.0	3.0
	50代 (N=208)	6.1	13.9	32.8	28.3	13.9	1.1	0.0	0.0	0.0	3.9
	60代 (N=201)	11.1	23.6	22.6	30.8	7.2	1.9	0.0	0.0	0.0	2.9
	70代以上 (N=363)	12.9	51.7	20.4	8.5	2.0	1.5	0.0	0.0	0.0	3.0

世帯年収は、合計および男性・女性ともに「200～400万円未満」が最も多い。年代別で見ると、「わからない」を除いて割合が最も高いのは、10・20代が「200万円～400万円未満」、30代～50代が「400万円～600万円未満」と、年代が上がるごとに年収が高額になっている。ただし、60代と70代以上は「200万円～400万円未満」の割合が最も高い（表4）。

表4 Q64 世帯年収

											(%)
		100万円未満	100万円～200万円未満	200万円～400万円未満	400万円～600万円未満	600万円～800万円未満	800万円～1000万円未満	1000万円～1500万円未満	1500万円以上	わからない	無回答
男女別	合計 (N=1211)	6.7	10.8	23.1	17.0	10.8	7.5	7.2	2.1	7.8	6.9
	男性 (N=526)	4.8	9.1	25.7	19.4	11.0	8.6	7.6	2.9	5.3	5.7
	女性 (N=673)	8.2	12.3	21.5	15.5	10.8	6.8	7.0	1.5	9.8	6.5
年代別	10・20代 (N=111)	8.1	3.6	15.3	14.4	8.1	8.1	8.1	0.9	29.7	3.6
	30代 (N=132)	6.1	6.8	9.1	24.2	16.7	10.6	10.6	3.0	7.6	5.3
	40代 (N=180)	5.6	7.2	10.6	20.6	18.9	12.8	10.0	3.3	7.2	3.9
	50代 (N=208)	4.8	4.8	13.0	16.8	16.3	13.5	14.4	2.4	5.8	8.2
	60代 (N=201)	7.0	13.4	26.9	17.4	7.5	6.5	5.5	2.5	5.5	8.0
	70代以上 (N=363)	8.0	18.7	41.6	14.0	4.7	1.1	1.4	0.8	4.1	5.5

2. 各質問項目の結果

ここからは回答者個人の属性だけでなく、意識や行動などの項目についての結果の概要を示す。ここでも基本的には性別・年齢によるクロス集計を提示する。なお、一部の回答者のみに回答が求められている質問項目に関して、その項目に該当しない者を非該当者として分析から除外している。回答者の性別と年齢の分布については、図1と図2を参照のこと。

なお、グラフや表、本文中における百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。よって合計%は100.0%になるとは限らない。

Q1の生活満足度に関して、男女別・年代別のすべての層で5割以上が「満足」もしくは「やや満足」と回答している。年代別で見ると、「満足」もしくは「やや満足」と回答した人の割合は30代が72.7%と最も高く、50代が59.6%と最も低い(図10)。

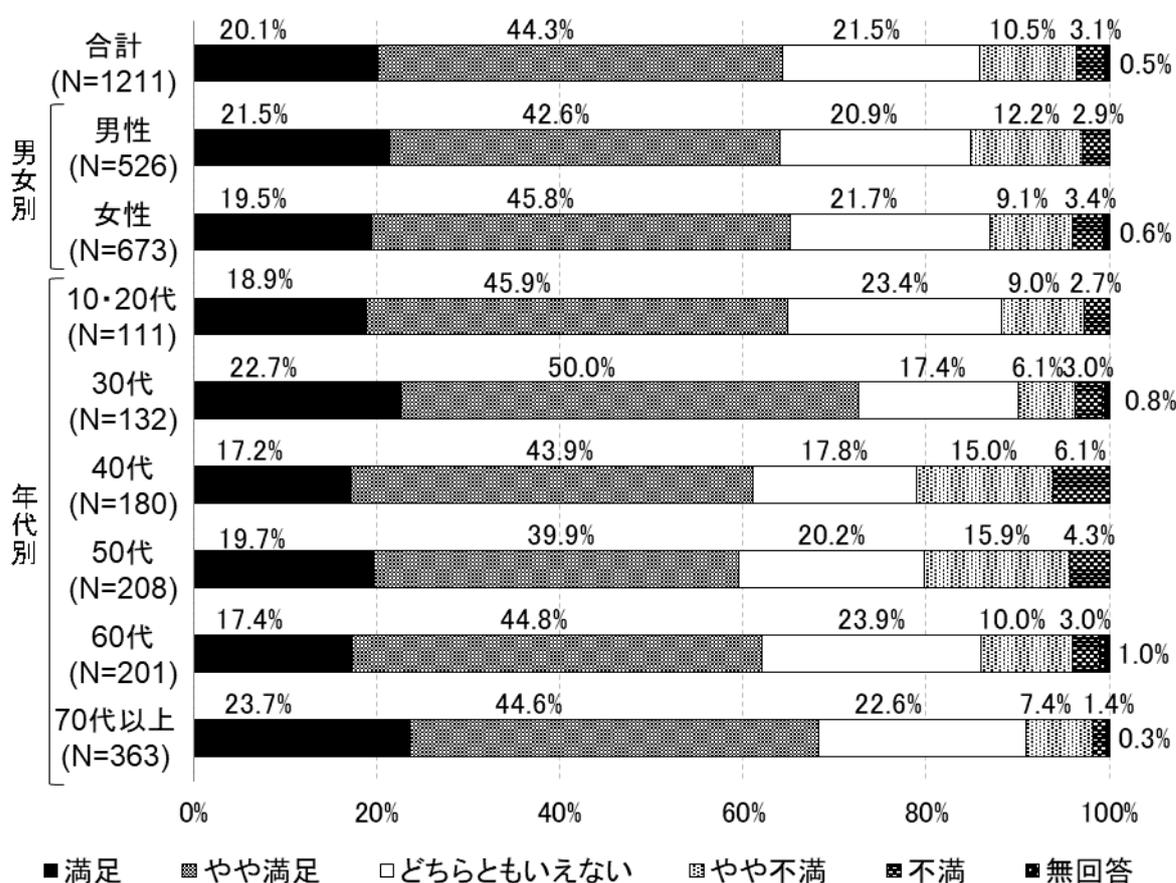


図10 Q1 生活満足度

Q2の幸福度に関して、男女別で見ると、男女ともに「幸せ」または「やや幸せ」と回答した人の割合は7割程度である。年代別で見ると、「幸せ」または「やや幸せ」と回答した人の割合はすべての層で6割を超えており、30代以上が80.3%と最も高い（図11）。

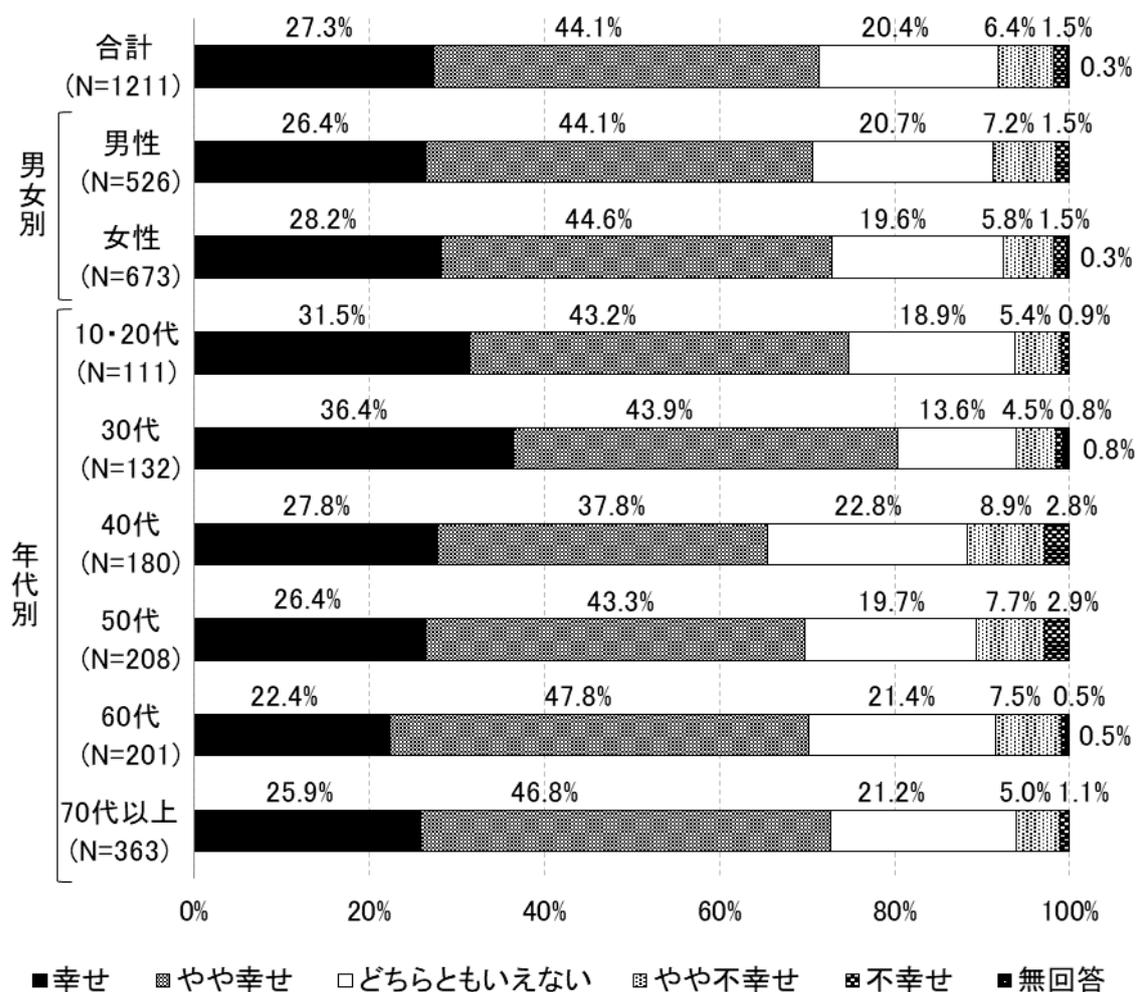
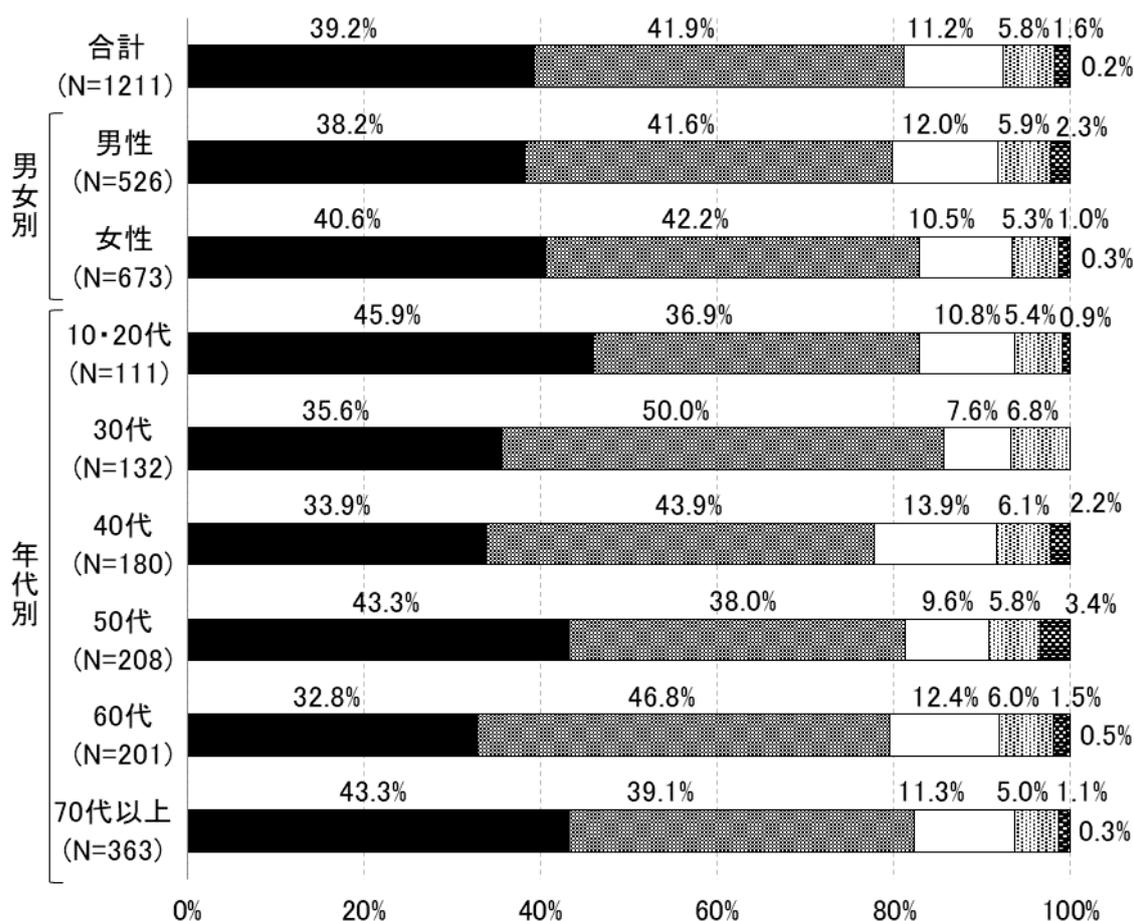


図11 Q2 幸福度

Q3 の居住地域は暮らしやすいかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は30代が85.6%と最も高い。反対に40代が77.8%と最も低い(図12)。



■ そう思う ■ ややそう思う □ どちらともいえない ▨ あまりそう思わない ▩ そう思わない ■ 無回答

図12 Q3 居住地域は暮らしやすいか

Q4の地域に住み続けたいかに関して、男女別・年代別のすべての層で「ずっと住み続けたい」または「住み続けたい」と回答した人の割合が5割以上である。年代別で見ると、「ずっと住み続けたい」または「住み続けたい」と回答した人の割合は70代以上が70.0%と最も高い。反対に、30代は50.8%と最も低い(図13)。

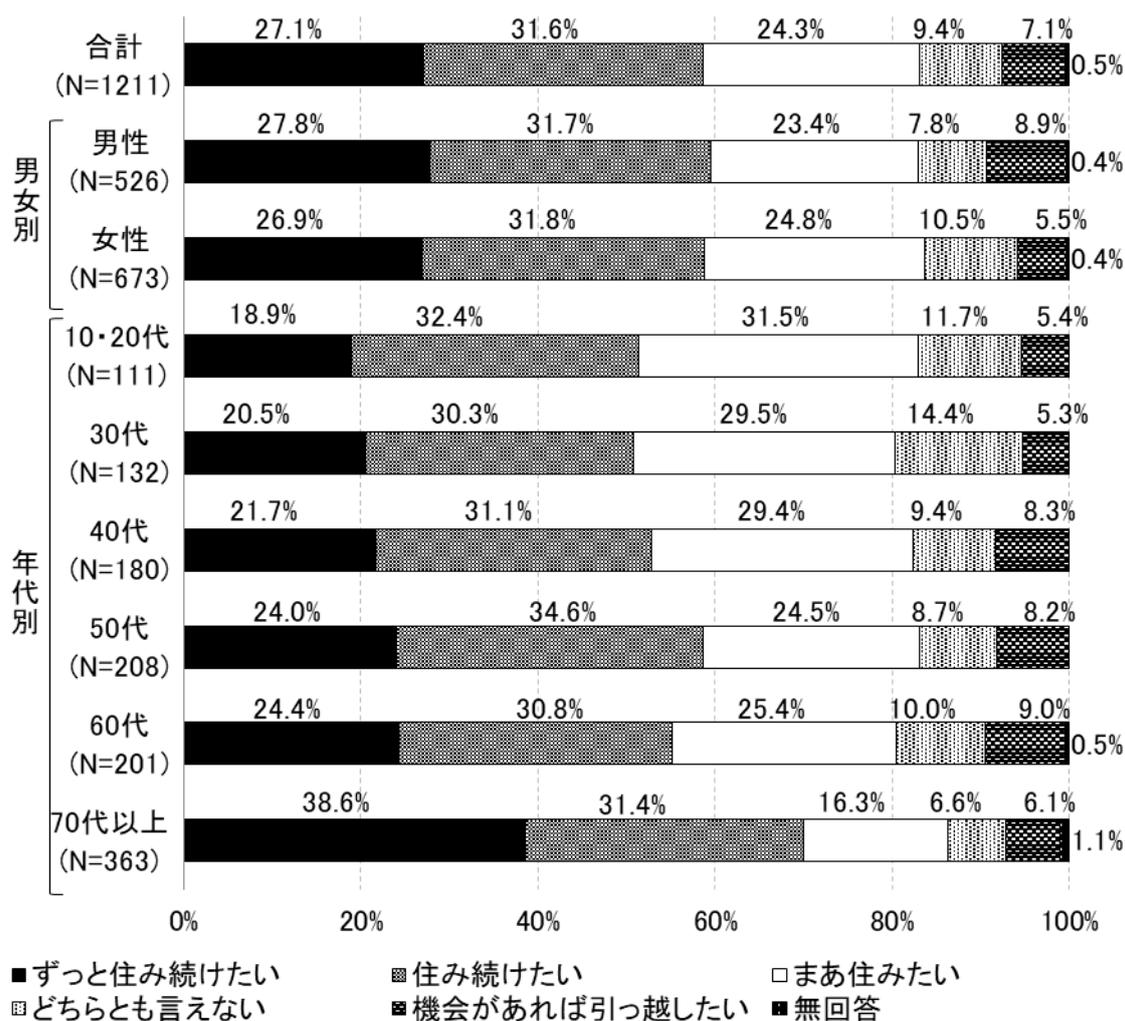


図13 Q4 地域に住み続けたいか

Q5の農村漁村地域へ移住したいという願望があるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「ない」または「どちらかといえばない」と回答した人の割合が7割以上である。男女別でみると、「ない」または「どちらかといえばない」と回答した人の割合は女性の方が男性よりも10.9ポイント高い。年代別で見ると「ない」または「どちらかといえばない」と回答した人の割合は70代以上が87.0%と最も高い。反対に、40代は73.4%と最も低い(図14)。

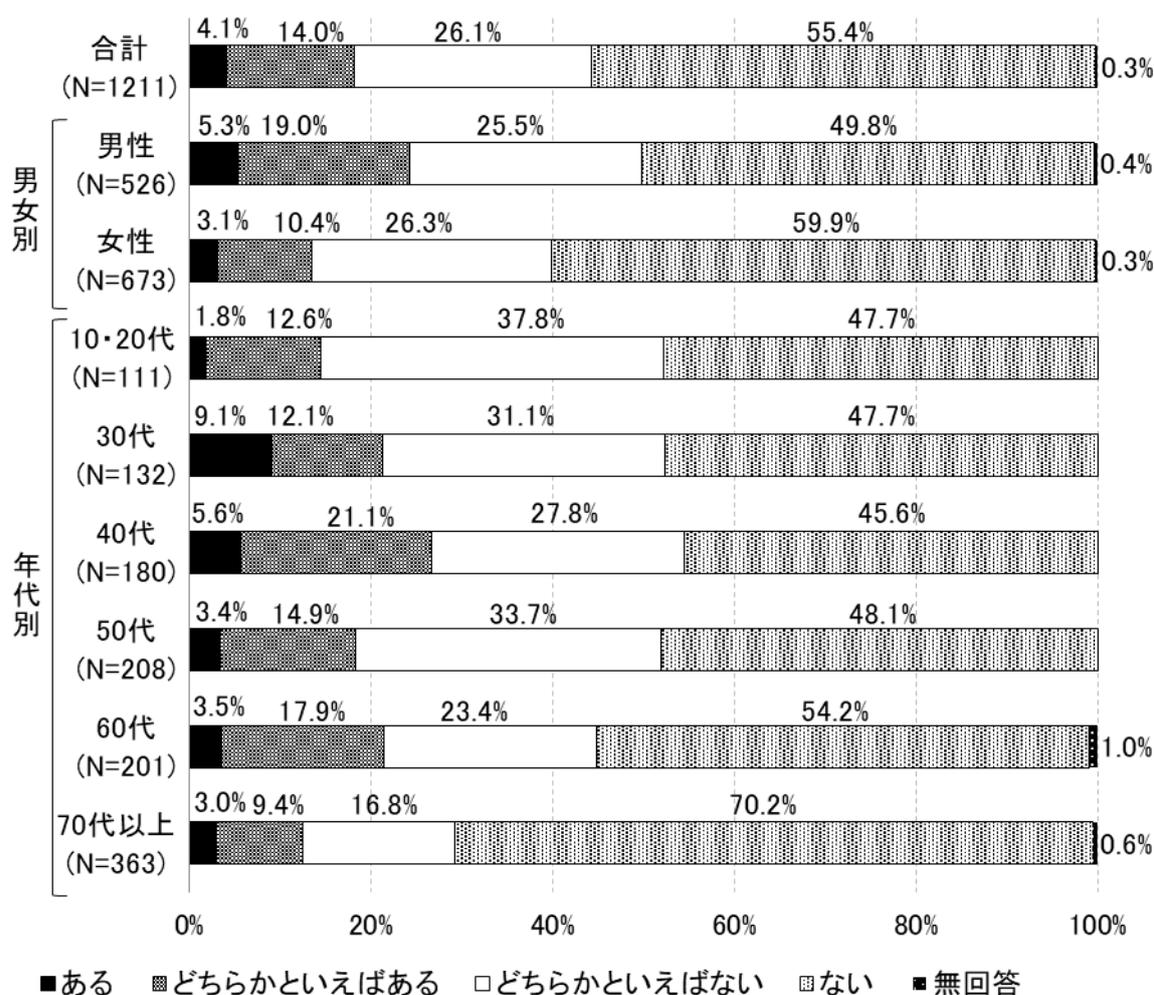


図14 Q5 農村漁村地域へ移住したいという願望があるか

Q6 の利用している交通手段に関して、「自家用車」が 50.3%と最も高く、「自転車」が 49.2%と続く（図 15）。

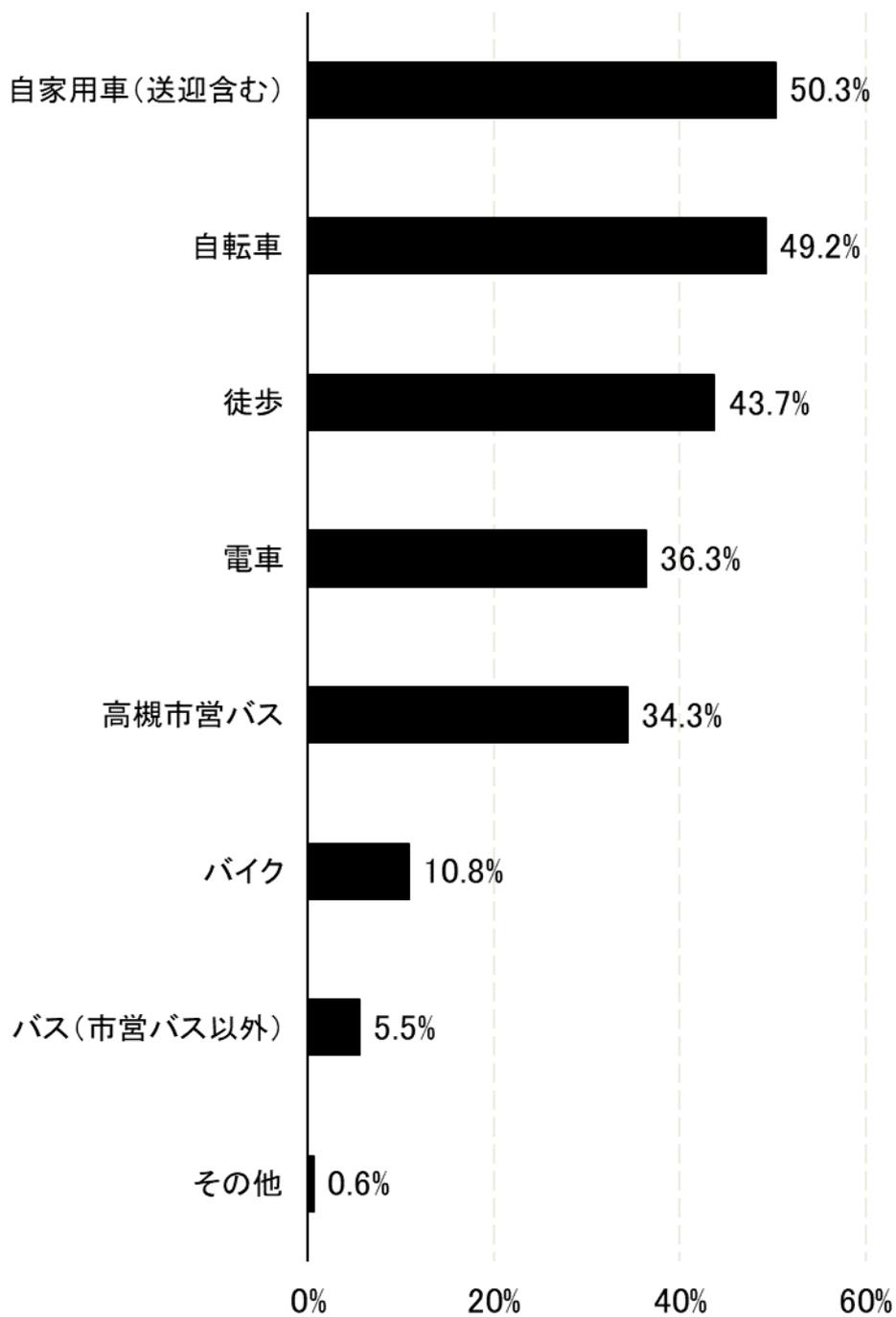


図 15 Q6 利用している交通手段

Q6 の利用している交通手段に関して、男女別でみると、「自転車」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 8.4 ポイント高い（図 16）。

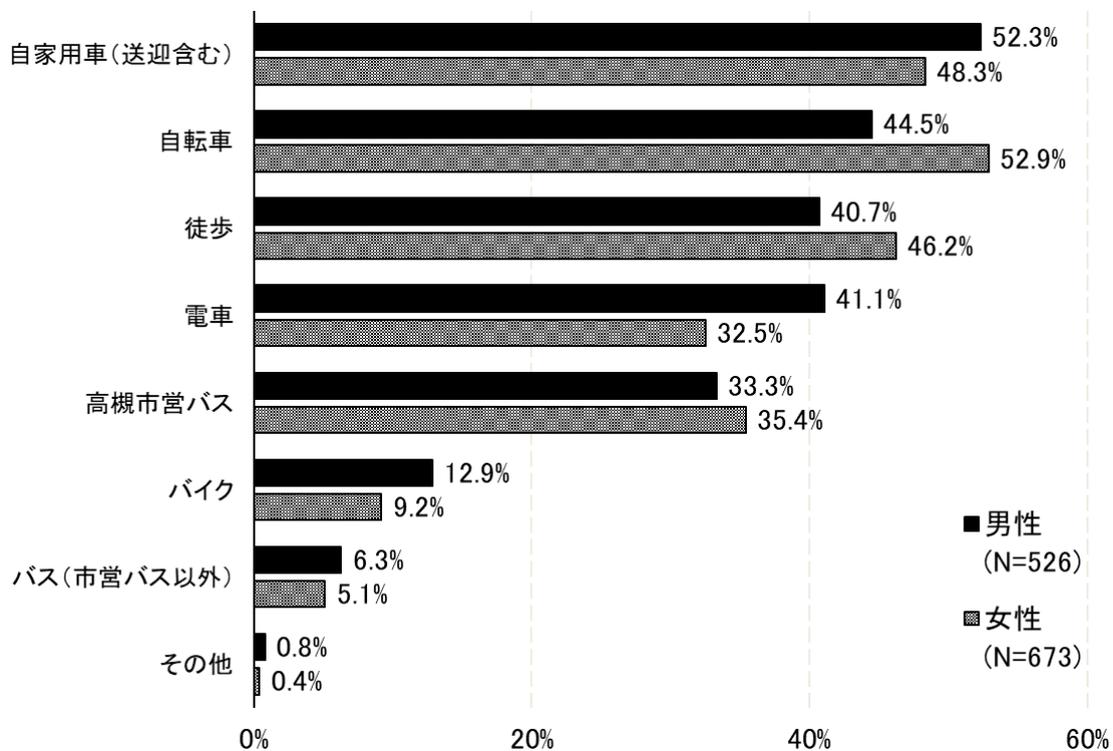


図 16 Q6 利用している交通手段

Q6 の利用している交通手段に関して、年代別で見ると「高槻市営バス」は 60 代以下と 70 代以上で差があり、70 代以上が 52.9%と高く、反対に 40 代は 20.0%と低い（図 17）。

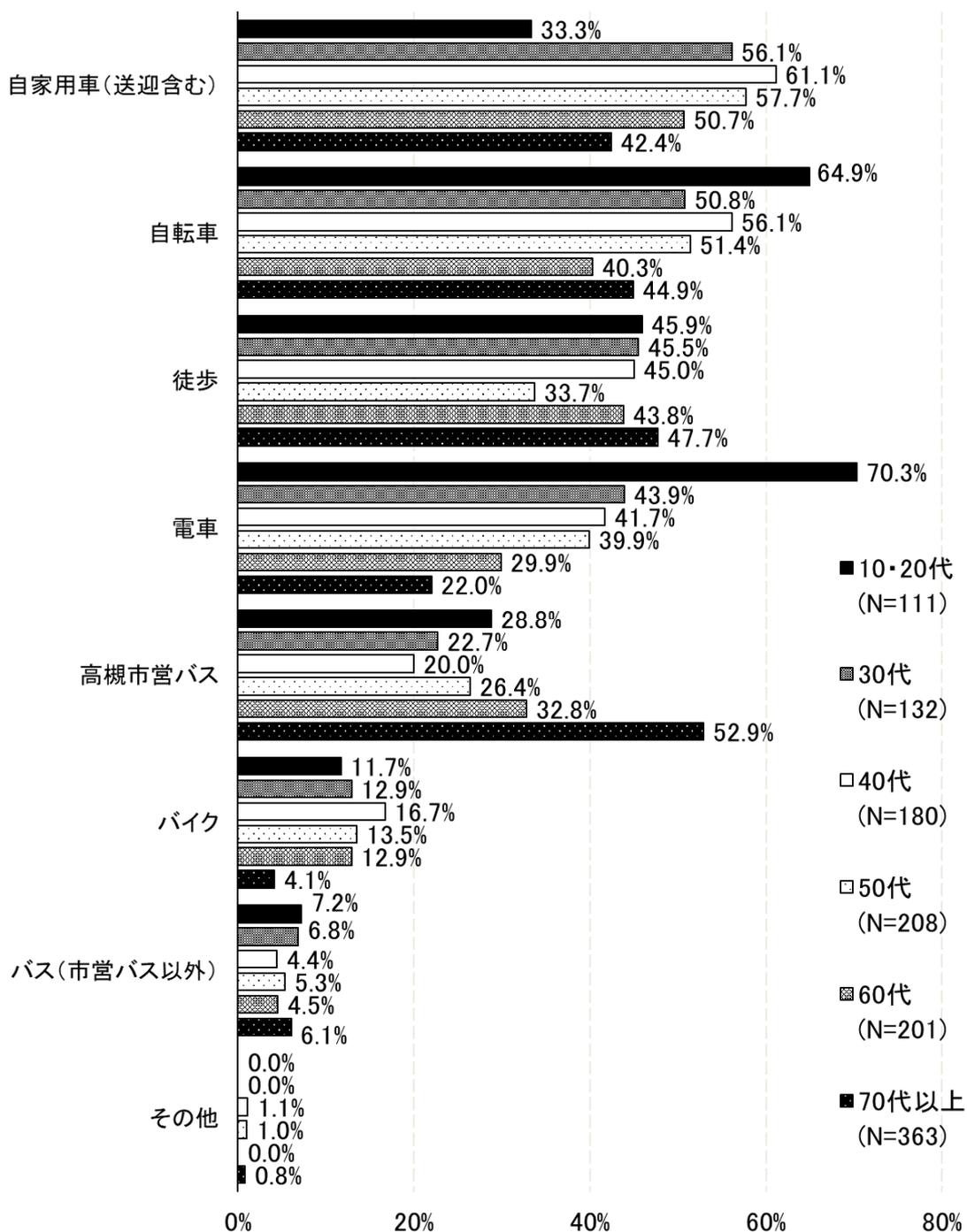
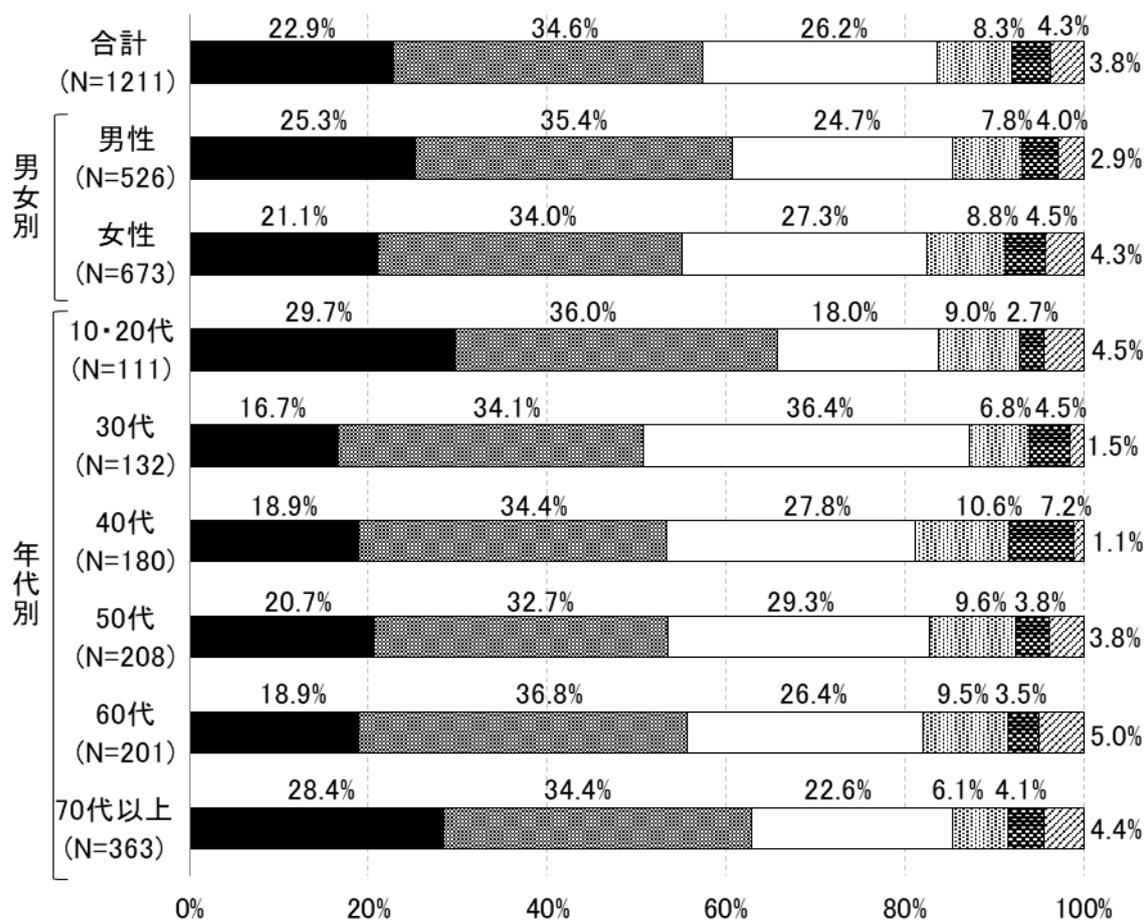


図 17 Q6 利用している交通手段

Q7A～Q7N、Q8～Q10 は、高槻市営バスについて質問している。

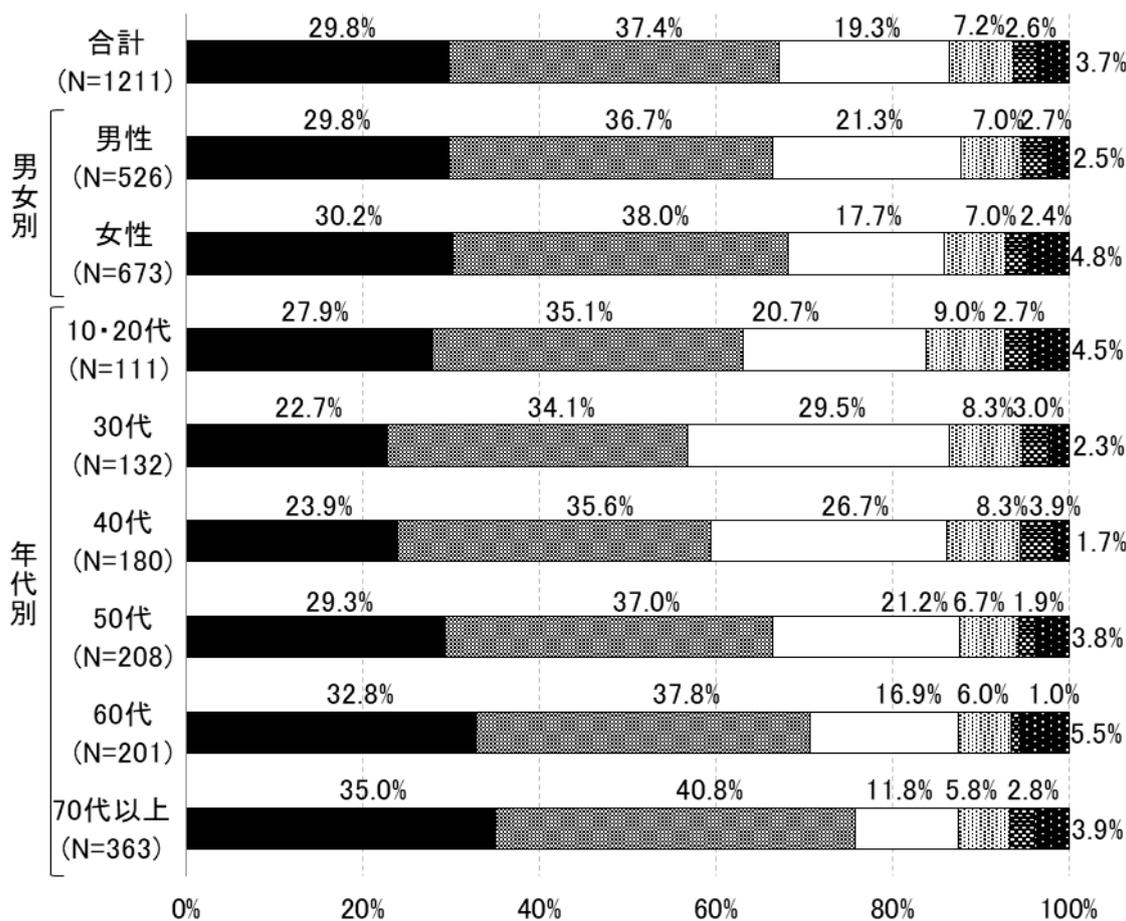
Q7A の高槻市営バスの線路網が充実しているかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が5割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は20代が65.7%と最も高く、反対に30代が50.8%と最も低い（図16）。



■ そう思う ■ ややそう思う □ どちらともいえない ▨ あまりそう思わない ■ そう思わない ▩ 無回答

図16 Q7A 市営バス：線路網が充実しているか

Q7B の高槻市営バスが時間通りに運行しているかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が5割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は70代が75.8%と最も高く、反対に30代が56.8%と最も低い（図17）。



■ そう思う ■ ややそう思う □ どちらともいえない ▨ あまりそう思わない ▩ そう思わない ■ 無回答

図17 Q7B 市営バス：時間通りに運行しているか

Q7C の高槻市営バスの接客態度・運転技術は評価できるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が4割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は70代が70.3%と最も高く、反対に30代が44.7%と最も低い（図18）。

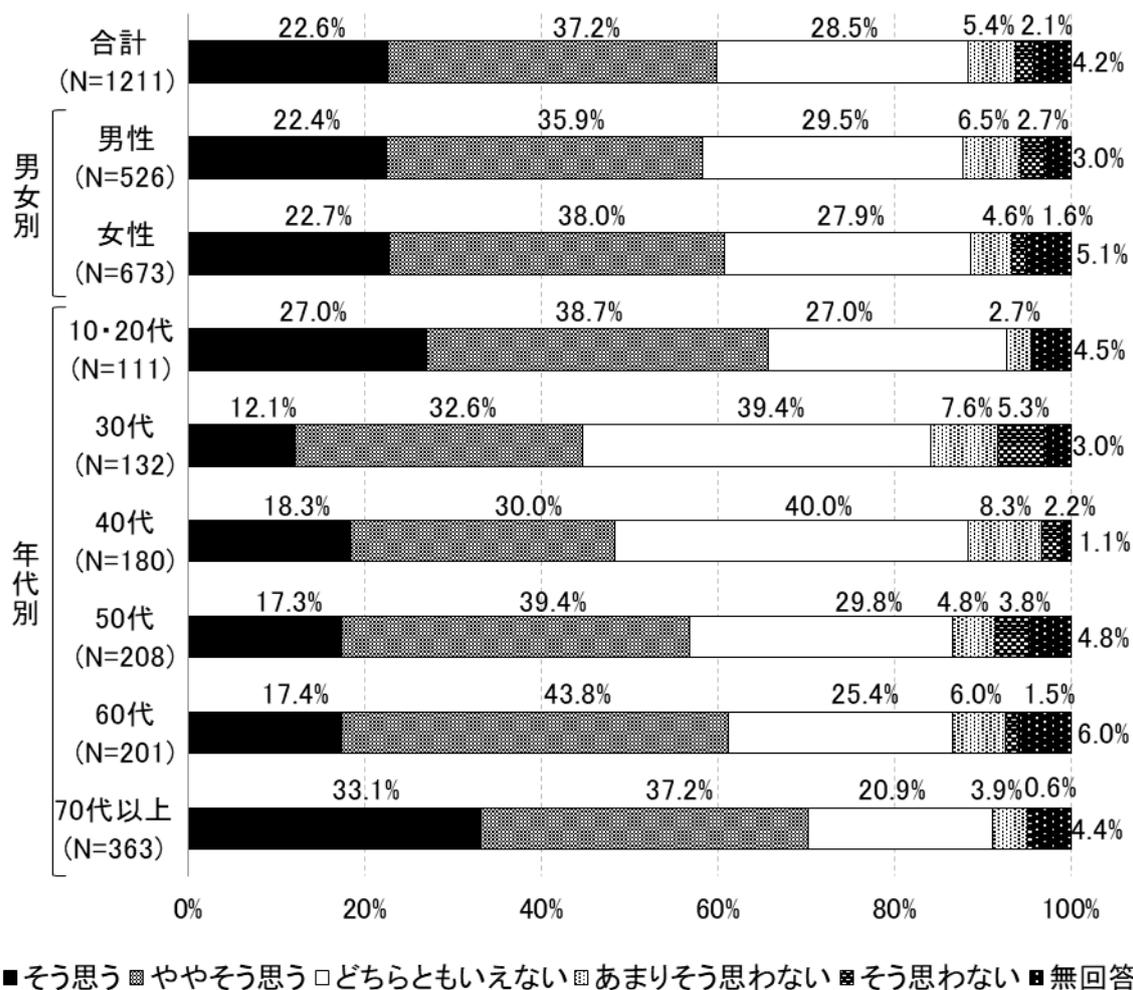
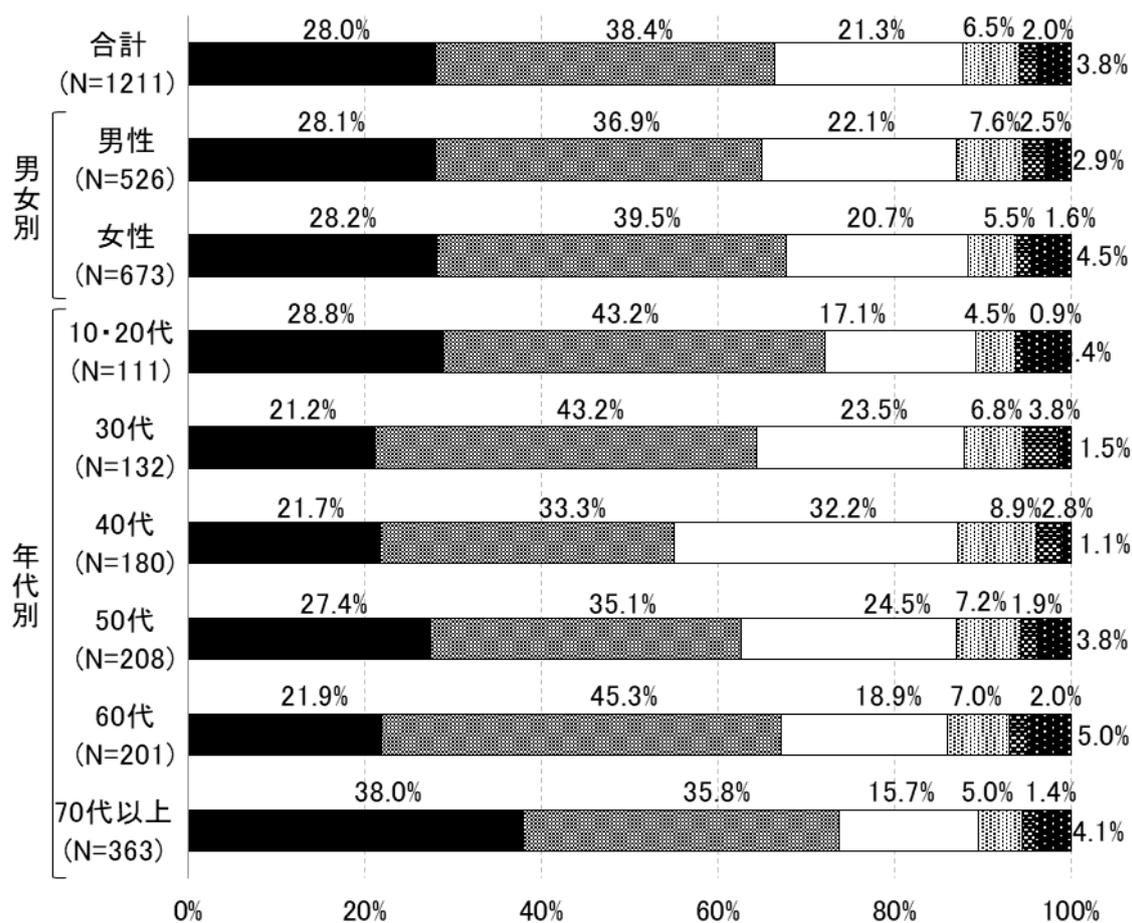


図18 Q7C 市営バス：接客態度・運転技術は評価できるか

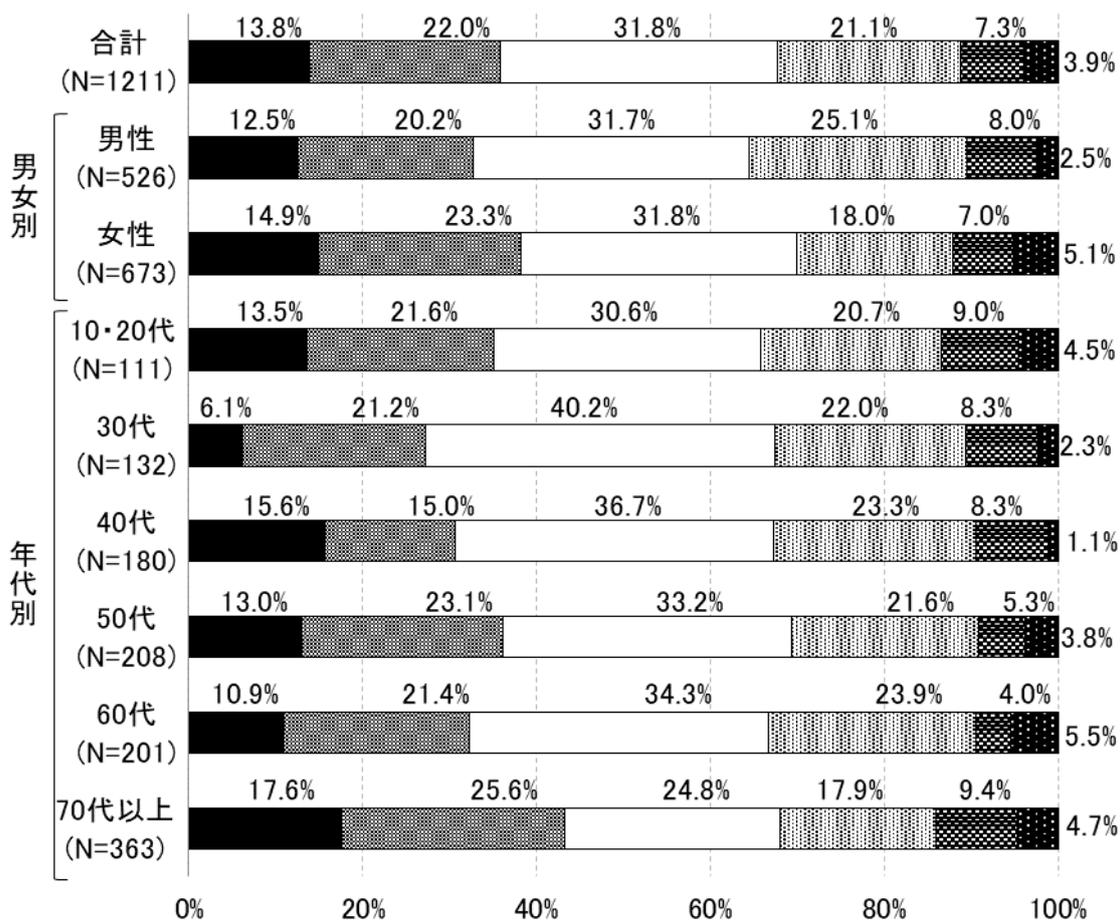
Q7D の高槻市営バスのバス停や案内表示は整備されているかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が5割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は70代が73.8%と最も高く、反対に40代が55.0%と最も低い（図19）。



■ そう思う ■ ややそう思う □ どちらともいえない ▨ あまりそう思わない ▩ そう思わない ■ 無回答

図19 Q7D 市営バス：バス停や案内表示は整備されているか

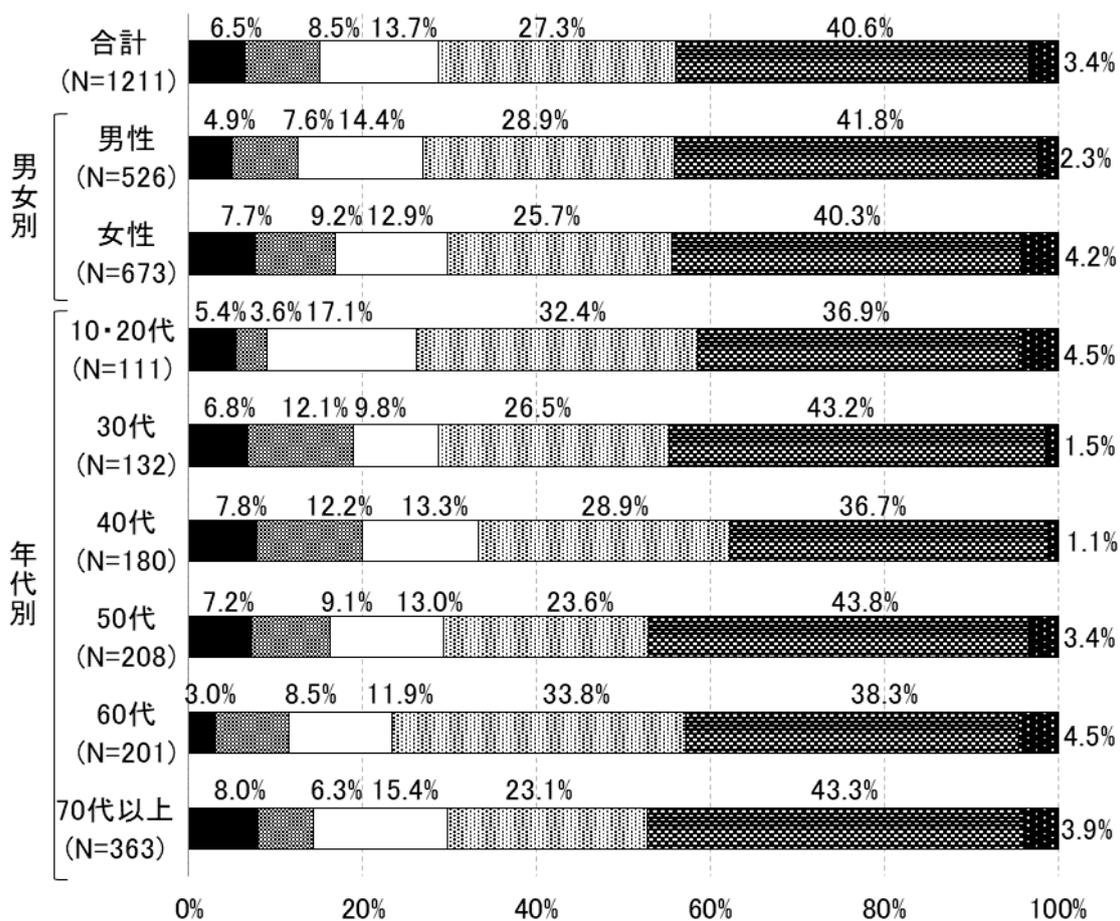
Q7E の高槻市営バスの運行本数は少ないかに関して、男女別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合が男性で 32.7%、女性で 38.2%であり、女性の方が 5 ポイントほど高い。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は 70 代が 43.2%と最も高く、反対に 30 代が 27.3%と最も低い（図 20）。



■ そう思う ■ ややそう思う □ どちらともいえない ▨ あまりそう思わない ▩ そう思わない ■ 無回答

図 20 Q7E 市営バス：運行本数は少ないか

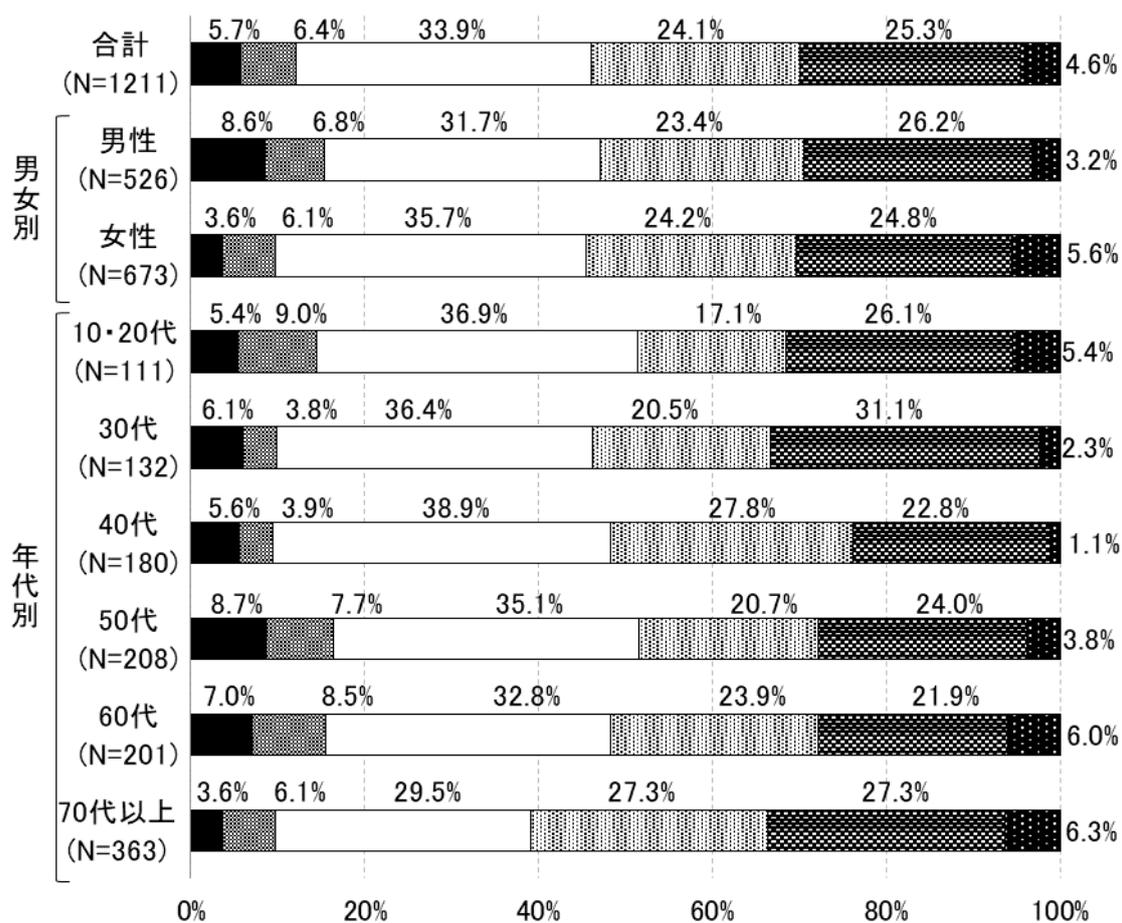
Q7F の近くに高槻市営バスの路線やバス停がないかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合は60代が72.1%と最も高く、反対に40代が65.6%と最も低い(図21)。



■ そう思う ■ ややそう思う □ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

図21 Q7F 市営バス：近くに路線やバス停がないか

Q7G の高槻市営バスの始発は遅いかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人が4割以上である。年代別で見ると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合は70代以上が54.6%と最も高く、反対に10・20代が43.2%と最も低い(図22)。



■ そう思う ■ ややそう思う □ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

図22 Q7G 市営バス：始発は遅いか

Q7H の高槻市営バスは鉄道との接続が悪いかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人が4割以上である。年代別で見ると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合は10・20代が61.2%と最も高く、反対に50代が47.6%と最も低い(図23)。

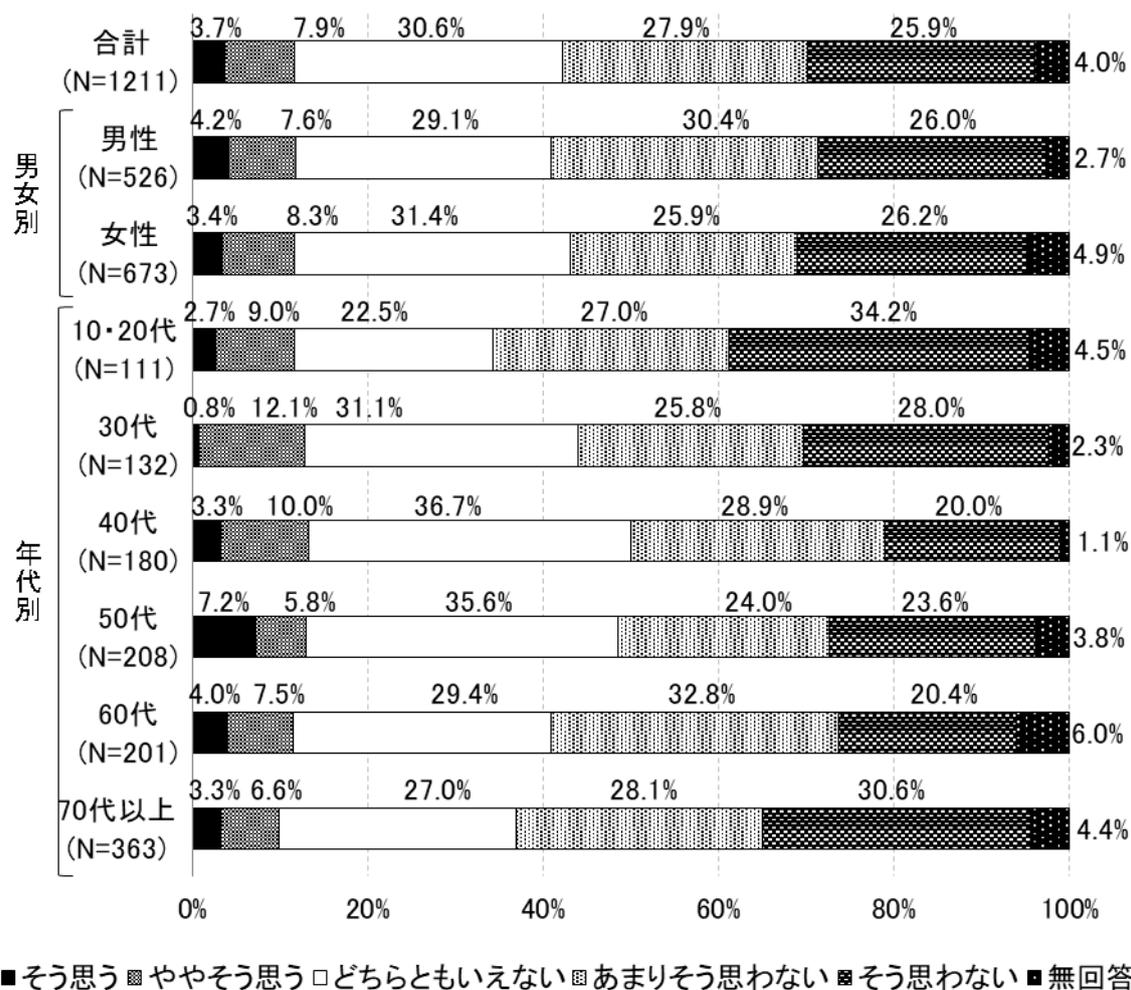
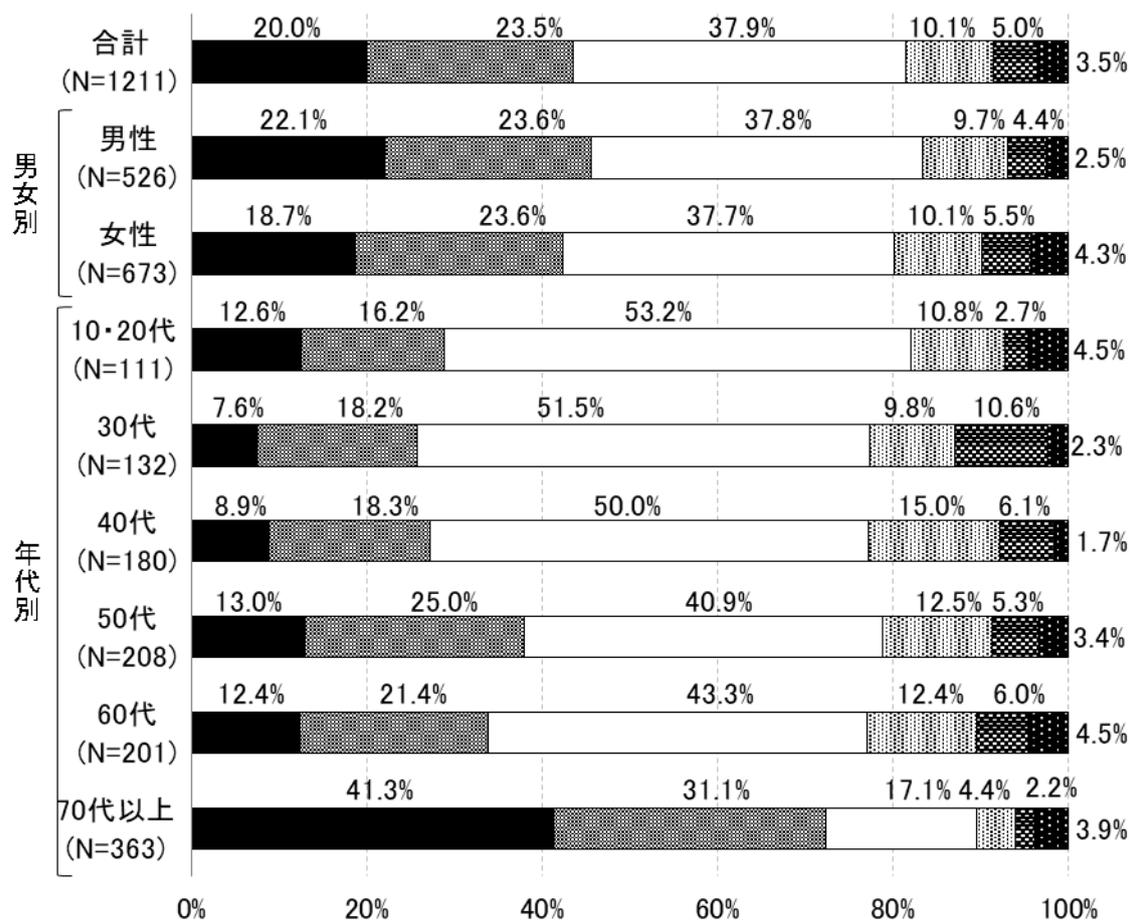


図23 Q7H 市営バス：鉄道との接続は悪いか

Q7I の高槻市営バスの割引制度や福祉制度は充実しているかに関して、合計で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合が4割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は70代以上が72.4%と最も高く、反対に30代が25.8%と最も低い（図24）。



■ そう思う ■ ややそう思う □ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

図24 Q7I 市営バス：割引制度や福祉制度は充実しているか

Q7J の高槻市営バスの HP や Twitter などによる情報発信は評価できるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「どちらともいえない」と回答した人が4割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は70代以上が32.2%と最も高く、反対に30代が15.9%と最も低い(図25)。

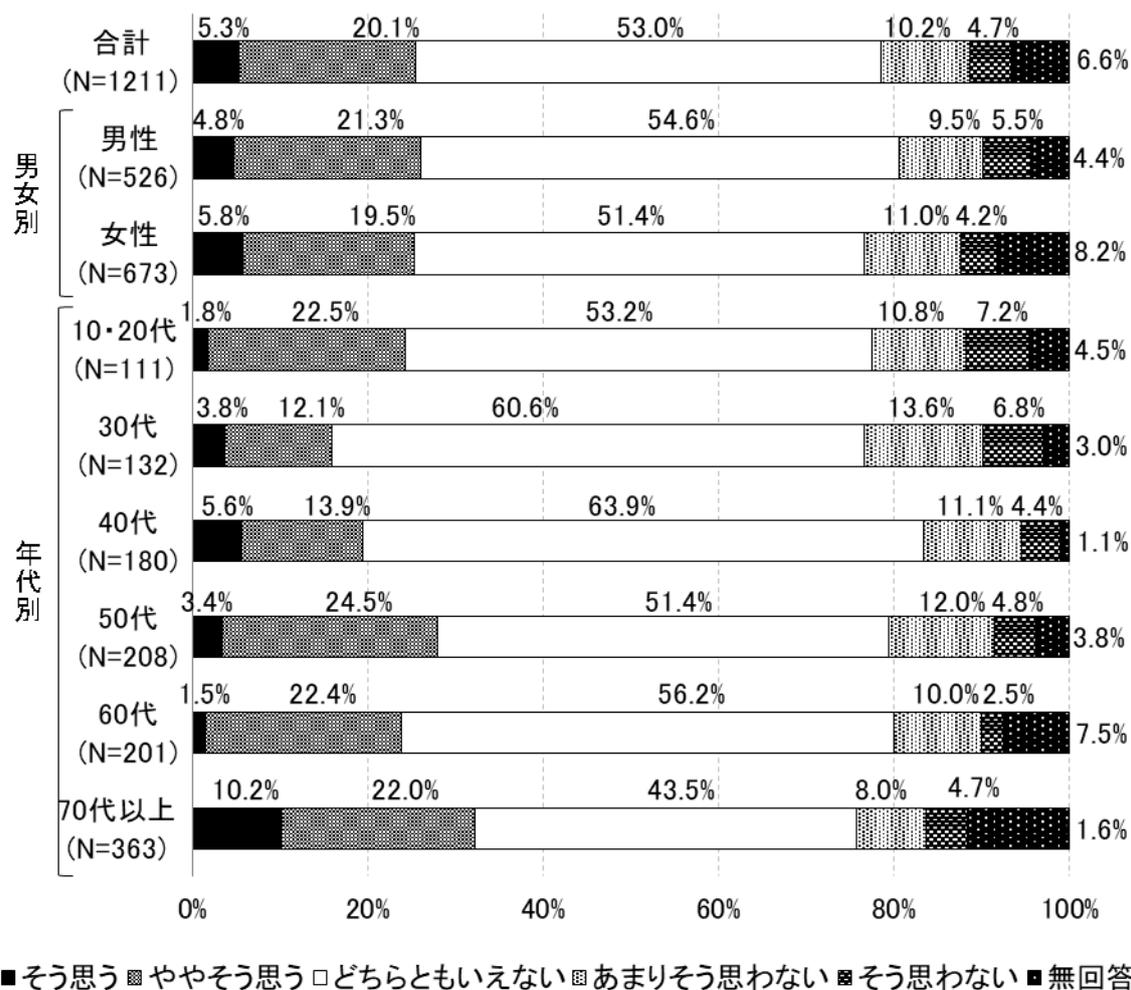
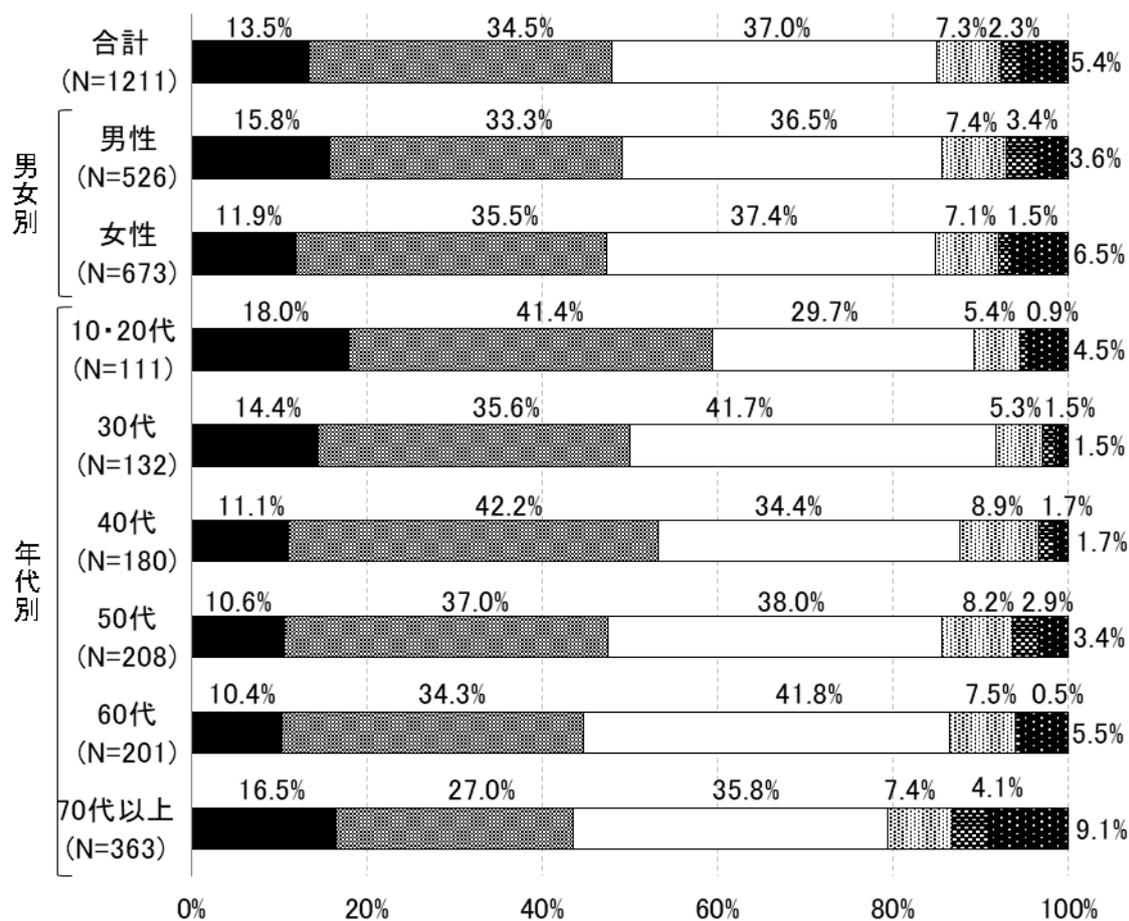


図25 Q7J 市営バス：HP や Twitter などによる情報発信は評価できるか

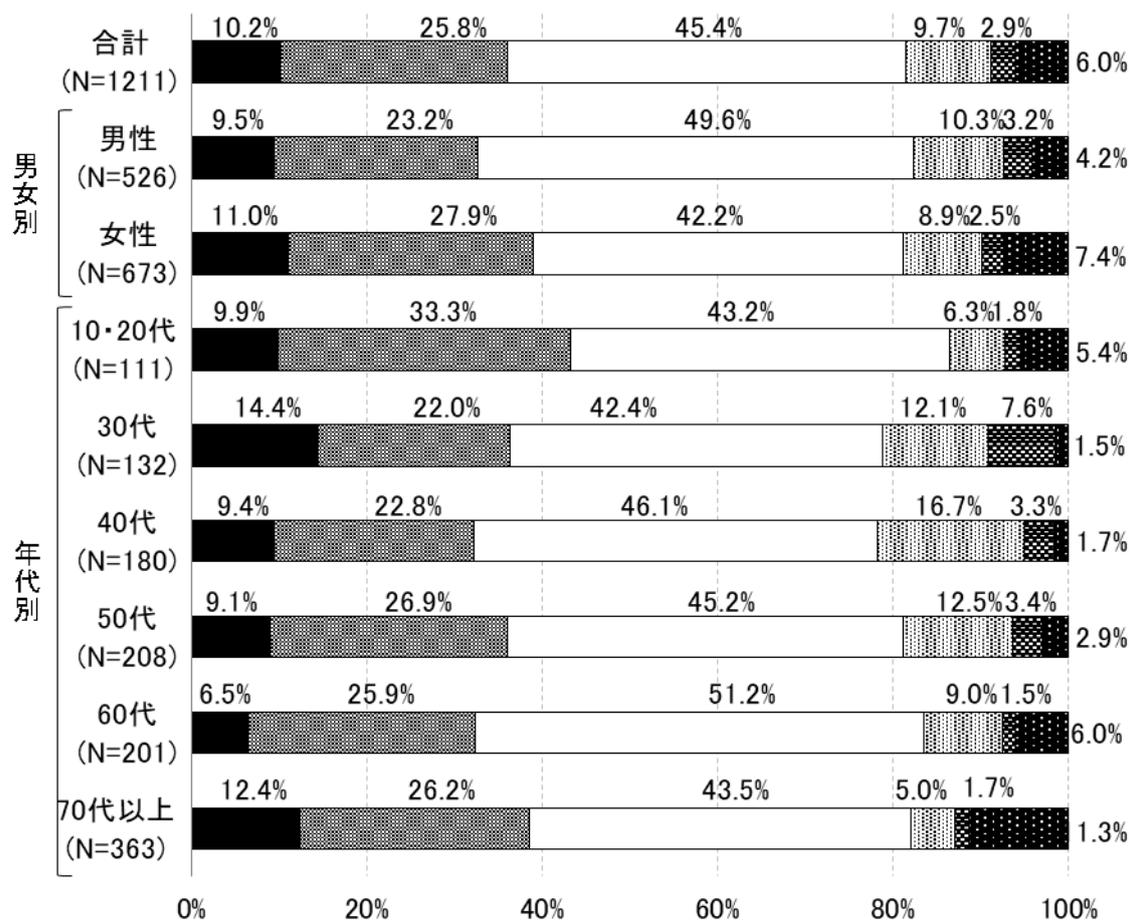
Q7K の高槻市営バスは街づくりに役立っているかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が4割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代が59.4%と最も高く、反対に70代以上が43.5%と最も低い（図26）。



■ そう思う ■ ややそう思う □ どちらともいえない ▨ あまりそう思わない ▩ そう思わない ■ 無回答

図 26 Q7K 市営バス：街づくりに役立っているか

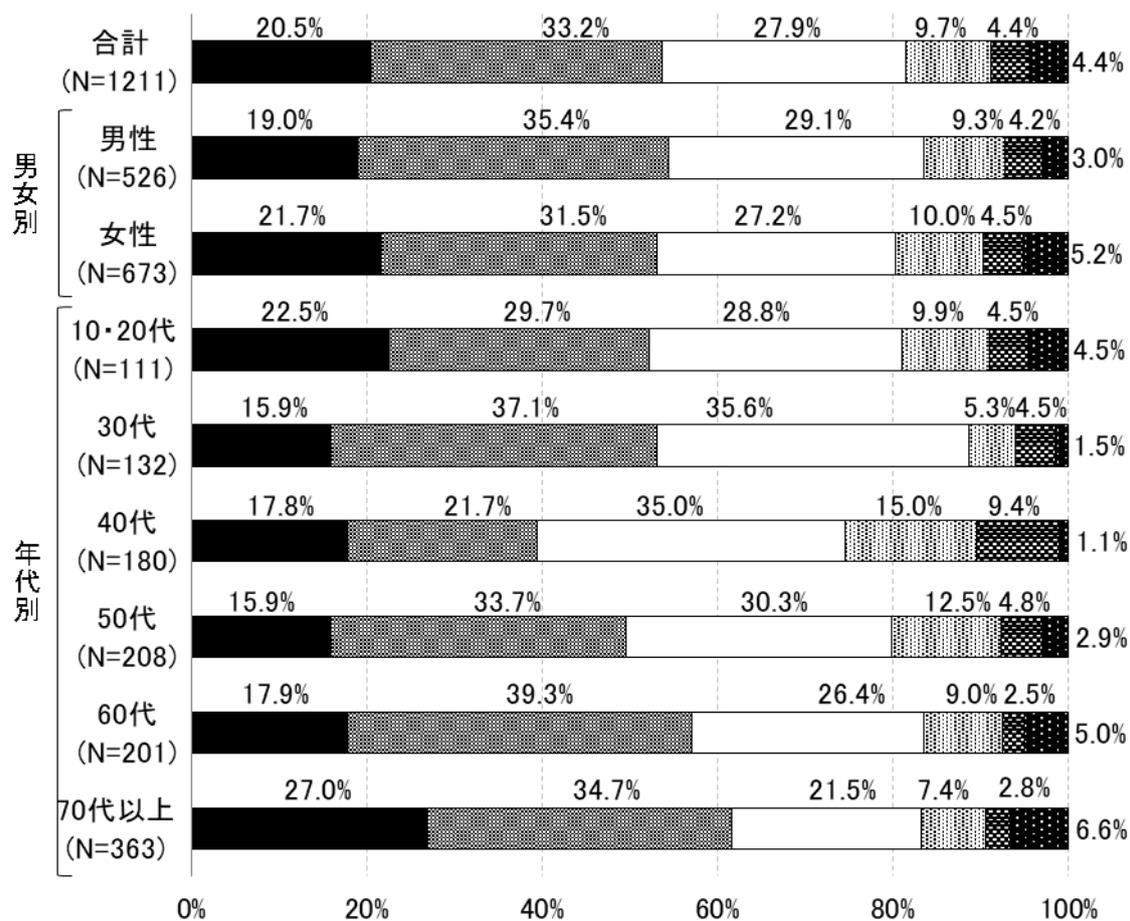
Q7L の高槻市営バスは子育て世代に優しいかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が3割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代が43.2%と最も高く、反対に40代が32.2%と最も低い（図27）。



■ そう思う ■ ややそう思う □ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

図27 Q7L 市営バス：子育て世代に優しいか

Q7M の高槻市営バスは通勤通学や買い物に便利かに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が3割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は70代以上が61.7%と最も高く、反対に40代が39.5%と最も低い（図 28）。



■ そう思う ■ ややそう思う □ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

図 28 Q7M 市営バス：通勤通学や買い物に便利か

Q7N の高槻市営バスはエコで環境にやさしいかに関して、男女別・年代別のすべての層で「どちらともいえない」と回答した人が4割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は70代以上が36.9%と最も高く、反対に30代が22.7%と最も低い(図29)。

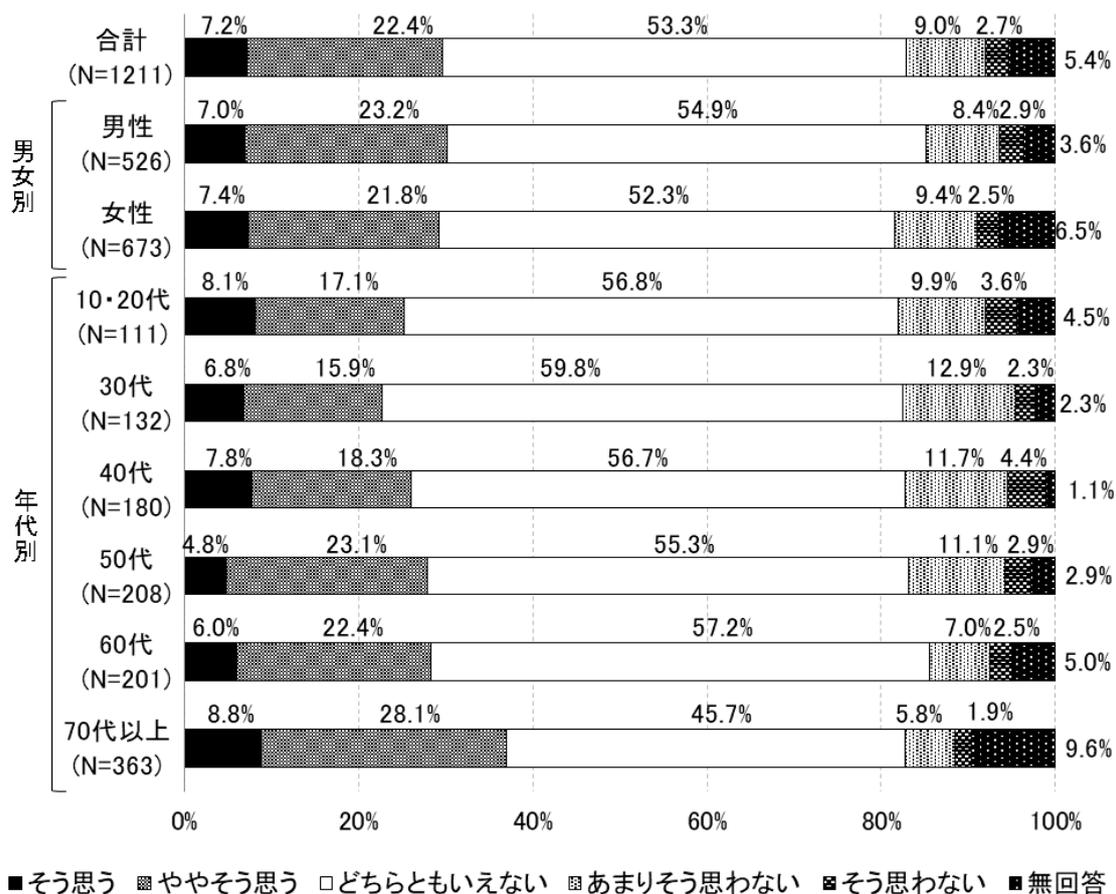


図 29 Q7N 市営バス：エコで環境にやさしいか

Q8の市営バス満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が80.2%と最も高い。反対に、60代が63.1%と最も低い(図30)。

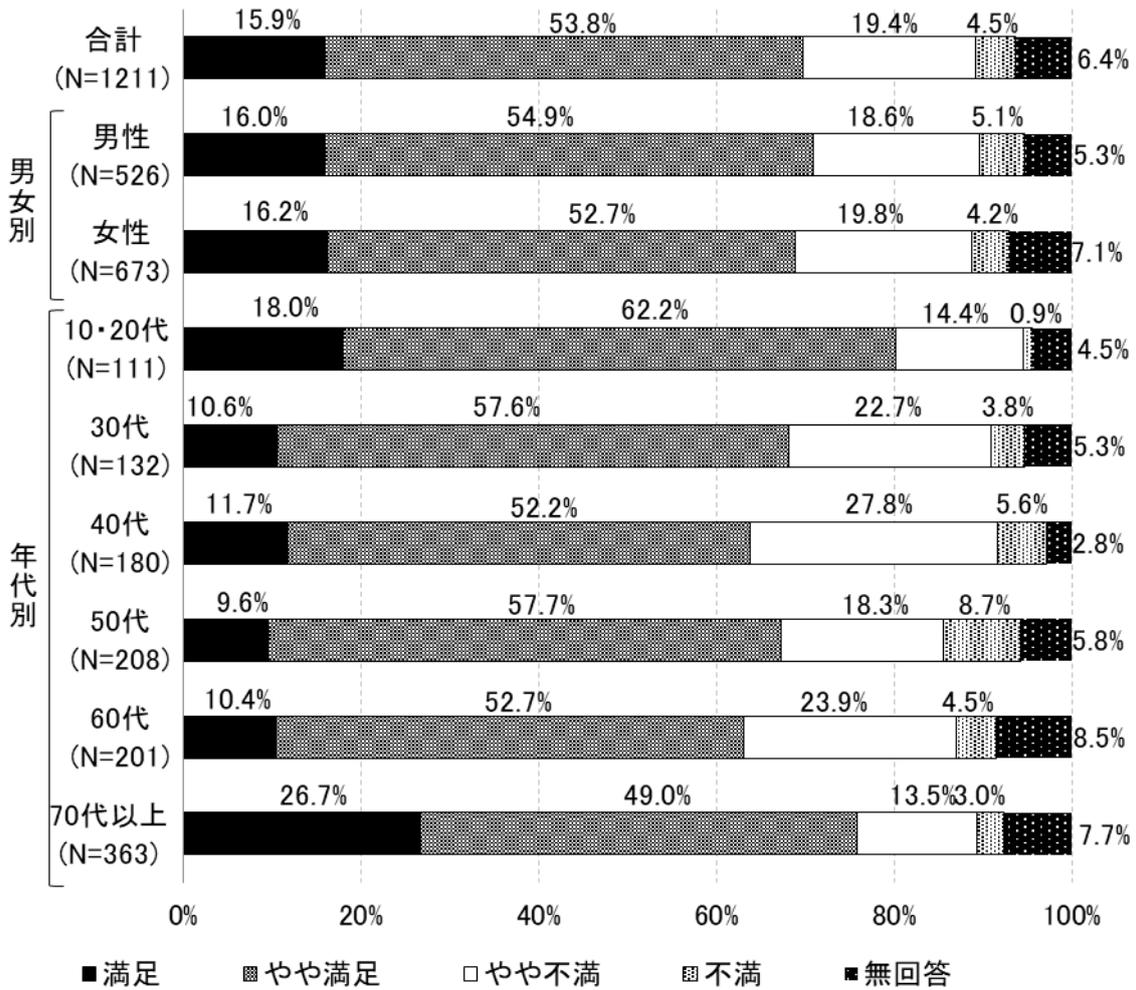


図30 Q8 市営バス満足度

Q9の市営バス利用頻度に関して、年代別で見ると、10代から60代までは約5割が「利用しない」と回答しているが、70代以上では、「利用しない」と回答した人は24.0%にとどまっている（図31）。

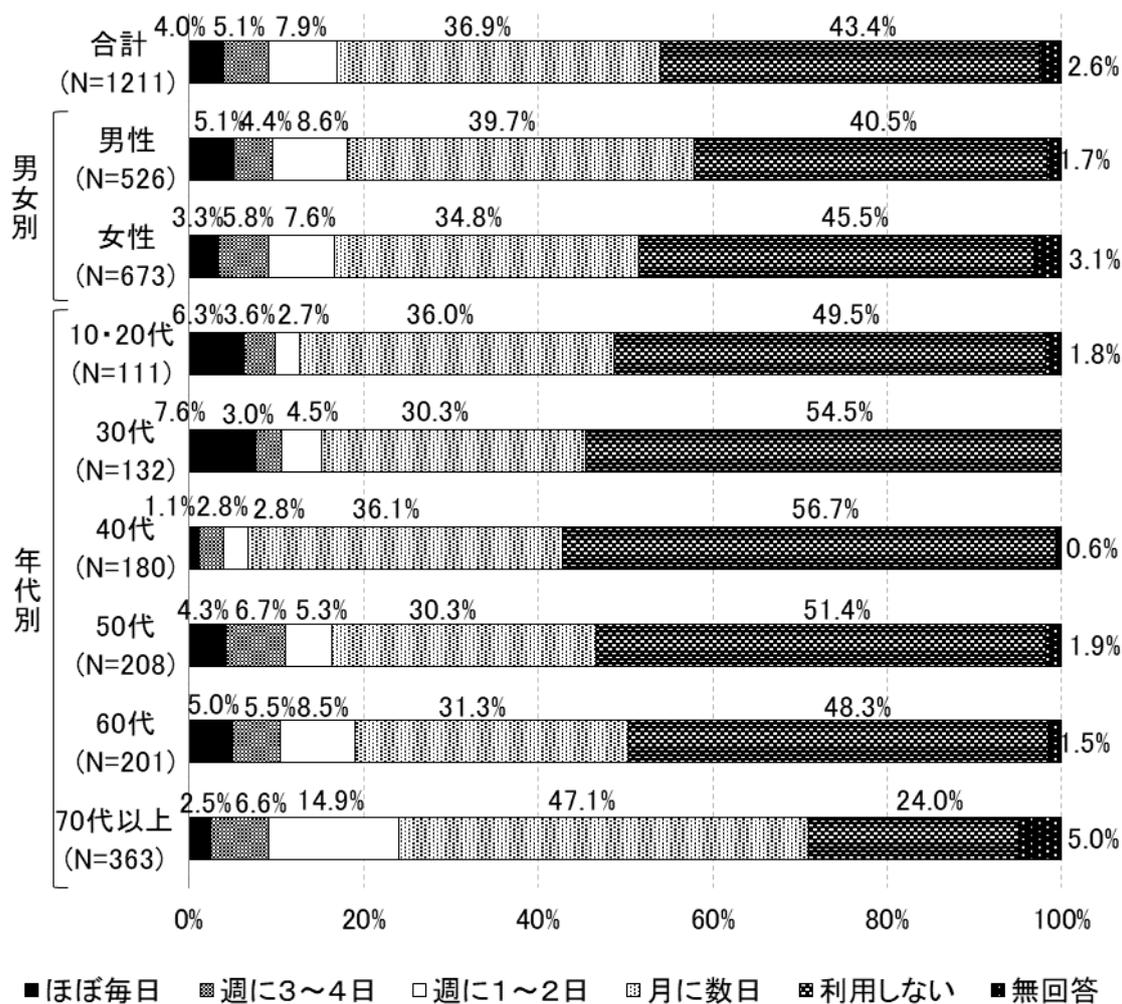


図 31 Q9 市営バス利用頻度

Q10 の市営バス HP に望む情報に関して、「特にない」が 45.7%で最も高く、「観光やイベント、お楽しみ情報の拡充」が 34.4%と続く（図 32）。

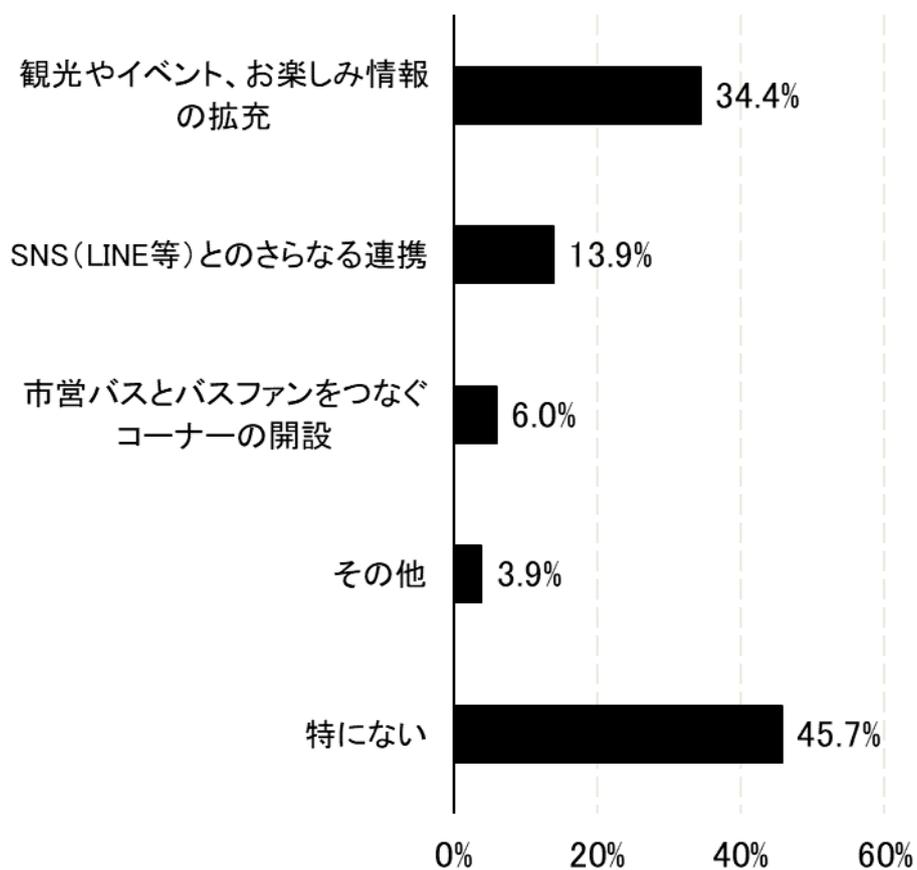


図 32 Q10 市営バス HP に望む情報（複数回答・全体 N=1211）

Q10 の市営バス HP に望む情報に関して、男女別にみても、ほとんど差はない (図 33)。

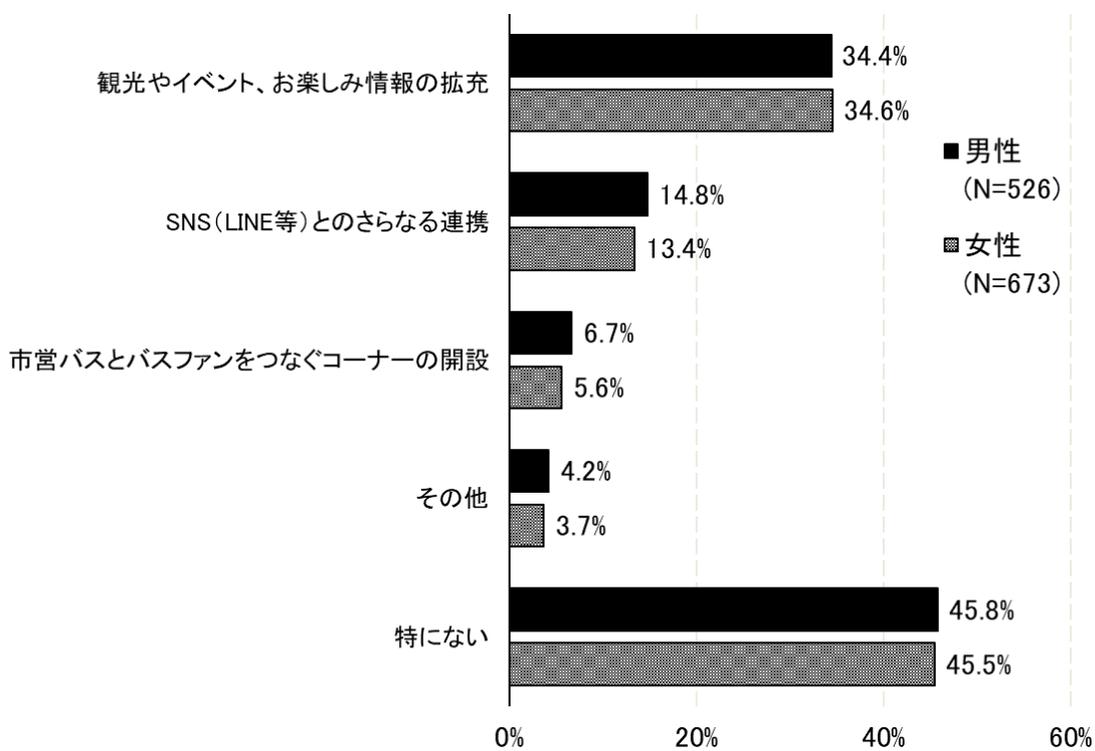


図 33 Q10 市営バス HP に望む情報 (複数回答・男女別)

Q10の市営バスHPに望む情報に関して、年代別で見ると、「SNS（LINE等）とのさらなる連携」は年代で差があり、30代が25.8%と最も高く、反対に70代以上は5.8%と最も低い（図34）。

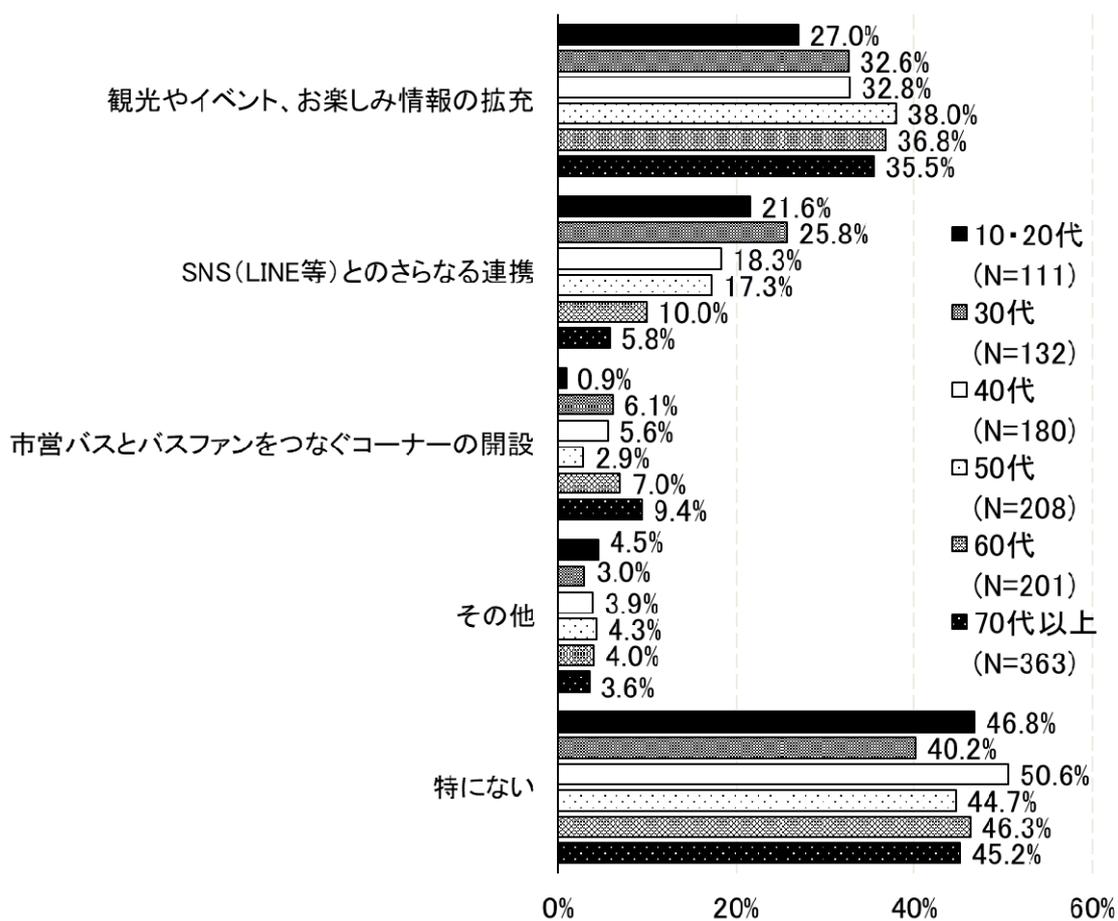


図 34 Q10 市営バスHPに望む情報（複数回答・年代別）

Q11 の環境に関する問題への関心度に関して、「異常気象」が 52.4%で最も高く、「地球温暖化」が 51.3%と続く（図 35）。

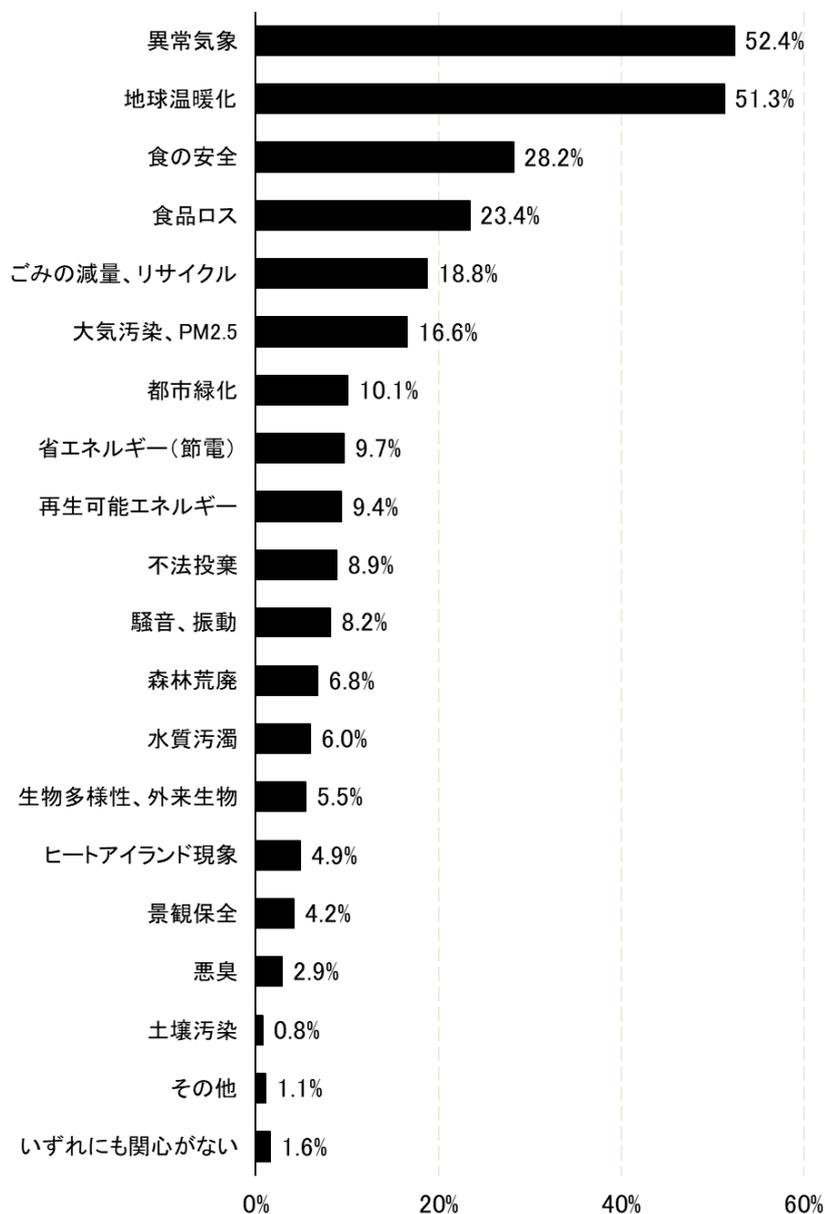


図 35 Q11 環境に関する問題への関心度（複数回答・全体 N=1211）

Q11 の環境に関する問題への関心度に関して、男女別で見ると、「食の安全」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 16.7 ポイント高い（図 36）。

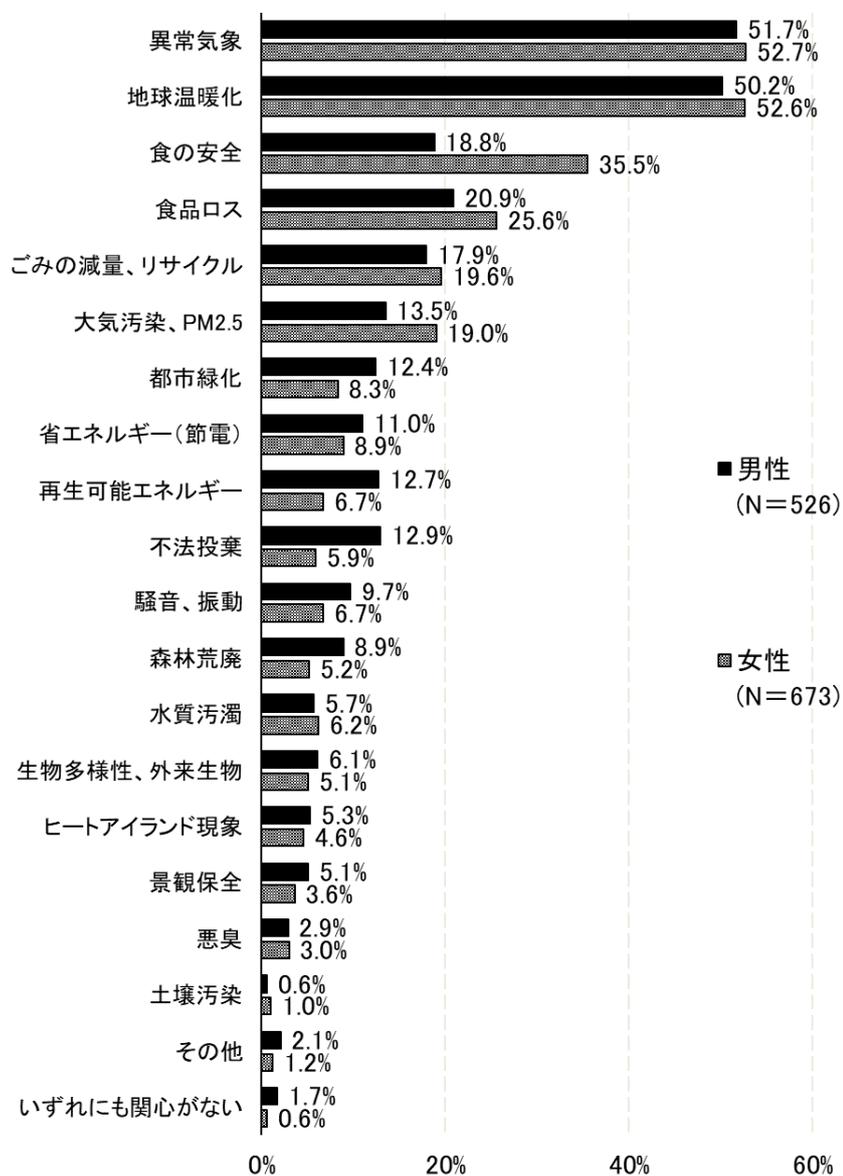


図 36 Q11 環境に関する問題への関心度（複数回答・男女別）

Q11 の環境に関する問題への関心度に関して、年代別で見ると、「食品ロス」は年代で差があり、10・20代が34.2%と最も高く、反対に60代は19.4%と最も低い（図37）。

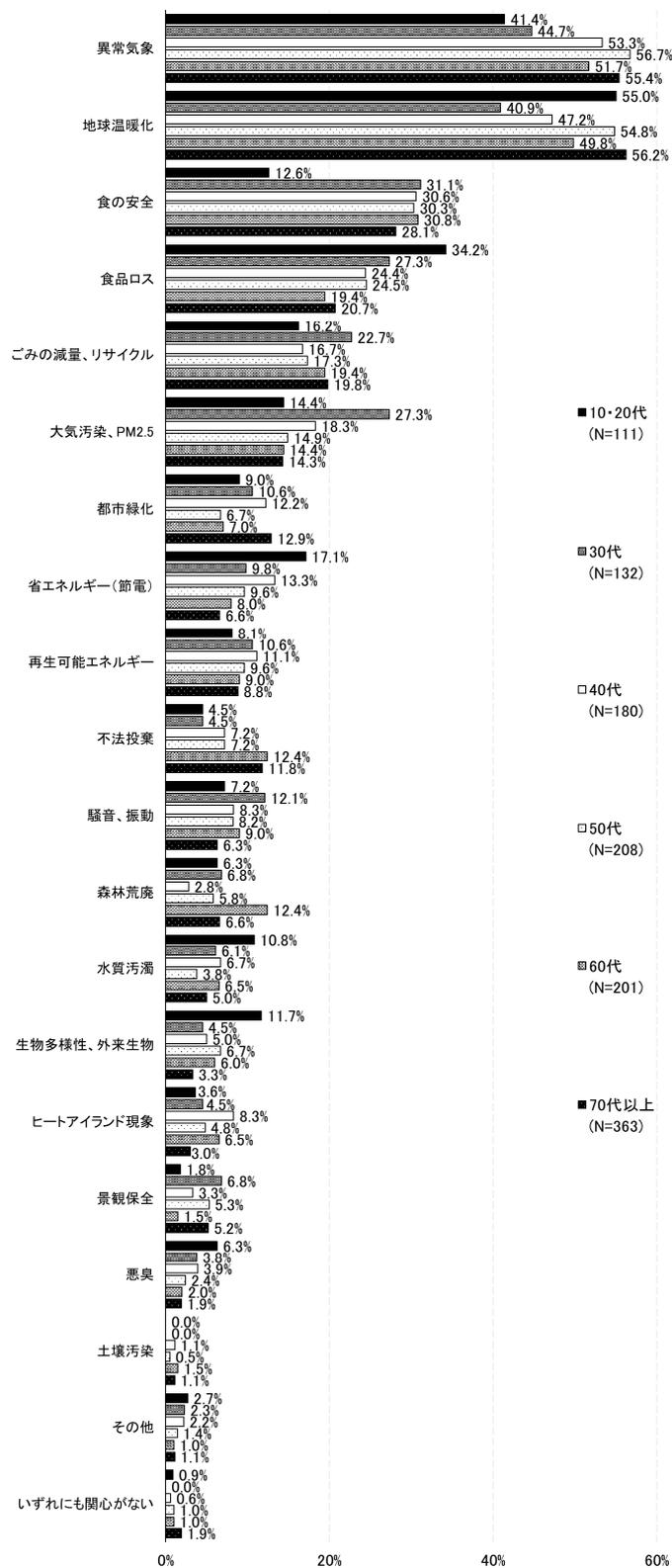


図37 Q11 環境に関する問題への関心度（複数回答・年代別）

Q12Aの補助制度の対象機器の認知度に関して、「太陽光発電システム」が44.3%で最も高く、「一つもない」が42.7%と続く（図38）。

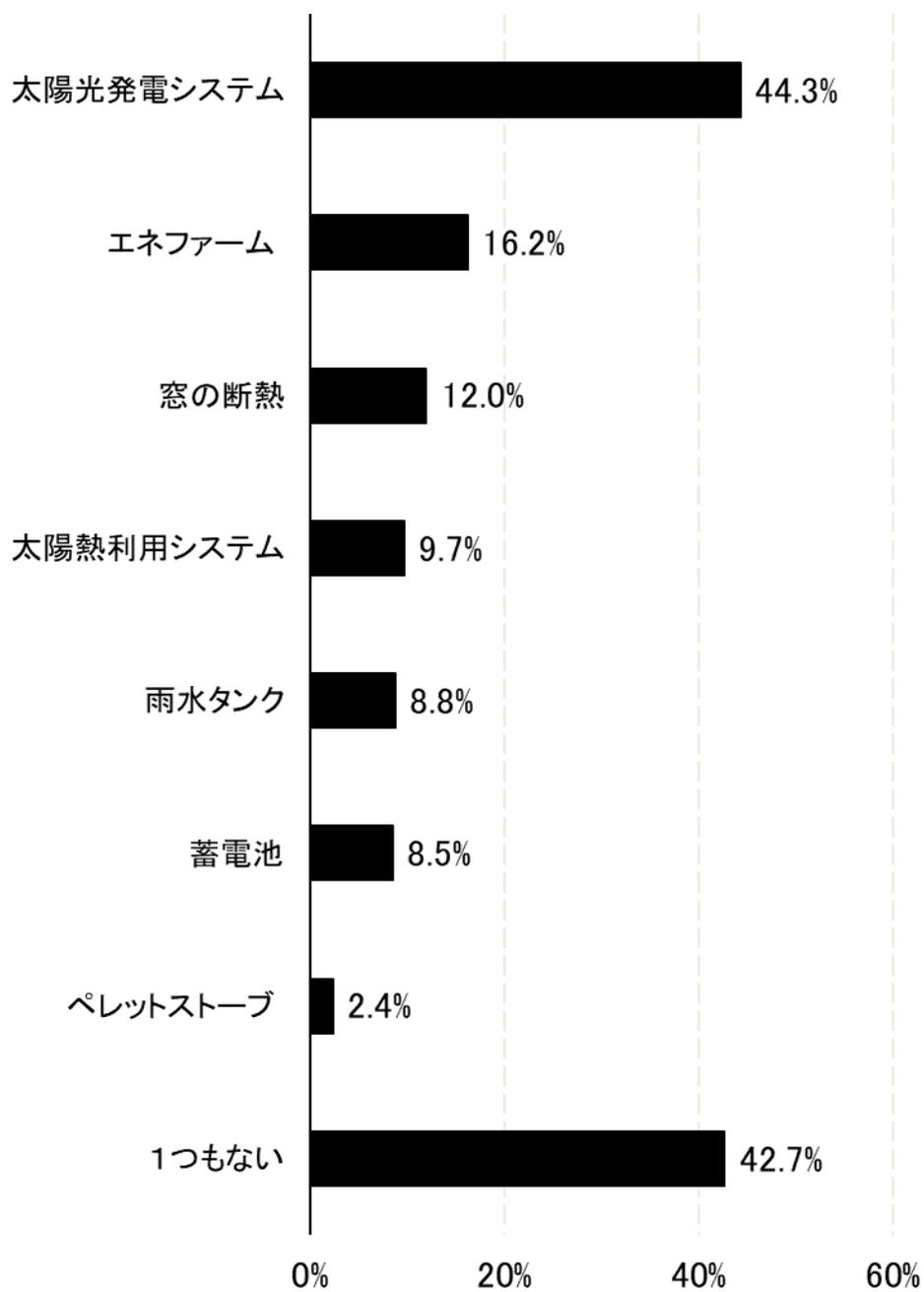


図 38 Q12A 補助制度の対象機器の認知度（複数回答・全体 N=1211）

Q12A の補助制度の対象機器の認知度に関して、男女別で見ると、差はあまりみられない（図 39）。

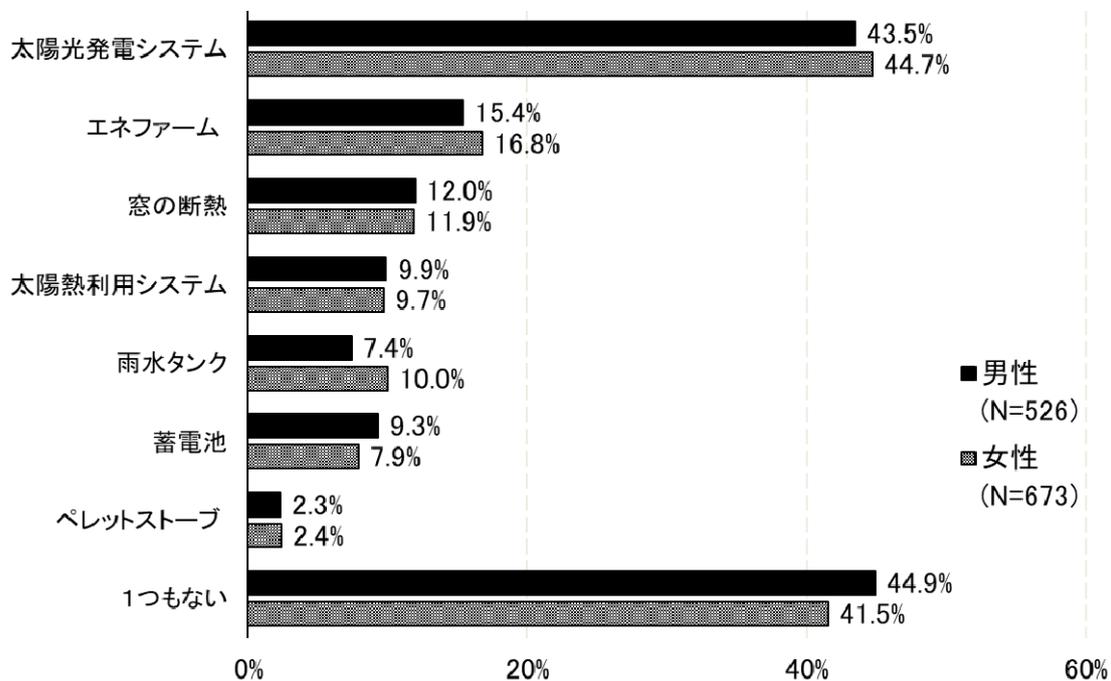


図 39 Q12A 補助制度の対象機器の認知度（複数回答・男女別）

Q12A の補助制度の対象機器の認知度に関して、年代別で見ると、「太陽光発電システム」は年代で差があり、50代が48.1%と最も高く、反対に10・20代は38.7%と最も低い（図40）。

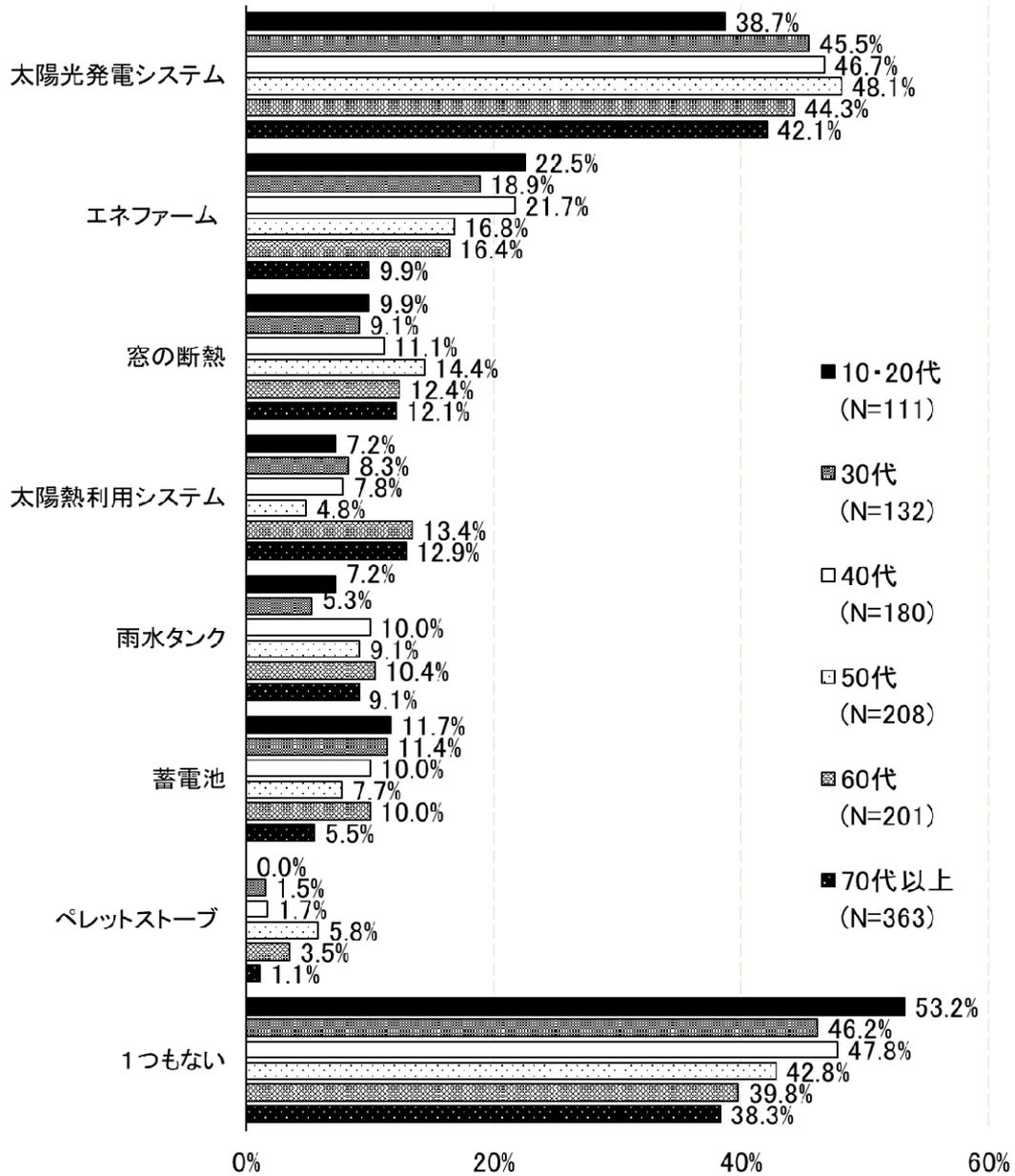


図 40 Q12A 補助制度の対象機器の認知度（複数回答・年代別）

Q12Bの補助制度の対象機器の導入希望状況に関して、「1つもない」が38.0%で最も高く、「窓の断熱」が29.8%と続く（図41）。

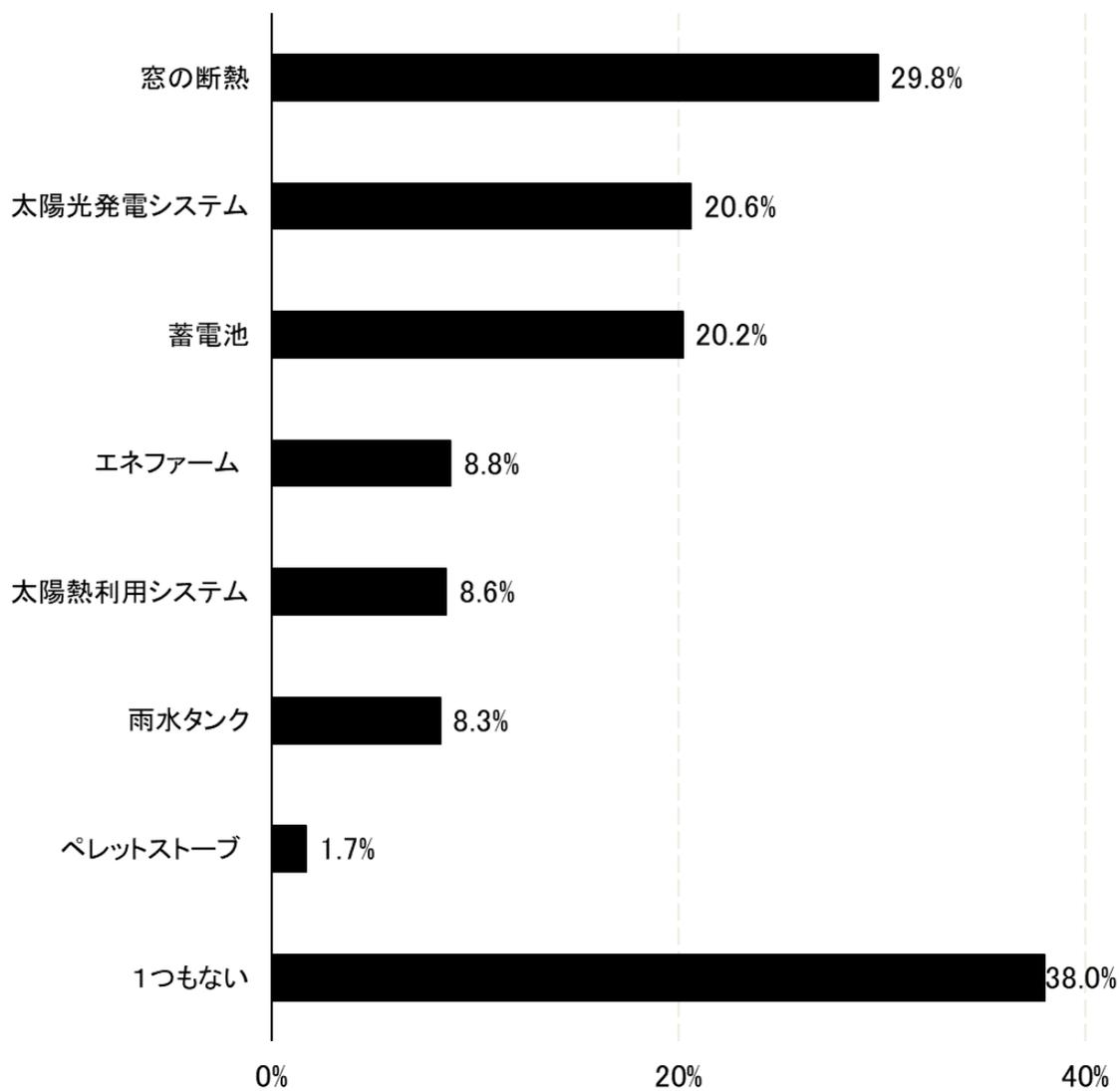


図41 Q12B 補助制度の対象機器の導入希望状況（複数回答・全体 N=1211）

Q12B の補助制度の対象機器の導入希望状況に関して、男女別で見ると、「窓の断熱」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 7.9 ポイント高い (図 42)。

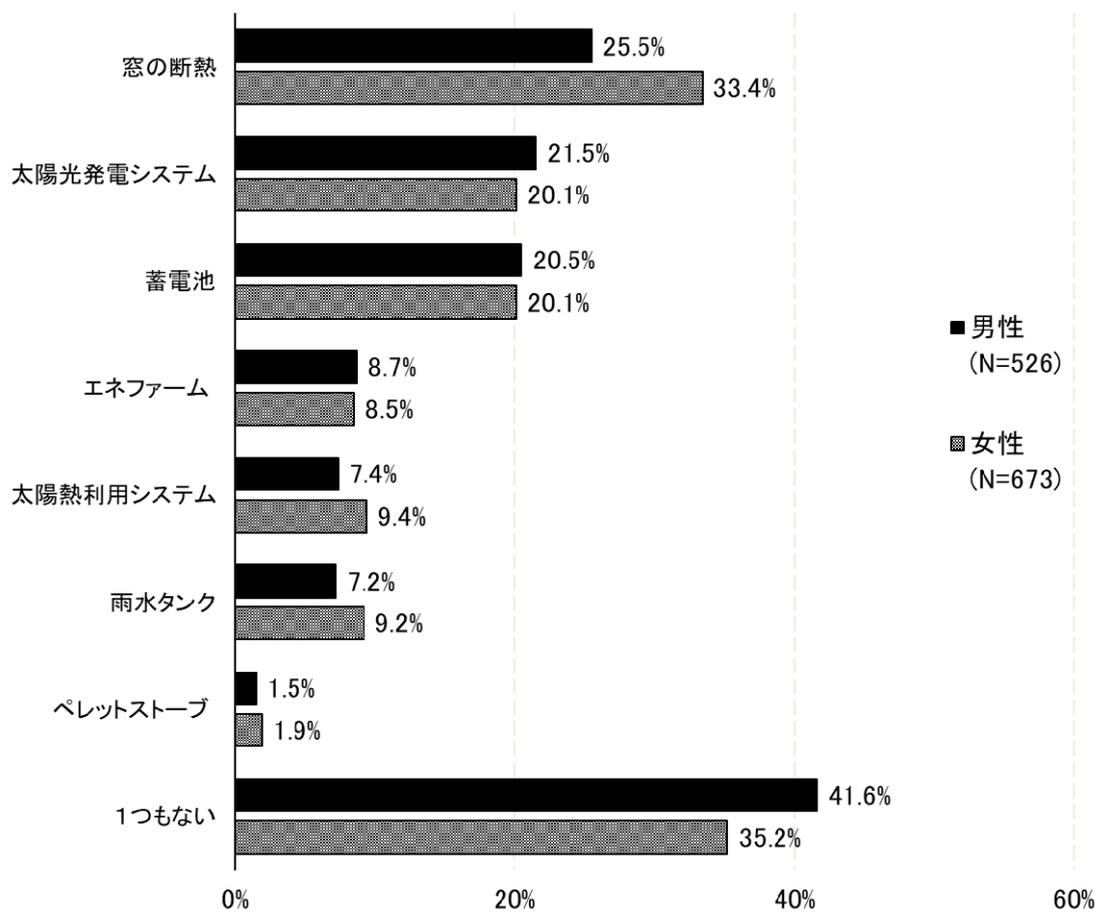


図 42 Q12B 補助制度の対象機器の導入希望状況 (複数回答・男女別)

Q12B の補助制度の対象機器の導入希望状況に関して、年代別で見ると、「太陽光発電システム」は年代で差があり、10・20代が29.7%と最も高く、反対に50代は15.4%と最も低い（図 43）。

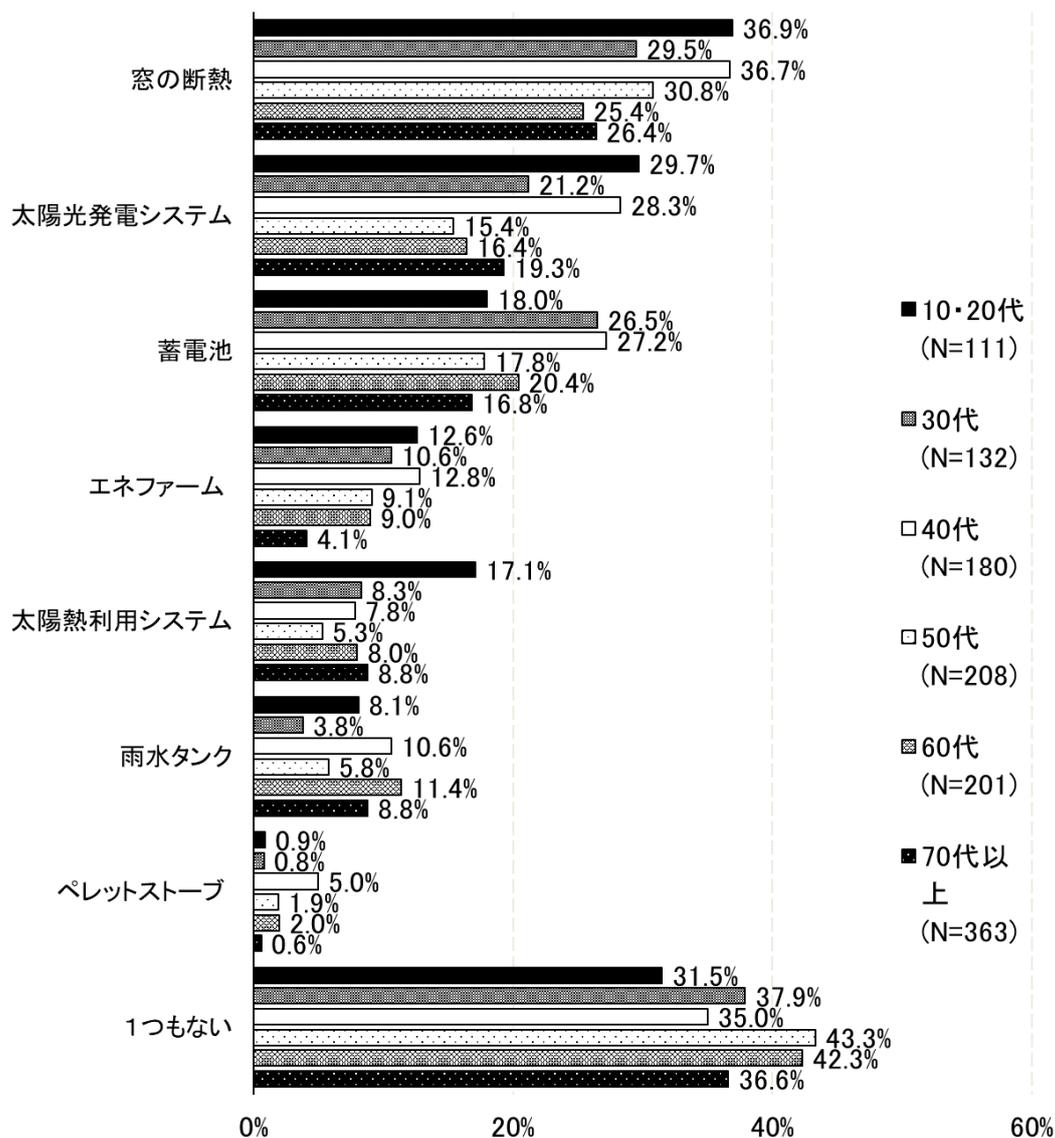


図 43 Q12B 補助制度の対象機器の導入希望状況（複数回答・年代別）

Q13 の園芸活動の頻度に関して、年代で差が見られた。「日常的に行っている」または「まれに行っている」と回答した人は、70代以上で 70.3%と最も高く、反対に 10・20代は 23.4%と最も低い（図 44）。

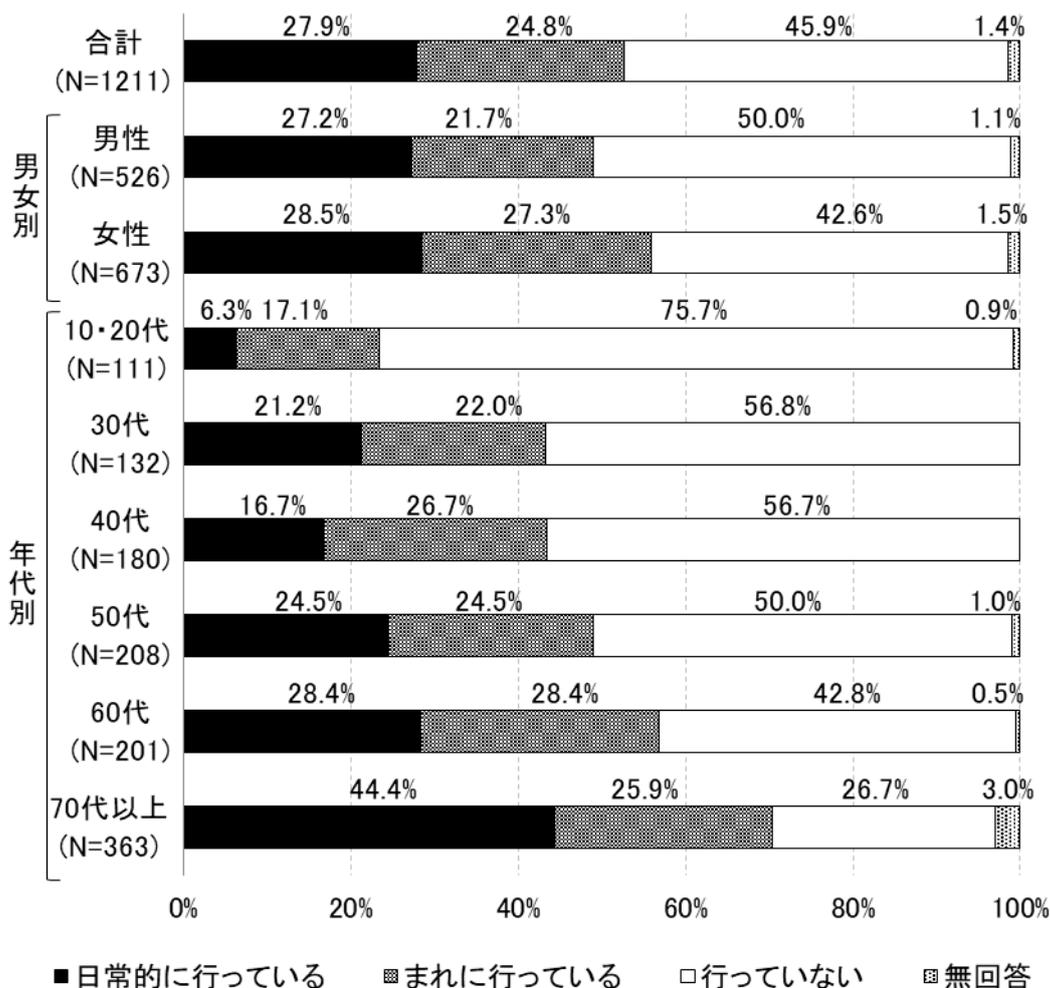


図 44 Q13 園芸活動の頻度

Q14 の緑化または自然保護に関するイベントへの参加に関して、男女別・年代別のすべての層で「いいえ」と回答した人が9割以上である。年代別で見ると、「はい」と回答した人の割合は70代が5.2%と最も高く、反対に10・20代が0.9%と最も低い(図45)。

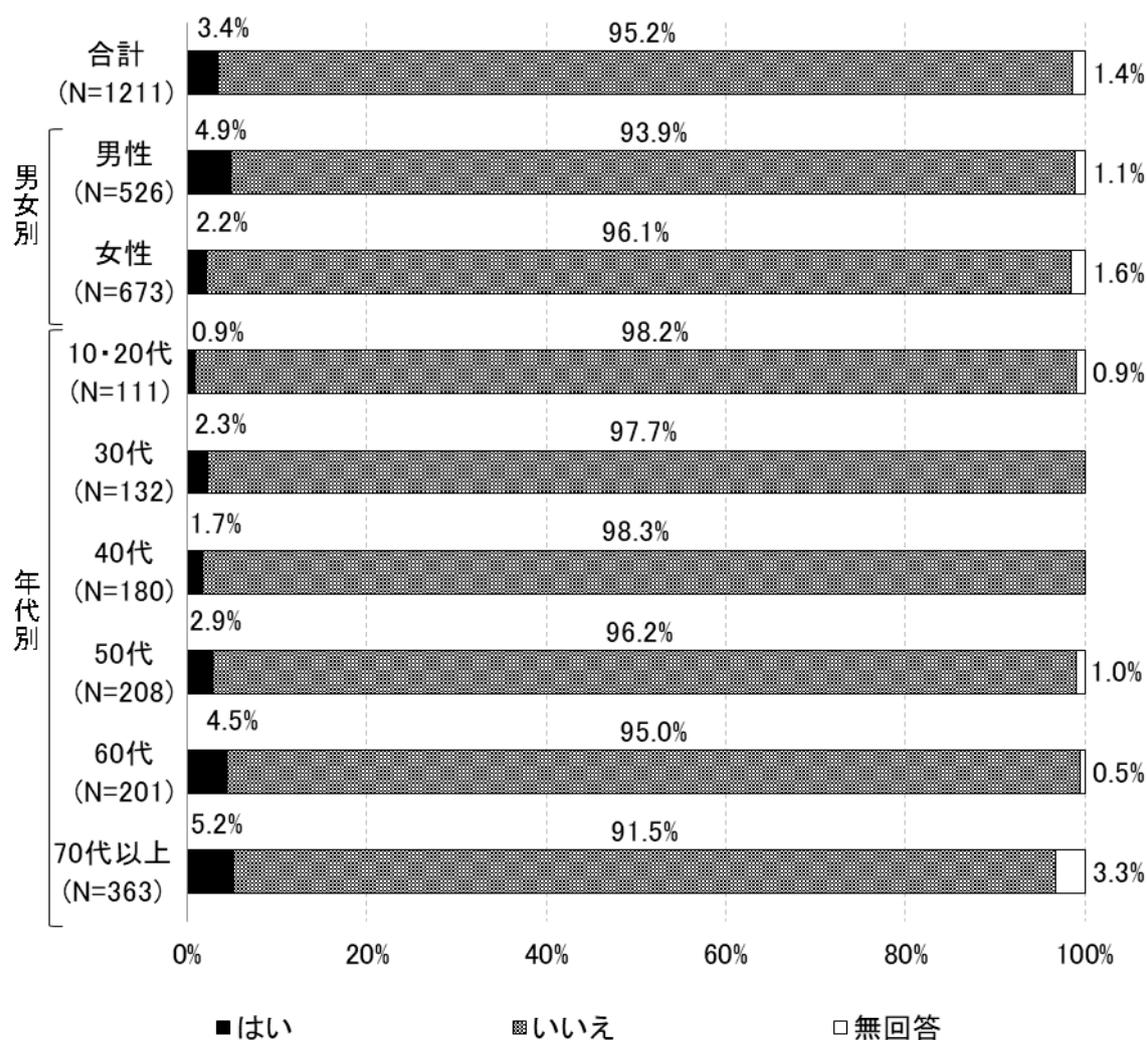


図 45 Q14 緑化または自然保護に関するイベントへの参加

Q15A の高槻市には身近な自然環境とのふれあいがあるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は50代が80.3%と最も高く、反対に70代以上が69.1%と最も低い（図46）。

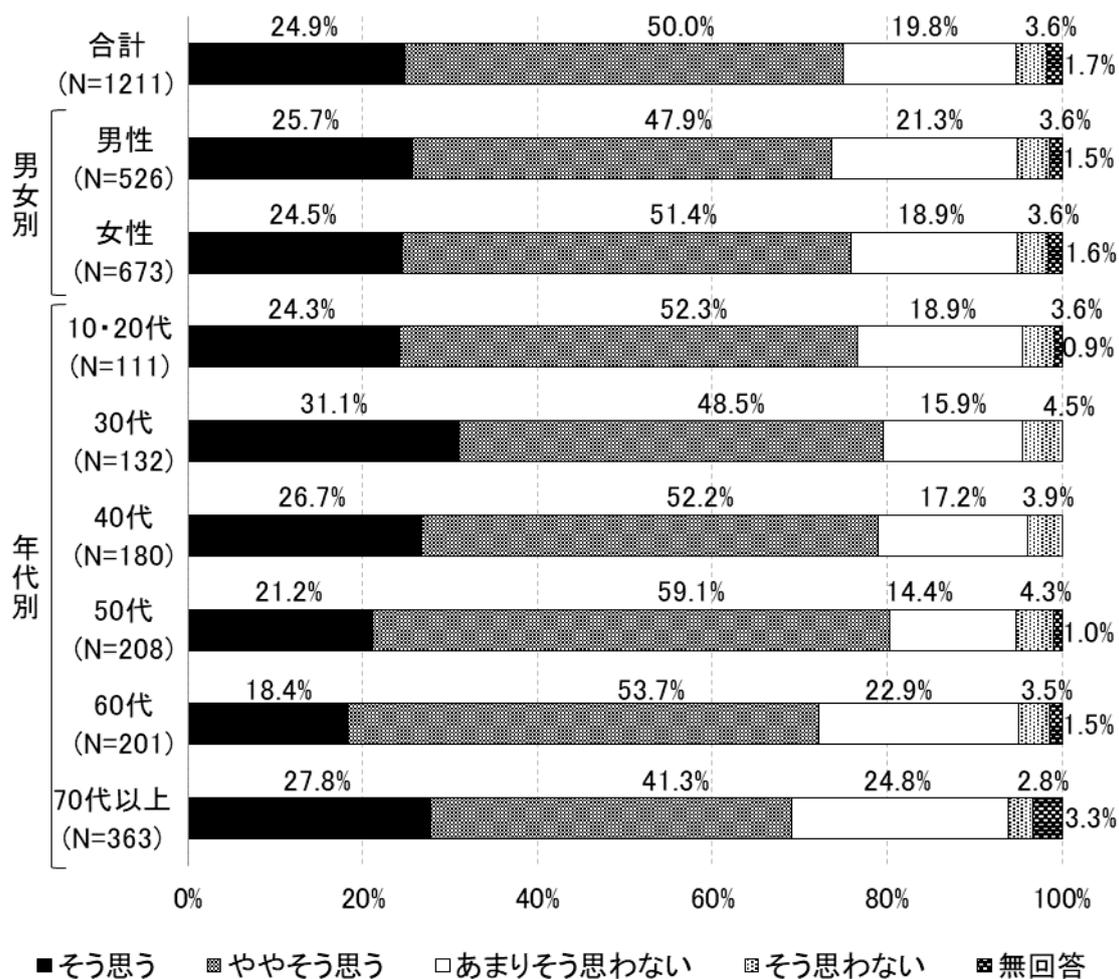


図 46 Q15A 高槻市の環境：身近な自然環境とのふれあいがあるか

Q15Bの高槻市は不法投棄やポイ捨ての少ない美しいまちかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が5割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は70代以上が58.9%と最も高く、反対に40代が52.8%と最も低い(図47)。

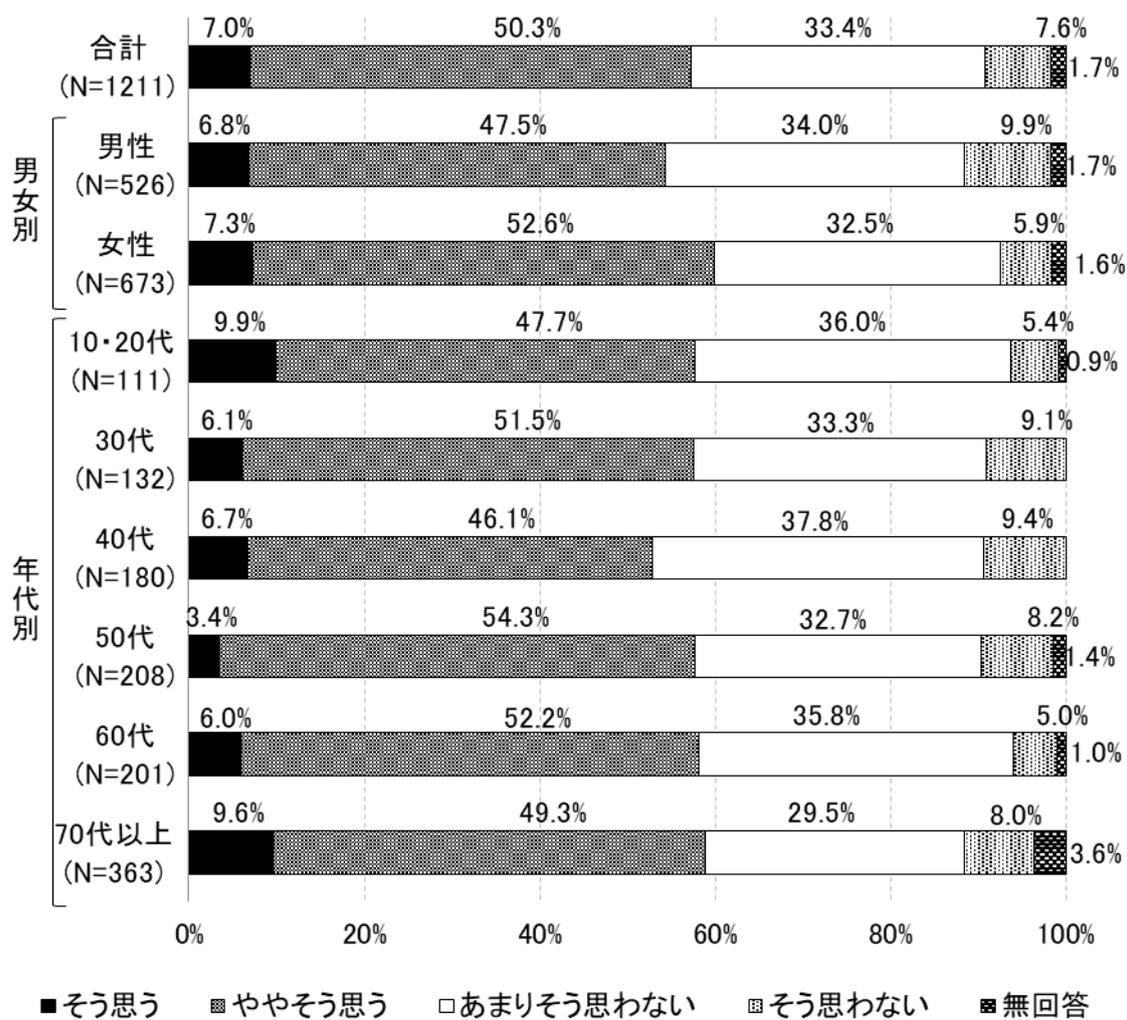


図47 Q15B 高槻市の環境：不法投棄やポイ捨ての少ない美しいまちか

Q15Cの高槻市は良好な環境づくりを目指した活動が豊富かに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が4割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代以上が54.9%と最も高く、反対に60代が40.8%と最も低い(図48)。

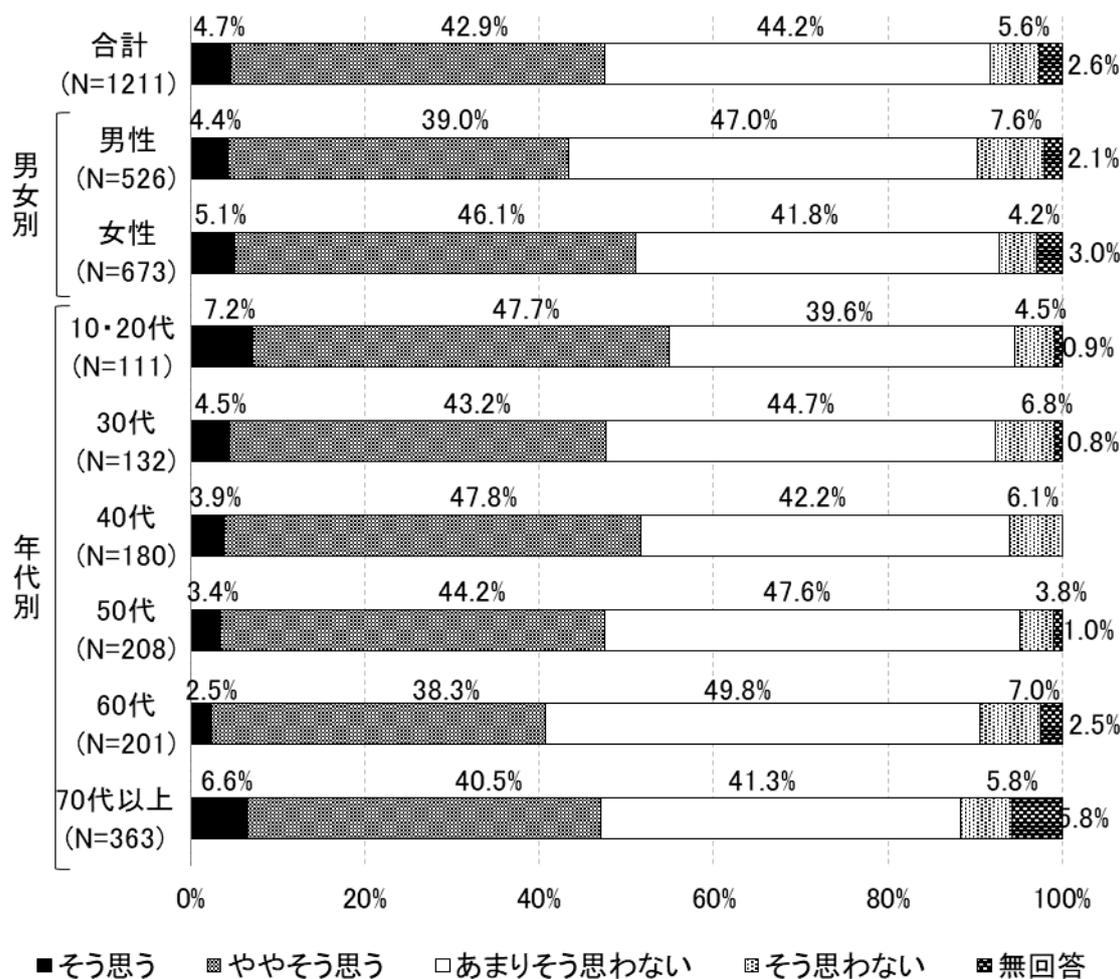


図 48 Q15C 高槻市の環境：良好な環境づくりを目指した活動が豊富か

Q15Dの高槻市は環境活動に関する情報や呼びかけが十分かに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が2割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代以上が33.3%と最も高く、反対に60代が23.9%と最も低い(図49)。

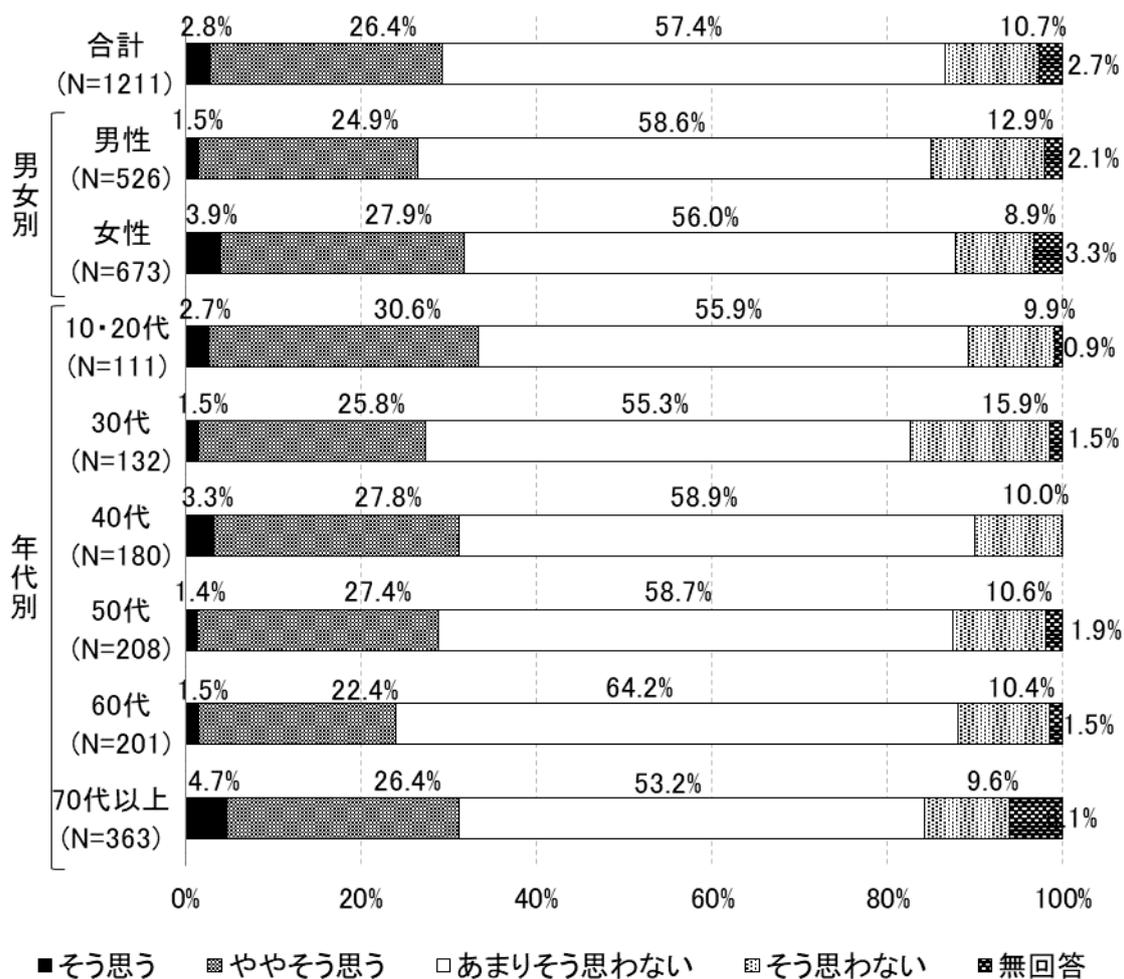


図 49 Q15D 高槻市の環境：環境活動に関する情報や呼びかけが十分か

Q15E の高槻市では、身近な生活環境に水やみどりの潤いがあるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代以上が82.9%と最も高く、反対に70代以上が68.3%と最も低い（図50）。

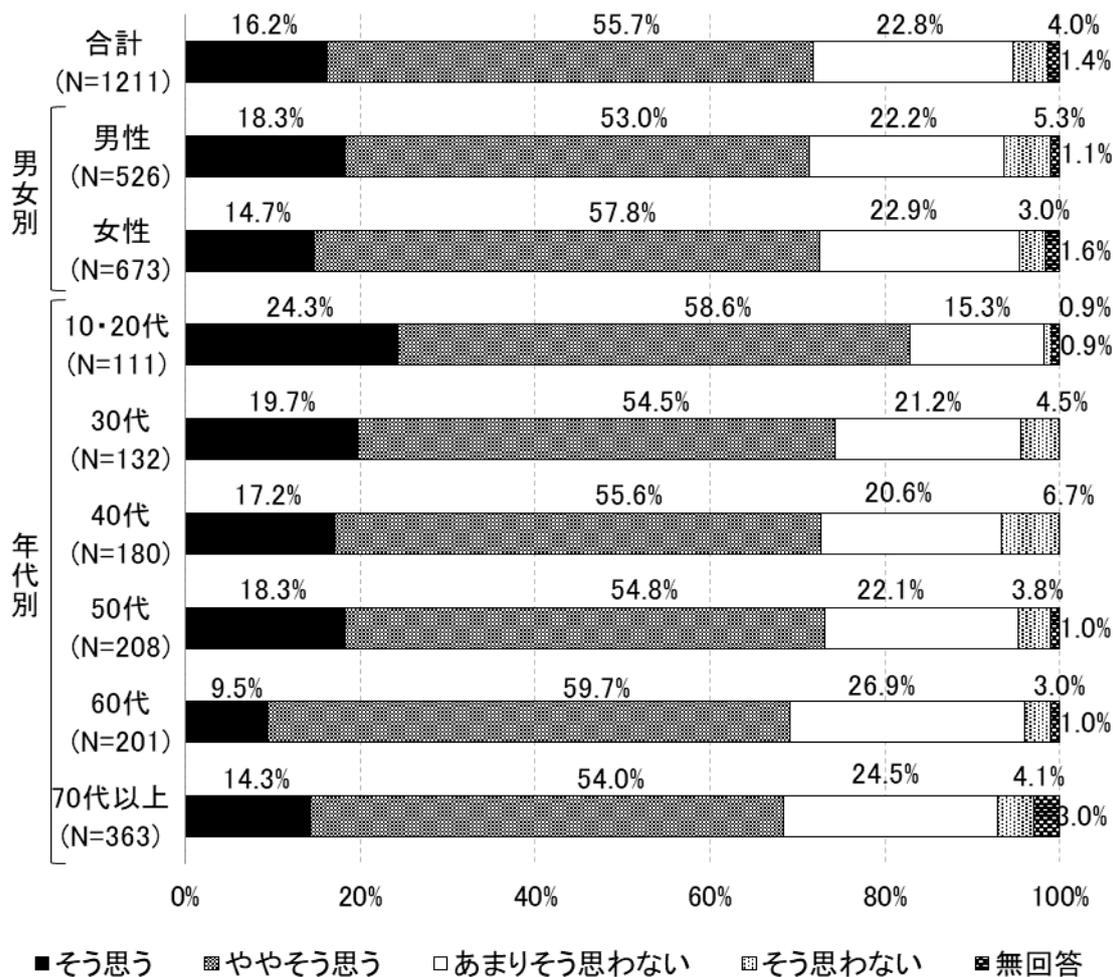


図50 Q15E 高槻市の環境：身近な生活環境に水やみどりの潤いがあるか

Q16 のハザードマップなどによる自宅の災害リスク確認の有無に関して、男女別・年代別のすべての層で「はい」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「はい」と回答した人の割合は50代が83.7%と最も高く、反対に10・20代が64.9%と最も低い(図51)。

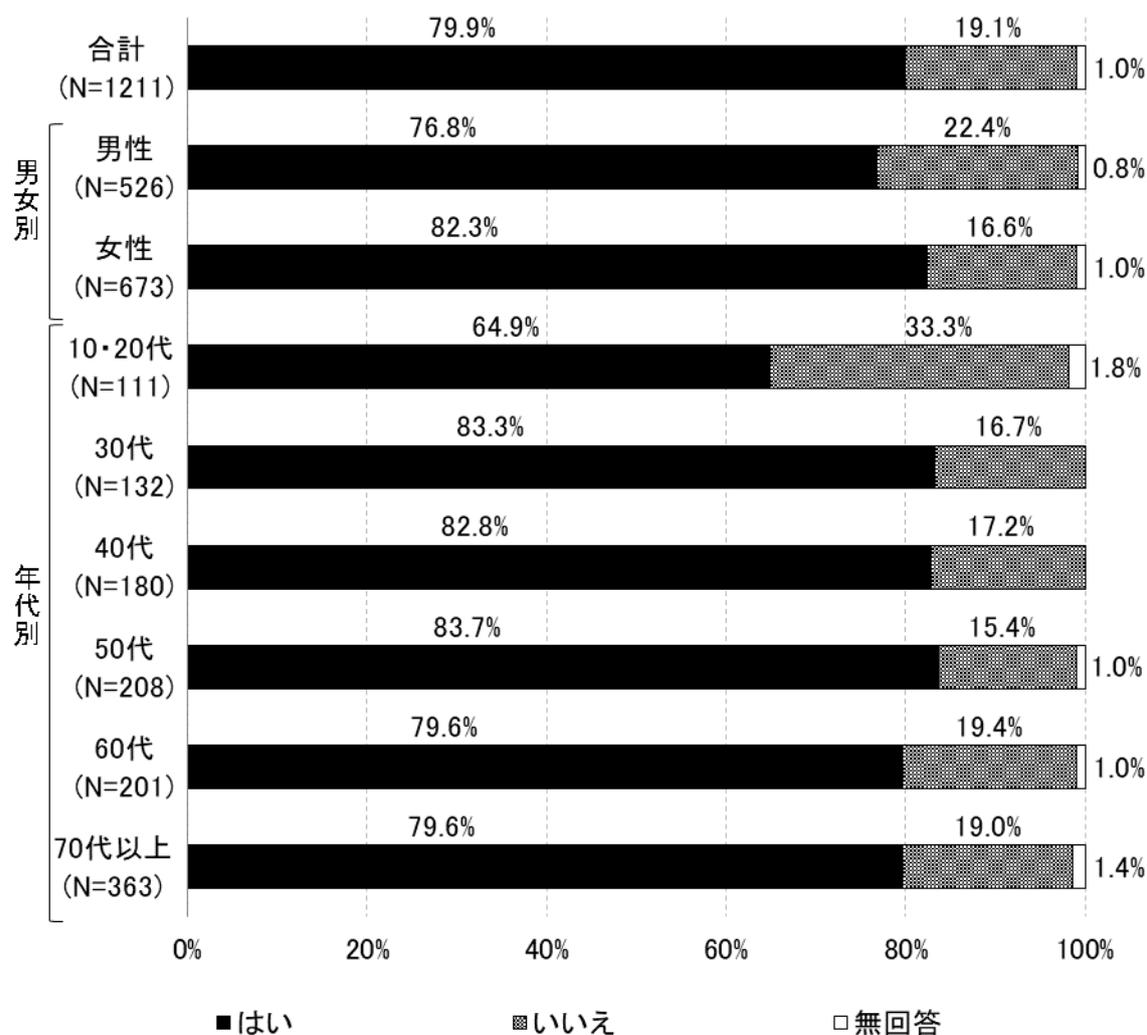


図 51 Q16 ハザードマップなどによる自宅の災害リスク確認の有無

Q17の自宅に対するリスク認識の有無に関して、男女別・年代別のすべての層で「リスクがあると認識している」と回答した人が3割以上である。年代別で見ると、「リスクがあると認識している」と回答した人の割合は40代が54.4%と最も高く、反対に70代以上が37.2%と最も低い(図52)。

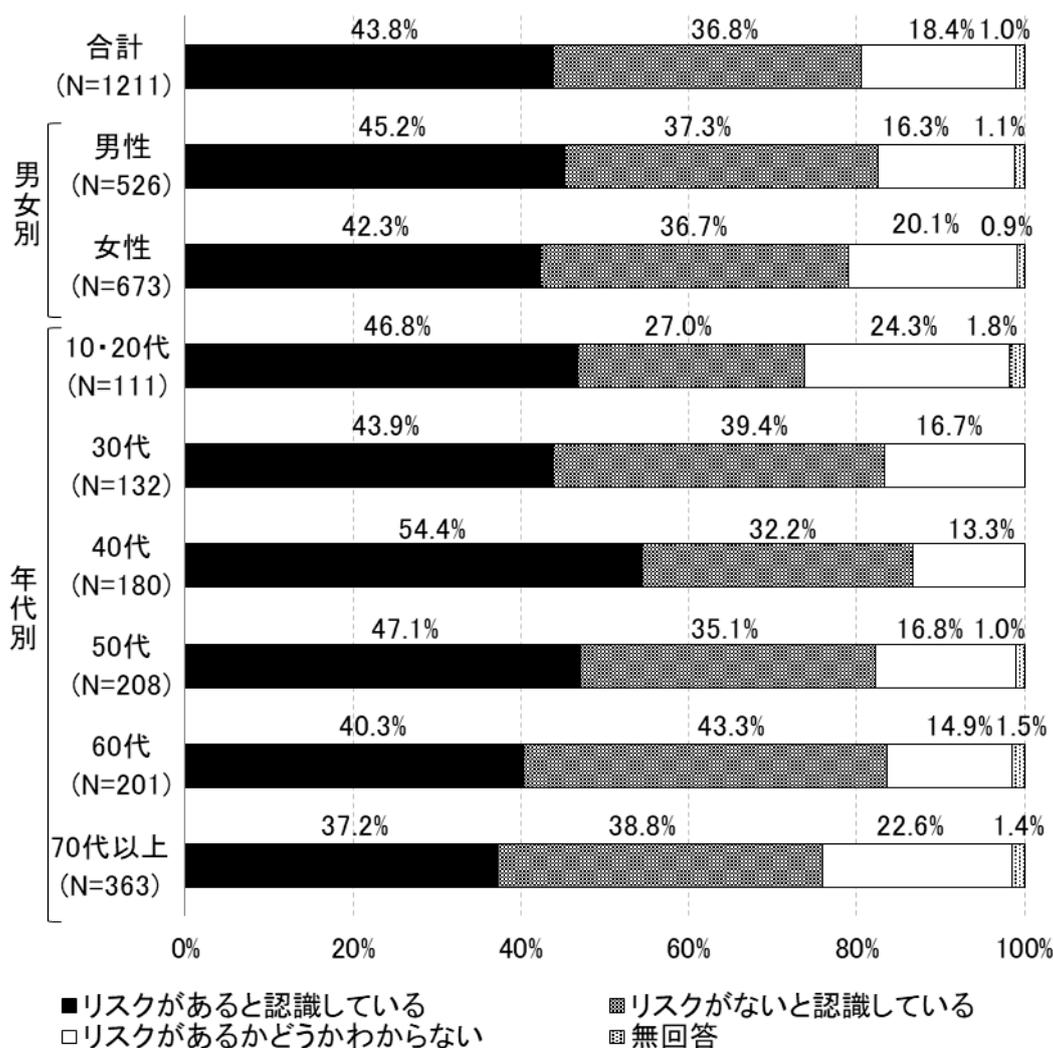


図 52 Q17 自宅に対するリスク認識の有無

Q18 の避難指示を受けた場合の行動に関して、男女別・年代別のすべての層で「市避難所へ避難」・「在宅避難（自宅の高所など）」・「決めていない（災害状況に合わせて）」が2～3割ほど見られた。（図 53）。

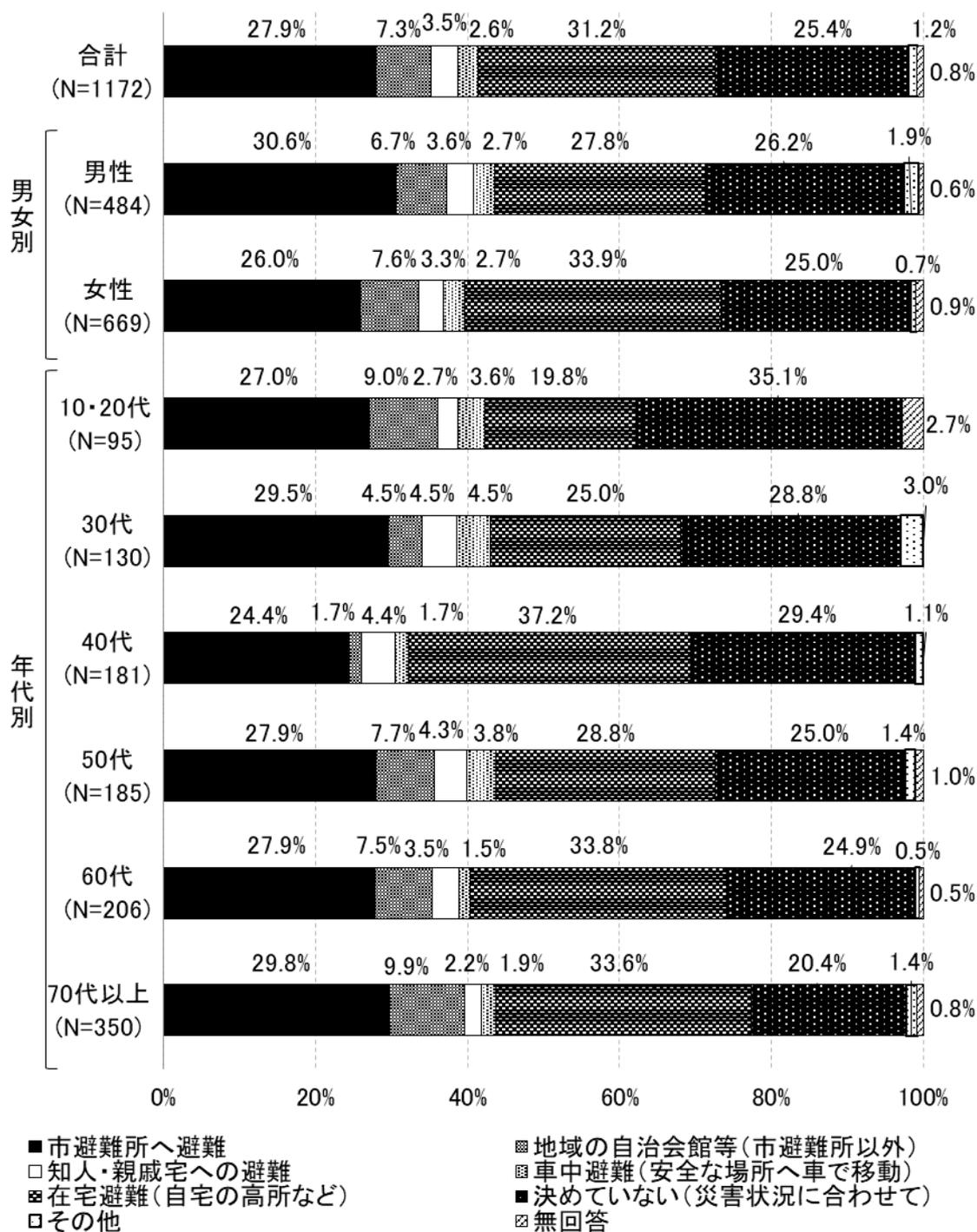


図 53 Q18 避難指示を受けた場合の行動

Q19の自宅の災害に対する備えに関して、男女別・年代別のすべての層で「不十分だと思う」または「どちらかといえば不十分だと思う」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「不十分だと思う」または「どちらかといえば不十分だと思う」と回答した人の割合は60代が81.1%と最も高く、反対に10・20代が63.0%と最も低い(図54)。

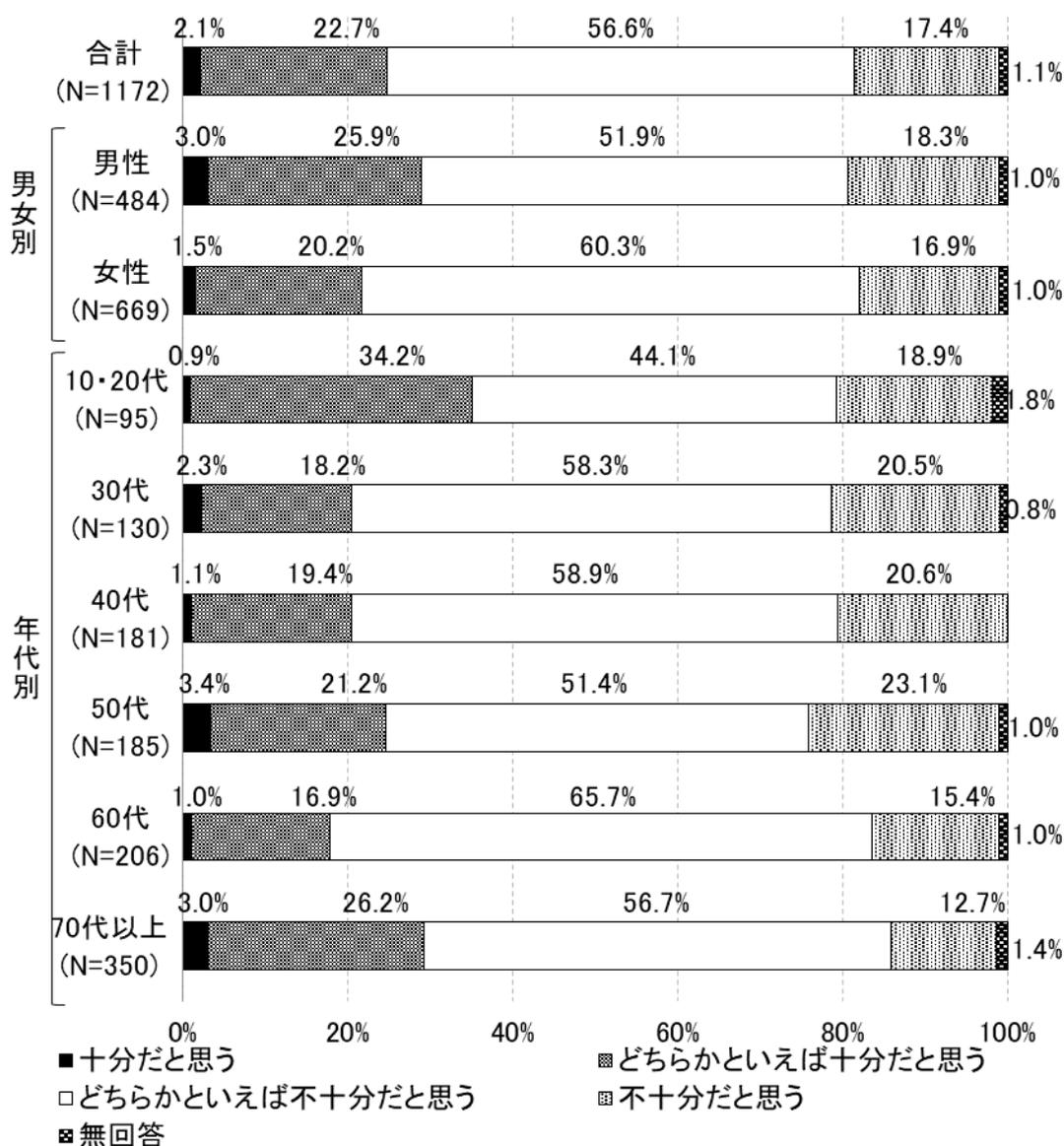


図 54 Q19 自宅の災害に対する備え

Q20 のコロナ前後での災害備蓄の変化について、「感染症対策用品」が 72.6%で最も高く、「食料・飲料水」が 32.4%と続く（図 55）。

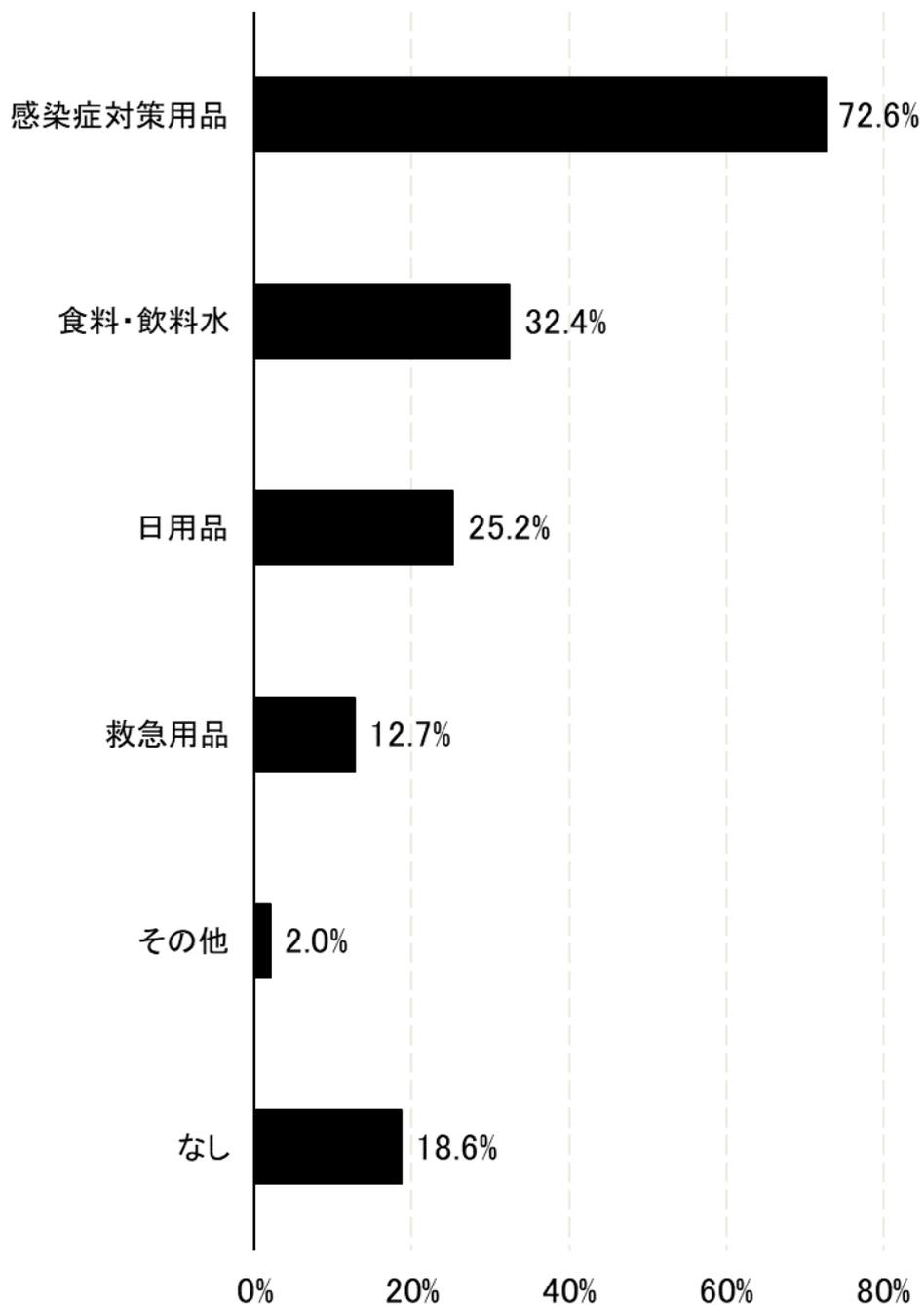


図 55 Q20 コロナ前後での災害備蓄の変化（複数回答・全体 N=1211）

Q20 のコロナ前後での災害備蓄の変化に関して、男女別で見ると、「感染症対策用品」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 11.0 ポイント高い（図 56）。

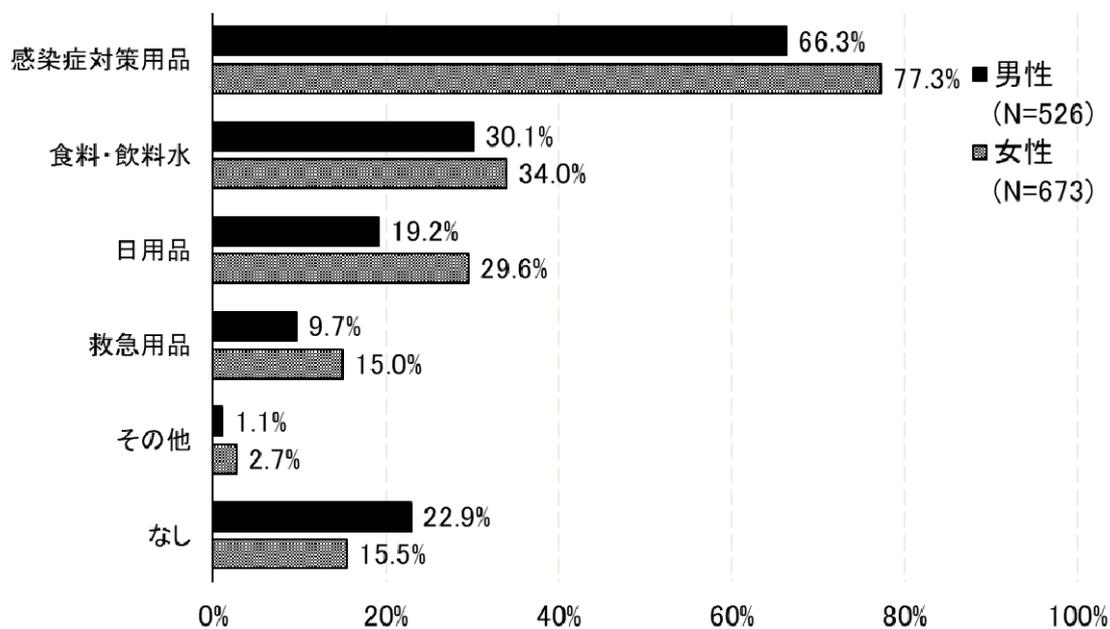


図 56 Q20 コロナ前後での災害備蓄の変化（複数回答・男女別）

Q20 のコロナ前後での災害備蓄の変化に関して、年代別で見ると、「食料・飲料水」は年代で差があり、70代以上が 40.3%と最も高く、反対に 10・20代は 20.7%と最も低い（図 57）。

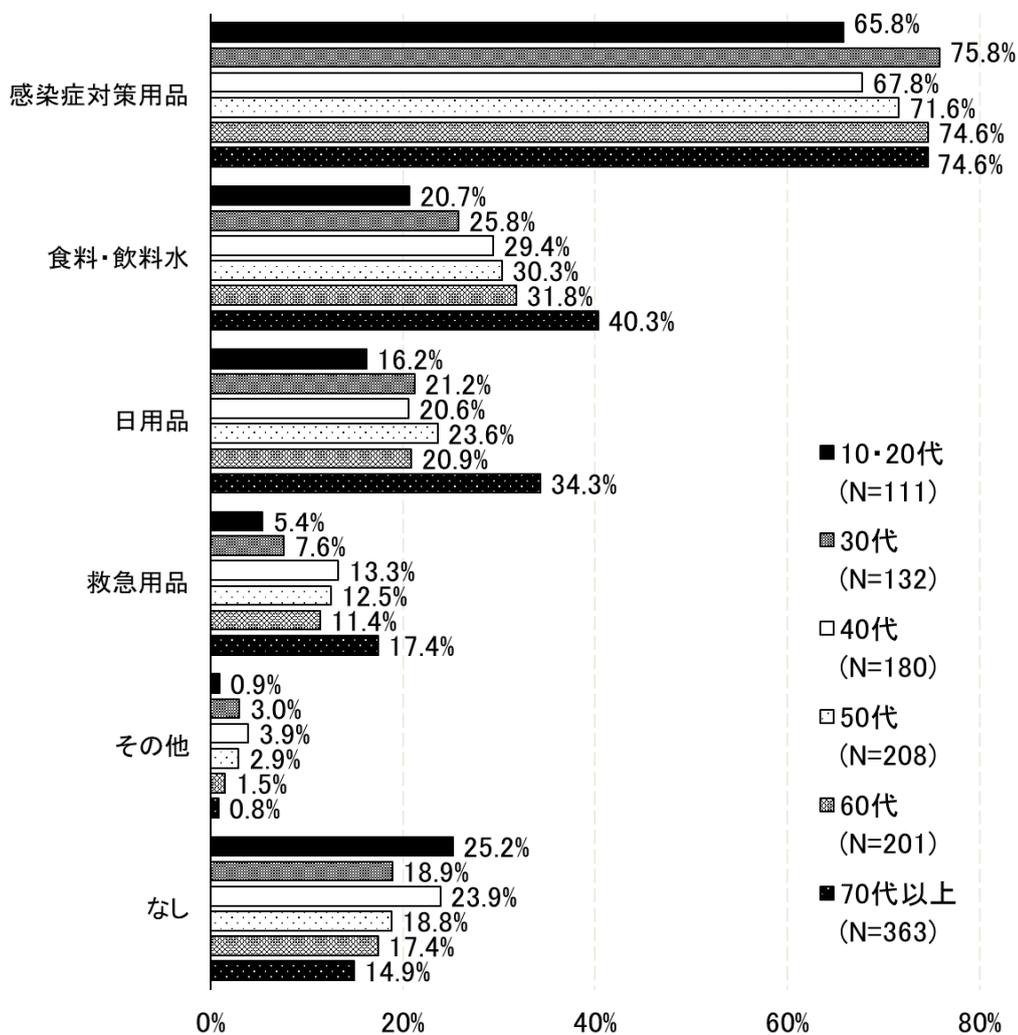


図 57 Q20 コロナ前後での災害備蓄の変化（複数回答・年代別）

Q21の成年後見人制度を知っているかに関して、男女別・年代別のすべての層で「名前も内容も知っている」または「名前だけ知っている」と回答した人が3割以上である。年代別で見ると、「名前も内容も知っている」または「名前だけ知っている」と回答した人の割合は50代が77.4%と最も高く、反対に10・20代が36.9%と最も低い(図58)。

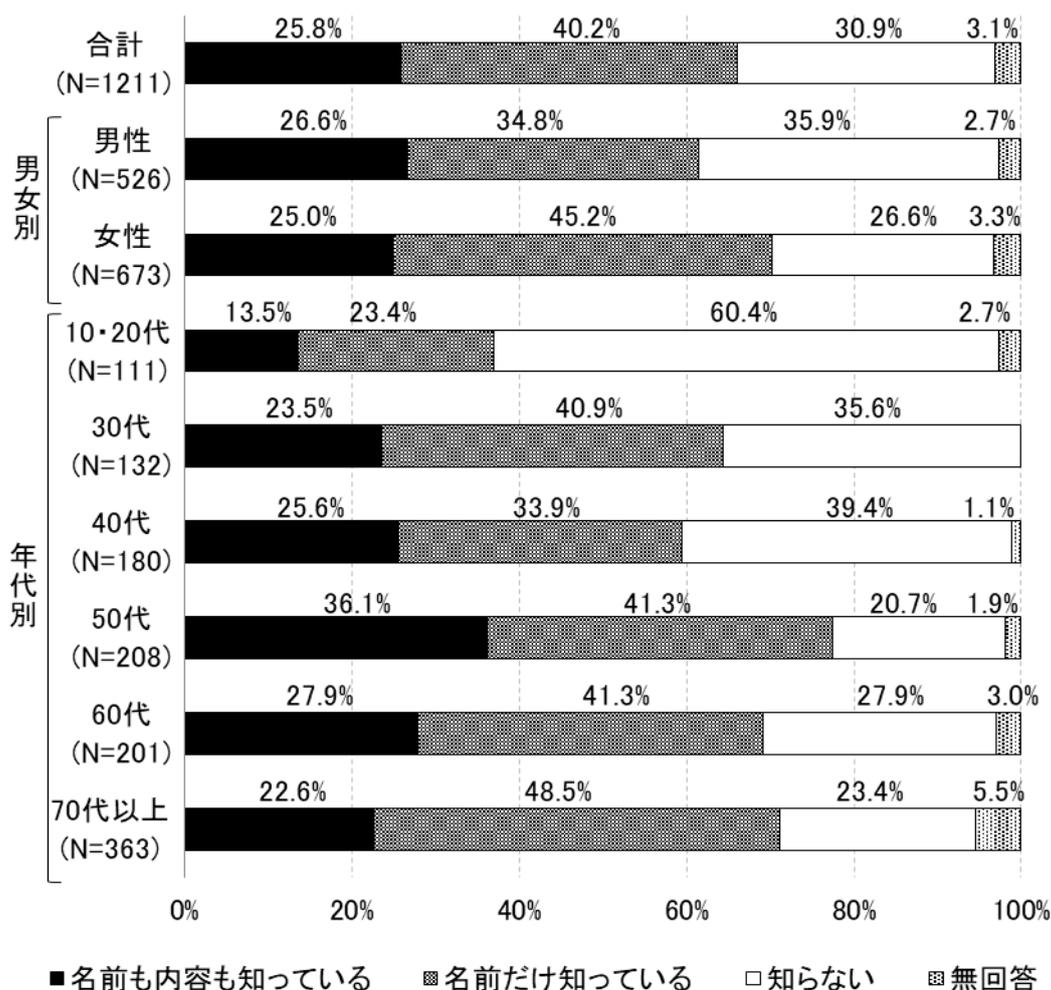


図 58 Q21 成年後見人制度を知っているか

Q22 のどこで成年後見人制度を知ったかに関して、「新聞やテレビ」が 57.1%で最も高く、「本や雑誌」が 15.8%と続く（図 59）。

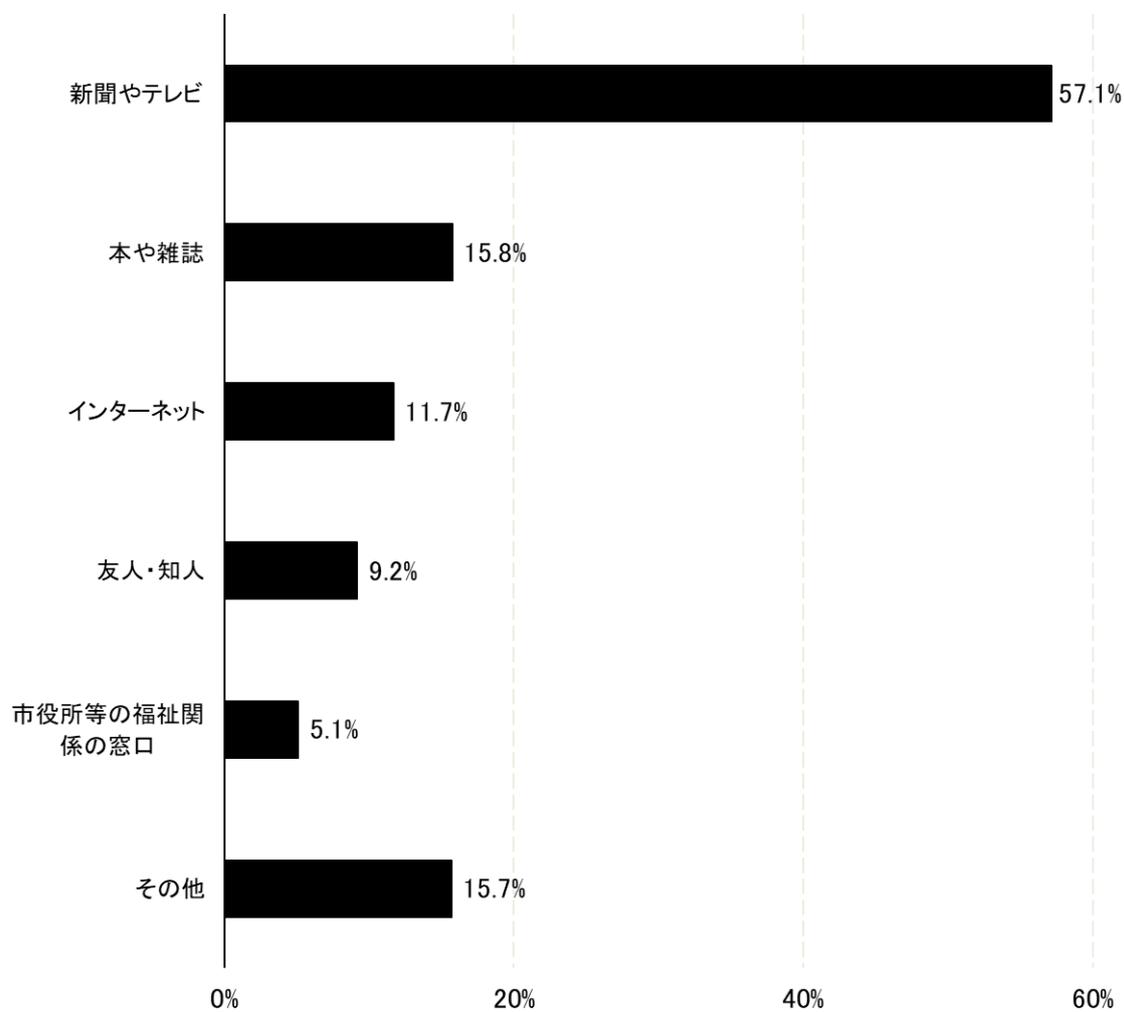


図 59 Q22 どこで成年後見人制度を知ったか（複数回答・全体 N=1001）

Q22 のどこで成年後見人制度を知ったかに関して、男女別で見ると、「インターネット」は男女で差があり、女性よりも男性の方が 4.9 ポイント高い (図 60)。

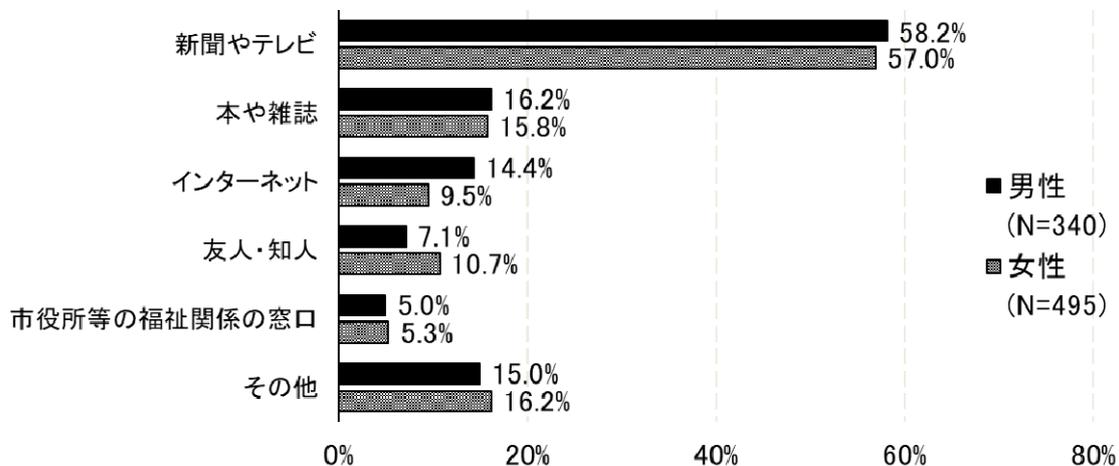


図 60 Q22 どこで成年後見人制度を知ったか (複数回答・男女別)

Q22 のどこで成年後見人制度を知ったかに関して、年代別で見ると、「新聞やテレビ」は年代で差があり、70 代以上が 68.2%と最も高く、反対に 10・20 代は 31.8%と最も低い。また「インターネット」は 30 代が 27.1%と最も高く、反対に 70 代以上は 3.9%と最も低い (図 61)。

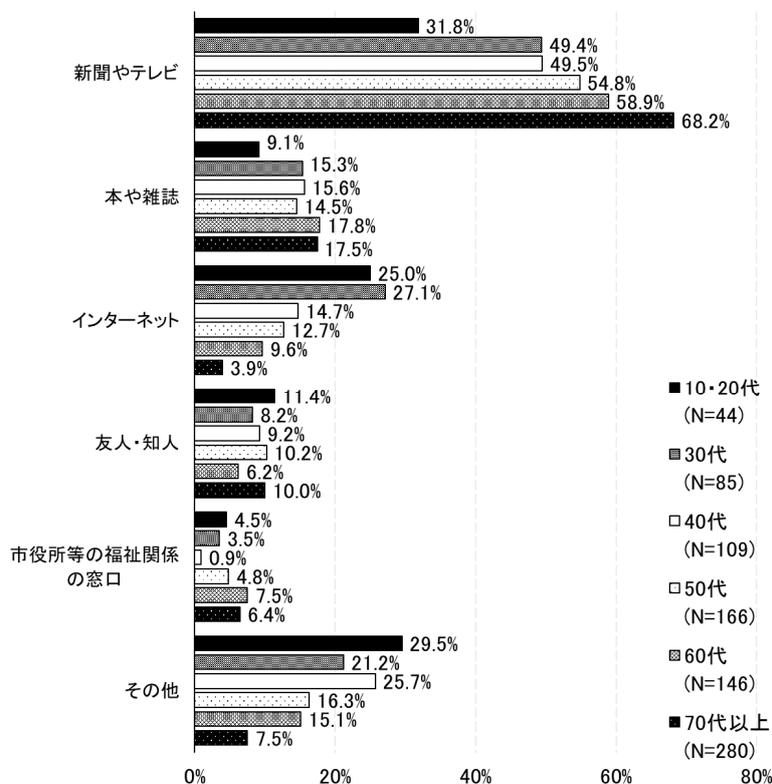


図 61 Q22 どこで成年後見人制度を知ったか (複数回答・年代別)

Q23 の成年後見人制度を利用したいか（家族）に関して、男女別・年代別のすべての層で「すでに利用している」または「利用したい」と回答した人が5割以上である。年代別で見ると、「利用している」または「利用したい」と回答した人の割合は40代が80.6%と最も高く、反対に70代以上が53.2%と最も低い（図62）。

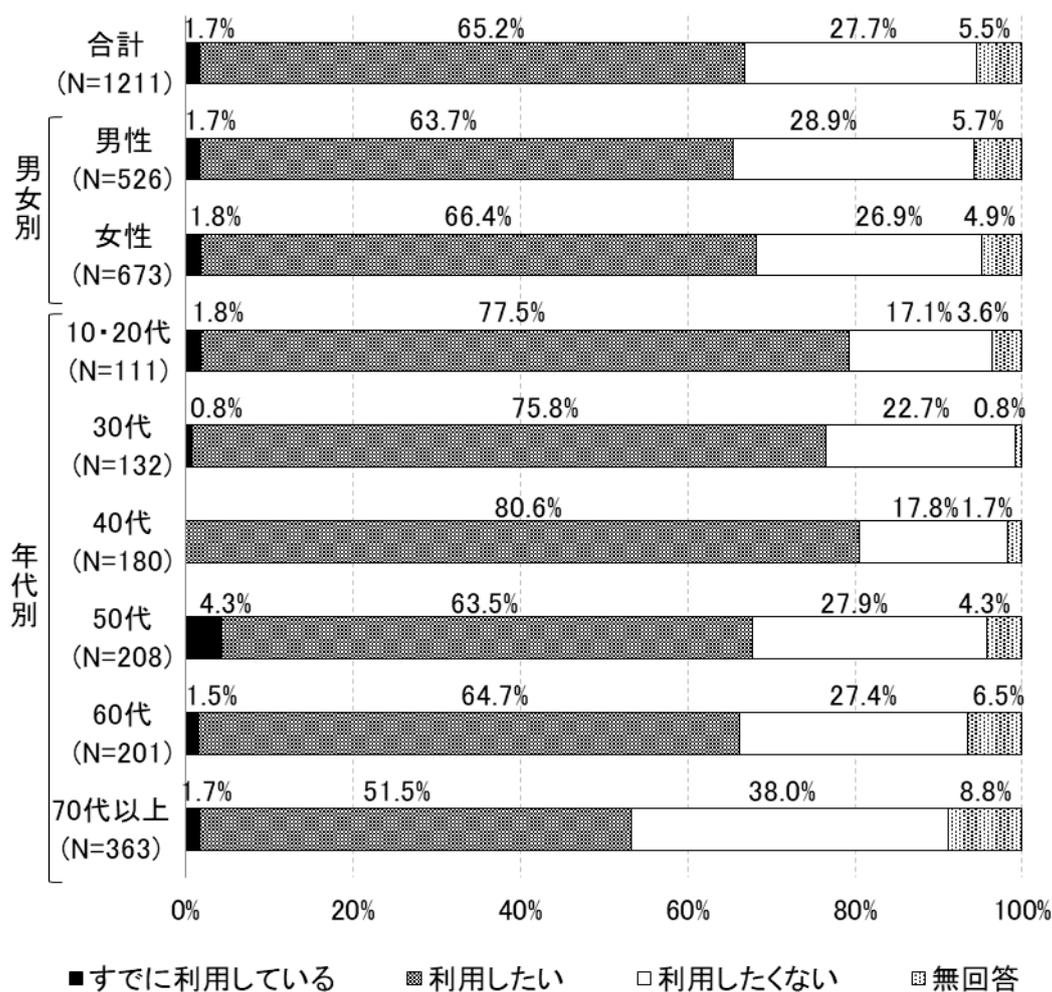


図 62 Q23 成年後見人制度を利用したいか（家族）

Q24の成年後見人制度を利用したいか(自分)に関して、男女別・年代別のすべての層で「すでに利用している」または「利用したい」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「利用している」または「利用したい」と回答した人の割合は40代が85.6%と最も高く、反対に70代以上が62.0%と最も低い(図63)。

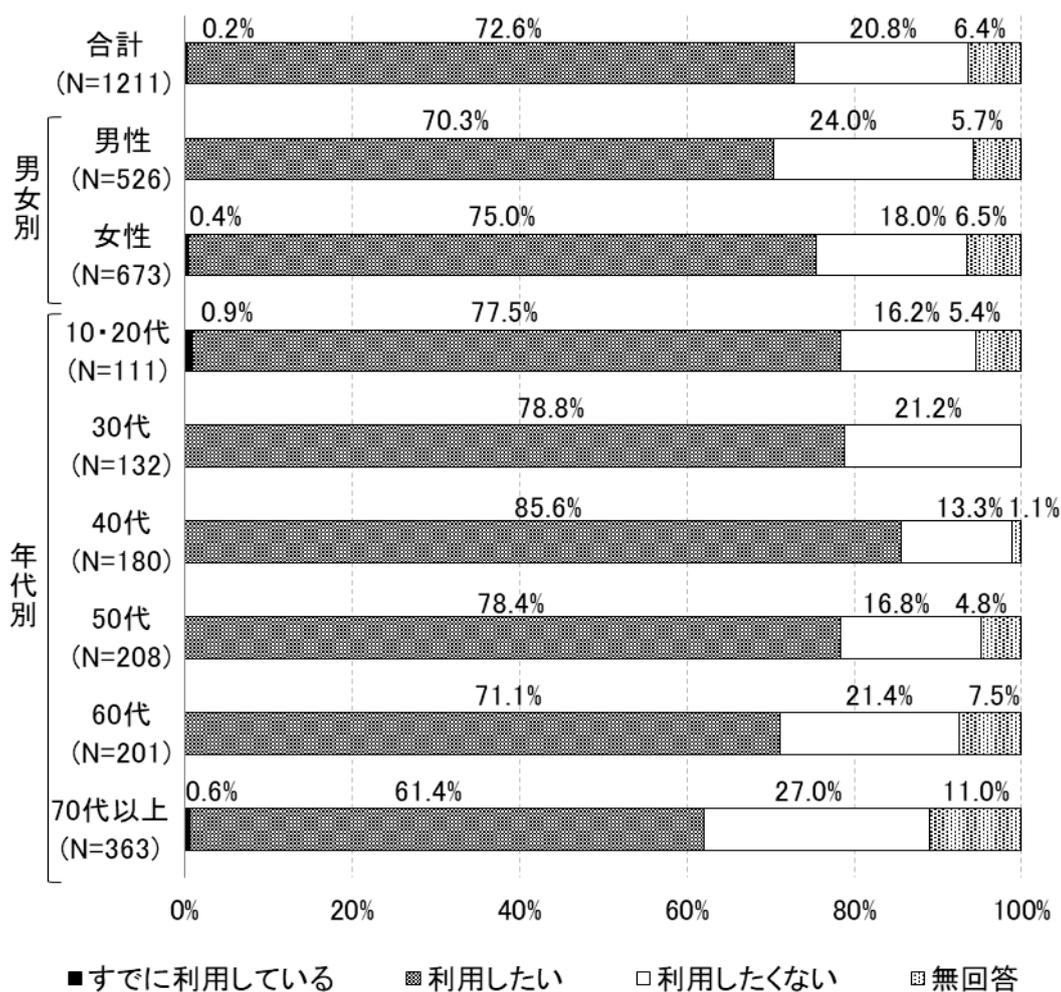


図 63 Q24 成年後見人制度を利用したいか(自分)

Q25 の誰に後見人になってほしいかに関して、「家族・親族」が 80.5%で最も高く、「専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）」が 29.6%と続く（図 64）。

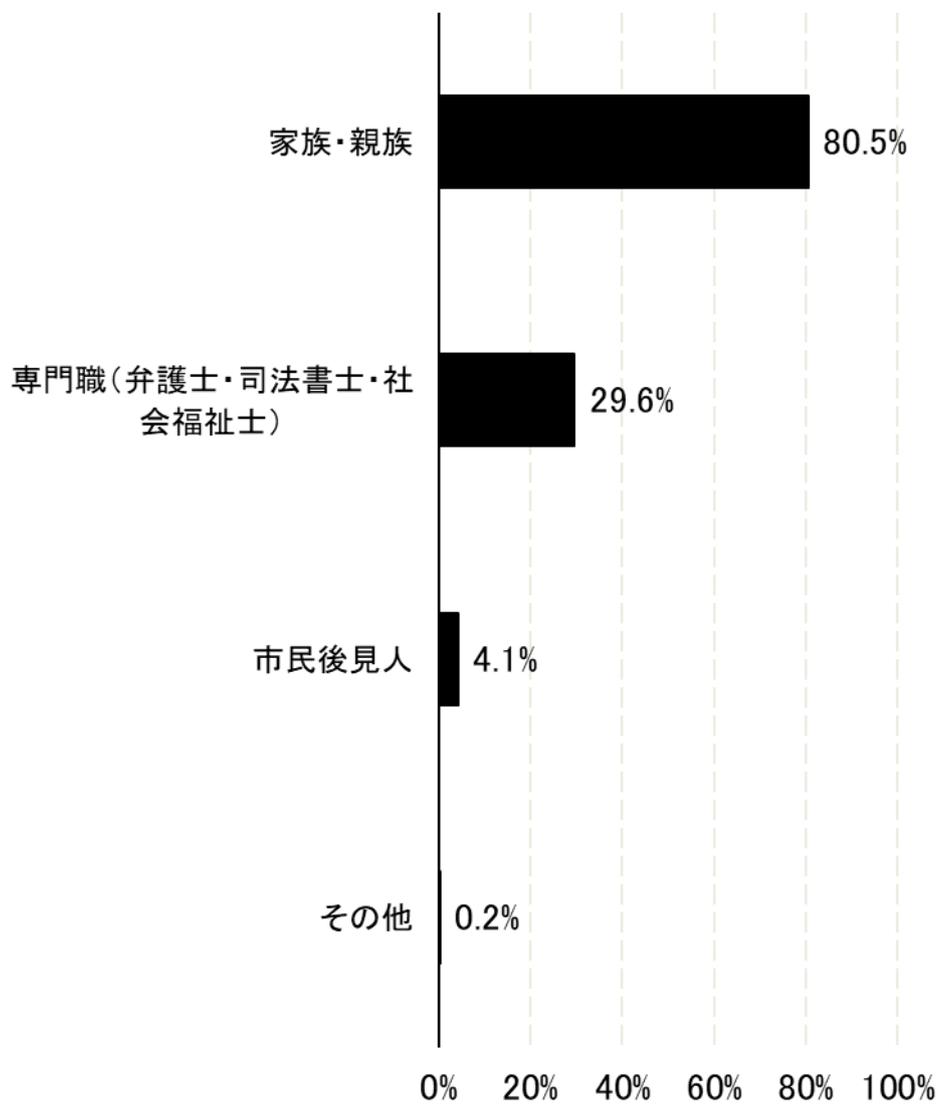


図 64 Q25 誰に後見人になってほしいか（複数回答・全体 N=1160）

Q25 の誰に後見人になってほしいかに関して、男女別で見ると、男女で大きな違いは見られない（図 65）。

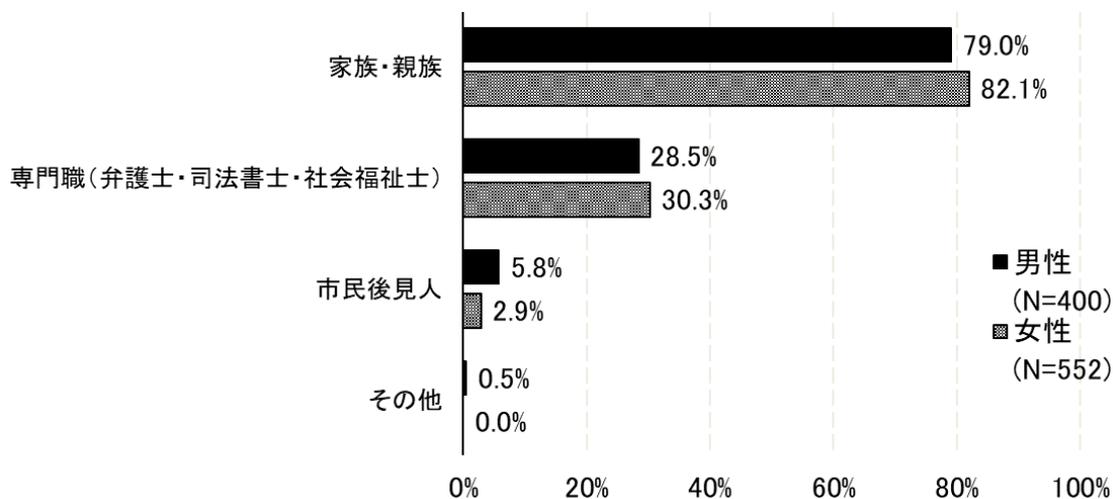


図 65 Q25 誰に後見人になってほしいか（複数回答・男女別）

Q25 の誰に後見人になってほしいかに関して、年代別で見ると、「専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）」は年代で差があり、40代が 46.2%と最も高く、反対に 70代以上は 17.7%と最も低い（図 66）。

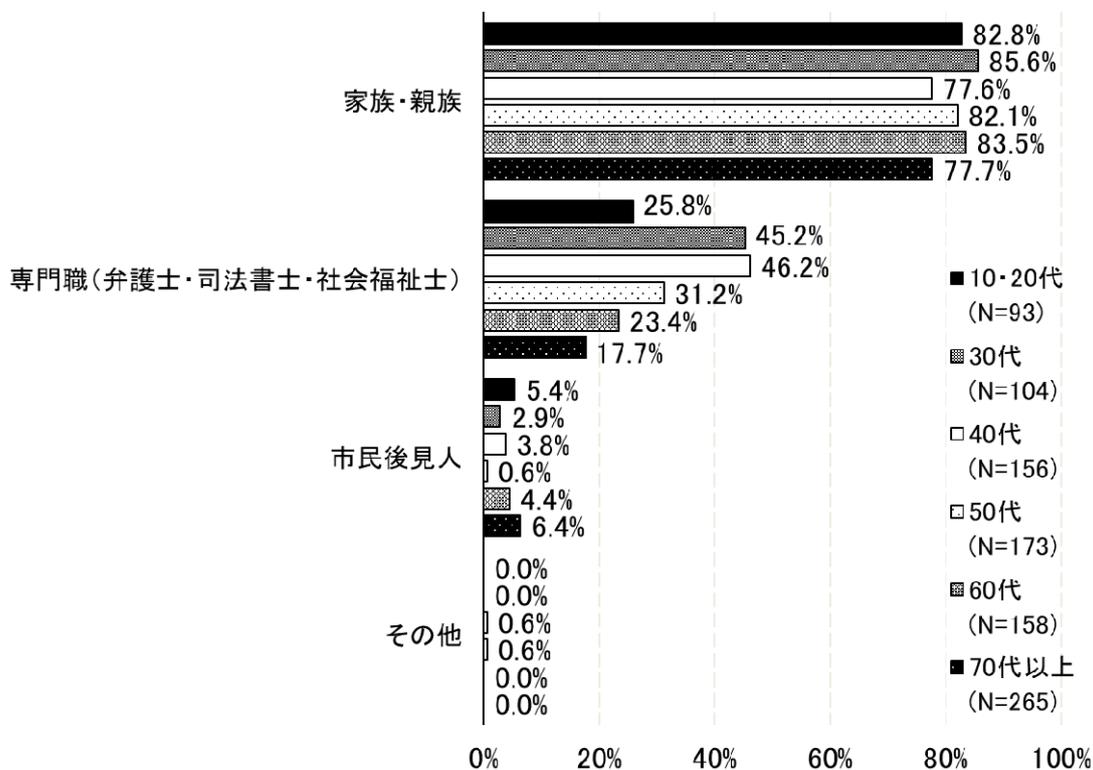


図 66 Q25 誰に後見人になってほしいか（複数回答・年代別）

Q26 の1日当たりのテレビ視聴時間に関して、0分から2時間未満と回答した人の割合は、合計で見ると 36.1%である。男女別で見ると、男性の方が女性より 11.4 ポイント高い。年代別で見ると、10・20代が 67.5%と最も高く、反対に 70代以上は 16.8%と最も低い（図 67）。

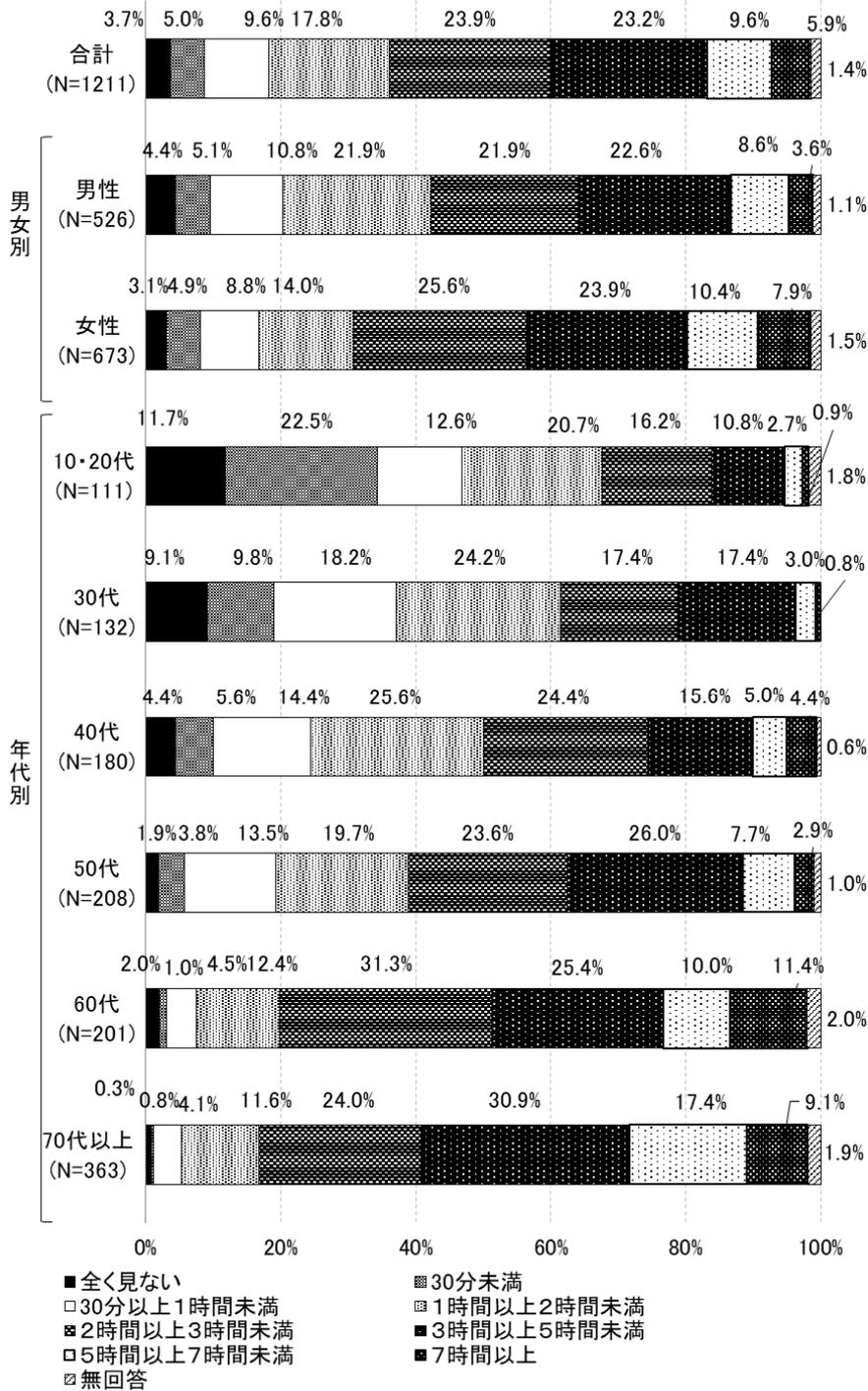


図 67 Q26 1日当たりのテレビ視聴時間

Q27 の1日当たりのインターネット利用時間に関して、0分から2時間未満と回答した人の割合は、合計で見ると 61.5%である。年代別で見ると、0分から2時間未満と回答した人の割合は 70 代以上が 86.4%と最も高く、反対に 10・20 代が 16.2%と最も低い（図 68）。

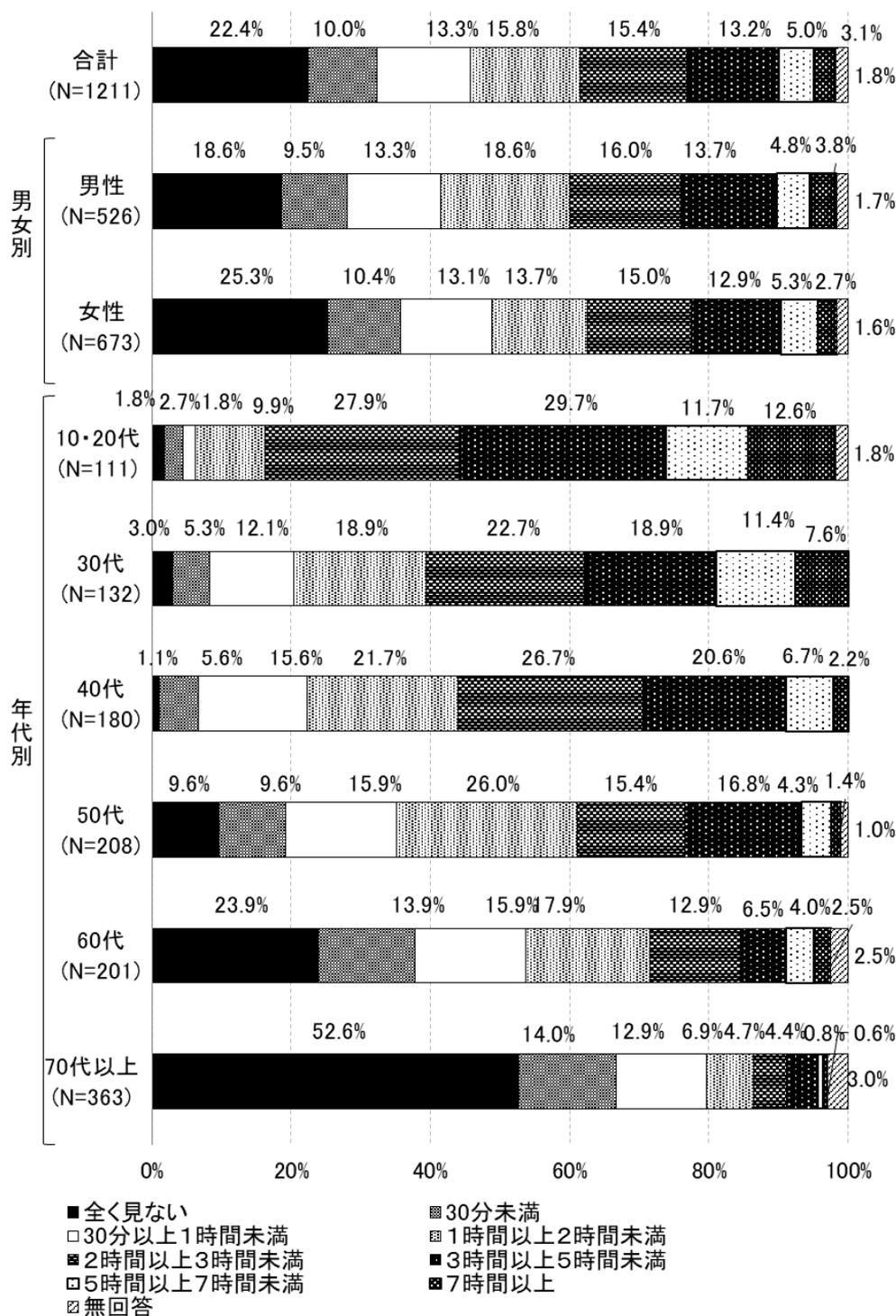


図 68 Q27 1日当たりのインターネット利用時間

Q28の携帯電話・スマホの所持に関して、男女別・年代別のすべての層で「はい」と回答した人が9割以上である。年代別で見ると、「はい」と回答した人の割合は30代が100.0%と最も高く、反対に70代以上が90.6%と最も低い（図69）。

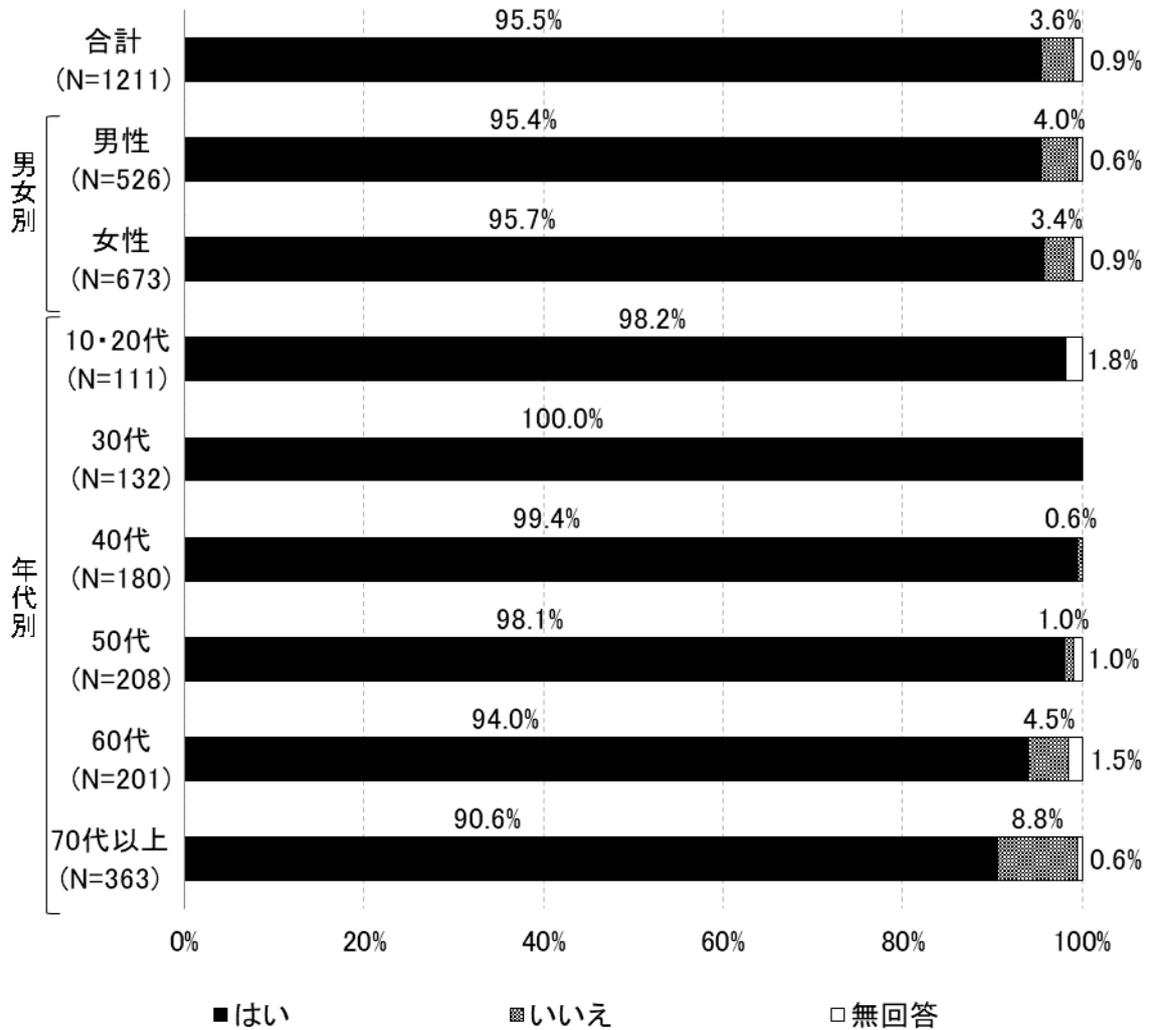


図 69 Q28 携帯電話・スマホの所持

Q29の携帯電話・スマホの利用時間（1日当たり）に関して、0分から2時間未満と回答した人の割合は、合計で見ると58.3%である。年代別で見ると、0分から2時間未満と回答した人の割合は70代以上が86.9%と最も高く、反対に10・20代が13.5%と最も低い（図70）。

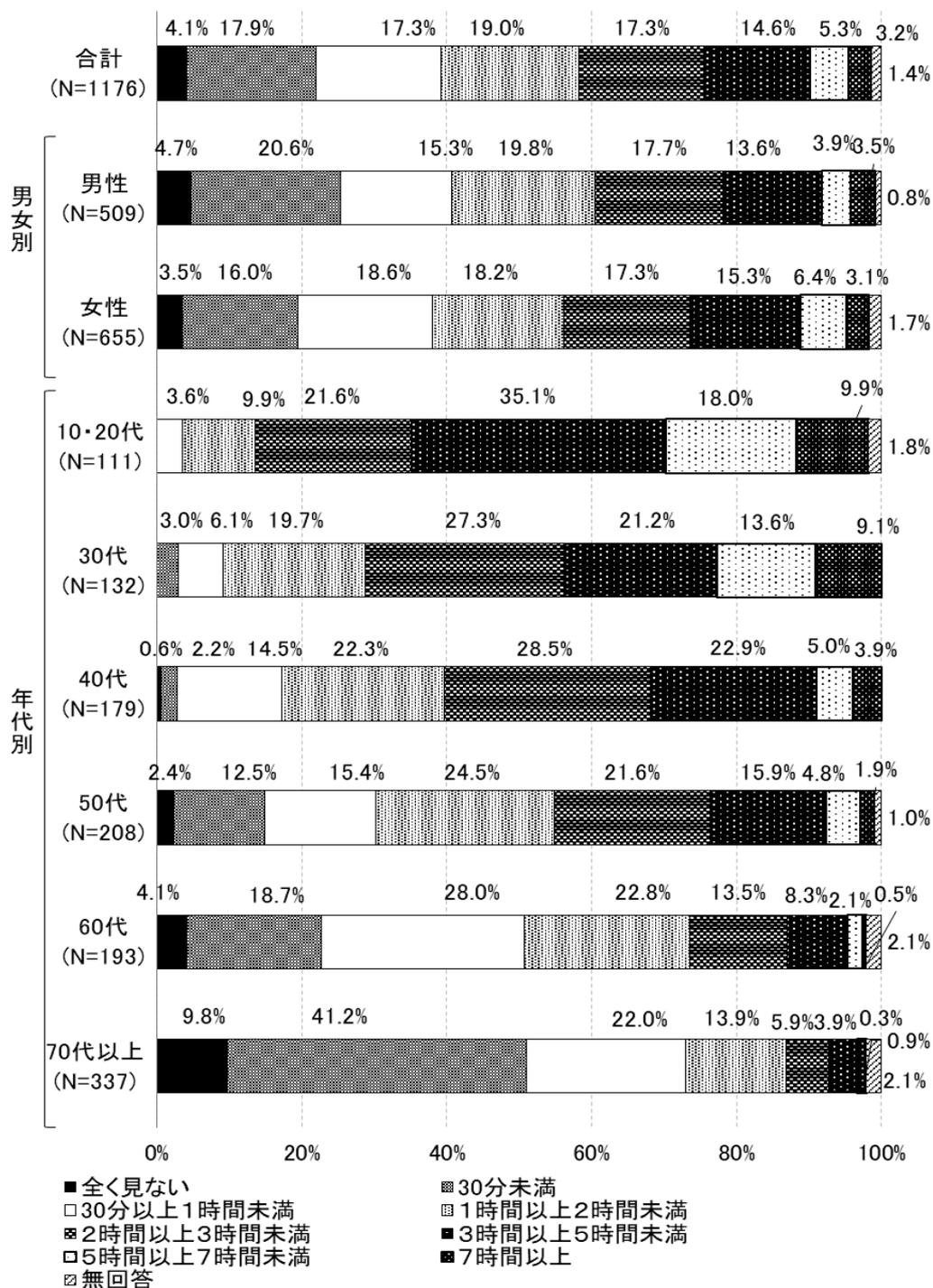


図 70 Q29 携帯電話・スマホの利用時間（1日当たり）

Q30の携帯電話・スマホを契約する際に重視することに関して、男女別・年代別のすべての層で「料金が安いこと」と回答した人が6割以上である。男女別で見ると、男性の方が女性より11.2ポイント高い。年代別で見ると、10・20代が81.1%と最も高く、反対に50代が65.9%と最も低い（図71）。

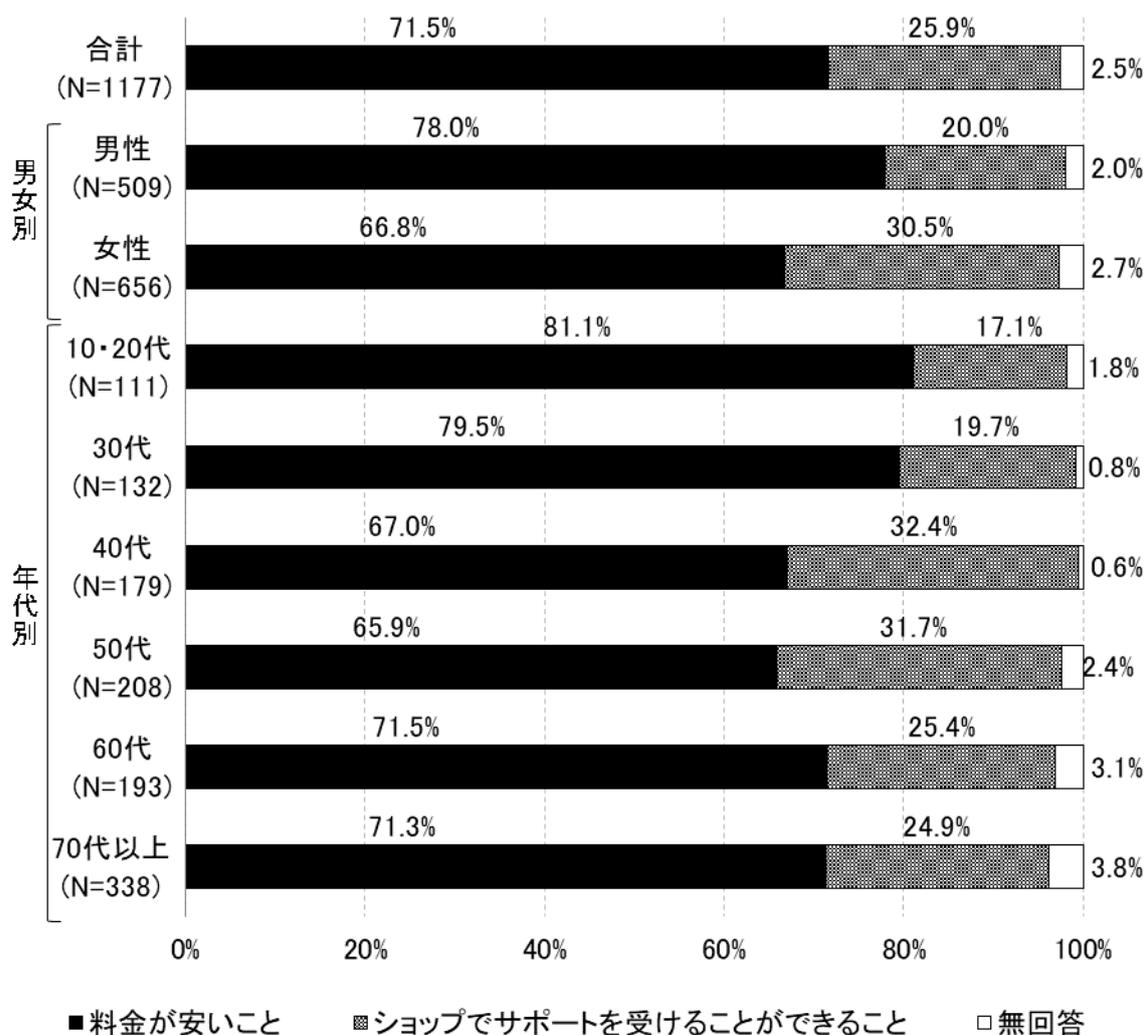


図 71 Q30 携帯電話・スマホを契約する際に重視すること

Q31 の携帯電話・スマホの通信料金は高いかに関して、男女別・年代別のすべての層で「高いと思う」と回答した人が4割以上である。年代別で見ると、50代が67.3%と最も高く、反対に10・20代が49.5%と最も低い（図72）。

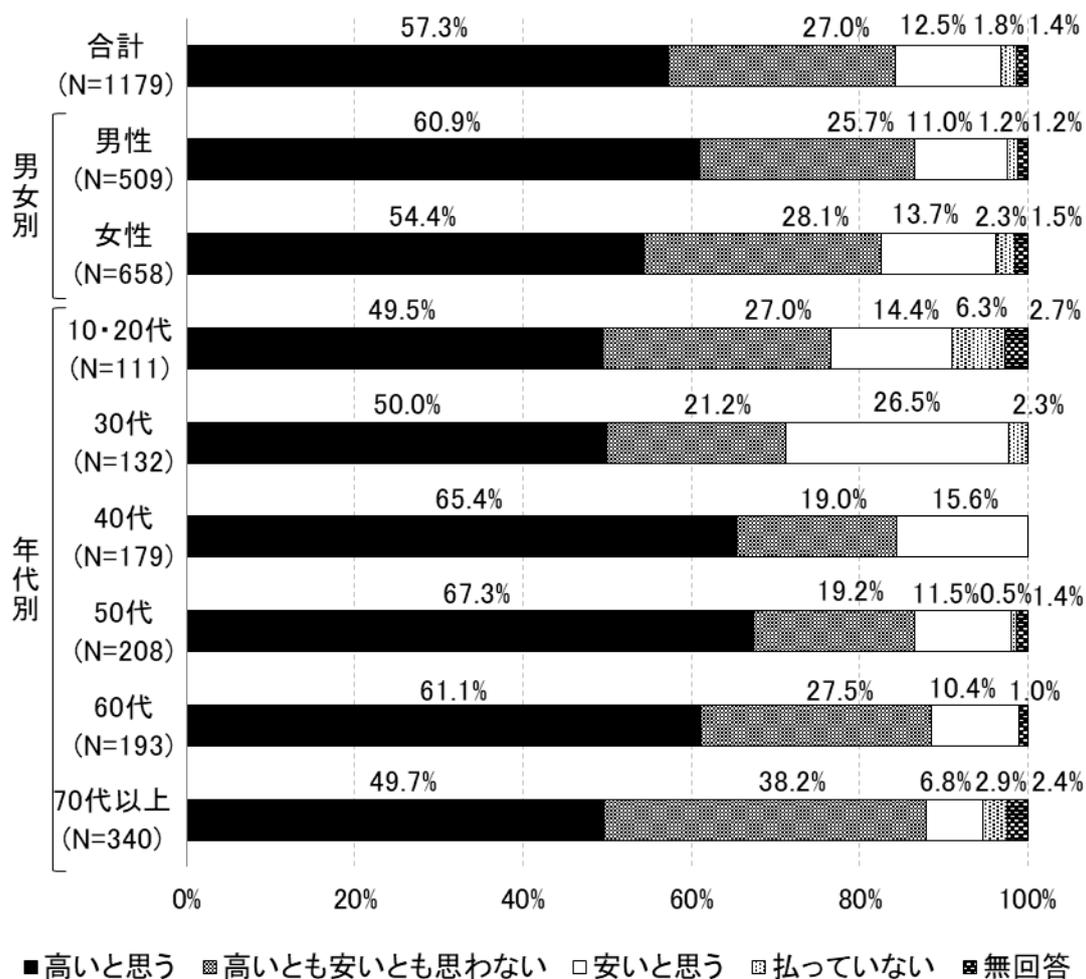


図72 Q31 携帯電話・スマホの通信料金は高いか

Q32 の日常生活でのからだの疲れに関して、男女別・年代別のすべての層で「非常に感じる」または「ある程度感じる」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「非常に感じる」または「ある程度感じる」と回答した人の割合は40代が90.6%と最も高く、反対に70代以上が69.1%と最も低い（図 73）。

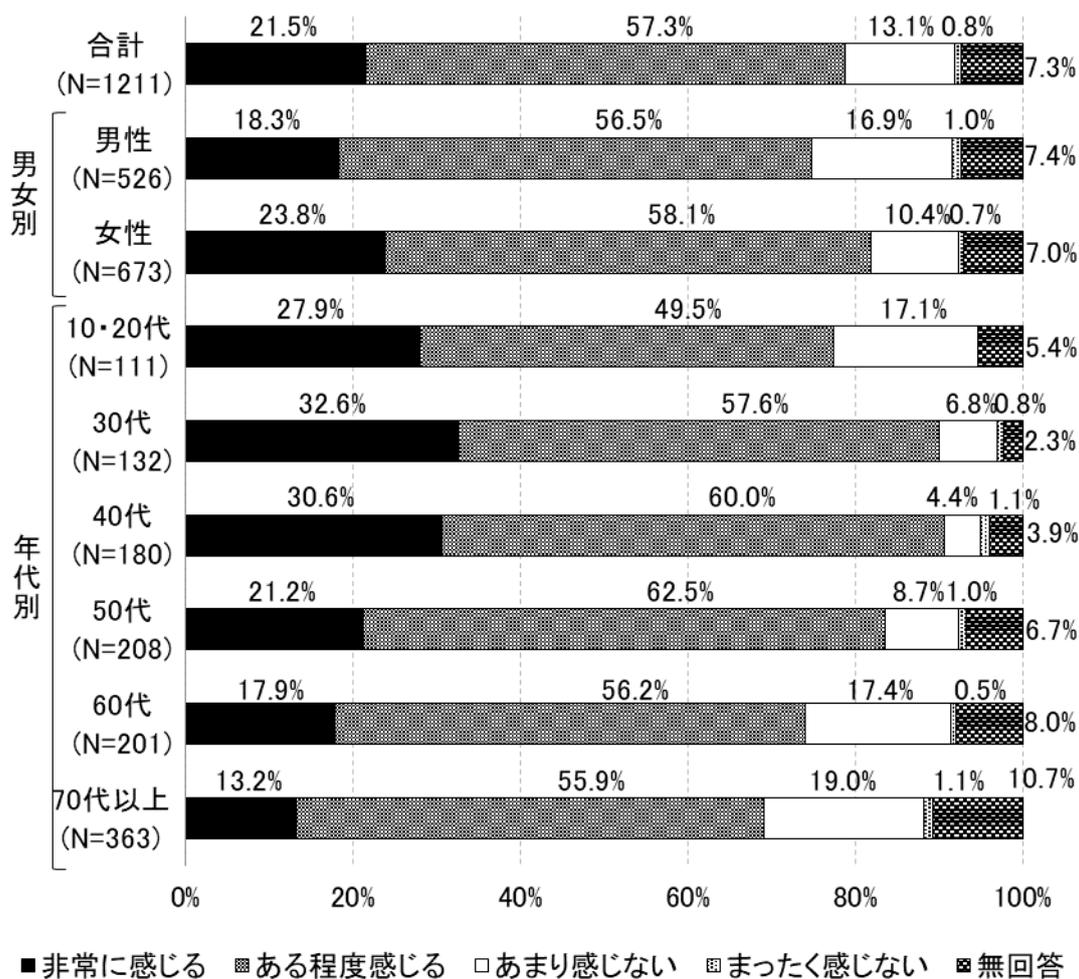


図 73 Q32 日常生活でのからだの疲れ

Q33 の新型コロナへの感染不安に関して、男女別・年代別のすべての層で「非常に感じる」または「ある程度感じる」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「非常に感じる」または「ある程度感じる」と回答した人の割合は40代が82.2%と最も高く、反対に60代が74.6%と最も低い（図74）。

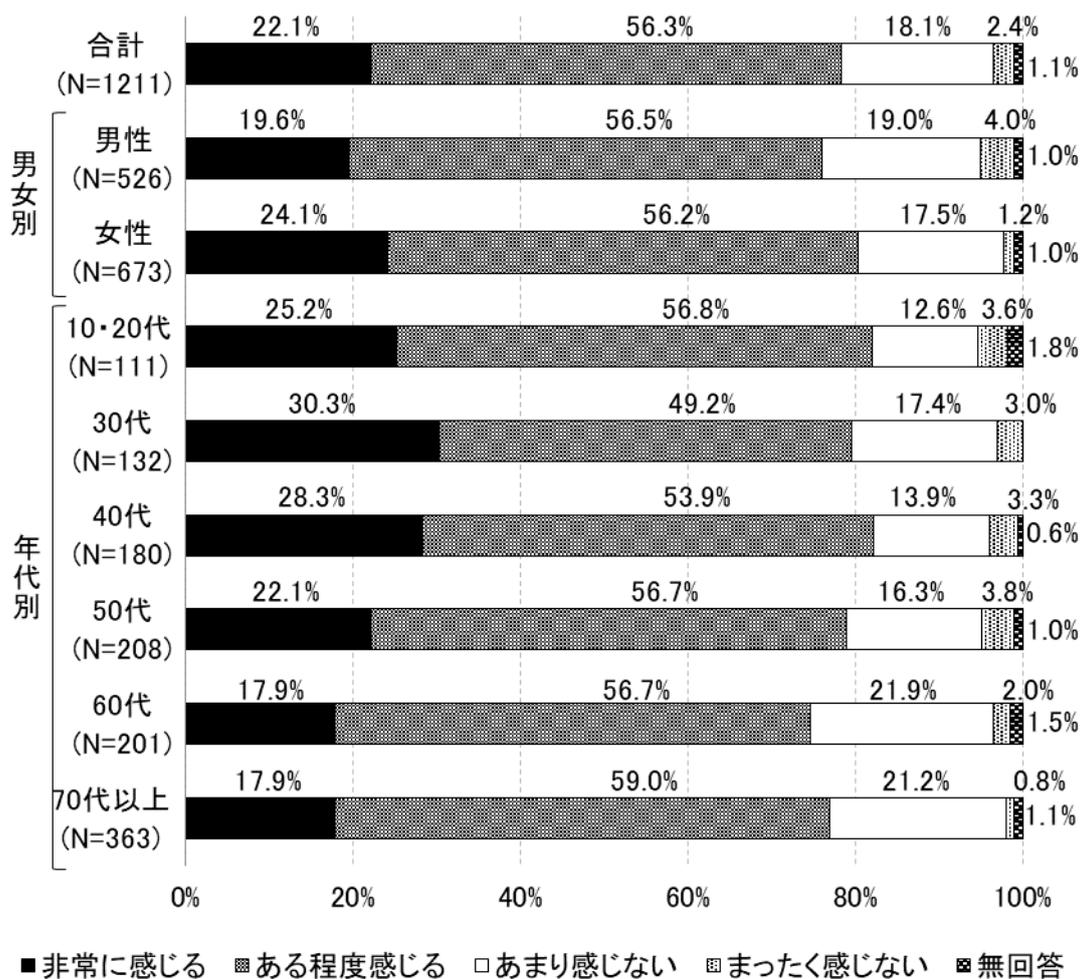


図74 Q33 新型コロナへの感染不安

Q34 の社会全体に対する不満度に関して、男女別・年代別のすべての層で「不満」または「やや不満」と回答した人の割合が2割以上である。年代別で見ると、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合は40代が41.7%と最も高く、反対に70代以上が25.9%と最も低い（図75）。

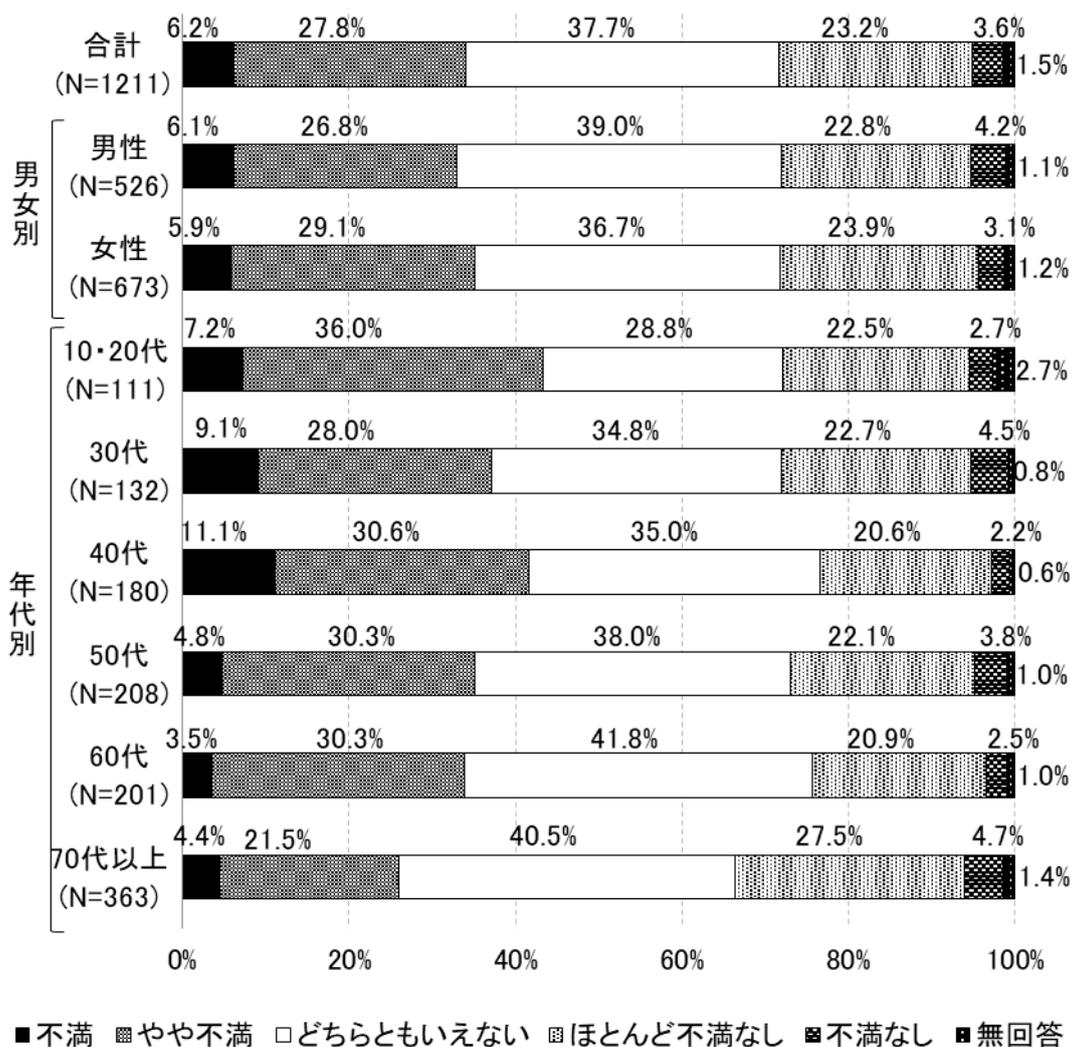


図 75 Q34 社会全体に対する不満度

Q35の年間の自殺者数の認知度に関して、男女別・年代別のすべての層で「知っている」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「知っている」と回答した人の割合は40代が78.3%と最も高く、反対に50代が68.3%と最も低い（図76）。

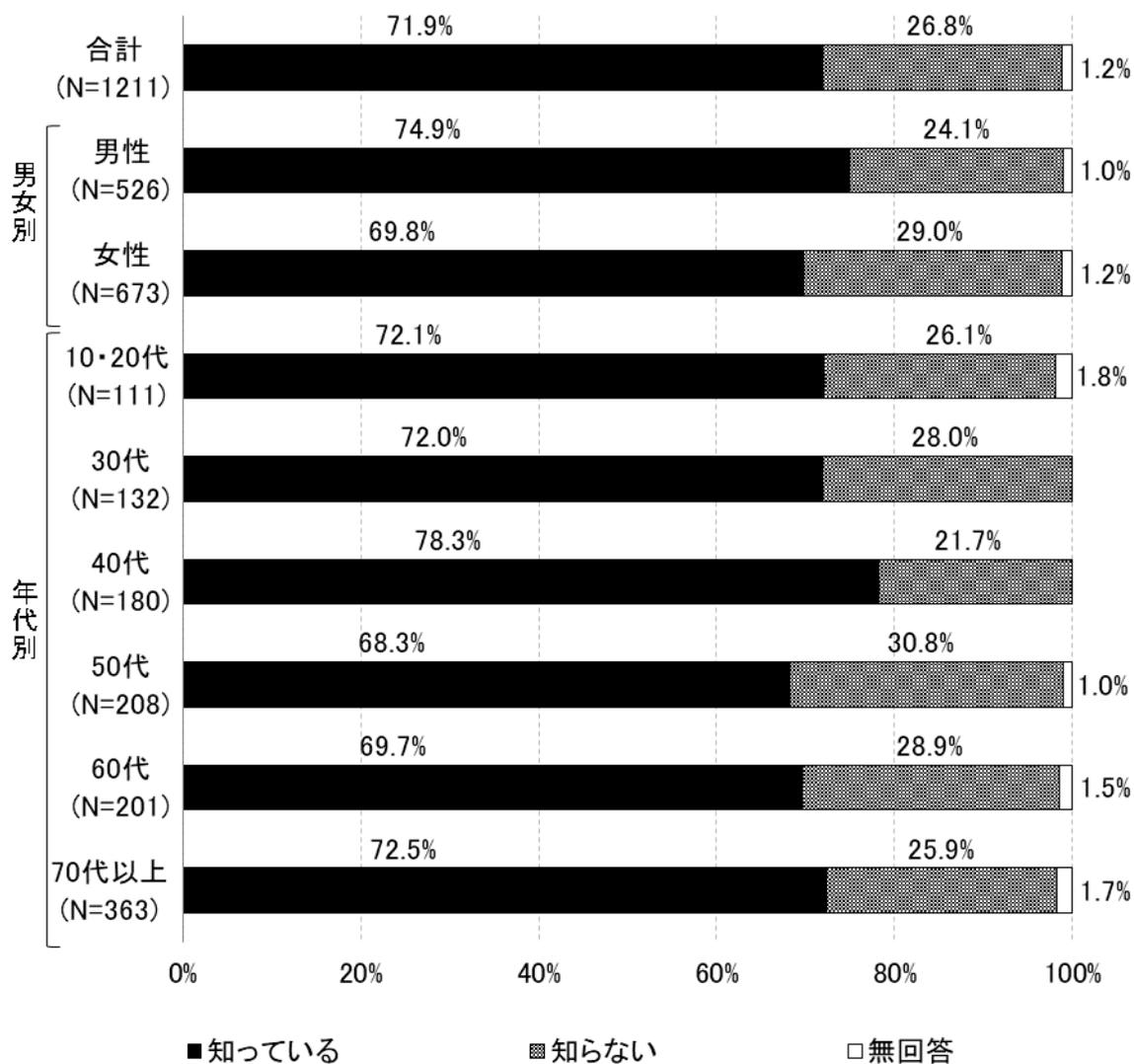


図 76 Q35 年間の自殺者数の認知度

Q36の自殺に関する相談機関の認知度に関して、男女別・年代別のすべての層で「知っている」と回答した人が5割以上である。年代別で見ると、「知っている」と回答した人の割合は10・20代が83.8%と最も高く、反対に70代以上が59.5%と最も低い(図77)。

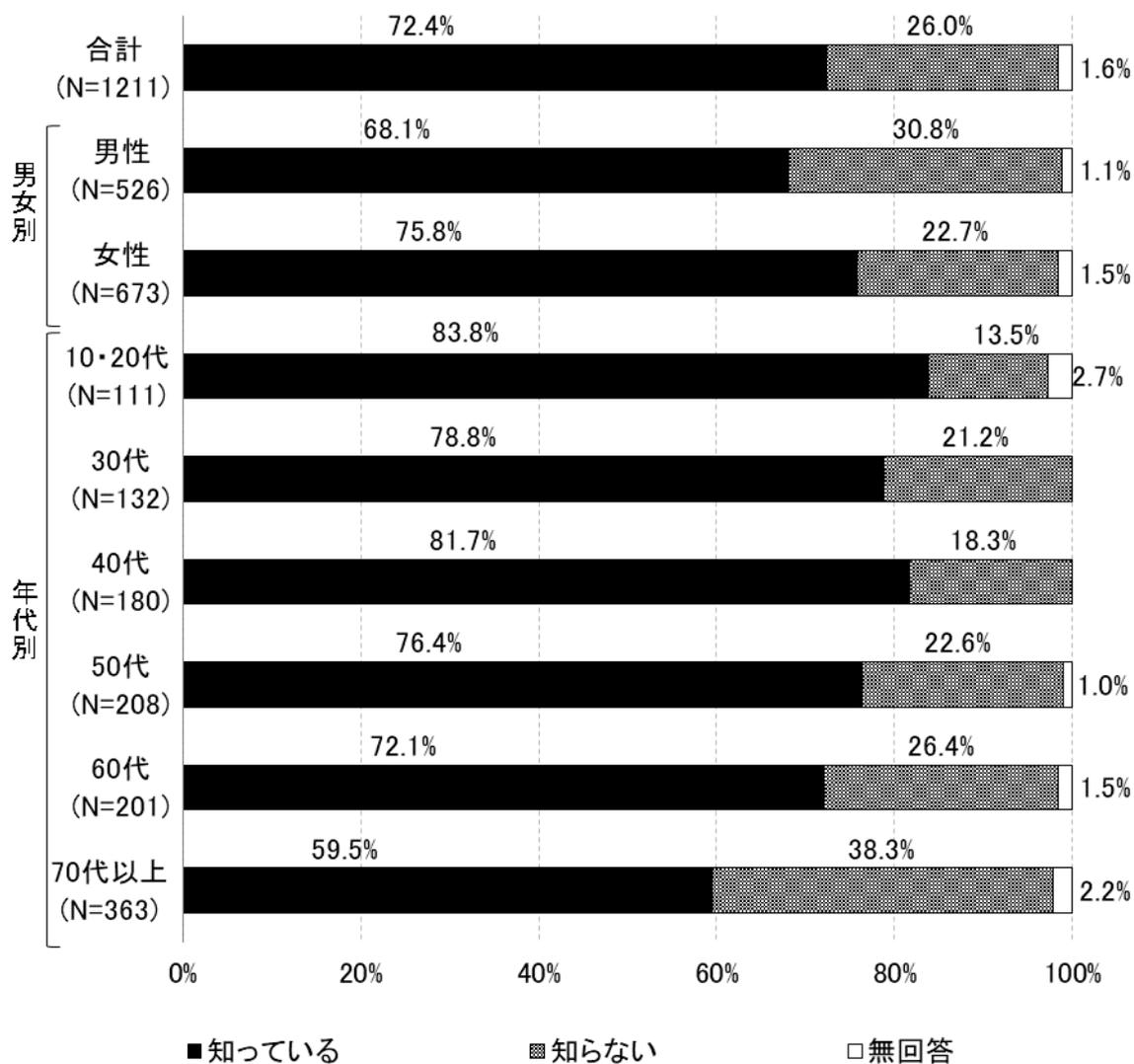


図 77 Q36 自殺に関する相談機関の認知度

Q37 の本気で自殺を考えたことがあるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「ない」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「ない」と回答した人の割合は70代以上が84.6%と最も高く、反対に40代が75.6%と最も低い（図78）。

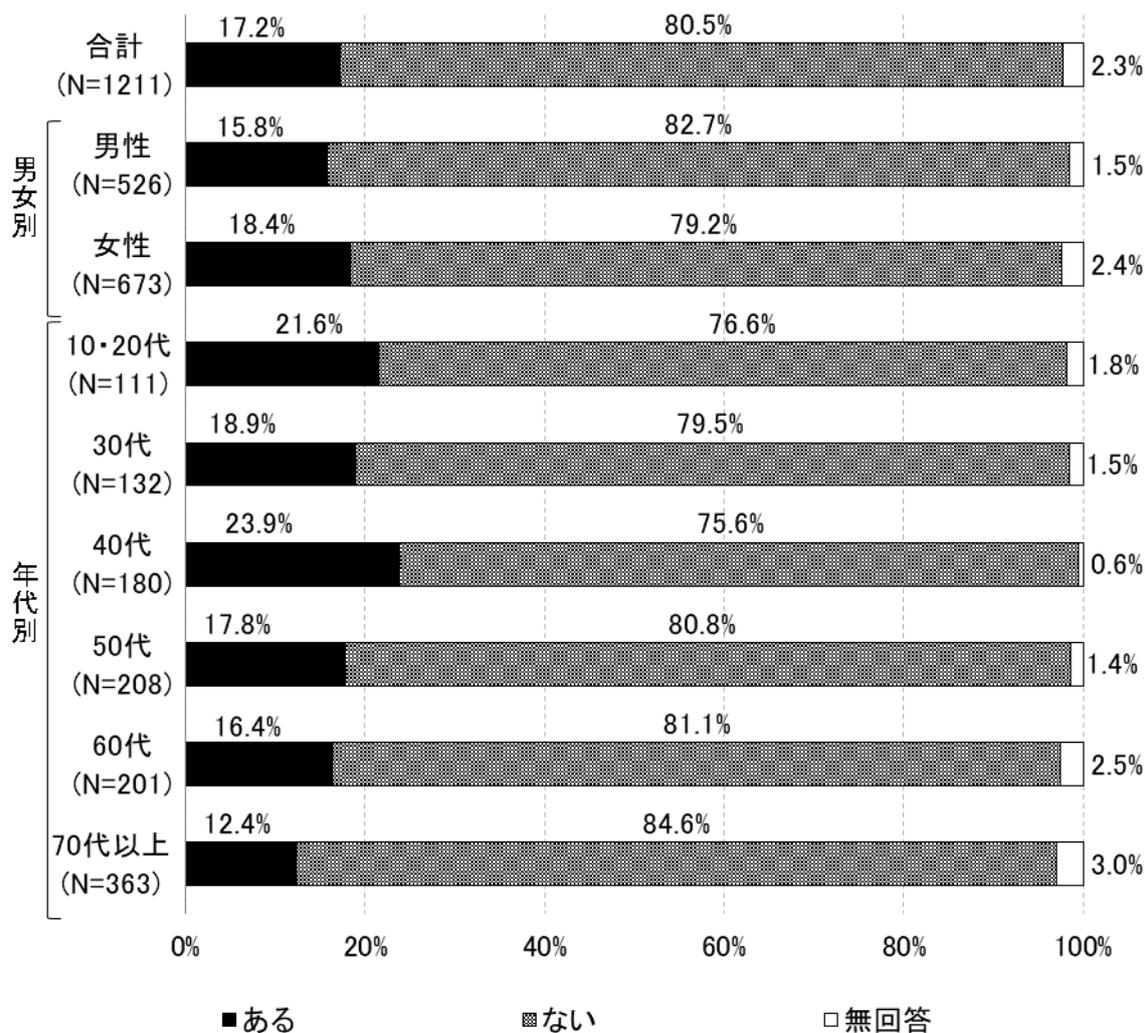


図78 Q37 本気で自殺を考えたことがあるか

Q38の「死にたい」と打ち明けられたときの対応に関して、「耳を傾けて聞く」が57.7%で最も高く、「共感を示す」が44.6%と続く（図79）。

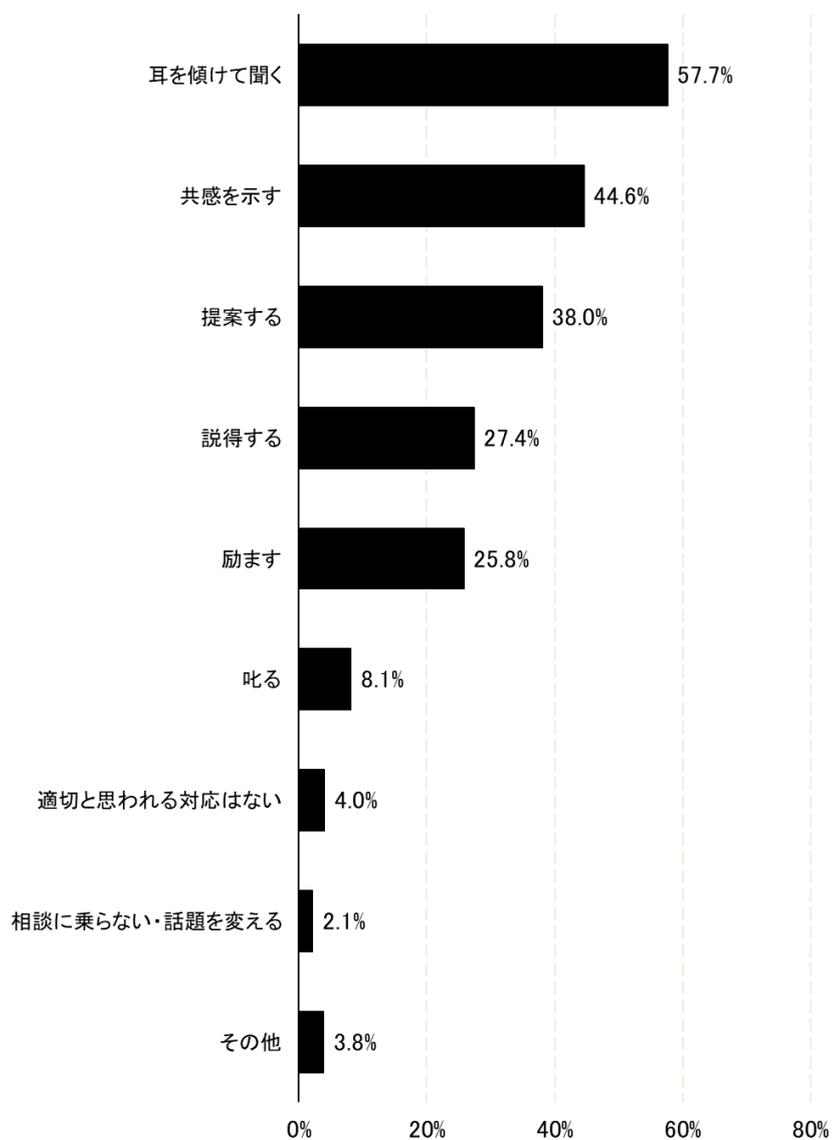


図79 Q38 「死にたい」と打ち明けられたときの対応（複数回答・全体 N=1211）

Q38の「死にたい」と打ち明けられたときの対応に関して、男女別で見ると、「共感を示す」は男女で差があり、男性よりも女性の方が20.1ポイント高い（図80）。

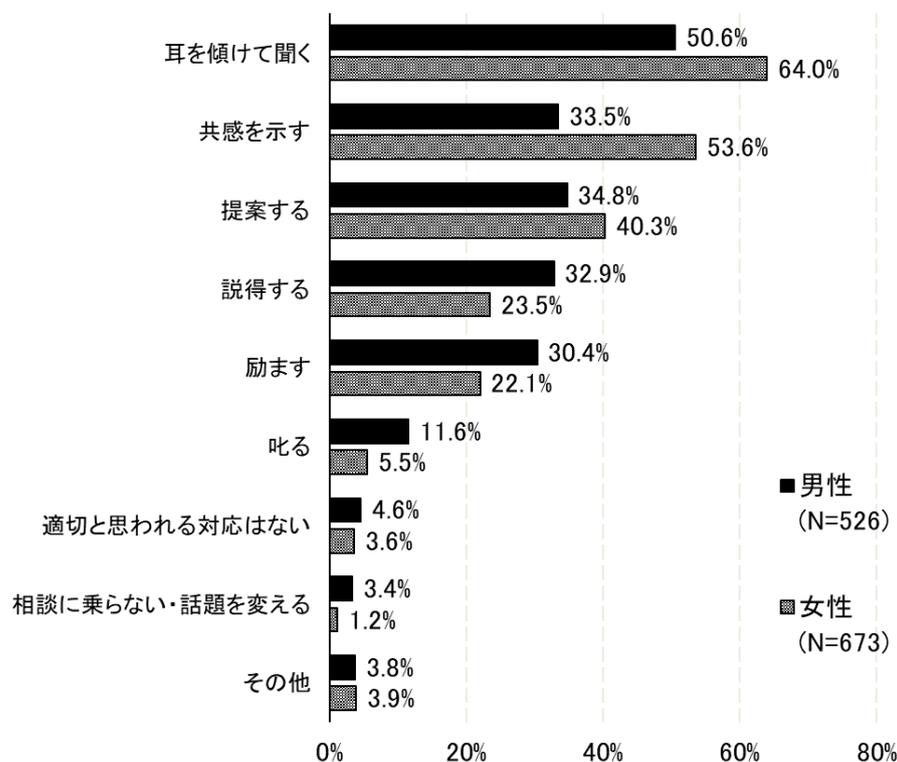


図 80 「死にたい」と打ち明けられたときの対応（複数回答・男女別）

Q38の「死にたい」と打ち明けられたときの対応に関して、年代別で見ると、「耳を傾けて聞く」は年代で差があり、40代が72.8%と最も高く、反対に70代以上は38.3%と最も低い(図81)。

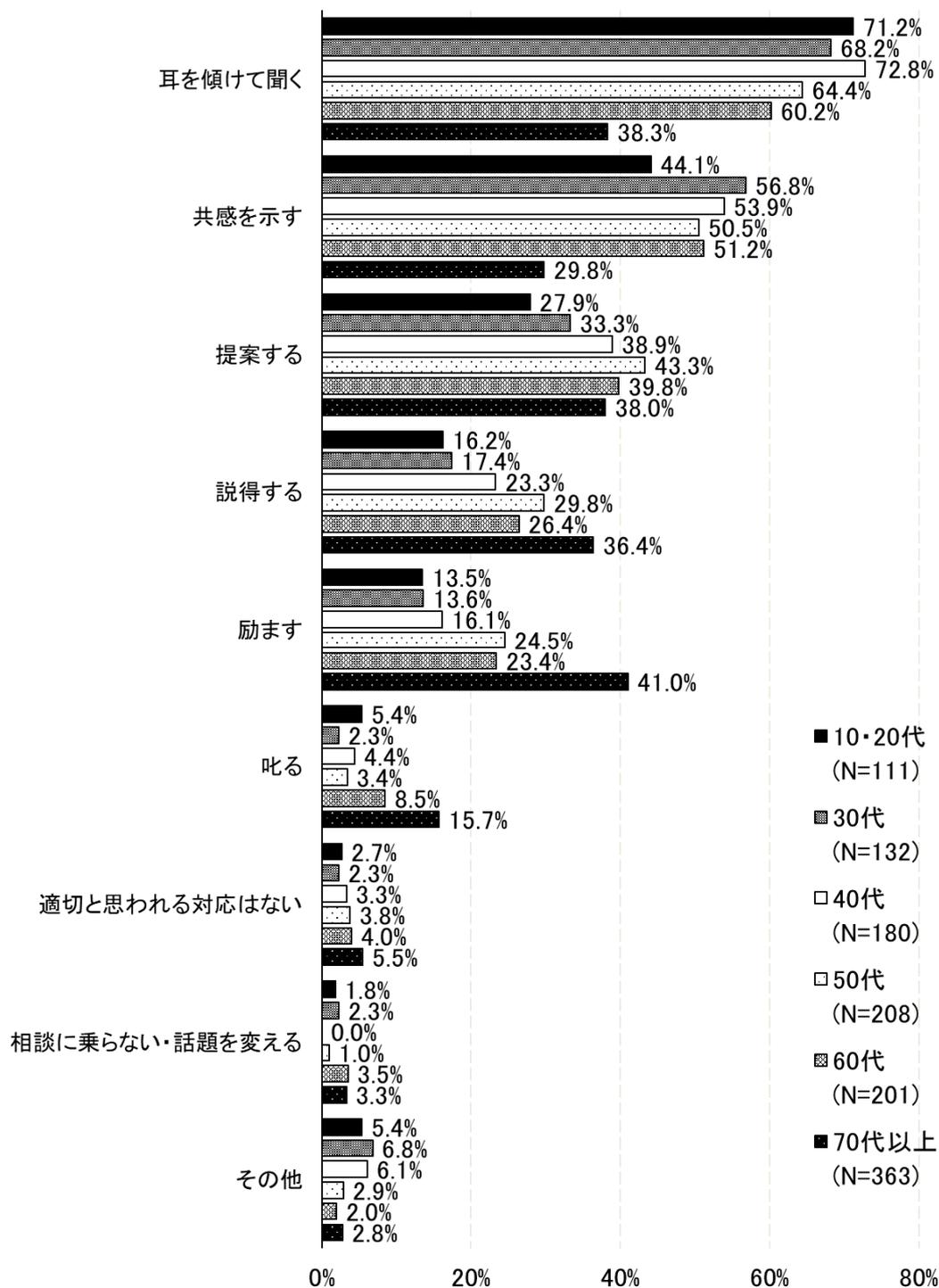


図 81 「死にたい」と打ち明けられたときの対応 (複数回答・年代別)

Q39 の今後求められる自殺対策に関して、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が 43.4%で最も高く、「子どもの自殺予防」が 40.4%と続く（図 82）。

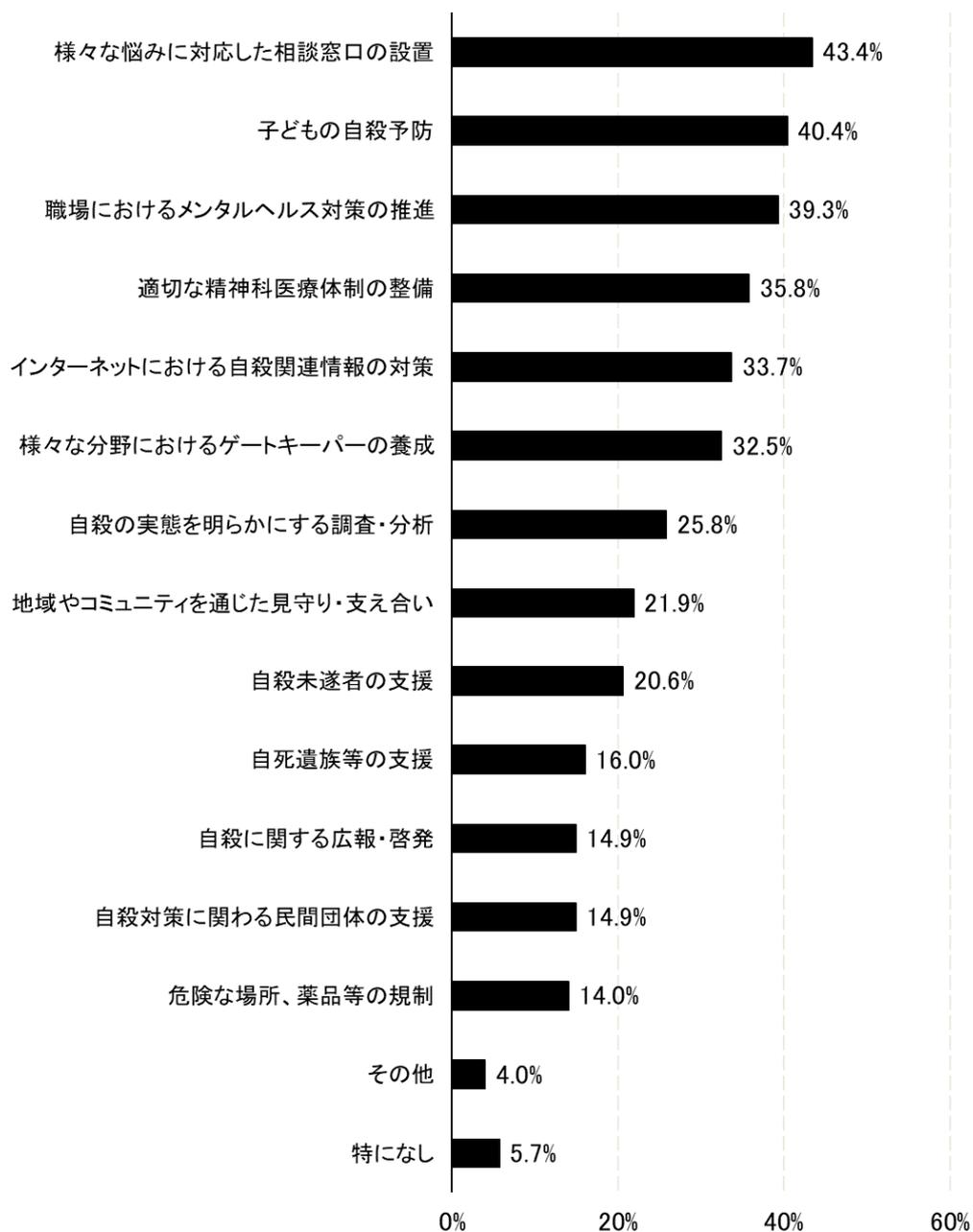


図 82 Q39 今後求められる自殺対策（複数回答・全体 N=1211）

Q39 の今後求められる自殺対策に関して、男女別で見ると、「様々な分野におけるゲートキーパーの育成」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 9.6 ポイント高い（図 83）。

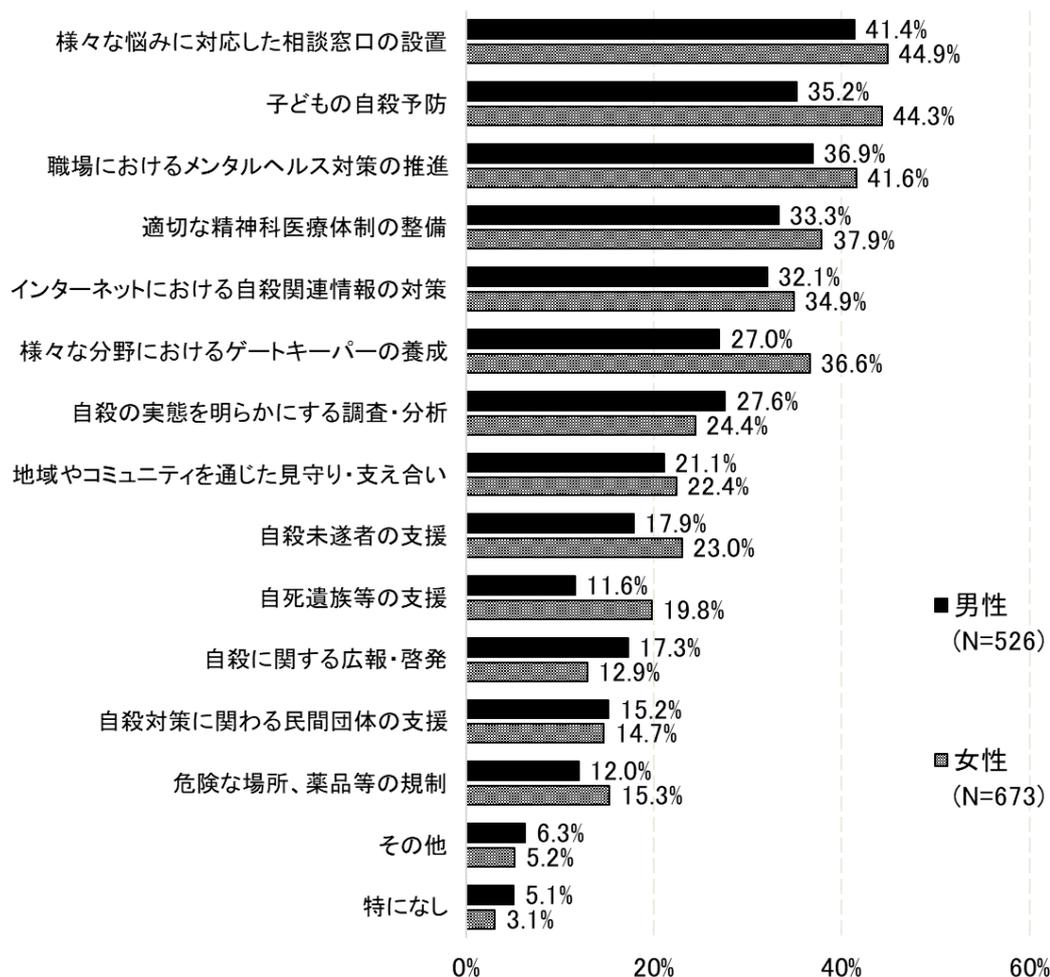


図 83 Q39 今後求められる自殺対策（複数回答・男女別）

Q39の今後求められる自殺対策に関して、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」は年代で差があり、30代が62.1%と最も高く、70代以上は22.9%と最も低い（図84）。

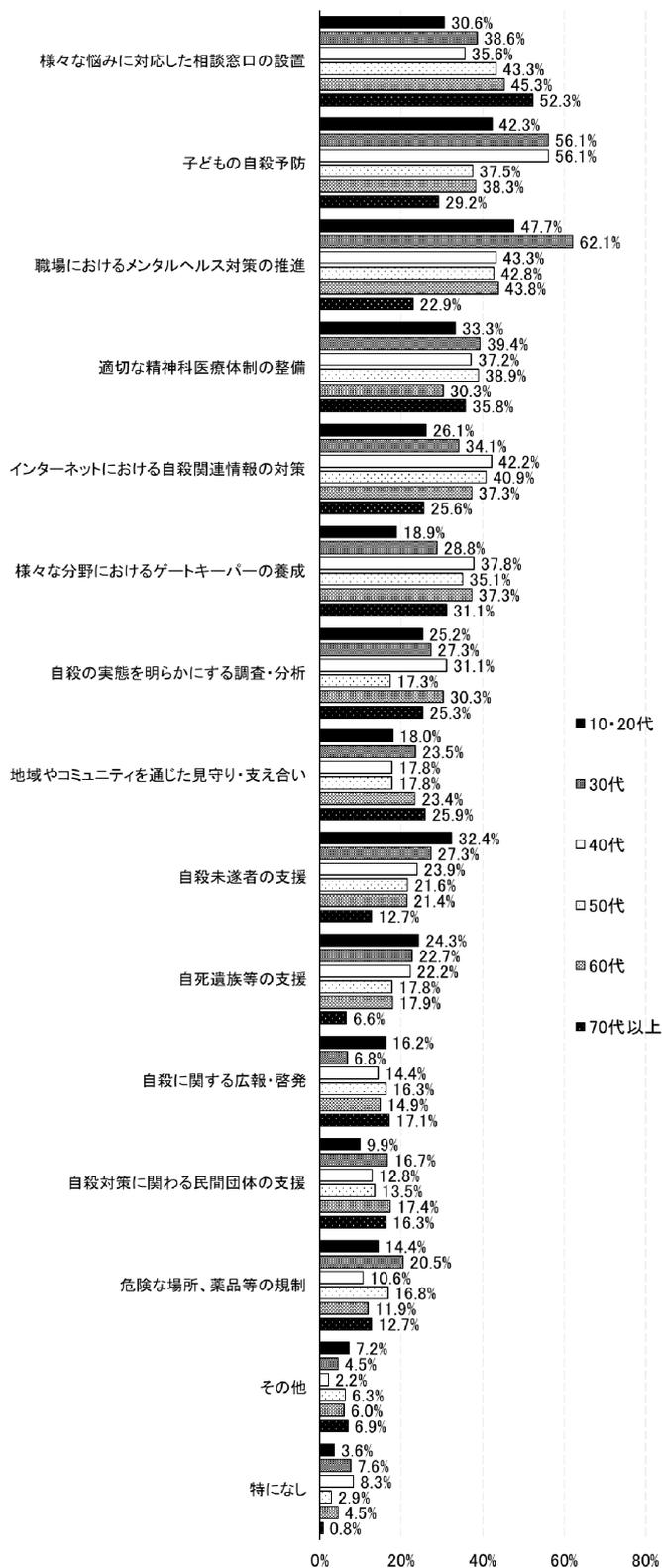


図84 Q39 今後求められる自殺対策（複数回答・年代別）

Q40 の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、「身近な人に悩みを聞いてもらう」が 64.2%で最も高く、「心の健康の専門家に相談する」が 57.0%と続く（図 85）。

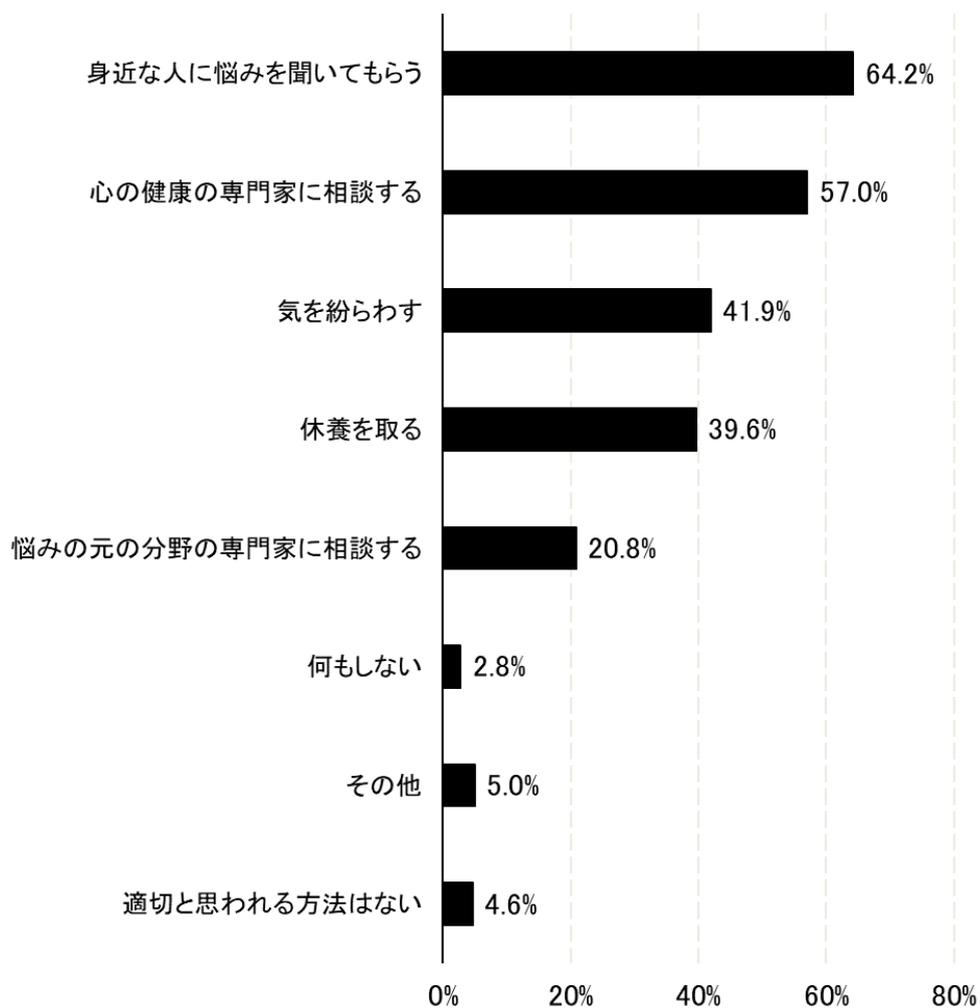


図 85 Q40 自殺したい気持ちを乗り越える方法（複数回答・全体 N=1211）

Q40 の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、男女別で見ると、「休養を取る」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 11.4 ポイント高い（図 86）。

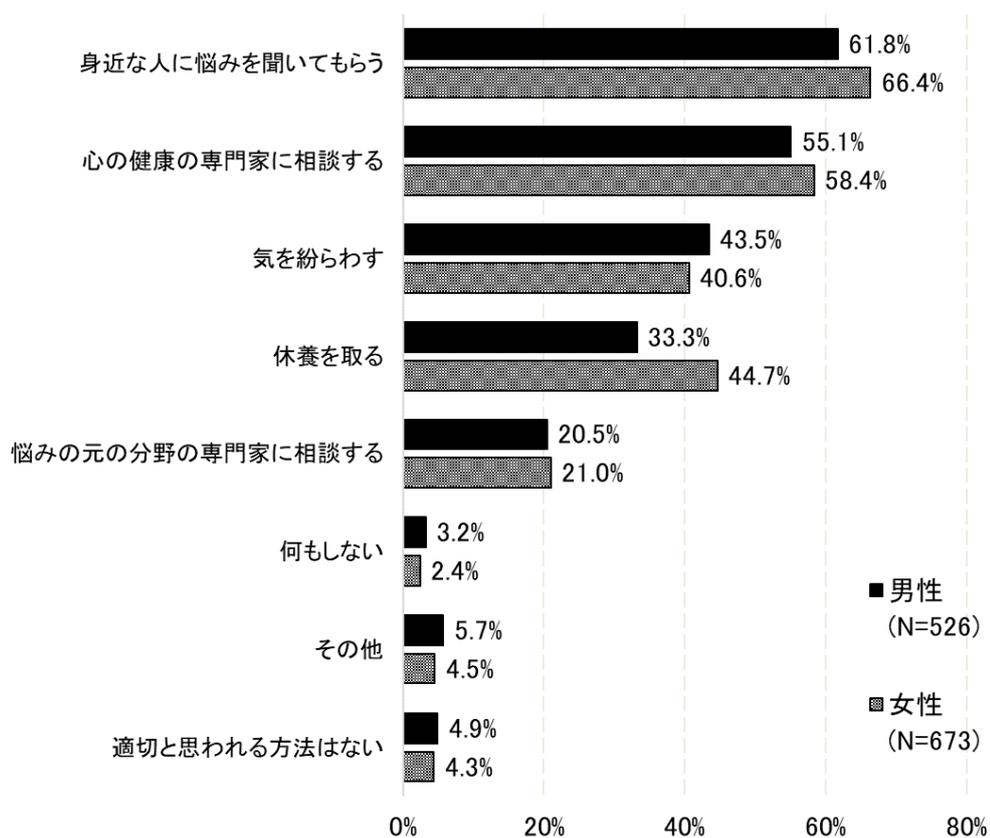


図 86 Q40 自殺したい気持ちを乗り越える方法（複数回答・男女別）

Q40の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、年代別で見ると、「休養を取る」は年代で差があり、30代が63.6%と最も高く、反対に70代以上は29.2%と最も低い(図87)。

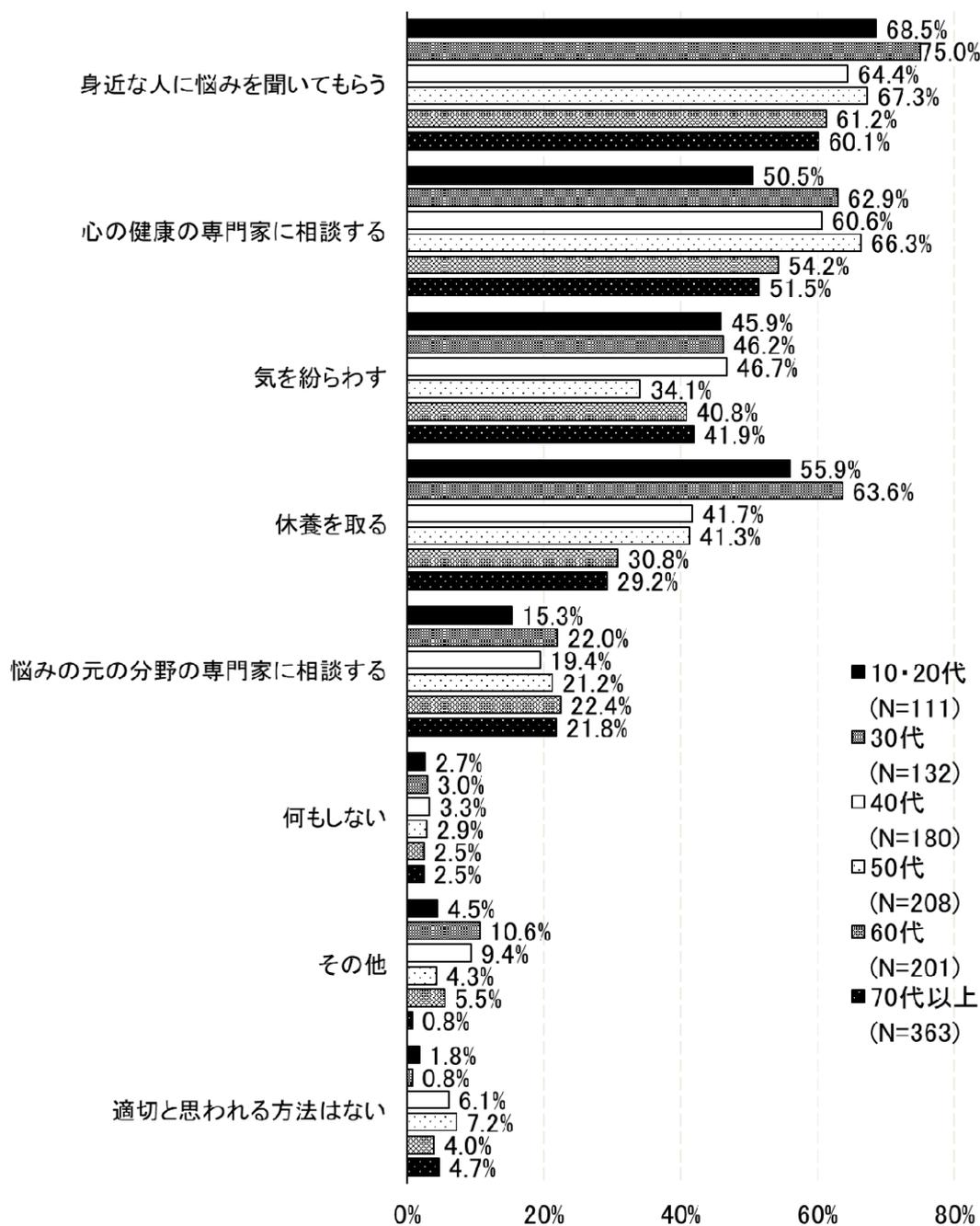


図 87 Q40 自殺したい気持ちを乗り越える方法 (複数回答・年代別)

Q41①の市の仕事のうち良くなってきたものに関して、「公園の整備や自然・緑の保全」が30.9%と最も高く、「駅前の整備、駐車・駐輪対策」が29.3%と続く（図88）。

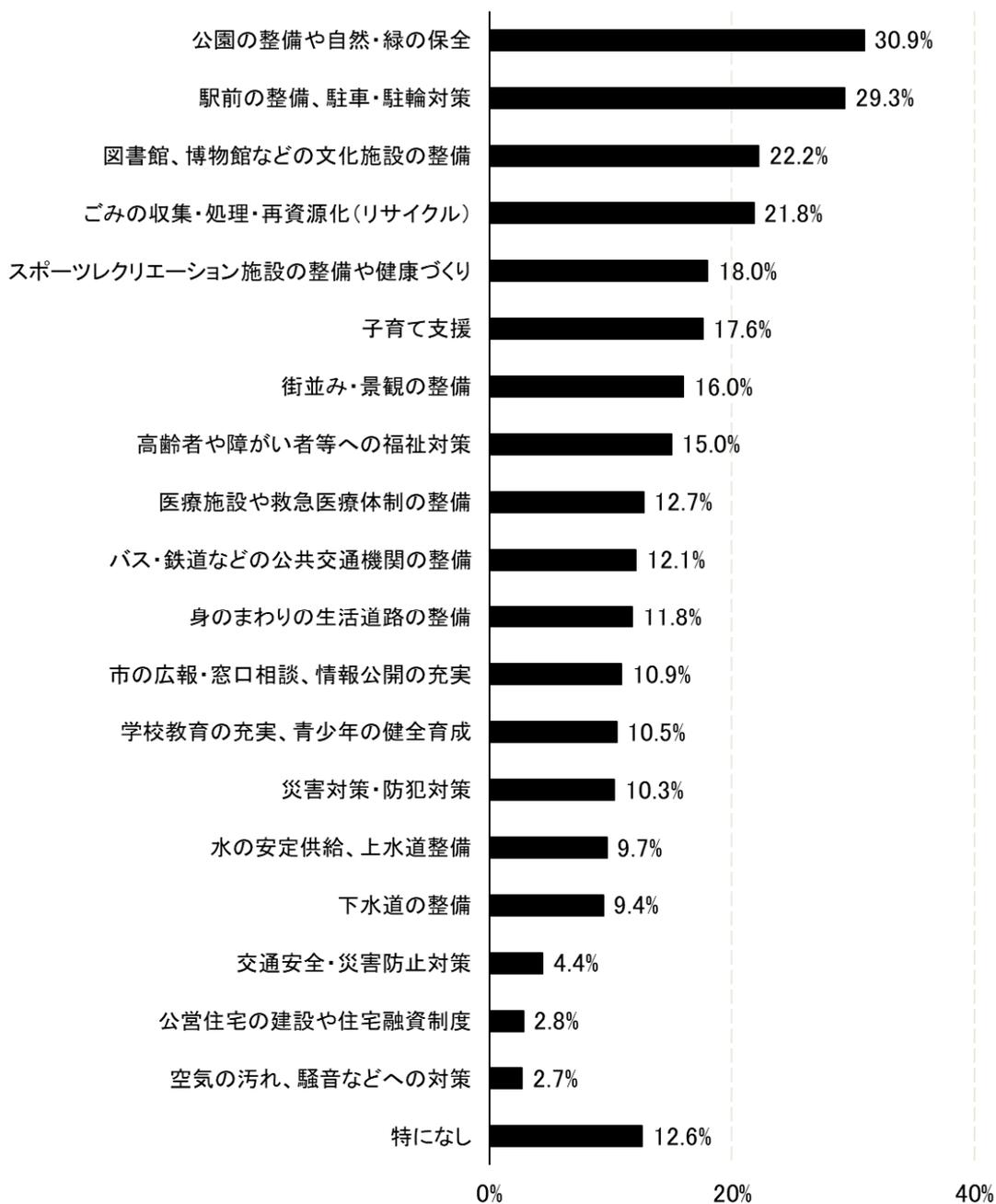


図88 Q41① 市の仕事のうち良くなってきたもの（複数回答・全体 N=1211）

Q41①の市の仕事のうち良くなってきたものに関して、男女別で見ると、「駅前の整備、駐車・駐輪対策」では、男性よりも女性の方が4.0ポイント高い（図89）。

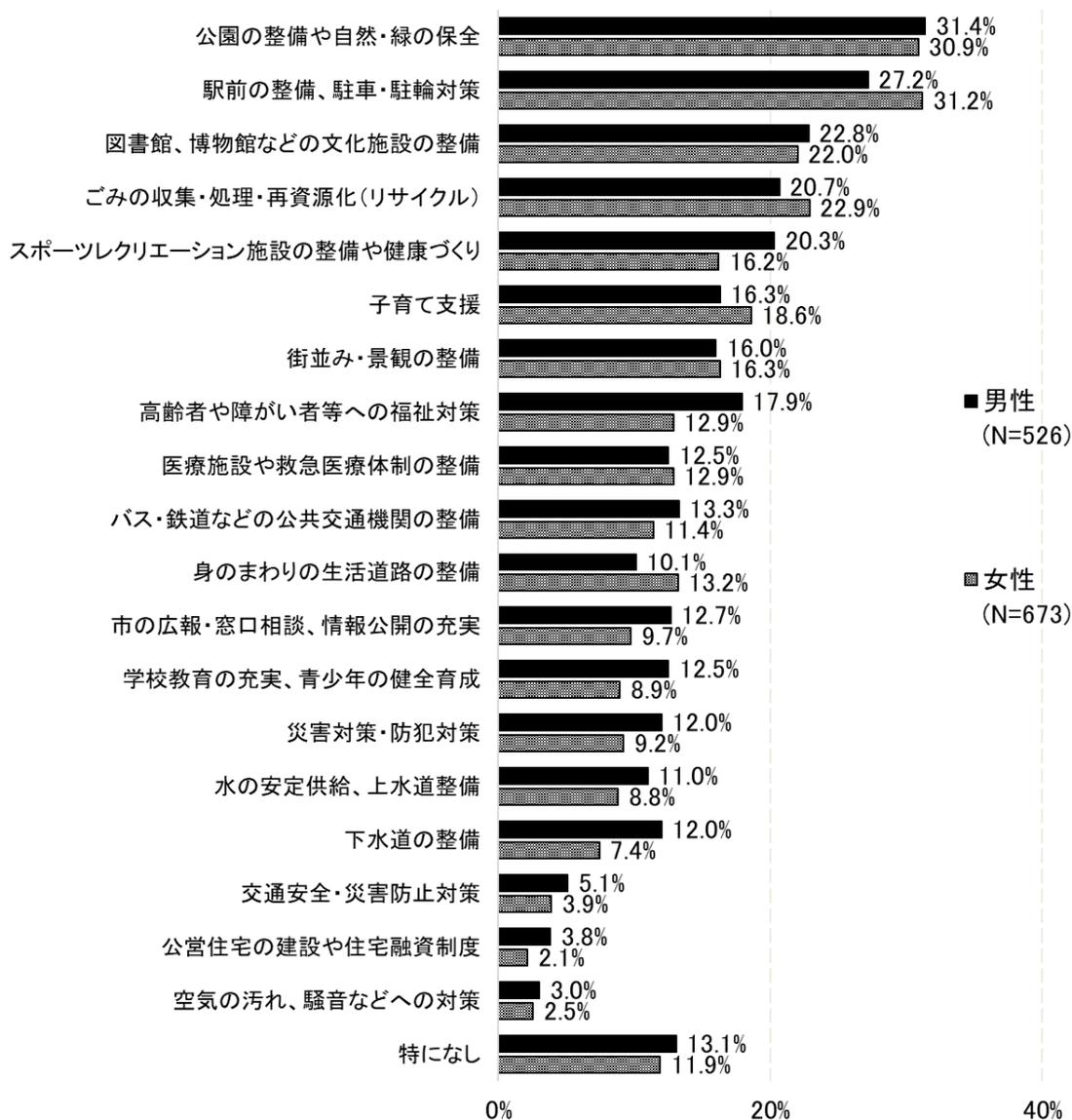


図 89 Q41① 市の仕事のうち良くなってきたもの（複数回答・男女別）

Q41①の市の仕事のうち良くなってきたものに関して、年代別で見ると、「ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）」は、70代以上では3割程度であるが、40代以下では1割程度である（表5、図90）。

表5 Q41①市の仕事のうち良くなってきたもの（複数回答・年代別）

	(%)						
	公園の整備や自然・緑の保全	駅前の整備、駐車・駐輪対策	図書館、博物館などの文化施設の整備	ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）	スポーツレクリエーション施設の整備や健康づくり	子育て支援	街並み・景観の整備
10・20代 (N=111)	34.2	23.4	15.3	11.7	13.5	15.3	22.5
30代 (N=132)	26.5	25.0	25.8	10.6	13.6	22.7	19.7
40代 (N=180)	36.7	33.9	21.7	14.4	17.2	25.6	21.1
50代 (N=280)	29.8	26.0	23.6	21.6	15.9	16.3	15.9
60代 (N=201)	27.4	34.8	21.9	21.4	19.4	16.4	14.4
70代以上 (N=363)	31.7	29.2	22.9	33.3	21.8	13.8	11.6

	高齢者や障がい者等への福祉対策	医療施設や救急医療体制の整備	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	身のまわりの生活道路の整備	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	学校教育の充実、青少年の健全育成	災害対策・防犯対策
10・20代 (N=111)	11.7	10.8	11.7	18.9	8.1	11.7	11.7
30代 (N=132)	7.6	13.6	9.8	16.7	5.3	12.1	9.1
40代 (N=180)	12.2	8.9	10.6	11.7	7.8	10.6	10.6
50代 (N=280)	13.5	11.5	10.6	10.6	9.1	8.7	8.7
60代 (N=201)	13.9	11.4	8.5	10.0	10.4	8.5	9.5
70代以上 (N=363)	21.8	16.3	17.4	9.9	17.1	11.6	11.8

	水の安定供給、上水道整備	下水道の整備	交通安全・災害防止対策	公営住宅の建設や住宅融資制度	空気の汚れ、騒音などへの対策	特になし
10・20代 (N=111)	2.7	3.6	2.7	2.7	2.7	17.1
30代 (N=132)	8.3	6.1	4.5	3.0	1.5	16.7
40代 (N=180)	5.6	6.7	2.2	1.7	2.2	12.2
50代 (N=280)	9.6	8.2	3.8	2.9	2.4	16.8
60代 (N=201)	9.0	9.5	4.0	2.5	3.0	11.9
70代以上 (N=363)	14.9	14.0	6.3	3.6	3.3	7.4

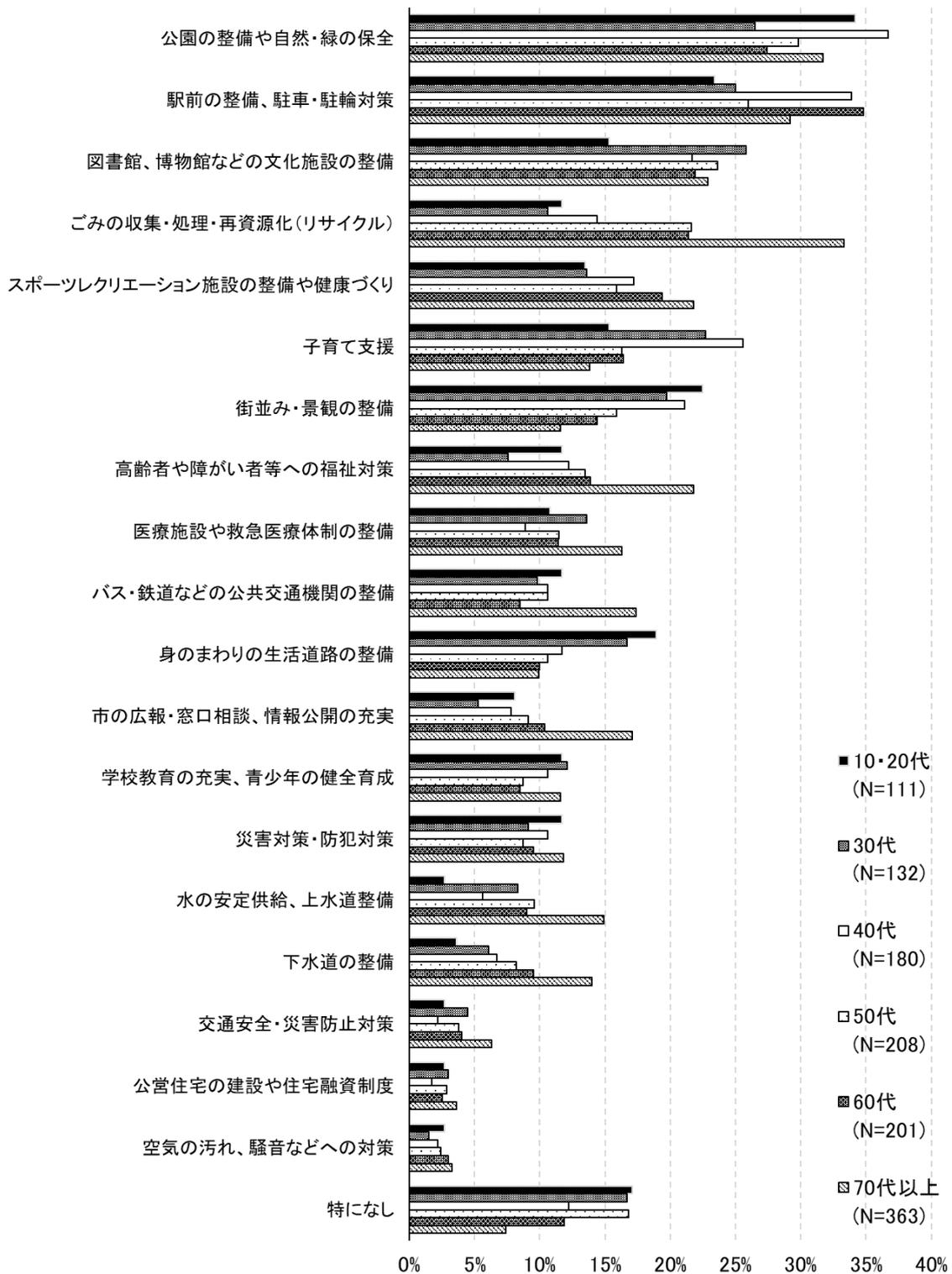


図 90 Q41① 市の仕事のうち良くなってきたもの（複数回答・年代別）

Q41①の市の仕事のうち良くなってきたものに関して、居住地域別で見ると、「図書館、博物館などの文化施設の整備」は、高槻北地区では32.5%と最も高く、五領地区では9.6%と最も低い（表6、図91）。

表6 Q41①市の仕事のうち良くなってきたもの（複数回答・居住地域別）

	公園の整備や自然・緑の保全	駅前の整備、駐車・駐輪対策	図書館、博物館などの文化施設の整備	ごみの収集・処理・再資源化(リサイクル)	スポーツレクリエーション施設の整備や健康づくり	子育て支援	街並み・景観の整備	(%)
高槻北地区(N=326)	35.3	36.5	32.5	23.0	22.4	23.3	19.6	
高槻南地区(N=314)	34.4	29.9	19.4	24.5	16.2	16.2	17.5	
五領地区(N=52)	26.9	25.0	9.6	15.4	15.4	9.6	9.6	
高槻西地区(N=205)	29.3	24.9	21.5	19.0	13.2	17.6	13.7	
如是・富田地区(N=242)	24.8	25.2	18.2	21.1	17.8	14.5	14.0	
三箇牧地区(N=25)	20.0	24.0	12.0	24.0	16.0	16.0	8.0	

	高齢者や障がい者等への福祉対策	医療施設や救急医療体制の整備	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	身のまわりの生活道路の整備	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	学校教育の充実、青少年の健全育成	災害対策・防犯対策
高槻北地区(N=326)	16.9	13.8	15.6	12.3	12.3	12.0	9.8
高槻南地区(N=314)	10.2	13.4	12.7	12.7	12.1	11.5	11.5
五領地区(N=52)	5.8	11.5	9.6	7.7	5.8	9.6	5.8
高槻西地区(N=205)	19.0	10.2	6.3	12.7	11.7	8.8	10.2
如是・富田地区(N=242)	16.5	12.0	14.0	9.9	8.7	9.1	11.2
三箇牧地区(N=25)	20.0	20.0	8.0	24.0	12.0	8.0	16.0

	水の安定供給、上水道整備	下水道の整備	交通安全・災害防止対策	公営住宅の建設や住宅融資制度	空気の汚れ、騒音などへの対策	特になし
高槻北地区(N=326)	10.4	8.6	5.8	1.5	3.1	6.4
高槻南地区(N=314)	11.5	7.6	4.1	2.5	2.9	13.4
五領地区(N=52)	5.8	19.2	3.8	0.0	0.0	17.3
高槻西地区(N=205)	7.3	8.8	3.9	2.9	2.9	13.2
如是・富田地区(N=242)	10.7	9.9	3.3	4.1	2.1	15.7
三箇牧地区(N=25)	8.0	16.0	8.0	12.0	8.0	16.0

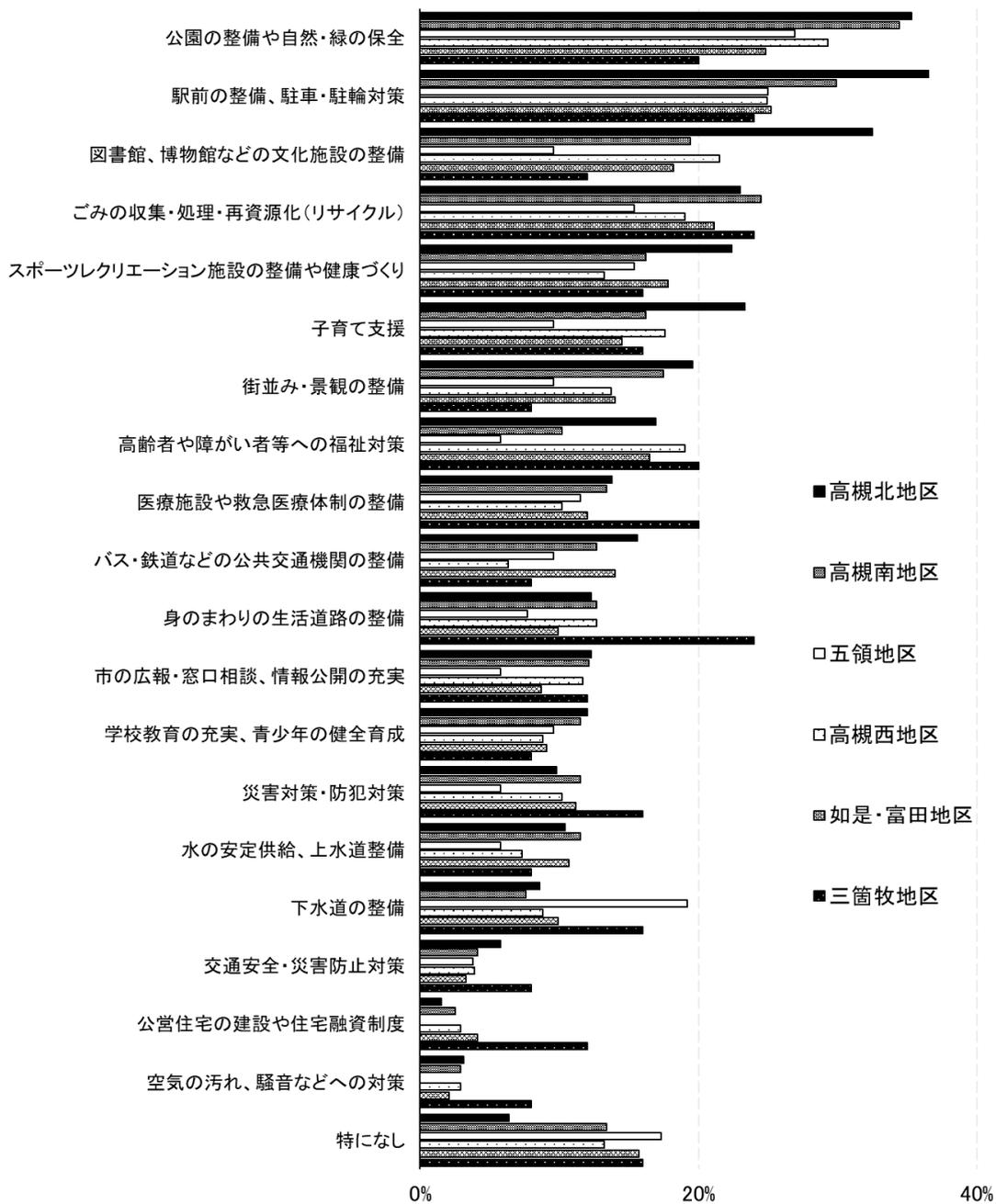


図 91 Q41① 市の仕事のうち良くなってきたもの（複数回答・居住地域別）

Q41①の市の仕事のうち良くなってきたものに関して、居住年数別で見ると、「ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）」は1年未満では4%であるが、1年以上では10%を超え、40年以上では約3割となる（表7、図92）。

表7 Q41①市の仕事のうち良くなってきたもの（複数回答・居住年数別）

	公園の整備や自然・緑の保全	駅前の整備、駐車・駐輪対策	図書館、博物館などの文化施設の整備	ごみの収集・処理・再資源化(リサイクル)	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	子育て支援	街並み・景観の整備
1年未満 (N=25)	24.0	20.0	8.0	4.0	8.0	20.0	4.0
1年以上3年未満 (N=46)	23.9	10.9	8.7	13.0	13.0	8.7	19.6
3年以上5年未満 (N=36)	38.9	16.7	22.2	27.8	22.2	27.8	8.3
5年以上10年未満 (N=73)	37.0	24.7	27.4	16.4	9.6	23.3	27.4
10年以上20年未満 (N=171)	25.7	26.3	21.1	14.0	13.5	19.3	20.5
20年以上30年未満 (N=188)	34.0	35.1	19.7	20.7	18.1	15.4	19.1
30年以上40年未満 (N=206)	28.6	29.1	26.7	19.4	20.4	17.5	18.0
40年以上50年未満 (N=245)	29.4	33.1	24.1	29.0	19.6	17.1	13.5
50年以上 (N=206)	35.9	32.0	21.8	28.2	22.3	17.0	9.7

	高齢者や障がい者等への福祉対策	医療施設や救急医療体制の整備	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	身のまわりの生活道路の整備	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	学校教育の充実、青少年の健全育成	災害対策・防犯対策
1年未満 (N=25)	4.0	12.0	0.0	4.0	0.0	4.0	0.0
1年以上3年未満 (N=46)	4.3	13.0	10.9	10.9	10.9	6.5	10.9
3年以上5年未満 (N=36)	22.2	13.9	16.7	16.7	8.3	16.7	16.7
5年以上10年未満 (N=73)	13.7	13.7	9.6	6.8	11.0	15.1	9.6
10年以上20年未満 (N=171)	10.5	8.8	10.5	14.0	7.6	12.3	13.5
20年以上30年未満 (N=188)	14.9	10.6	9.0	13.8	10.1	9.0	7.4
30年以上40年未満 (N=206)	18.4	12.6	12.1	14.1	9.7	10.7	9.7
40年以上50年未満 (N=245)	15.9	13.5	13.5	10.2	13.5	8.6	11.4
50年以上 (N=206)	17.5	16.5	17.5	10.7	15.0	10.7	10.7

	水の安定供給、上水道整備	下水道の整備	交通安全・災害防止対策	公営住宅の建設や住宅融資制度	空気の汚れ、騒音などへの対策	特になし
1年未満 (N=25)	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	12.0
1年以上3年未満 (N=46)	6.5	2.2	4.3	4.3	0.0	26.1
3年以上5年未満 (N=36)	11.1	8.3	8.3	8.3	5.6	5.6
5年以上10年未満 (N=73)	5.5	5.5	4.1	6.8	2.7	12.3
10年以上20年未満 (N=171)	7.6	4.1	5.3	1.2	3.5	14.0
20年以上30年未満 (N=188)	4.8	6.4	2.7	1.1	1.6	13.8
30年以上40年未満 (N=206)	9.7	9.7	4.4	1.9	2.4	11.2
40年以上50年未満 (N=245)	12.2	11.0	4.5	2.4	2.4	11.0
50年以上 (N=206)	16.5	17.5	5.3	4.4	3.9	10.2

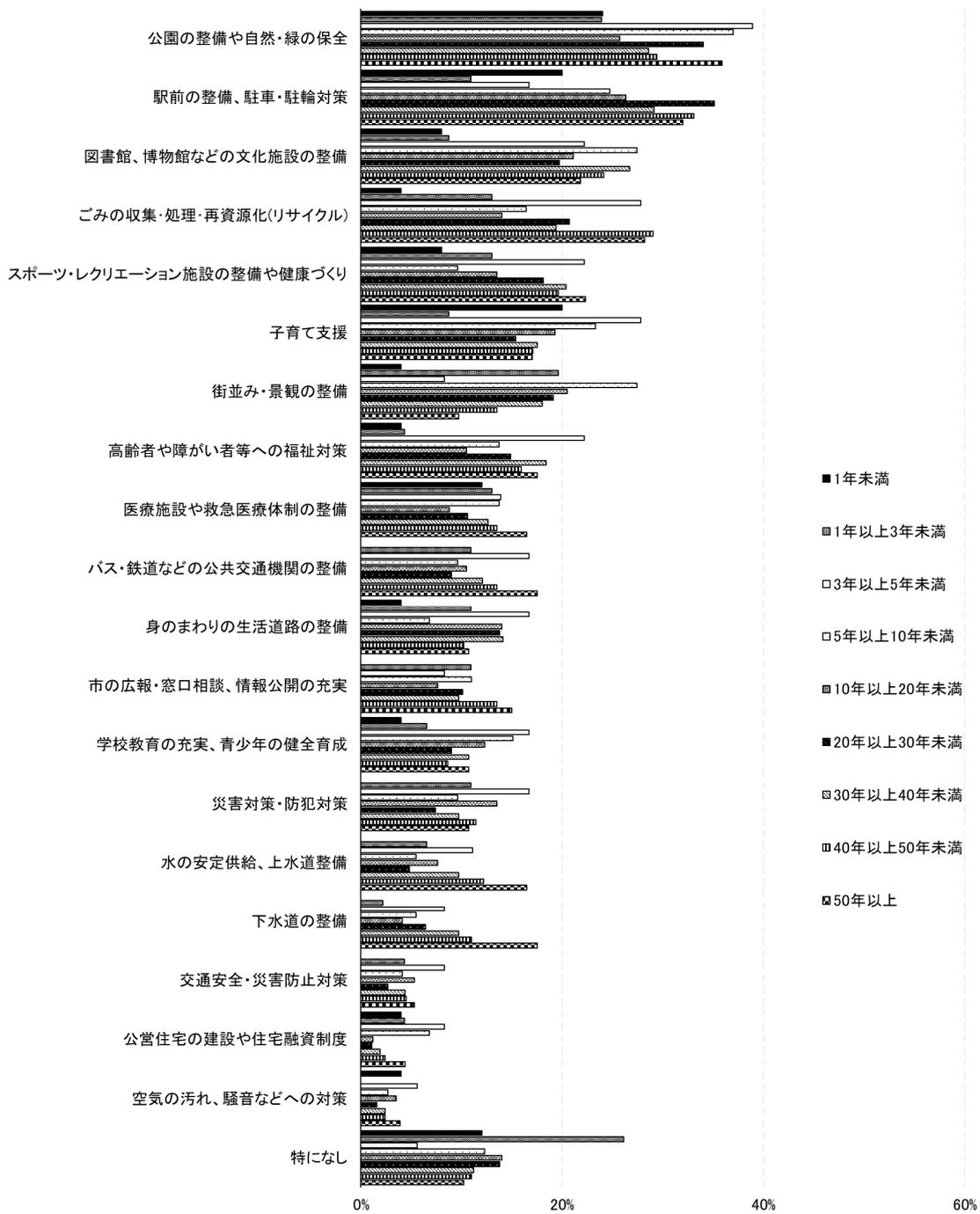


図 92 Q41① 市の仕事のうち良くなってきたもの（複数回答・居住年数別）

Q41②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、「医療施設や救急医療体制の整備」が 34.5%と最も高く、「高齢者や障がい者等への福祉対策」が 24.7%と続く（図 93）。

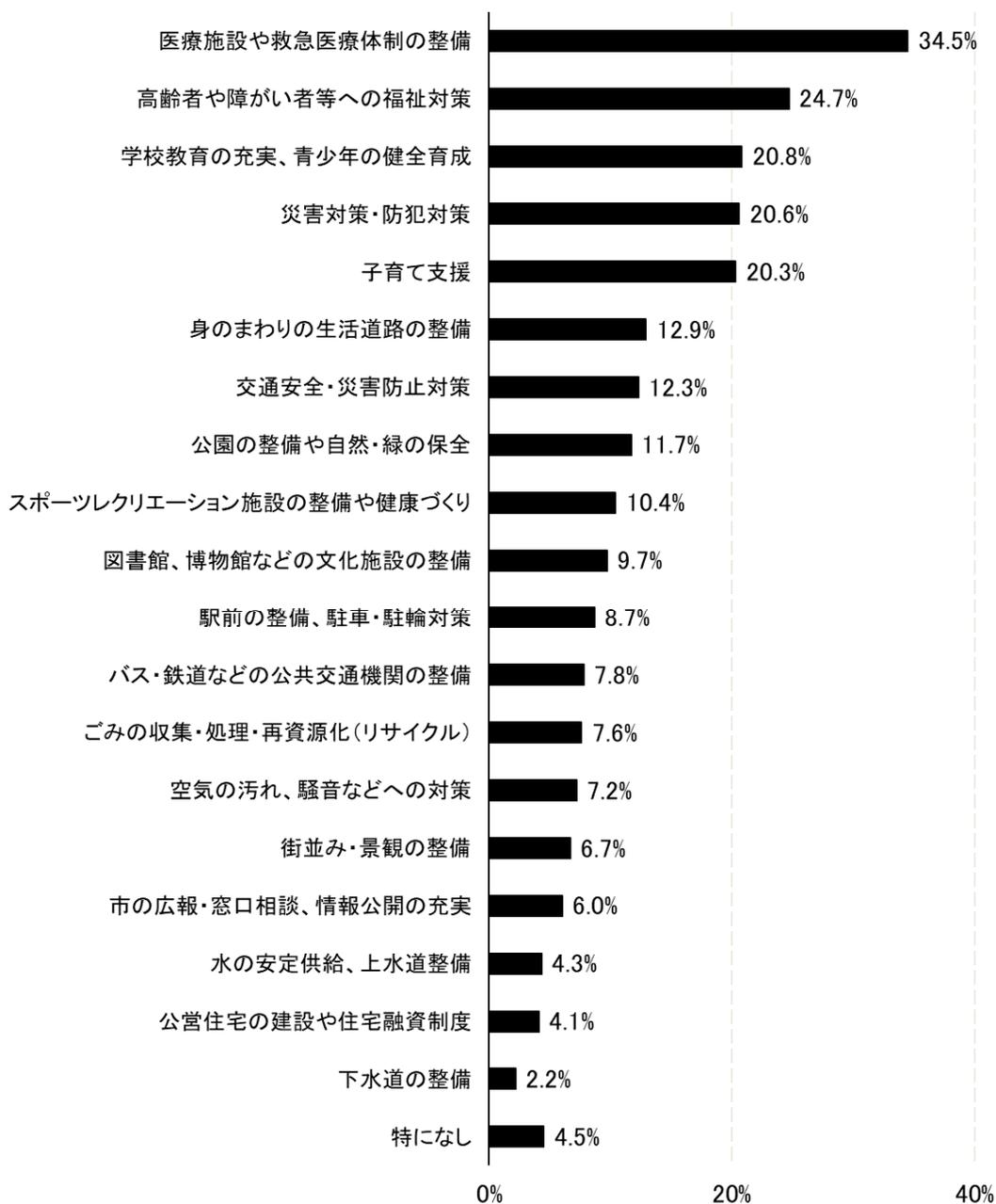


図 93 Q41② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・全体 N=1211）

Q41② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、男女別で見ると、「医療施設や救急医療体制の整備」では、男性よりも女性の方が3.6ポイント高い（図94）。

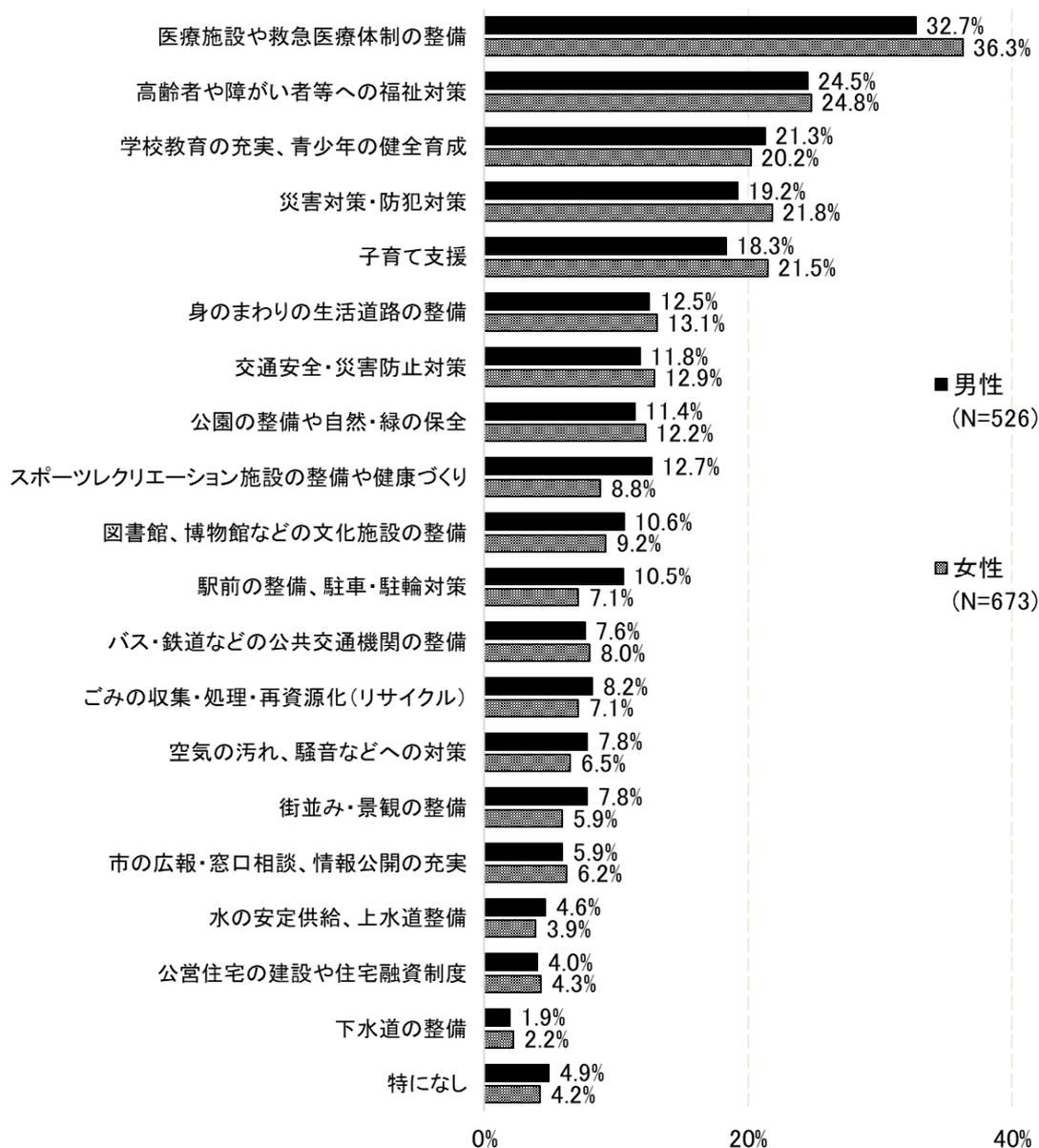


図94 Q41② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・男女別）

Q41② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、年代別で見ると、「高齢者や障がい者等への福祉対策」は年齢が上がるにつれて高くなり、70代以上で最大になる（表8、図95）。

表 8 Q41② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・年代別）

	(%)						
	医療施設や救急医療体制の整備	高齢者や障がい者等への福祉対策	学校教育の充実、青少年の健全育成	災害対策・防犯対策	子育て支援	身のまわりの生活道路の整備	交通安全・災害防止対策
10・20代 (N=111)	23.4	5.4	13.5	18.9	30.6	8.1	10.8
30代 (N=132)	31.1	8.3	34.1	15.9	44.7	13.6	10.6
40代 (N=180)	34.4	16.1	29.4	25.6	32.8	18.9	17.8
50代 (N=280)	37.0	25.5	15.4	29.8	10.1	11.1	12.5
60代 (N=201)	38.8	33.3	21.4	15.9	16.4	11.9	11.4
70代以上 (N=363)	35.8	35.5	16.0	18.2	9.6	12.4	11.3

	公園の整備や自然・緑の保全	スポーツレクリエーション施設の整備や健康づくり	図書館、博物館などの文化施設の整備	駅前の整備、駐車・駐輪対策	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）	空気の汚れ、騒音などへの対策
10・20代 (N=111)	14.4	15.3	14.4	11.7	9.9	6.3	13.5
30代 (N=132)	15.9	12.1	10.6	12.1	10.6	7.6	8.3
40代 (N=180)	11.7	7.2	11.7	5.0	8.9	7.2	8.3
50代 (N=280)	9.1	7.7	8.2	13.5	9.6	7.2	7.7
60代 (N=201)	12.9	11.4	10.9	9.5	8.5	9.5	6.0
70代以上 (N=363)	10.7	11.3	7.7	5.0	4.4	7.4	4.7

	街並み・景観の整備	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	水の安定供給、上水道整備	公営住宅の建設や住宅融資制度	下水道の整備	特になし
10・20代 (N=111)	6.3	4.5	2.7	2.7	2.7	9.9
30代 (N=132)	6.1	3.8	3.8	3.8	1.5	3.8
40代 (N=180)	5.6	3.3	2.8	4.4	2.8	2.2
50代 (N=280)	7.2	7.7	3.8	4.3	1.9	6.3
60代 (N=201)	8.5	7.0	6.0	5.0	0.5	2.5
70代以上 (N=363)	6.6	7.2	4.7	4.1	2.8	4.4

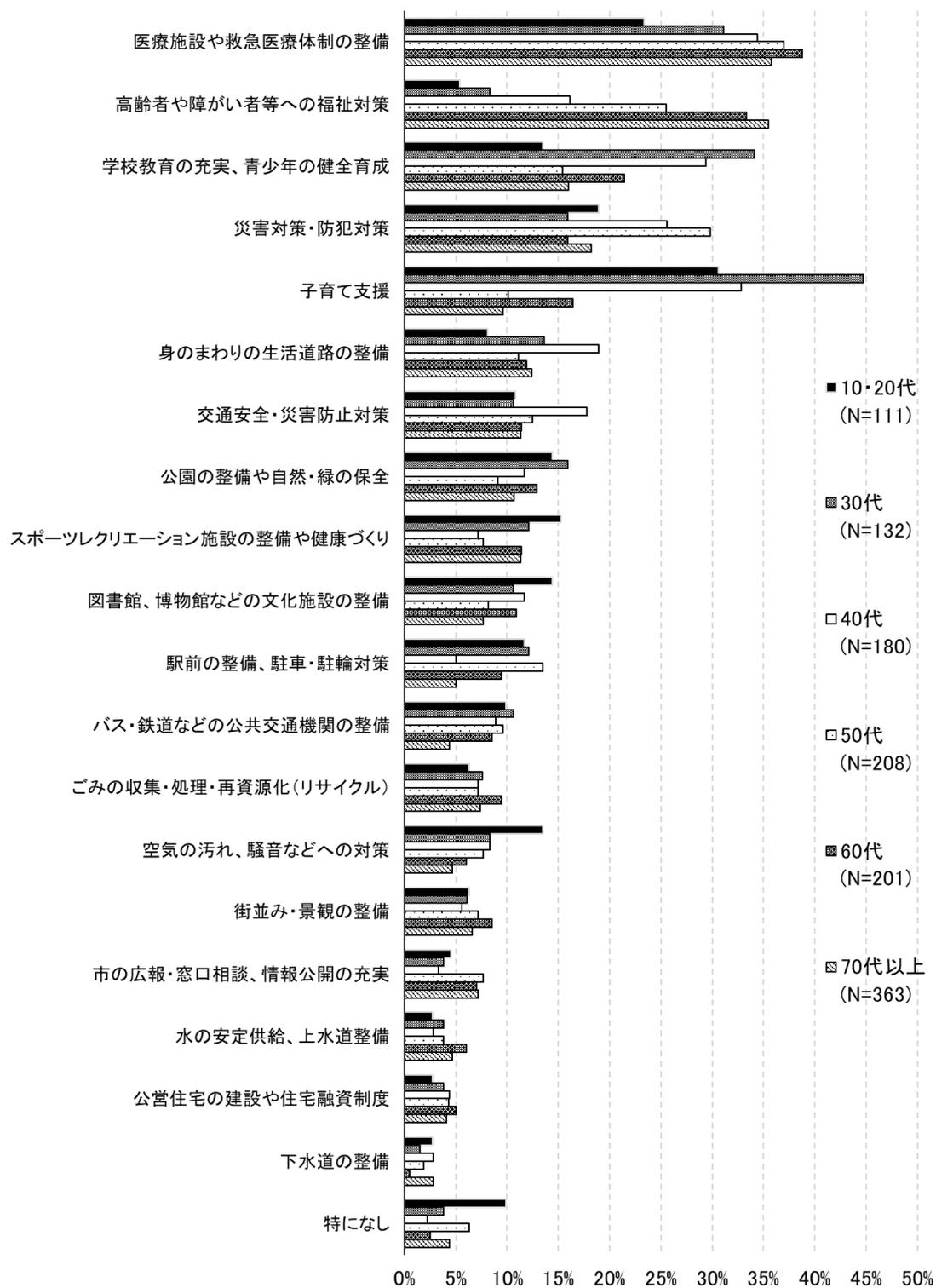


図 95 Q41② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・年代別）

Q41② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、居住地域別で見ると、「医療施設や救急医療体制の整備」はどの地域でも3割以上と高い（表9、図96）。

表9 Q41② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住地域別）

	医療施設や救急医療体制の整備	高齢者や障がい者等への福祉対策	学校教育の充実、青少年の健全育成	災害対策・防犯対策	子育て支援	身のまわりの生活道路の整備	交通安全・災害防止対策
高槻北地区 (N=326)	35.0	26.1	20.9	20.2	20.9	13.5	13.5
高槻南地区 (N=314)	34.1	22.3	18.5	23.2	21.7	8.0	10.8
五領地区 (N=52)	38.5	23.1	25.0	13.5	19.2	5.8	11.5
高槻西地区 (N=205)	37.1	25.4	22.0	17.1	18.5	18.5	14.1
如是・富田地区 (N=242)	33.1	26.9	22.3	22.7	20.2	14.9	13.2
三箇牧地区 (N=25)	36.0	16.0	12.0	20.0	16.0	12.0	0.0

	公園の整備や自然・緑の保全	スポーツレクリエーション施設の整備や健康づくり	図書館、博物館などの文化施設の整備	駅前の整備、駐車・駐輪対策	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	ごみの収集・処理・再資源化(リサイクル)	空気の汚れ、騒音などへの対策
高槻北地区 (N=326)	14.1	11.7	10.7	9.5	8.6	8.6	6.7
高槻南地区 (N=314)	10.8	10.5	9.2	11.1	8.0	8.9	8.6
五領地区 (N=52)	11.5	9.6	5.8	3.8	7.7	3.8	17.3
高槻西地区 (N=205)	12.2	13.2	15.6	5.9	6.8	6.8	2.9
如是・富田地区 (N=242)	11.2	5.4	6.6	7.9	6.2	5.0	5.4
三箇牧地区 (N=25)	8.0	12.0	4.0	4.0	24.0	8.0	20.0

	街並み・景観の整備	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	水の安定供給、上水道整備	公営住宅の建設や住宅融資制度	下水道の整備	特になし
高槻北地区 (N=326)	7.1	6.7	5.2	2.8	1.2	2.1
高槻南地区 (N=314)	9.9	6.7	2.9	5.1	2.9	6.4
五領地区 (N=52)	3.8	3.8	5.8	0.0	3.8	5.8
高槻西地区 (N=205)	5.9	5.4	3.4	3.4	2.0	2.4
如是・富田地区 (N=242)	4.5	5.8	4.1	5.8	1.7	6.2
三箇牧地区 (N=25)	4.0	12.0	4.0	8.0	4.0	4.0

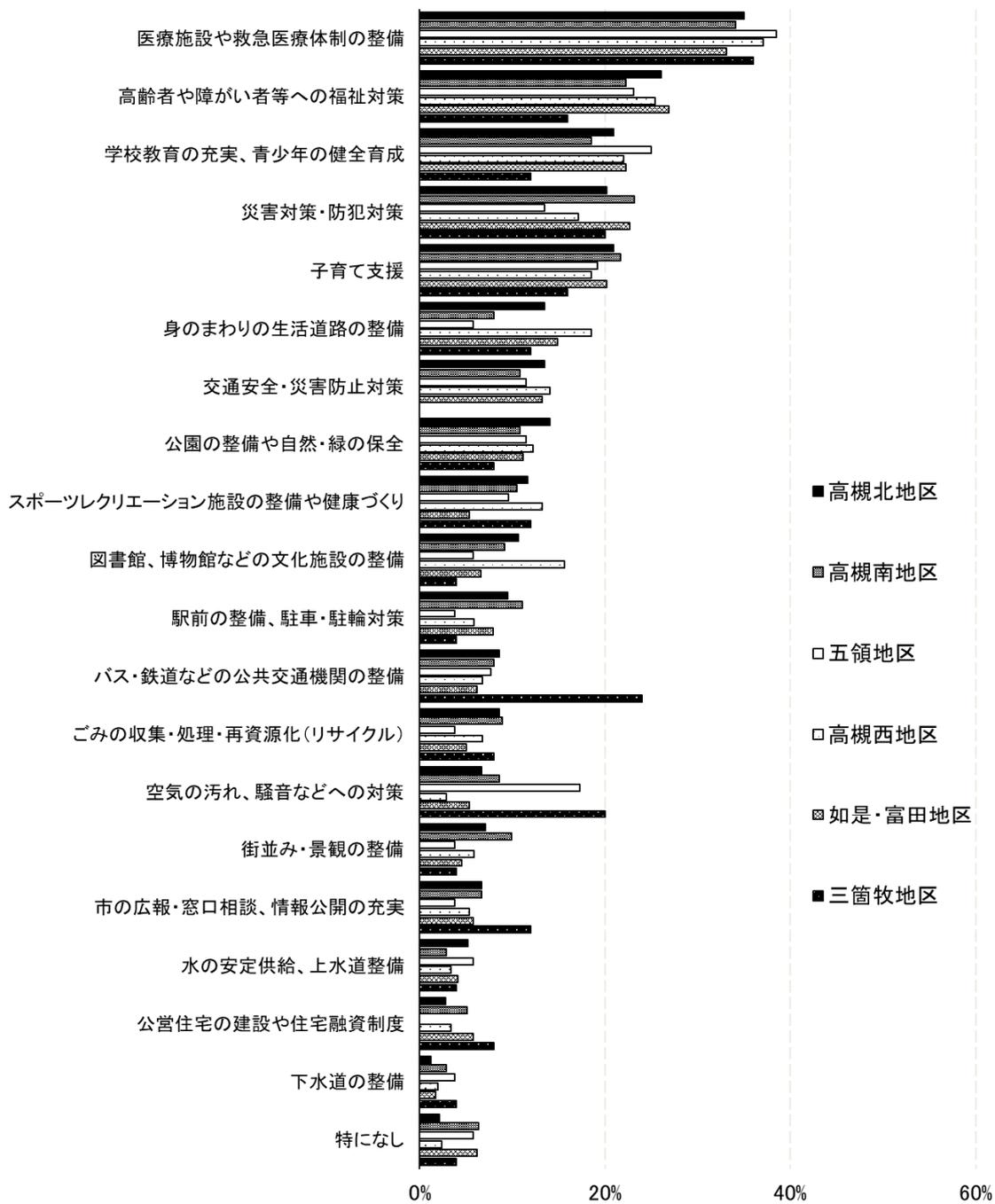


図 96 Q41② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住地域別）

Q41②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、居住年数別で見ると、「子育て支援」は1年未満では約5割であり、1年以上20年未満ではおおよそ3割前後である(表10, 図97)。

表10 Q41② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの(複数回答・居住年数別)

	(%)						
	医療施設や救急医療体制の整備	高齢者や障がい者等への福祉対策	学校教育の充実、青少年の健全育成	災害対策・防犯対策	子育て支援	身のまわりの生活道路の整備	交通安全・災害防止対策
1年未満(N=25)	28.0	4.0	12.0	16.0	48.0	16.0	16.0
1年以上3年未満(N=46)	30.4	17.4	28.3	15.2	34.8	4.3	6.5
3年以上5年未満(N=36)	33.3	5.6	27.8	22.2	27.8	5.6	13.9
5年以上10年未満(N=73)	32.9	12.3	26.0	23.3	28.8	12.3	6.8
10年以上20年未満(N=171)	35.1	17.0	24.6	23.4	26.9	11.7	15.2
20年以上30年未満(N=188)	31.9	24.5	16.5	20.2	19.1	17.6	11.2
30年以上40年未満(N=206)	35.0	25.7	21.8	16.0	22.3	12.6	15.0
40年以上50年未満(N=245)	37.6	30.2	18.8	22.4	14.7	12.7	13.1
50年以上(N=206)	36.4	35.9	18.9	21.8	9.7	14.1	10.2

	公園の整備や自然・緑の保全	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	図書館、博物館などの文化施設の整備	駅前の整備、駐車・駐輪対策	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	ごみの収集・処理・再資源化(リサイクル)	空気の汚れ、騒音などへの対策
1年未満(N=25)	16.0	4.0	20.0	0.0	8.0	16.0	12.0
1年以上3年未満(N=46)	15.2	6.5	15.2	13.0	15.2	0.0	6.5
3年以上5年未満(N=36)	11.1	13.9	16.7	11.1	8.3	22.2	5.6
5年以上10年未満(N=73)	16.4	19.2	21.9	12.3	9.6	5.5	5.5
10年以上20年未満(N=171)	10.5	11.1	9.9	10.5	8.8	5.3	7.6
20年以上30年未満(N=188)	10.1	10.6	8.0	12.2	9.6	6.4	10.1
30年以上40年未満(N=206)	12.1	10.2	9.2	6.8	6.3	7.3	7.3
40年以上50年未満(N=245)	13.5	9.4	8.6	4.5	6.9	7.3	6.5
50年以上(N=206)	9.7	8.7	5.8	9.2	5.3	9.7	4.9

	街並み・景観の整備	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	水の安定供給、上水道整備	公営住宅の建設や住宅融資制度	下水道の整備	特になし
1年未満(N=25)	4.0	8.0	4.0	0.0	0.0	4.0
1年以上3年未満(N=46)	13.0	6.5	4.3	2.2	2.2	8.7
3年以上5年未満(N=36)	8.3	2.8	5.6	5.6	2.8	2.8
5年以上10年未満(N=73)	6.8	4.1	0.0	4.1	0.0	4.1
10年以上20年未満(N=171)	5.8	2.3	2.9	5.3	2.9	2.9
20年以上30年未満(N=188)	5.9	4.8	2.7	4.8	2.1	5.3
30年以上40年未満(N=206)	6.3	9.2	7.3	2.4	1.5	3.9
40年以上50年未満(N=245)	5.7	5.7	3.7	5.7	3.3	2.4
50年以上(N=206)	8.7	8.7	5.3	3.4	2.4	6.8

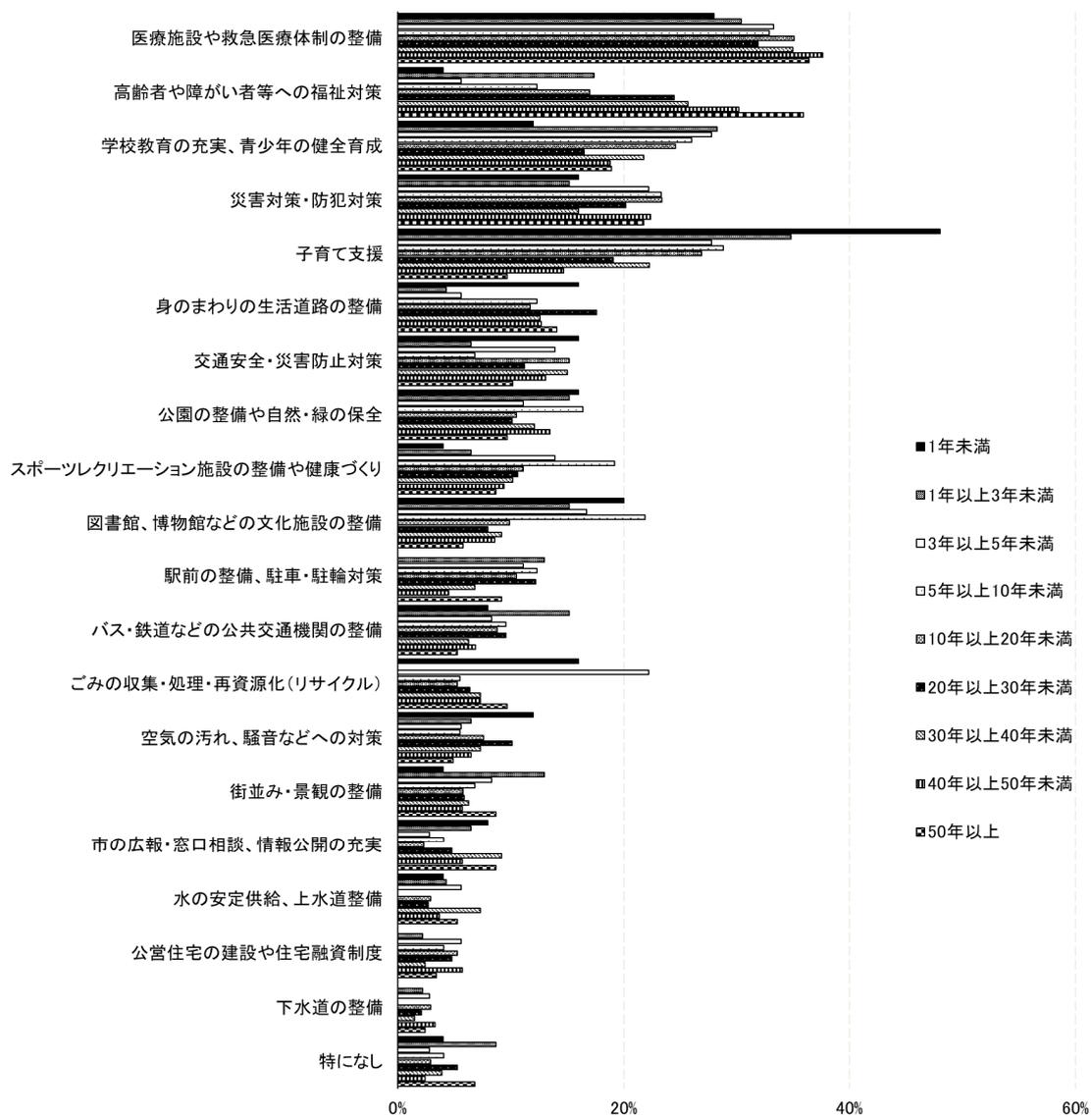


図 97 Q41② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住年数別）

Q42の『高槻市みらいのための経営革新』に向けた改革方針の認知に関して、男女別・年代別のすべての層で「知らない」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「名前も内容も知っている」または「名前だけ知っている」と回答した人の割合は70代以上が18.8%と最も高く、反対に30代が5.3%と最も低い(図98)。

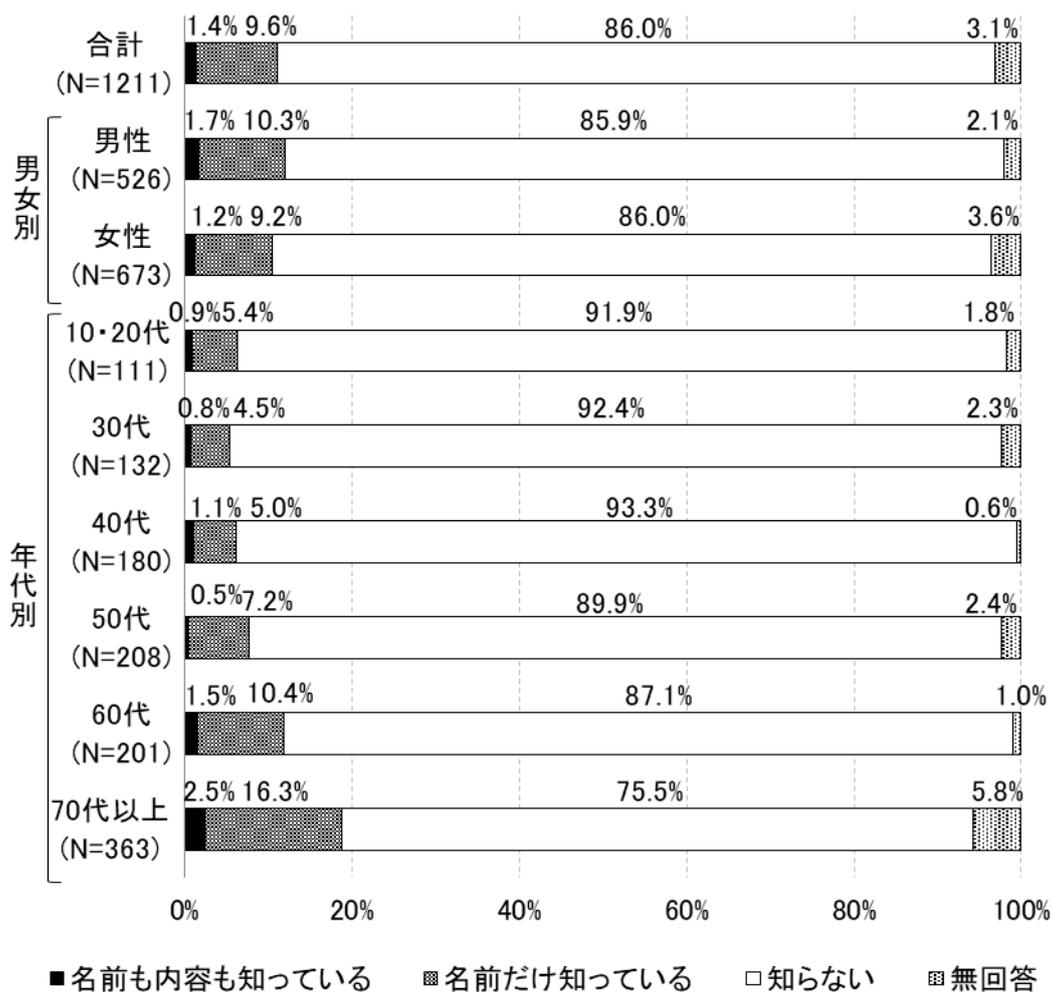


図98 Q42 「『高槻市みらいのための経営革新』に向けた改革方針」の認知

Q43 の高槻市の 20 年後・30 年後を見据えて行政改革に取り組むべきかに関して、男女別・年代別のすべての層で「感じる」または「やや感じる」と回答した人が 7 割以上である。年代別で見ると、「感じる」または「やや感じる」と回答した人の割合は 30 代が 82.6%と最も高く、反対に 70 代以上が 72.5%と最も低い (図 99)。

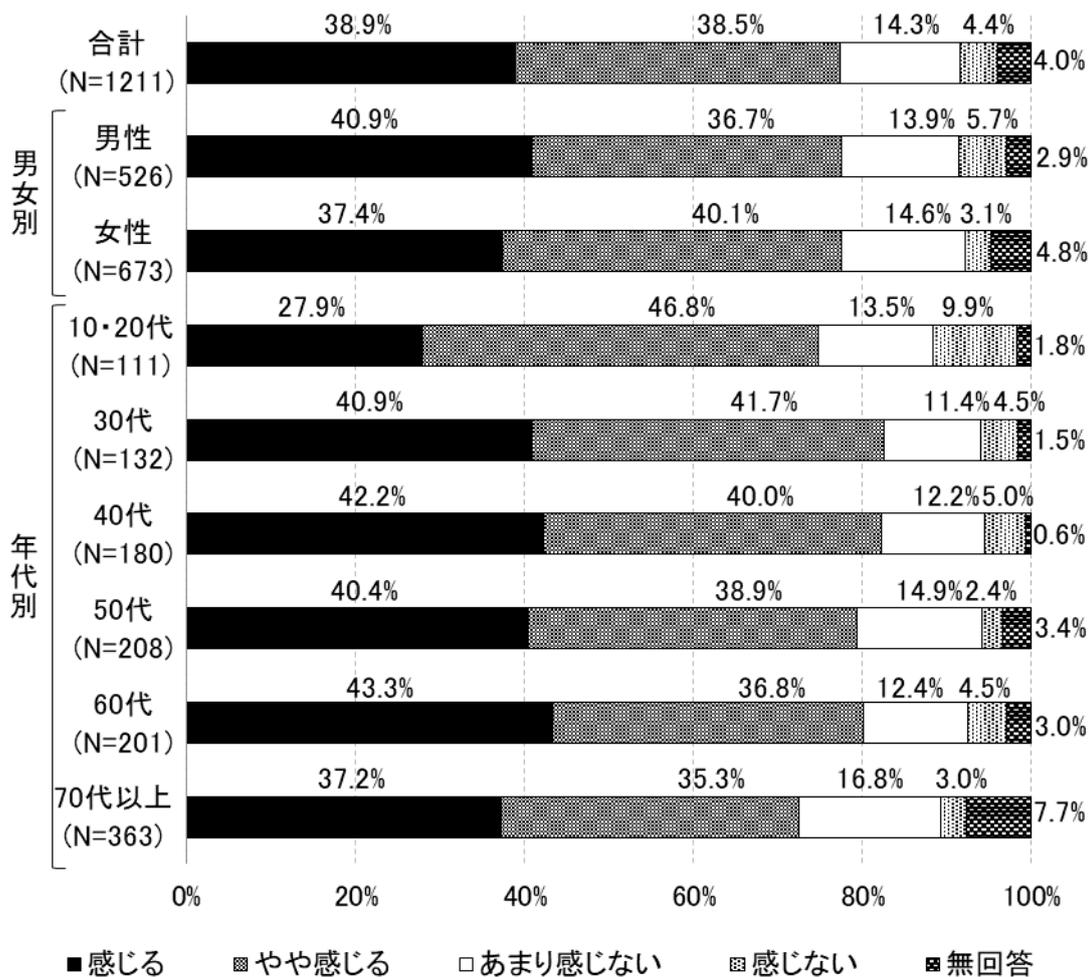
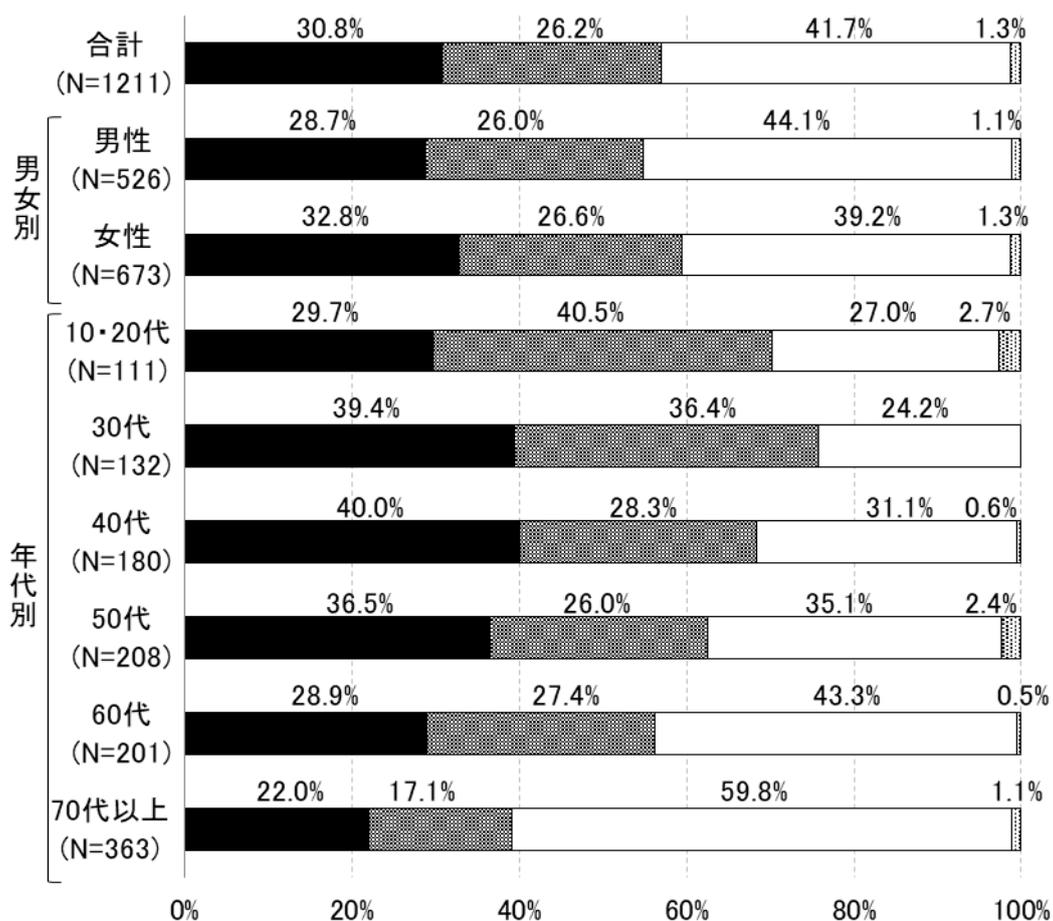


図 99 Q43 高槻市の 20 年後・30 年後を見据えて行政改革に取り組むべきか

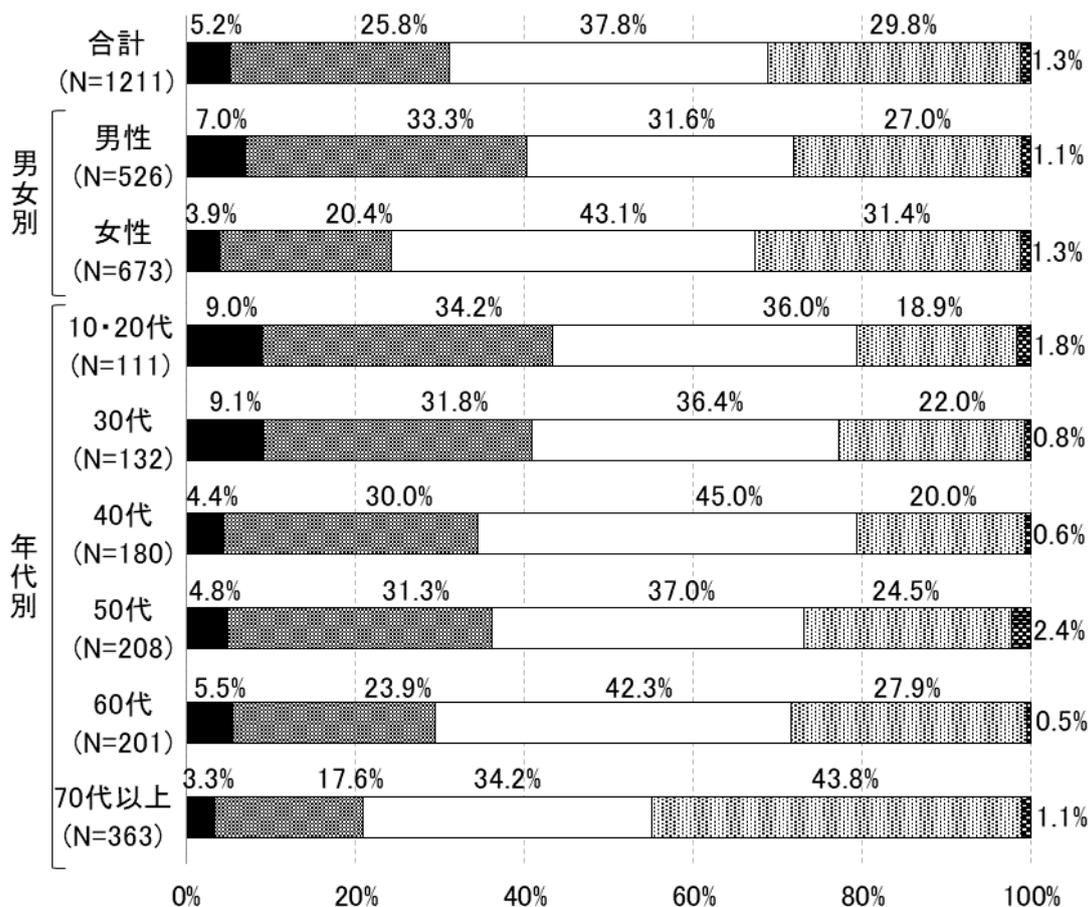
Q44 の応急手当講習の受講経験に関して、男女別・年代別のすべての層で1回以上受けたことがあると回答した人が3割以上である。年代別で見ると、1回以上受けたことがあると回答した人の割合は30代が75.8%と最も高く、反対に70代以上が39.1%と最も低い(図100)。



■ 1回受けたことがある ■ 2回以上受けたことがある □ 受けたことはない ▨ 無回答

図 100 Q44 応急手当講習の受講経験

Q45 あなたは応急手当ができると思うかに関して、男女別にみると、「できると思う」または「たぶんできると思う」と回答した人は、男性が女性よりも 16.0 ポイント高い。年代別で見ると、「できると思う」または「たぶんできると思う」と回答した人の割合は 10・20 代が 43.2%と最も高く、反対に 70 代以上が 20.9%と最も低い（図 101）。

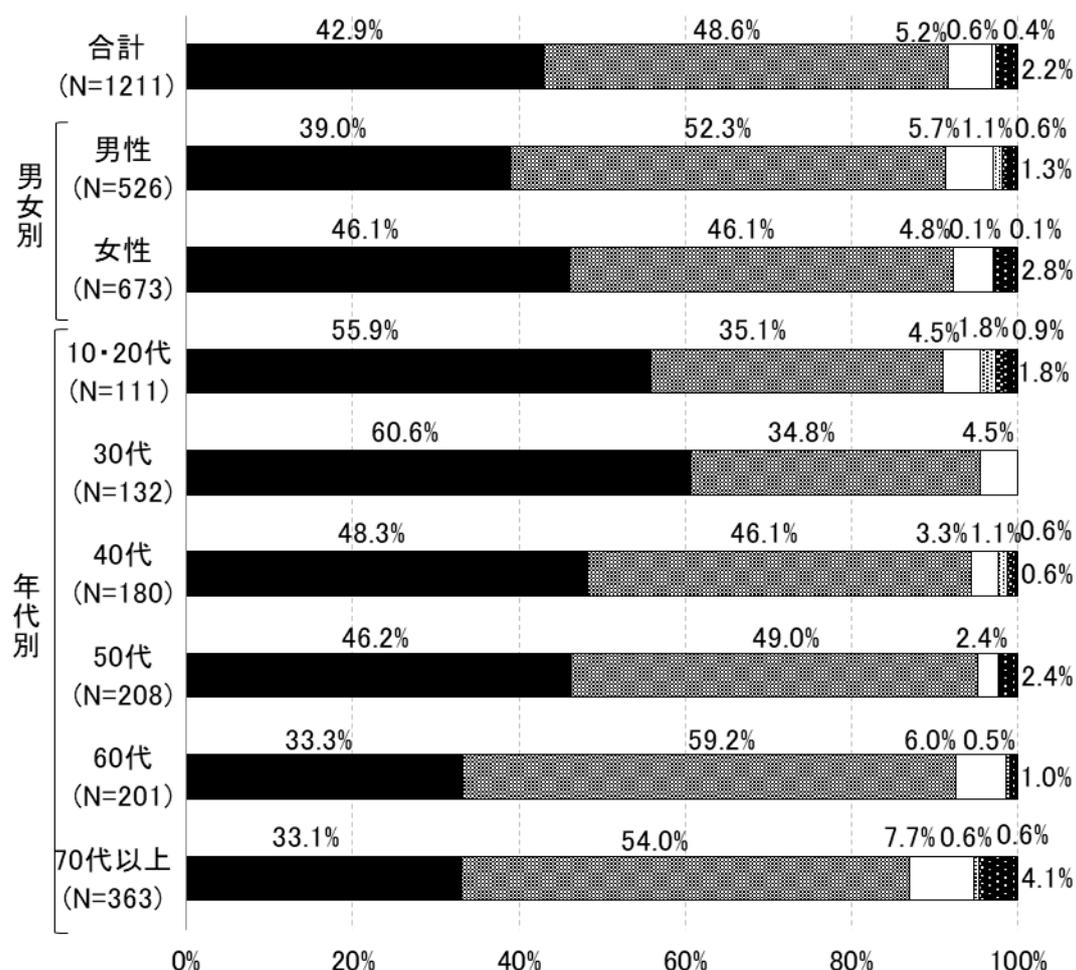


■できると思う ■たぶんできると思う □たぶんできないと思う ■できないと思う ■無回答

図 101 Q45 あなたは応急手当ができると思うか

Q46A～Q46Dは、それぞれが職業選択で重要だと思うかどうかを質問している。

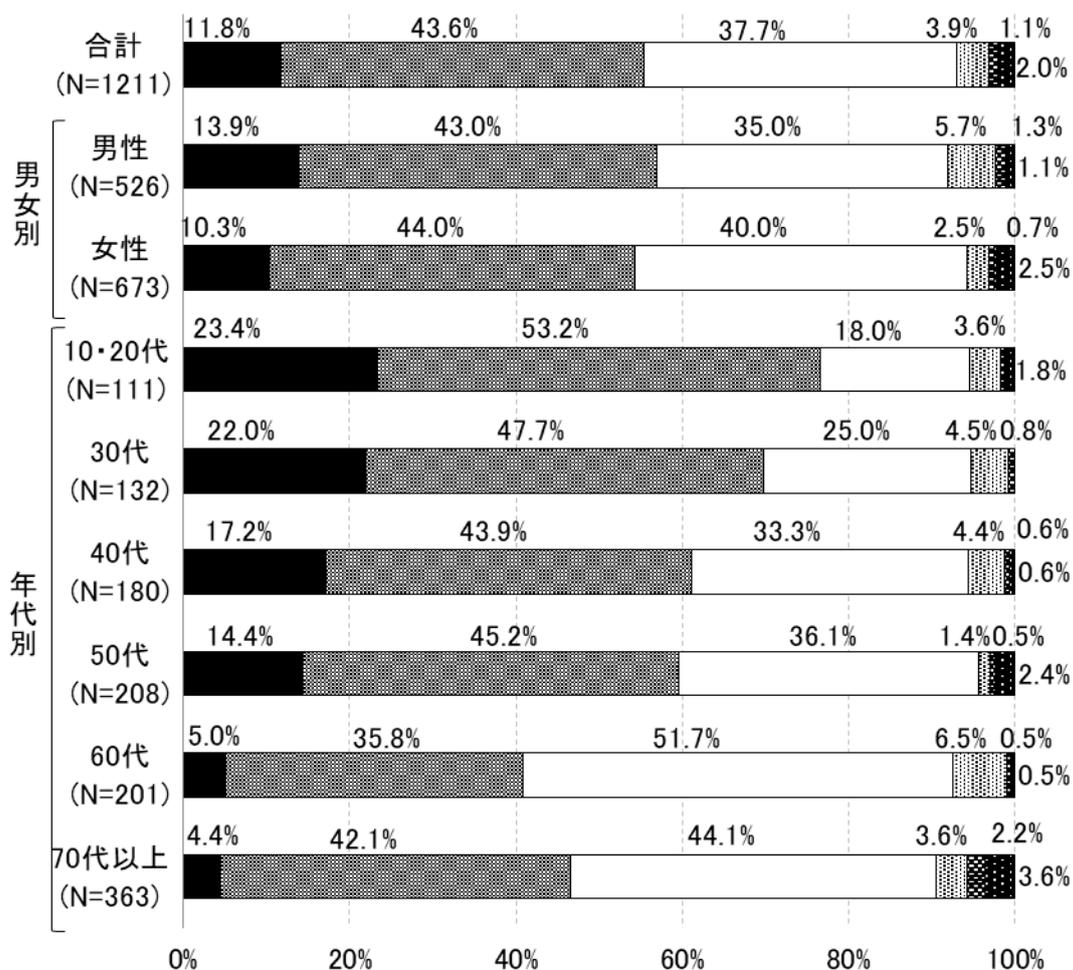
Q46Aの安定した雇用に関して、男女別・年代別のすべての層で「非常に重要」または「重要」と回答した人が8割以上である。年代別で見ると、「非常に重要」または「重要」と回答した人の割合は30代が95.4%と最も高く、反対に70代以上が87.1%と最も低い(図102)。



■非常に重要 ■重要 □どちらともいえない ■重要でない ■まったく重要でない ■無回答

図 102 Q46A 職業選択で重要なこと：安定した雇用

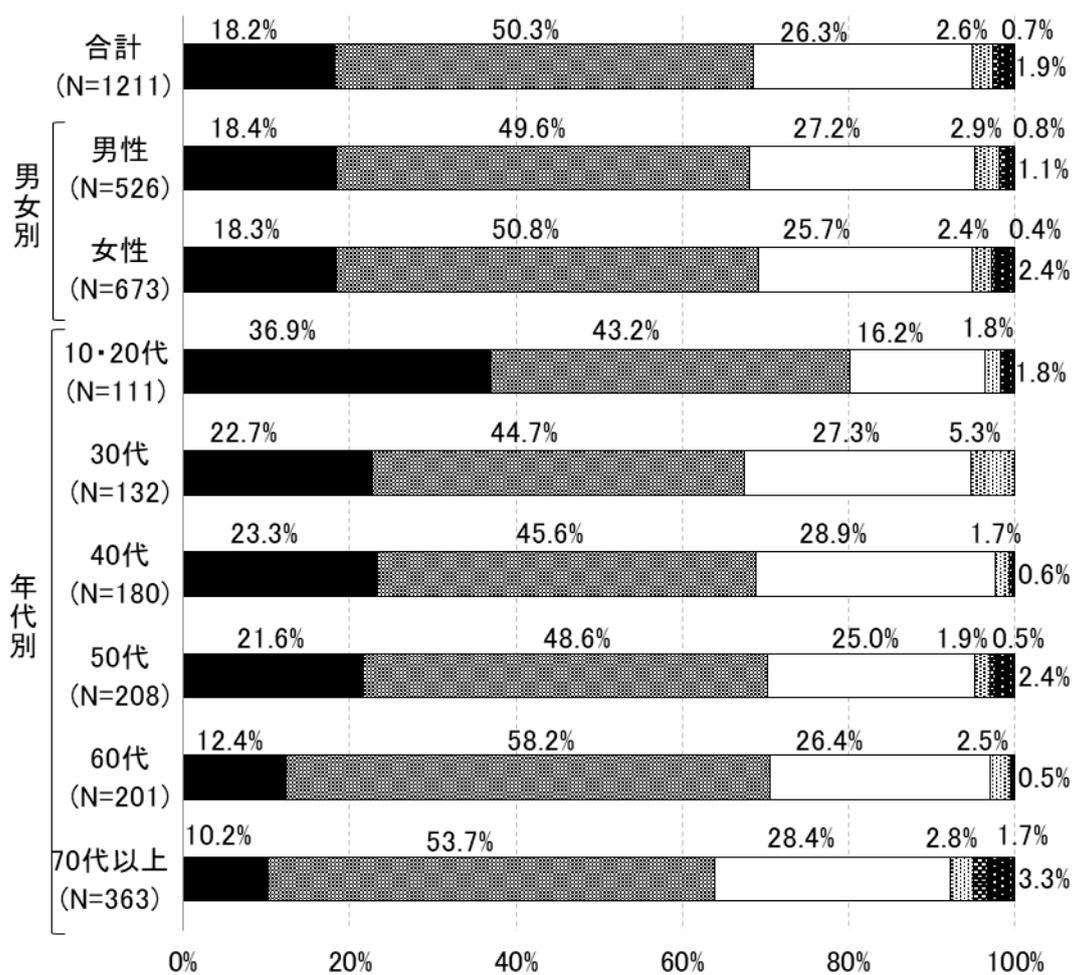
Q46Bの収入の高さに関して、男女別・年代別のすべての層で「非常に重要」または「重要」と回答した人が4割以上である。年代別で見ると、「非常に重要」または「重要」と回答した人の割合は10・20代が76.6%と最も高く、反対に60代が40.8%と最も低い（図103）。



■非常に重要 ■重要 □どちらともいえない ■重要でない ■まったく重要でない ■無回答

図 103 Q46B 職業選択で重要なこと：収入の高さ

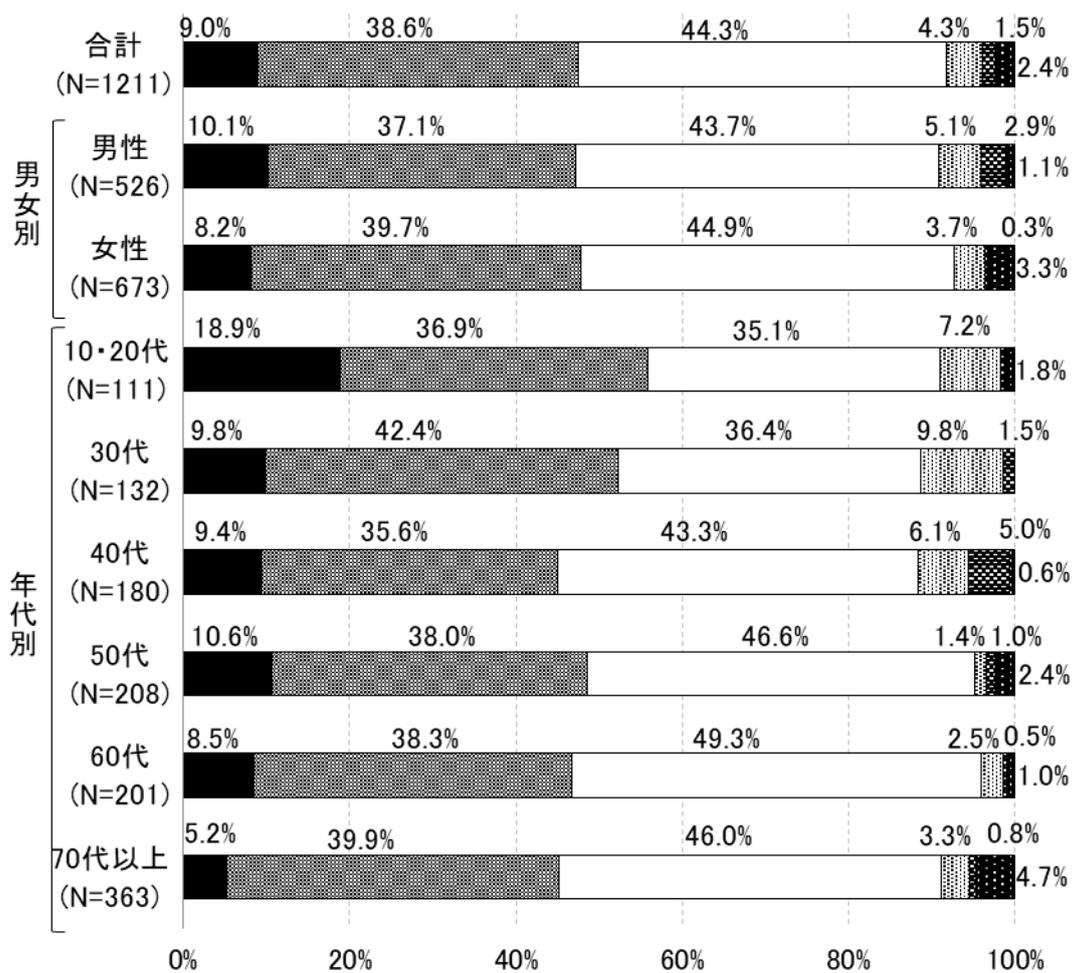
Q46Cの興味のある仕事に関して、男女別・年代別のすべての層で「非常に重要」または「重要」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「非常に重要」または「重要」と回答した人の割合は10・20代が80.1%と最も高く、反対に70代以上が63.9%と最も低い(図104)。



■非常に重要 ■重要 □どちらともいえない ■重要でない ■まったく重要でない ■無回答

図104 Q46 職業選択で重要なこと：興味のある仕事

Q46Dの他人のためになるに関して、男女別・年代別のすべての層で「非常に重要」または「重要」と回答した人が4割以上である。年代別で見ると、「非常に重要」または「重要」と回答した人の割合は10・20代が55.8%と最も高く、反対に40代が45.0%と最も低い(図105)。



■非常に重要 ■重要 □どちらともいえない ■重要でない ■まったく重要でない ■無回答

図 105 Q46D 職業選択で重要なこと：他人のためになる

Q47の週あたりの労働日数に関して、年代別で見ると、「0日」と回答した人の割合は70代が62.0%と最も高く、反対に50代が11.5%と最も低い（図106）。

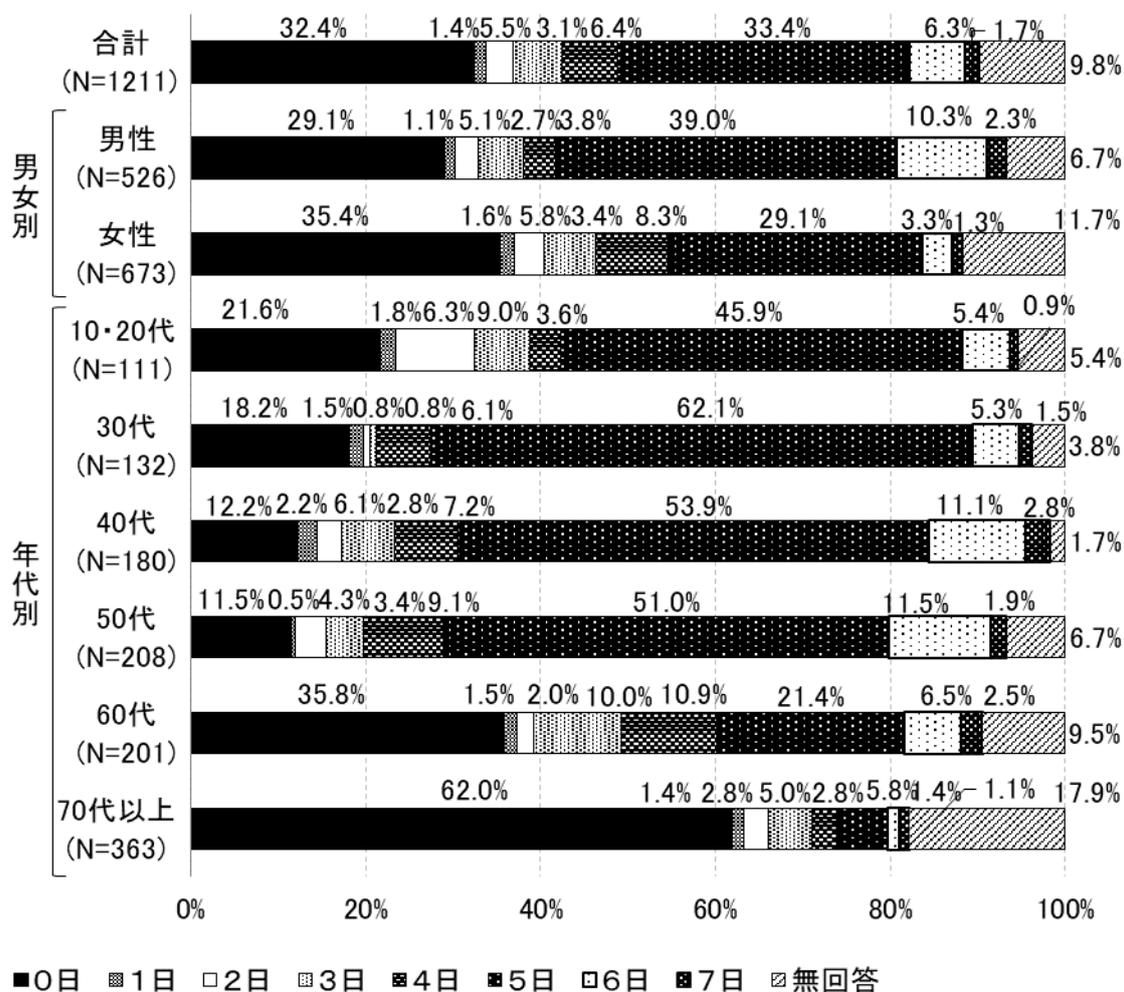


図106 Q47 週あたりの労働日数

Q48の仕事内容に関して、男女別にみると、「管理」と回答した人は、男性の方が女性より12.0ポイント高い。年代別で見ると、「管理」は40代が11.3%と最も高く、10・20代が0%と最も低い(図108)。

表 11 Q48 仕事内容

														(%)	
		管理	専門・ 技術	事務	通信	保安	建築請負	運輸	労務	販売	サービス	製造	農林漁業	その他	無回答
男女別	合計 (N=839)	7.5	19.7	15.1	0.1	1.0	2.0	2.7	2.0	9.7	6.9	5.8	0.5	11.0	16.0
	男性 (N=387)	14.0	22.0	9.0	0.3	2.1	4.4	5.4	2.1	6.7	4.4	7.8	1.0	10.1	10.9
	女性 (N=411)	2.0	17.9	20.2	0.0	0.0	0.0	0.2	2.0	12.5	9.3	4.1	0.0	11.8	20.0
年代別	10・20代 (N=88)	0.0	28.4	20.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	11.4	12.5	4.5	0.0	10.2	9.1
	30代 (N=108)	5.6	28.7	19.4	0.0	0.9	0.0	2.8	0.0	10.2	12.0	7.4	0.0	7.4	5.6
	40代 (N=160)	11.3	29.4	15.0	0.6	0.6	1.3	3.1	1.3	10.6	5.6	8.1	0.0	10.6	2.5
	50代 (N=185)	9.2	20.0	21.6	0.0	1.1	3.8	4.9	1.1	11.9	3.8	8.1	0.0	5.9	8.6
	60代 (N=132)	8.3	12.9	12.9	0.0	0.8	3.8	1.5	5.3	10.6	7.6	3.8	0.0	15.2	17.4
	70代以上 (N=151)	6.0	5.3	2.0	0.0	2.0	2.0	2.0	2.0	4.6	5.3	1.3	2.6	17.2	47.7

Q49 のテレワークの頻度に関して、年代別で見ると、「行っていない」と回答した人の割合は 50 代が 80.0%と最も高い（図 107）。

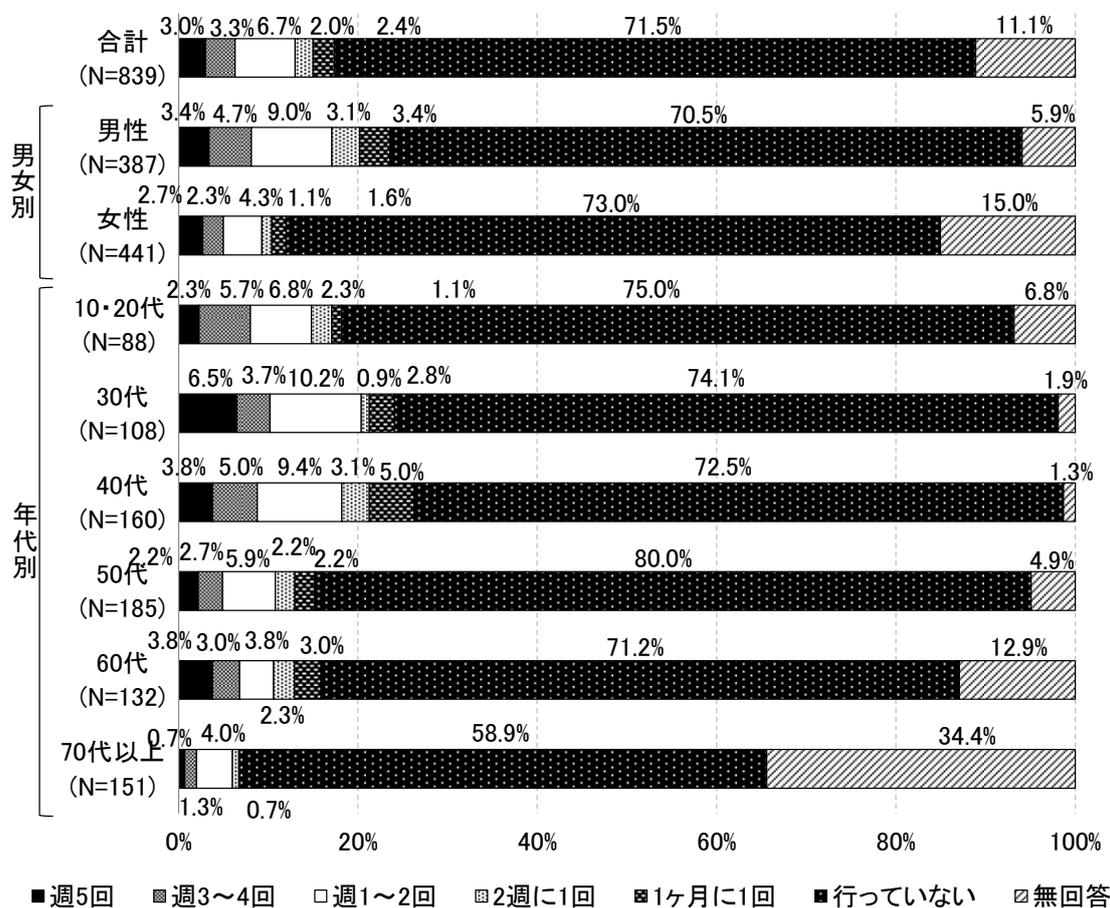


図 107 Q49 テレワークの頻度

Q50の勤続年数に関して、年代別で見ると、無回答を除いた場合、50代以上では「20年以上」が最も多い。(図108)。

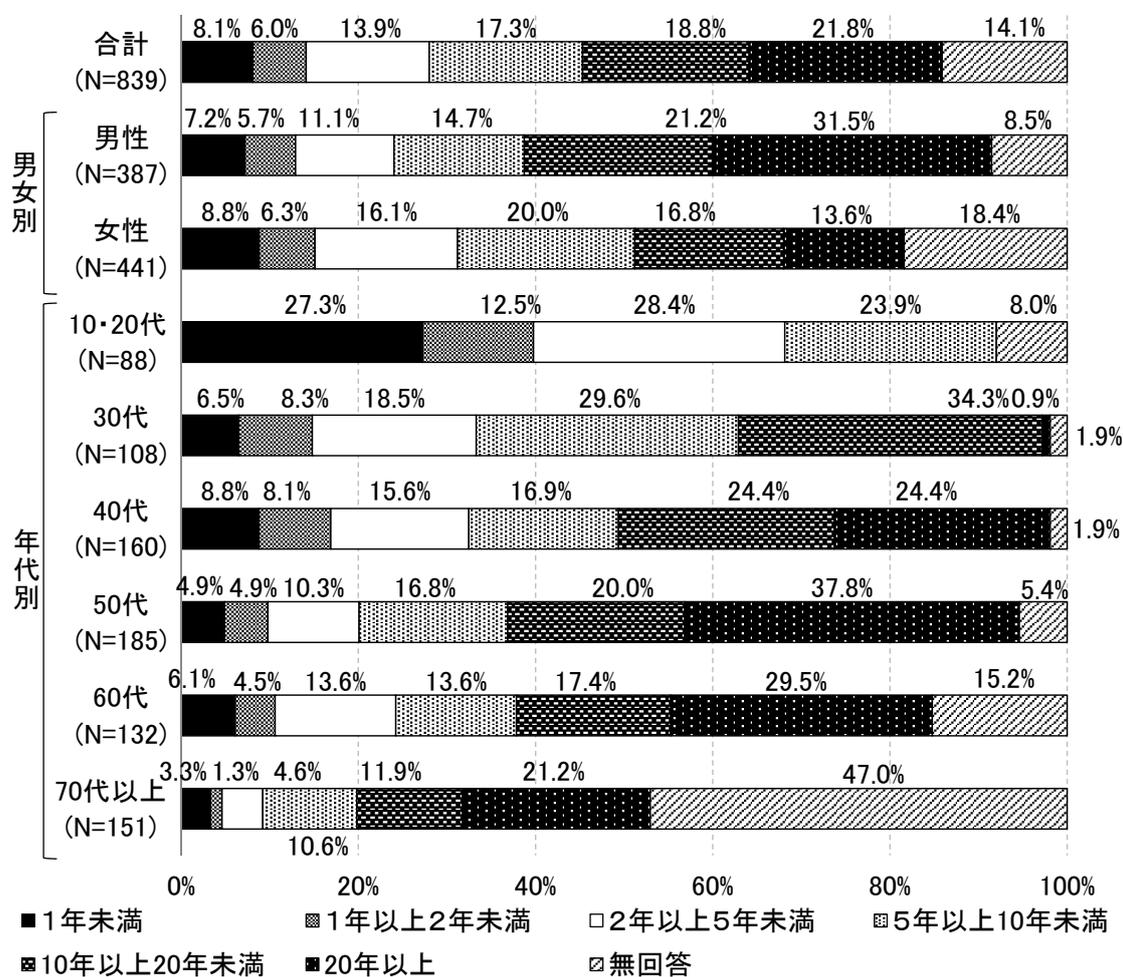


図 108 Q50 勤続年数

Q51の勤続意志（5年後）に関して、年代別で見ると、「はい」と回答した人の割合は40代が80.0%と最も高く、反対に70代以上が27.8%と最も低い（図109）。

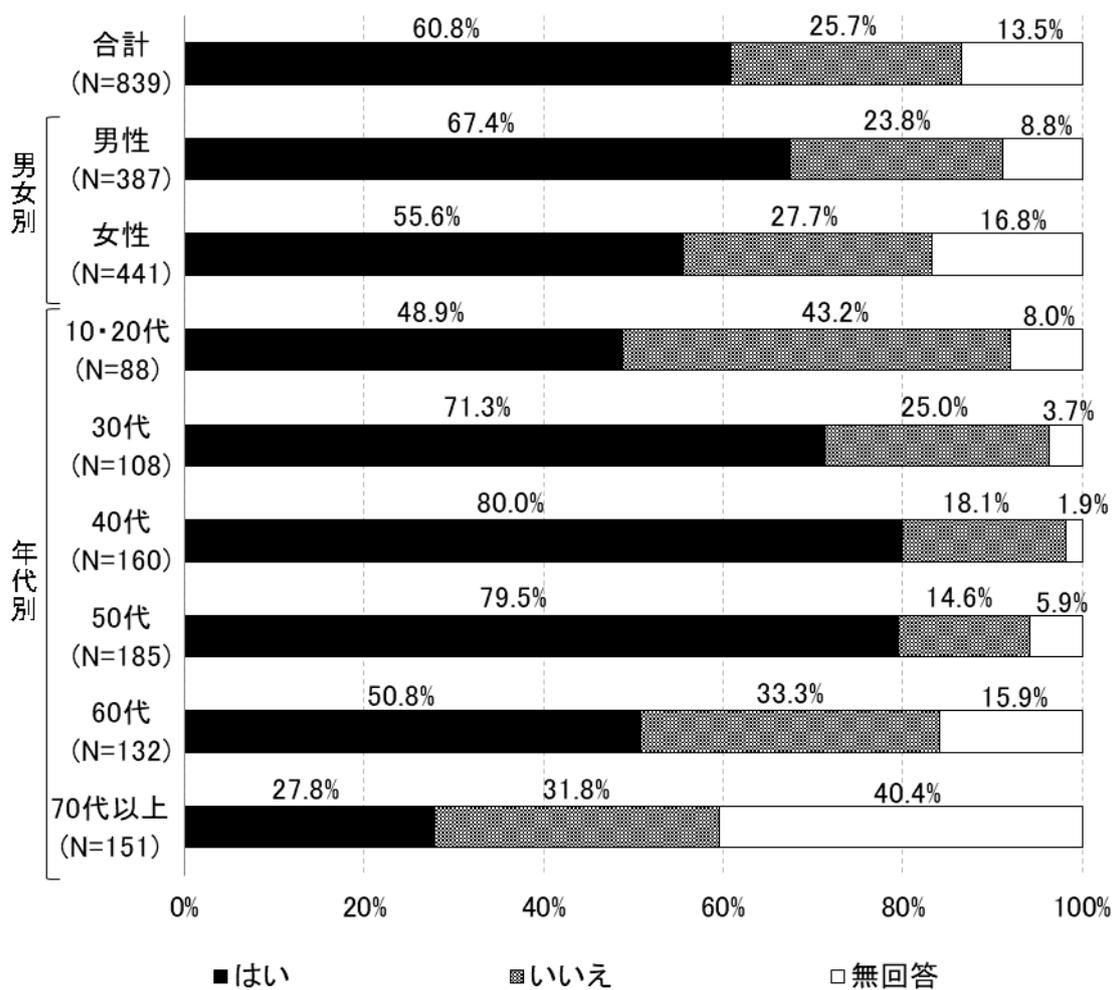


図109 Q51 勤続意志（5年後）

Q52 の何歳まで働きたいかに関して、年代別で見ると、50代までは「60～65歳」と回答する人が最も多く、60代以上は「70歳以上」と回答する人が最も多い（図 110）。

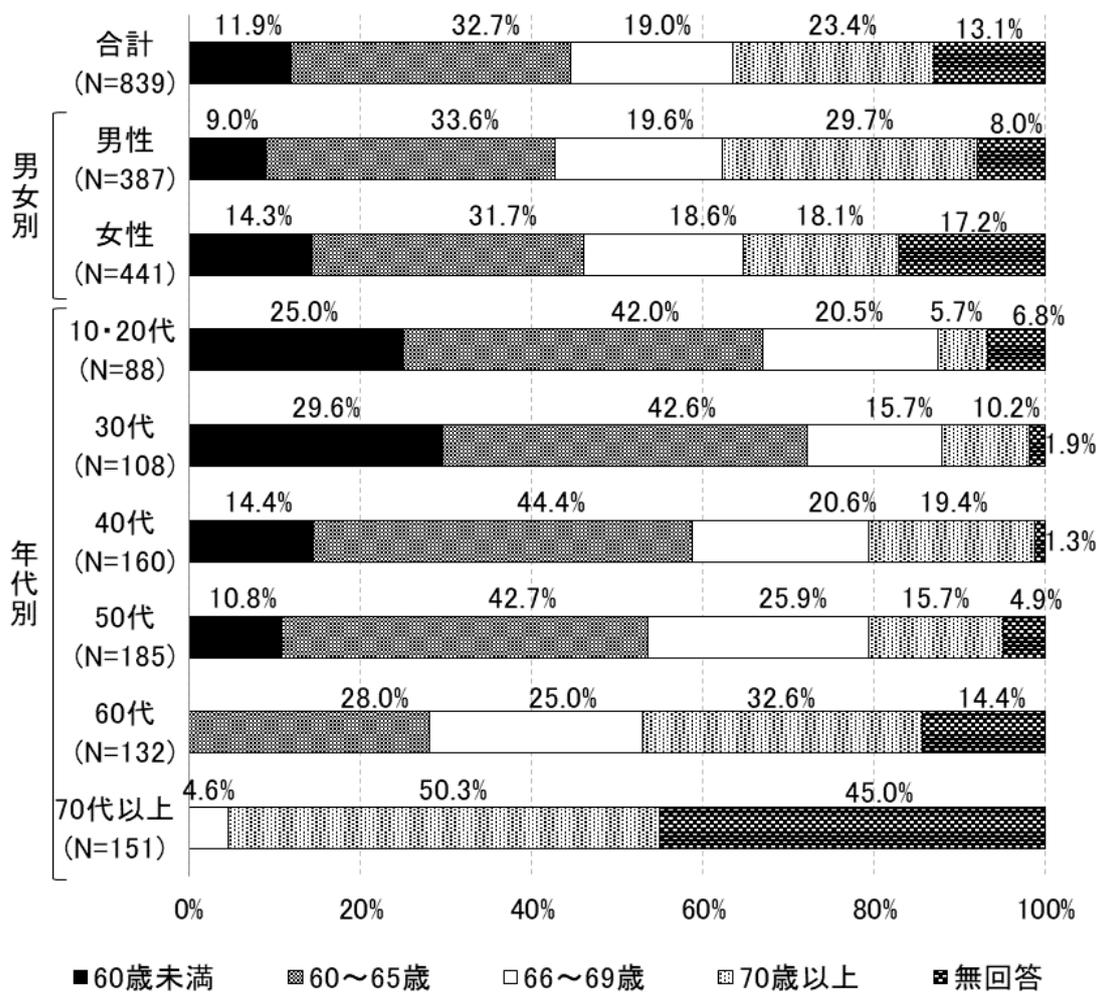


図 110 Q52 何歳まで働きたいか

最後に、質問項目ごとの設問提案者と例年の質問項目との対応関係の一覧を以下に示す。

No.	質問項目	高槻市	関西大学				R01	H30		H29	H28		H27	H26	H25	H24	H23	備考
			R02	Q1	Q2	Q3		Q4	Q5		Q1	Q2						
Q1	生活満足度	○																
Q2	幸福度	○	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5											UGSS2002 留意票 Q41
Q3	居住地域は暮らしやすいか	○																
Q4	地域に住み続けたいか	○																
Q5	農村漁村地域へ移住したいか	○																農山漁村に関する世論調査Q11
Q6	利用している交通手段	○																***Q12
Q7A	市営バス、総務課が充実しているか	○																
Q7B	市営バス、隣通りに運行しているか	○																
Q7C	市営バス、接客態度・運転技術は評価できるか	○																
Q7D	市営バス、バス停や案内表示は整備されているか	○																
Q7E	市営バス、運行本数は少ないか	○																
Q7F	市営バス、近くに路線やバス停がないか	○																
Q7G	市営バス、始発は遅いか	○																
Q7H	市営バス、終業は遅いか	○																
Q7I	市営バス、割引制度や福祉制度は充実しているか	○																
Q7J	市営バス、HPやHPやwriterなどによる情報発信は評価できるか	○																
Q7K	市営バス、街づくりに関与しているか	○																
Q7L	市営バス、子育て世代に優しいか	○																
Q7M	市営バス、通学や買い物に便利か	○																
Q7N	市営バス、エコで環境にやさしいか	○																
Q8	市営バス満足度	○																
Q9	市営バス利用頻度	○																
Q10	市営バスHPに望む情報	○																
Q11	環境に関する問題への関心度	○																
Q12A	補助制度の対象機器の認知度	○																
Q12B	補助制度の対象機器の導入希望状況	○																
Q13	園芸活動の頻度	○																
Q14	行事・活動参加：緑化または自然保護に関するイベント	○																
Q15A	高槻市の環境：身近な自然環境とのふれあいがあるか	○																
Q15B	高槻市の環境：不法投棄やポイ捨ての少ない美しいまちか	○																
Q15C	高槻市の環境：良好な環境づくりを目指す活動が豊富か	○																
Q15D	高槻市の環境：環境活動に関する情報や呼びかけが十分か	○																
Q15E	高槻市の環境：身近な生活環境に水やみどりの潤いがあるか	○																
Q16	ハザードマップなどによる自宅の災害リスク確認の有無	○																
Q17	自宅に対するリスク認識の増進	○																
Q18	避難指示を受けた際の行動	○																

注) *印は、質問文の表現・形式が異なるため、比較する際に注意が必要である。変更の程度は、*の数に応じて、下記の通りである。

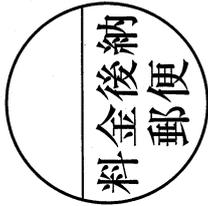
* : 分析にそのまま使用できる（「てにをは」、濁点の位置、末尾などの変更）

** : 分析には注意が必要である（選択肢の数が異なるなどの変更）

*** : 同一の変数として分析に使用するの難しい（概念範囲が異なる）

資料：
予告はがき・調査票

郵便はがき



「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」 ご協力のおかげ

高槻市と関西大学は、高槻市民の生活ともの見
方についての調査を共同で実施することになりまし
た。調査の対象は、無作為に選ばれた18歳以上の
市民の方です。

近日中に調査票の入った大きな茶封筒（ボールペ
ン入り）が届きます。ご多忙中、誠に恐縮ですが、
届き次第、調査票に回答をご記入の上、ご返送頂き
ますようよろしくお願い申し上げます。

令和3年8月



市民生活環境部 市民生活相談課
〒569-0067 高槻市桃園町2-1
TEL 072-674-7130

関西大学 総合情報学部
〒569-1095 高槻市霊仙寺町2-1-1
TEL 072-690-2151

※あて所に尋ねあたらぬ場合は、高槻市へ返戻して下さい。

予告はがき

高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査

(調査実施) 高槻市・関西大学総合情報学部

高槻市と関西大学は共同で、市政と市民生活に関する調査を行っています。市は、今後の施策を検討するうえでの基礎資料とすることを目的に、大学は、高槻市民の生活ともの見方に関する研究と教育を行うことを目的に実施するもので、調査の対象は、住民基本台帳から無作為に選ばれた18歳以上の市民の方です。**封筒宛名のご本人様ご自身の回答を、この調査票にご記入いただきますようお願いいたします。**調査の回答は、調査の目的以外には、一切利用いたしませんので安心してお答えください。

調査結果につきましては、本年12月頃に速報版を、翌年3月中旬に最終報告書を発行し、高槻市と関西大学で閲覧できるようにいたします。できるだけ多くの方のご意見を反映した調査を目指しておりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

*ボールペンを同封しております。回答の際にご利用ください(返却の必要はありません)。

*ご回答は、とくに断りがなければ、選択肢番号を1つだけ選んでマルをつけてください。マルをつける個数が決められていたり、回答していただく方が限られていたりするものは、指示に従ってお答えください。

*お忙しいところ誠に恐縮ですが、**9月10日(金)**までに、同封の封筒(切手貼付済み)でご返送いただきますようお願いいたします。

*この調査票と封筒には、ご住所やお名前を記入されないようお願いいたします。

(どなたがどのような回答をされたかわからないようにするためです。)

<調査に関するお問い合わせ> 高槻市 市民生活環境部 市民生活相談課 tel: 072-674-7130
関西大学 総合情報学部 tel: 072-690-2151

Q1. あなたは、現在の生活全体にどのくらい満足していますか。

1	2	3	4	5
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満

Q2. あなたは、現在どのくらい幸せですか。

1	2	3	4	5
幸せ	やや幸せ	どちらともいえない	やや不幸せ	不幸せ

Q3. あなたのお住まいの地域は、全体的に暮らしやすいと思いますか。

1	2	3	4	5
そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない

Q4. あなたは、現在お住まいの地域にどのくらい「住み続けたい」と思いますか。

1	2	3	4	5
ずっと住み続けたい	住み続けたい	まあ住み続けたい	どちらともいえない	機会があれば引っ越したい

Q5. あなたは、市外の農山漁村地域へ移住してみたいという願望がありますか。

1	2	3	4
ある	どちらかといえはあ	どちらかといえはな	ない

Q6. あなたが普段、通勤・通学やお買い物でご利用されている交通手段を教えてください。(マルはいくつでも)

1. 高槻市営バス	5. バイク
2. バス(市営バス以外)	6. 自転車
3. 電車	7. 徒歩
4. 自家用車(送迎含む)	8. その他
	()

Q7. 高槻市営バスに関する以下の項目について、あなたのお考えをおうかがいします。

A. 路線網が充実している

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

B. 時間通りに運行している

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

C. 乗務員の接客態度や運転技術が評価できる

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

D. バス停や案内表示が整備されている

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

E. 運行本数が少ない

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

F. 近くに路線やバス停がない

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

G. 始発が遅い

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

H. 鉄道との接続が悪い

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

I. 割引制度や福祉制度が充実している

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

J. ホームページやTwitter などによる情報発信が評価できる

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

K. 街づくりに役立っている

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

L. 子育て世代に優しい

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

M. 通勤通学や買い物に便利

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

N. エコで環境に優しい

1	2	3	4	5
そう	ややそう	どちらとも	あまりそう	そう
思う	思う	いけない	思わない	思わない

Q8. あなたは、高槻市営バスについて、どのくらい満足していますか。

1	2	3	4
満足	やや満足	やや不満	不満

Q9. あなたは、普段、高槻市営バスをどのくらいの頻度で利用していますか。

1	2	3	4	5
ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	月に数日	利用しない

Q10. 高槻市営バスでは、平成31年1月より市営バスホームページを開設し、ダイヤ、料金、運行経路などの情報に加えて、観光・イベント情報、安全の取組、お客様の声なども積極的に公開していますが、今後、このホームページにどのような情報や展開を望みますか。

(マルはいくつでも)

1. 観光やイベント、お楽しみ情報の拡充
2. 市営バスとバスファンをつなぐコーナーの開設
3. SNS (LINE 等) とのさらなる連携
4. その他 ()
5. 特にない

Q11. あなたの関心が高い、環境問題に関する話題は何ですか。3つ以内でマルをつけてください。

- | | | |
|---------------|----------------|-----------------|
| 1. 地球温暖化 | 8. 悪臭 | 15. 食の安全 |
| 2. ヒートアイランド現象 | 9. 水質汚濁 | 16. 食品ロス |
| 3. 異常気象 | 10. 土壌汚染 | 17. ごみの減量、リサイクル |
| 4. 省エネルギー（節電） | 11. 生物多様性、外来生物 | 18. 不法投棄 |
| 5. 再生可能エネルギー | 12. 森林荒廃 | 19. その他() |
| 6. 大気汚染、PM2.5 | 13. 景観保全 | |
| 7. 騒音、振動 | 14. 都市緑化 | 20. いずれにも関心がない |

↓
Q12へ

Q12. 高槻市は、新エネルギー・省エネルギー機器の設置に対する補助制度(エコハウス補助金)を行っています。それについて、以下でお答えください。

A. 補助制度の対象であると知っている機器をいくつでもお選びください。

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 太陽光発電システム | 5. 窓の断熱 |
| 2. 太陽熱利用システム | 6. エネファーム |
| 3. ペレットストーブ | 7. 蓄電池 |
| 4. 雨水タンク | |
| | 8. 1つもない |

B. 今後、自宅へ導入したいと思う機器をいくつでもお選びください。

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 太陽光発電システム | 5. 窓の断熱 |
| 2. 太陽熱利用システム | 6. エネファーム |
| 3. ペレットストーブ | 7. 蓄電池 |
| 4. 雨水タンク | |
| | 8. 1つもない |

Q13. あなたはどの程度、園芸活動(プランターでの花の栽培など)を行っていますか。

- | | | |
|---------------|--------------|--------|
| 1 | 2 | 3 |
| 日常的に
行っている | まれに
行っている | 行っていない |

Q14. あなたは1年以内に緑化または自然保護に関する活動やイベントに参加しましたか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

Q15. 次に、現在の高槻市の環境に関するA～Eの項目について、あなたのお考えをおうかがいします。

A. 高槻市には、身近な自然環境とのふれあいがあると思いますか。

- | | | | |
|----------|------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう
思う | ややそう
思う | あまりそう
思わない | そう
思わない |

B. 高槻市は、不法投棄やポイ捨ての少ない美しいまちだと思いますか。

- | | | | |
|----------|------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう
思う | ややそう
思う | あまりそう
思わない | そう
思わない |

C. 高槻市には、良好な環境づくりを目指した活動が豊富にあると思いますか。

- | | | | |
|----------|------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう
思う | ややそう
思う | あまりそう
思わない | そう
思わない |

D. 高槻市には、環境活動に関する情報や呼びかけが十分にあると思いますか。

- | | | | |
|----------|------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう
思う | ややそう
思う | あまりそう
思わない | そう
思わない |

E. 高槻市には、身近な生活環境に水やみどりの潤いがあると思いますか。

- | | | | |
|----------|------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう
思う | ややそう
思う | あまりそう
思わない | そう
思わない |

Q16. 高槻市では、大雨時の水害や土砂災害のリスクを地図化した「水害・土砂災害ハザードマップ」を配布しています。あなたは、こうしたハザードマップなどを通じて、ご自宅の災害リスクを確認していますか。

1. はい 2. いいえ

Q17. あなたは、ご自宅に大雨時の水害や土砂災害のリスクがあると認識していますか。リスクがないと認識していますか。それともリスクがあるかどうかわかりませんか。

- | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------------|
| 1 | 2 | 3 |
| リスクがある
と認識している | リスクがない
と認識している | リスクが
あるかどうか
わからない |

Q18. 高槻市から警戒レベル4「避難指示」の避難情報が発令された場合、どのような避難行動をとりますか。主なもの1つにマルをつけてください。

1. 市避難所へ避難
2. 地域の自治会館等（市避難所以外）
3. 知人・親戚宅への避難
4. 車中避難（上記の1～3以外の安全な場所に車で移動）
5. 在宅避難（自宅の高所など）
6. 決めていない（災害状況にあわせて）
7. その他（ ）

Q19. お宅の災害に対する備えは、十分だと思いますか。それとも不十分だと思いますか。

- | | | | |
|------------|------------------------|-------------------------|-------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 十分だ
と思う | どちらかとい
えば十分だ
と思う | どちらかとい
えば不十分だ
と思う | 不十分だ
と思う |

Q20. あなたは、新型コロナウイルスが流行する2年前と比べて、災害に備えて自宅での備蓄を増やしたのがありますか。該当するものをいくつでもお選びください。

0. 増やしたものはなし
1. 消毒液やマスクなどの感染症対策用品
 2. 常備薬などの救急用品
 3. 食料や飲料水
 4. トイレトペーパーなどの日用品
 5. その他（ ）

Q21. あなたは、成年後見人制度についてご存知ですか。

- | | | |
|-----------------|---------------|------|
| 1 | 2 | 3 |
| 名前も内容も
知っている | 名前だけ
知っている | 知らない |
- Q23へ

Q22へ

Q22. あなたは、どこで成年後見人制度を知りましたか。（マルはいくつでも）

- | | |
|-----------------|------------------------------------|
| 1. 新聞やテレビなど | 4. インターネット |
| 2. 本や雑誌など | 5. 友人・知人 |
| 3. 市役所等の福祉関係の窓口 | 6. その他
() |

Q23へ

Q23. あなたのご家族が、認知症などにより、判断が十分にできなくなったとき、成年後見人制度※を利用したいですか。

※成年後見人制度とは、認知症などにより自己判断能力が不十分になった方々を、財産管理や介護・福祉サービス・税金などの手続きの際に後見人がサポートする制度です。

- | | | |
|---------------|-------|---------|
| 1 | 2 | 3 |
| すでに利用して
いる | 利用したい | 利用したくない |

Q24. あなたご自身が、認知症などにより、判断が十分にできなくなったとき、成年後見人制度を利用したいですか。

- | | | |
|---------------|-------|---------|
| 1 | 2 | 3 |
| すでに利用して
いる | 利用したい | 利用したくない |

Q25へ

次ページQ26へ

Q25. 後見人は誰になってもらいたいですか。すでに利用されている方は、誰になってもらっていますか。あてはまるものすべてにマルをつけてください。

1. 家族・親族
2. 専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）
3. 市民後見人
4. その他（ ）

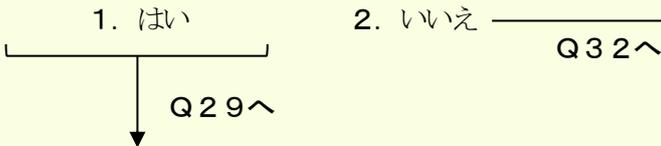
Q26. あなたのテレビの視聴時間は、一日あたりどのくらいですか。

- | | |
|---------------|---------------|
| 0. 全く見ない | 4. 2時間以上3時間未満 |
| 1. 30分未満 | 5. 3時間以上5時間未満 |
| 2. 30分以上1時間未満 | 6. 5時間以上7時間未満 |
| 3. 1時間以上2時間未満 | 7. 7時間以上 |

Q27. あなたのインターネットの利用時間は、一日あたりどのくらいですか。

- | | |
|---------------|---------------|
| 0. 全く利用しない | 4. 2時間以上3時間未満 |
| 1. 30分未満 | 5. 3時間以上5時間未満 |
| 2. 30分以上1時間未満 | 6. 5時間以上7時間未満 |
| 3. 1時間以上2時間未満 | 7. 7時間以上 |

Q28. あなたは、携帯電話・スマートフォンを持っていますか。



Q29. あなたの携帯電話・スマートフォンの利用時間は、一日あたりどのくらいですか。

- | | |
|---------------|---------------|
| 0. 全く利用しない | 4. 2時間以上3時間未満 |
| 1. 30分未満 | 5. 3時間以上5時間未満 |
| 2. 30分以上1時間未満 | 6. 5時間以上7時間未満 |
| 3. 1時間以上2時間未満 | 7. 7時間以上 |

Q30. あなたが携帯電話・スマートフォンを契約する際に重視することは、「料金の安さ」か「ショップでのサポート」のどちらですか。

- | | |
|---------|-----------------------|
| 1 | 2 |
| 料金が安いこと | ショップでサポートを受けることができること |

Q31. 現在あなたが携帯電話・スマートフォンの会社に支払っている通信料金（通話料金やデータ通信料金など）は高いと思いますか。

- | | | | |
|-------|--------------|-------|--------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 高いと思う | 高いとも安いとも思わない | 安いと思う | 払っていない |

Q32. あなたは、日々の生活で、からだの疲れを感じていますか。

- | | | | |
|--------|---------|---------|----------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 非常に感じる | ある程度感じる | あまり感じない | まったく感じない |

Q33. あなたは、普段、新型コロナウイルスに感染するのではないかと不安を感じますか。

- | | | | |
|--------|---------|---------|----------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 非常に感じる | ある程度感じる | あまり感じない | まったく感じない |

Q34. あなたの、現在の生活全体に対する不満度はどのくらいですか。

- | | | | | |
|----|------|-----------|----------|------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 不満 | やや不満 | どちらともいえない | ほとんど不満なし | 不満なし |

Q35. 自殺で亡くなる人の数は全国で年間約2万人となっています。あなたは毎年、このように多くの方が自殺で亡くなっていることをご存知ですか。

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

Q36. あなたは、自殺について相談できる機関があるのをご存知ですか。(例えば、保健所 ところの健康相談など)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

Q37. あなたは、これまでの人生の中で本気で自殺したいと考えたことがありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

Q38. あなたは、もし身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どう対応するのが良いと思いますか。適切と思われるものをいくつかもお選びください。

1. 相談に乗らない、もしくは話題を変える
2. 「死んではいけない」と説得する
3. 「つまらないことを考えるな」と叱る
4. 「がんばって生きよう」と励ます
5. 「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す
6. 「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する
7. ひたすら耳を傾けて聞く
8. その他 ()
9. 適切と思われる対応はない

Q39. 今後の自殺対策について、おうかがいします。今後、どのような自殺対策が求められるとあなたは思いますか。いくつでもお選びください。

1. 自殺の実態を明らかにする調査・分析
2. 危険な場所、薬品等の規制
3. インターネットにおける自殺関連情報の対策
4. 自殺に関する広報・啓発
5. 適切な精神科医療体制の整備
6. 職場におけるメンタルヘルス対策の推進
7. 自殺対策に関わる民間団体の支援
8. 様々な分野におけるゲートキーパー※の養成
9. 様々な悩みに対応した相談窓口の設置
10. 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い
11. 子どもの自殺予防
12. 自殺未遂者の支援
13. 自死遺族等の支援
14. その他 ()
15. 特になし

※「ゲートキーパー」とは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人のことです。

Q40. 自殺したいという気持ちを乗り越えるには、どのような方法が適切と思われますか。適切と思われるものをいくつでもお選びください。

1. 家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらう
2. 医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家に相談する
3. 弁護士や司法書士、公的機関の相談員など、悩みの元となる分野の専門家に相談する
4. できるだけ休養を取るようにする
5. 趣味や仕事など他のことで気を紛らわすよう努める
6. 特に何もしない
7. その他 ()
8. 適切と思われる方法はない

Q41. 次のa～sは、市の仕事のうち、生活に関係の深いものをあげています。

以下から、①あなたが、最近良くなってきたと思うもの(マルはいくつでも)、また、②あなたが、今後力を入れてほしいもの(マルは3つまで)をそれぞれ選んでください。

②力を入れてほしいもの(3つまで)		
①良くなってきたもの(いくつでも)	↓	
a. 学校教育の充実、青少年の健全育成	1	1
b. 図書館、博物館などの文化施設の整備	2	2
c. スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	3	3
d. 高齢者や障がい者等への福祉対策	4	4
e. 医療施設や救急医療体制の整備	5	5
f. 空気の汚れ、騒音などへの対策	6	6
g. 公園の整備や自然・緑の保全	7	7
h. 街並み・景観の整備	8	8
i. 駅前の整備、駐車・駐輪対策	9	9
j. ごみの収集・処理・再資源化(リサイクル)	10	10
k. 下水道の整備	11	11
l. 水の安定供給、上水道整備	12	12
m. バス・鉄道などの公共交通機関の整備	13	13
n. 身のまわりの生活道路の整備	14	14
o. 交通安全・災害防止対策	15	15
p. 公営住宅の建設や住宅融資制度	16	16
q. 市の広報・窓口相談、情報公開の充実	17	17
r. 災害対策・防犯対策	18	18
s. 子育て支援	19	19
t. 特になし	20	20

Q42. あなたは、『「高槻市みらいのための経営革新」に向けた改革方針』をご存知ですか。

1	2	3
名前も内容も知っている	名前だけ知っている	知らない

Q43. あなたは、高槻市が20年後、30年後を見据えて行財政改革に取り組む必要性を感じますか。

1	2	3	4
感じる	やや感じる	あまり感じない	感じない

Q44. あなたは、心臓マッサージや人工呼吸、AED などを使った応急手当の講習を受けたことがありますか。

1	2	3
1回	2回以上	受けたことは
受けたことがある	受けたことがある	ない

Q45. もしも、あなたの目の前で人が倒れたら、あなたは心臓マッサージや人工呼吸、AED などを使った応急手当ができると思いますか。

1	2	3	4
できる	たぶんできる	たぶんできない	できない
と思う	と思う	と思う	と思う

Q46. 以下の項目は、人々が仕事を選ぶうえでどれくらい重要であると、あなたは考えますか。

A. 雇用が安定していること

1	2	3	4	5
非常に	重要	どちらとも	重要	まったく
重要		いけない	でない	重要でない

B. 高収入であること

1	2	3	4	5
非常に	重要	どちらとも	重要	まったく
重要		いけない	でない	重要でない

C. 興味のある仕事であること

1	2	3	4	5
非常に	重要	どちらとも	重要	まったく
重要		いけない	でない	重要でない

D. 他人のためになる仕事であること

1	2	3	4	5
非常に	重要	どちらとも	重要	まったく
重要		いけない	でない	重要でない

Q47. あなたは、平均すると週に何日間、収入を得られる仕事をしていますか。

0	1	2	3	4	5	6	7
0日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日

Q53へ

右上のQ48へ

Q48. あなたの現在のお仕事は次の分類のうち、どれにあたりますか。(複数の仕事に就かれている場合は、主なもの1つにマル)

1. 管理的な仕事 (役員、課長以上の会社員などの方)
2. 専門的・技術的な仕事 (技術者、教員などの方)
3. 事務的な仕事 (総務、営業などの事務員などの方)
4. 通信的な仕事 (郵便外務員などの方)
5. 保安市な仕事 (警察官、消防士、守衛などの方)
6. 建築請負的な仕事 (大工、左官、配管工などの方)
7. 運輸的な仕事 (自動車運転者などの方)
8. 労務的な仕事 (道路工夫、清掃員などの方)
9. 販売的な仕事 (小売・飲食店主、販売員などの方)
10. サービス的な仕事 (理容師、料理人などの方)
11. 製造的な仕事 (生産・製造従事者、修理工などの方)
12. 農林漁業の仕事 (農業・林業・漁業作業の方)
13. その他 ()

◆Q48. で答えたお仕事についてお聞きします。

Q49. あなたは、どのくらいの頻度でテレワーク※を行っていますか。

※テレワークとは、インターネットなどの情報通信技術を活用した場所や時間にとらわれない働き方のことです。

1	2	3	4	5	6
週5回	週3~	週1~	2週に	1ヶ月	行って
以上	4回	2回	1回	に1回	いない

Q50. あなたは、現在の会社・組織に通算何年働いていますか。自営業者の方は自営業を行っている期間をお答えください。

1. 1年未満
2. 1年以上2年未満
3. 2年以上5年未満
4. 5年以上10年未満
5. 10年以上20年未満
6. 20年以上

Q51. あなたは、これから先、5年程度は現在の会社・組織で仕事を続けるとお考えですか。

1. はい
2. いいえ

◆あなたの今後の働き方一般についてお聞きします。

Q52. あなたは、何歳くらいまで働きたいとお考えですか。

1	2	3	4
60歳未満	60~65歳	66~69歳	70歳以上

次ページQ53へ

執筆者紹介

阪口 祐介 (さかぐち ゆうすけ) 編集・はじめに・第 1 章 (関西大学総合情報学部教授)
松本 渉 (まつもと わたる) 編集・第 1 章 (関西大学総合情報学部教授)
日高 正樹 (ひだか まさき) 第 2 章 (関西大学ティーチング・アシスタント)

高槻市と関西大学による市民意識調査報告書

—令和 3 年度—

編集 関西大学総合情報学部、発行 高槻市・関西大学総合情報学部、発行年月 令和 4 年 3 月

※ 関連する資料として、同時期に発行された『2021 年度社会調査実習報告書—高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査—』(関西大学総合情報学部[編集], 関西大学総合情報学部[発行]) があります。総合情報学部学生による詳細な分析も掲載されています。